

奈良市埋蔵文化財調査年報

平成 26 (2014) 年度



奈良市教育委員会

2017

奈良市埋蔵文化財調査年報

平成 26 (2014) 年度

奈良市教育委員会

2017



UK第02次調査 中之庄上ノ山古墳出土土器・埴輪



HJ第683次調査 一条南大路と平城宮跡（南西から）



SD第34次調査 土坑SK12 土器・管玉出土状況（北から）

例 言

1. 本書は平成 26 年度に奈良市教育委員会が実施した埋蔵文化財に関する各事業の概要を収録したものである。
ただし、平成 26 年度に実施した調査のうち、赤田 1 号墳の調査については、調査報告書で正式に報告したため、本書には収録していない。
また、JR 奈良駅南特定土地地区画整理事業地内の調査については、左京五条四坊一坪において実施した平城京跡第 680 次調査と、過年度に実施した同第 626 次（平成 21 年度）、同第 656 次（平成 23 年度）、同第 666 次（平成 24 年度）、同第 667・668 次（平成 25 年度）の各調査を収録した。

2. 平成 26 年度の埋蔵文化財に関する各事業は下記の体制で実施した。

奈良市教育委員会事務局 教育総務部

埋蔵文化財調査センター 【発掘調査、保存活用事業】

所 長 森下恵介

所長補佐 篠原豊一・三好美穂

調査グループ

主 任 原田憲二郎 鐘方正樹 池田裕英 秋山成人

主 務 加藤梨津子

保存活用グループ

主 任 安井宣也 中島和彦（多賀城市教育委員会派遣、1 年間）

主 務 原田香織

企画総務グループ

事務職員 松村健次

主 務 山前智敬

再任用職員 酒井真弓

文化財課 【届出事務、現状変更】

課 長 中井 公

課長補佐 岩坂七雄

文化財総務係

係 長 松石明久

主 任 松浦五輪美・久保邦江

主 務 大窪淳司

記念物係

係 長 森下浩行

主 務 小林広育

3. 発掘調査、出土遺物整理、保存活用等の各事業に関しては、奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、独立行政法人奈良文化財研究所、奈良市文化財保護審議委員会などの関係諸機関よりご指導とご協力を賜った。ここに記して謝意を表する。
4. 各発掘調査の次数は、奈良市教育委員会が実施した調査に付した遺跡ごとの通算次数となっている。報告した遺跡名の略記号は下記のとおりである。

H J 平城京跡 D A 史跡大安寺旧境内 G G 元興寺跡 S D 西大寺跡 U K 上ノ口遺跡

5. 本書で使用した遺構番号は、一部を除いて調査ごとに付した仮番号である。遺構等の番号の前には、その種類に応じて以下の番号を付した。

S A (柱列・塀) S B (掘立柱建物) S D (溝・濠・溝状遺構・暗渠) S E (井戸)
S F (道路) S K (土坑) S X (その他)

また、遺構の大きさの数値は、すべて遺構検出面での計測値である。

6. 本文中で示した過去の調査の実施機関は、調査回数・番号の前に下記の略記号を使用し表記した。

国 — 独立行政法人奈良文化財研究所 (旧奈良国立文化財研究所含む、回数)
県 — 奈良県教育委員会および奈良県立橿原考古学研究所 (番号)
市 — 奈良市教育委員会 (回数)

7. 本書で使用した遺物名称・形式・型式は、一部を除き下記の刊行物に準拠した。

奈良時代 軒瓦：『平城京・藤原京出土軒瓦型式一覧』奈良国立文化財研究所・奈良市教育委員会 1996
土器：『平城宮発掘調査報告書Ⅶ』奈良国立文化財研究所 1976
『平城宮発掘調査報告書ⅩⅠ』国立文化財研究所 1982
古墳時代 須恵器：田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981
埴輪：川西宏幸「円筒埴輪総論」『古墳時代政治史序説』塙書店 1988
弥生時代 土器：『奈良県の弥生土器集成』奈良県立橿原考古学研究所 2003

8. 発掘区位置図については、原則として奈良市発行の「大和都市計画図」(1/2,500)を、また調査地位置図については、国土地理院発行の1/25,000の地形図を利用した。

9. 本文中において示した位置の表示値は、平面直角座標系第Ⅵ系(世界測地系)の数値である。なお、座標値の表・図中の標記については、単位(m)を省略した。

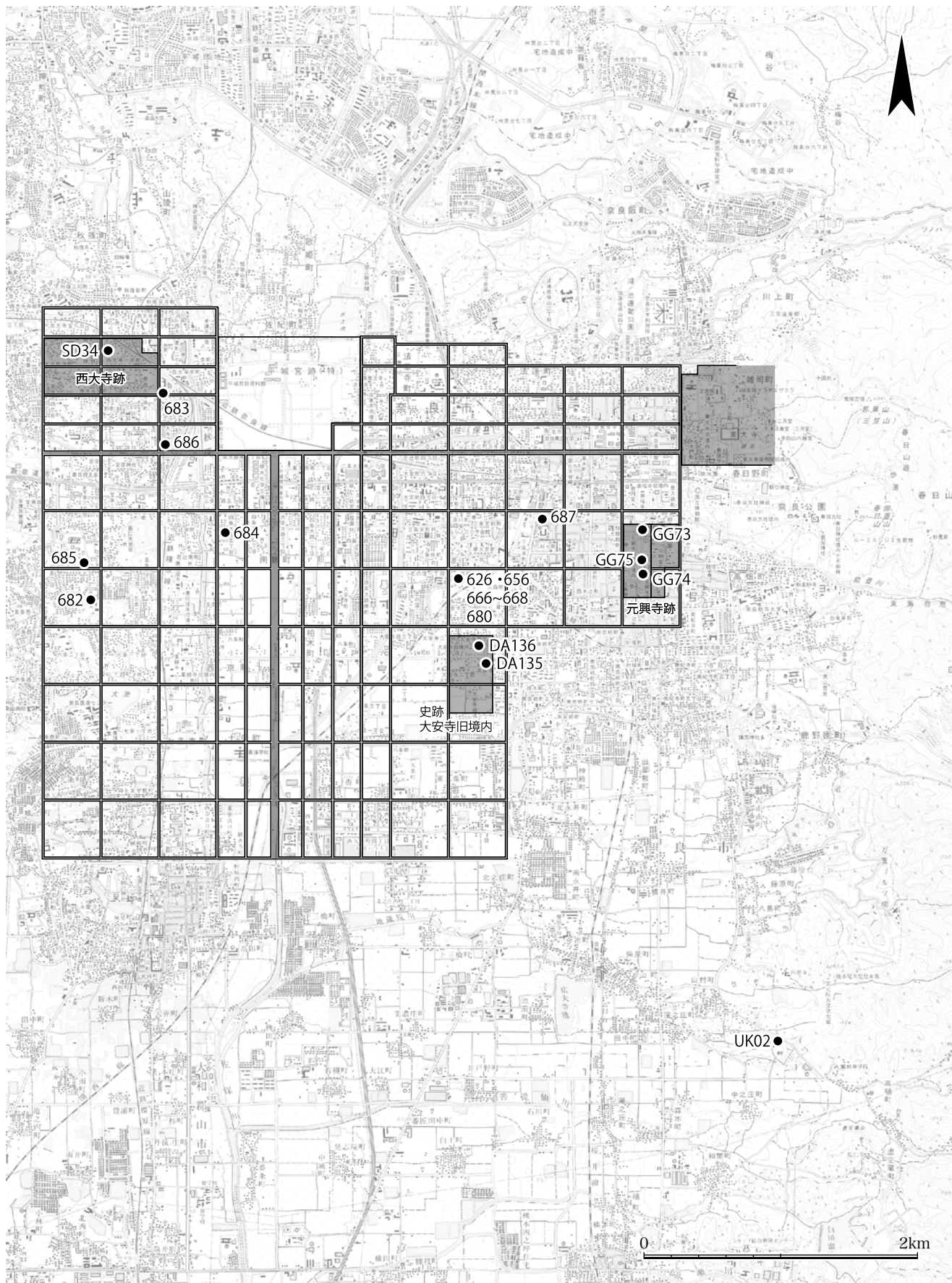
10. この報告に関する調査記録・出土遺物は、奈良市埋蔵文化財調査センターで保管している。

11. 各章の執筆は、発掘調査と遺物整理を担当した埋蔵文化財調査センター職員が分担し、調査報告の文責は各文末に記した。

12. 本書の執筆および編集は平成28年度に行い、埋蔵文化財調査センター所長 森下恵介、所長補佐 篠原豊一の助言を得て、安井宣也が編集を担当した。

目次

巻首図版	I・II
例言・目次	i～v
第1章 平成26年度 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要報告	1
1. JR奈良駅南特定土地地区画整理事業に係る発掘調査	2
平城京跡（左京五条四坊一坪）の調査 第626・656・666～668・680次	3
2. 平城京跡（右京五条四坊三坪）の調査 第682次	25
3. 平城京跡（右京一条二坊十三坪・二条二坊十六坪・一条南大路）の調査 第683次	27
4. 平城京跡（右京四条一坊十五坪）の調査 第684次	35
5. 平城京跡（右京四条四坊五坪・四条大路）の調査 第685次	37
6. 平城京跡（右京二条二坊十三坪）の調査 第686次	40
7. 平城京跡（左京五条五坊九坪）・奈良町遺跡の調査 第687次	42
8. 史跡大安寺旧境内の調査	44
(1) 賤院推定地の調査 第135次	45
(2) 賤院推定地の調査 第136次	47
9. 元興寺跡の調査	49
(1) 北面築地推定地・奈良町遺跡の調査 第73次	50
(2) 東塔院推定地・奈良町遺跡の調査 第74次	58
(3) 鐘楼及び小子坊推定地・奈良町遺跡の調査 第75次	60
10. 西大寺跡（政所院推定地）の調査 第34次	62
11. 上ノ口遺跡・中之庄上ノ山古墳の調査 第2次	68
12. 小規模調査・試掘調査一覧	85
13. 踏査一覧	85
14. 工事立会一覧	85
第2章 平成26年度保存活用事業報告	91



平成26(2014)年度 発掘調査位置図(過年度調査で本書報告分を含む 1/40,000)

平成 26 (2014) 年度 奈良市教育委員会実施 埋蔵文化財発掘調査一覧

No.	調査次数	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (㎡)	担当者	事業者	事業内容	事業 区分	届出受理 番号
1	HJ680	平城京跡 (左京五条四坊一坪)	大森西町187-1他	H26.5.26~ H26.9.12	902.6	池田・ 加藤	奈良市長	JR 奈良駅南特定 土地区画整理社会 資本整備総合交付 金事業	公共	H12.3145
2	HJ681	平城京跡 (左京五条四坊七坪)	大安寺七丁目28-1-1他	H26.5.26~ H26.6.13	60	原田憲	奈良市長			
3	HJ682	平城京跡 (左京五条四坊三坪)	平松四丁目3番1号	H26.7.22~ H26.8.6	125.2	原田憲	奈良市長	京西中学校給食室 建設事業	公共	H26.3134
4	HJ683	平城京跡 (右京一条二坊十三坪・ 二条二坊十六坪・一条 南大路)	西大寺国見町一丁目2137-95	H26.9.29~ H26.11.5	583	鐘方・ 村瀬	近鉄不動産(株)	共同住宅新築	原因者	H26.3071
5	HJ684	平城京跡 (右京四条一坊十五坪)	四条大路五丁目131-2、140	H27.1.13~ H27.2.6	210.8	加藤	奈良市長	仮称都跡地域ふれ あい会館整備事業	公共	H26.3029
6	HJ685	平城京跡 (右京四条四坊五坪)	平松三丁目483番他	H27.1.13~ H27.1.29	135	村瀬	ウィルエステー ト(株)	宅地造成	原因者	H26.3342
7	HJ686	平城京跡 (右京二条二坊十三坪)	西大寺国見町二丁目296番84他	H27.2.2~ H27.2.6	100	鐘方	(株)古川商事	宅地造成	原因者	H26.3389
8	HJ687	平城京跡 (左京五条五坊九坪) 奈良町遺跡	三条町511番1の一部	H27.3.2~ H27.3.5	35.2	加藤	(株)車屋	店舗及び共同住宅 新築	原因者	H26.3282
9	GG73	元興寺跡 奈良町遺跡	今御門町15	H26.7.18~ H26.9.18	273	鐘方・ 村瀬	(株)ディアーズ ・ブレイン	集会所新築	原因者	H26.3030
10	GG74	元興寺跡 奈良町遺跡	毘沙門町23	H27.2.24~ H27.3.3	30	原田憲	個人	店舗付個人住宅新 築	原因者 緊急	H26.3441
11	GG75	元興寺跡 奈良町遺跡	中新屋町28	H27.3.23~ H27.3.27	27	鐘方	(株)春日庵	店舗新築	原因者	H26.3413
12	DA135	史跡大安寺旧境内	大安寺一丁目1167-3	H26.10.14~ H26.10.21	26.5	原田憲・ 加藤	個人	個人住宅新築	緊急	H26.1062
13	DA136	史跡大安寺旧境内	大安寺四丁目1101番の一部	H26.12.8~ H26.12.16	24	原田憲・ 加藤	個人	個人住宅新築	緊急	H26.1071
14	SD34	西大寺跡	西大寺新田町499他	H27.2.16~ H27.3.4	300	鐘方・ 村瀬	(株)ソニック	宅地造成	原因者	H26.3384
15	AD04	赤田1号墳	西大寺赤田町一丁目921	H26.8.11~ H26.8.20	160	鐘方・池 田・村瀬	(福)秋篠西会	特別養護老人ホー ム増築	原因者	H26.5001
16	UK02	上ノ口遺跡 中之庄上ノ山古墳	窪之庄町721番 田中町627番他	H26.5.12~ H26.6.20	656	鐘方・ 村瀬	(福)大和清寿会	有料老人ホーム新 築	原因者	H26.3428

第1章 平成26年度 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要報告

1. J R奈良駅南特定土地区画整理事業に係る発掘調査

この調査は奈良市が進めるJ R奈良駅南特定土地区画整理事業（総面積14.6万㎡）に係り、実施したものである。奈良市教育委員会では、平成13年度から当事業地内での発掘調査を行っており、平成25年度までに、約42,260㎡の発掘調査を実施している。

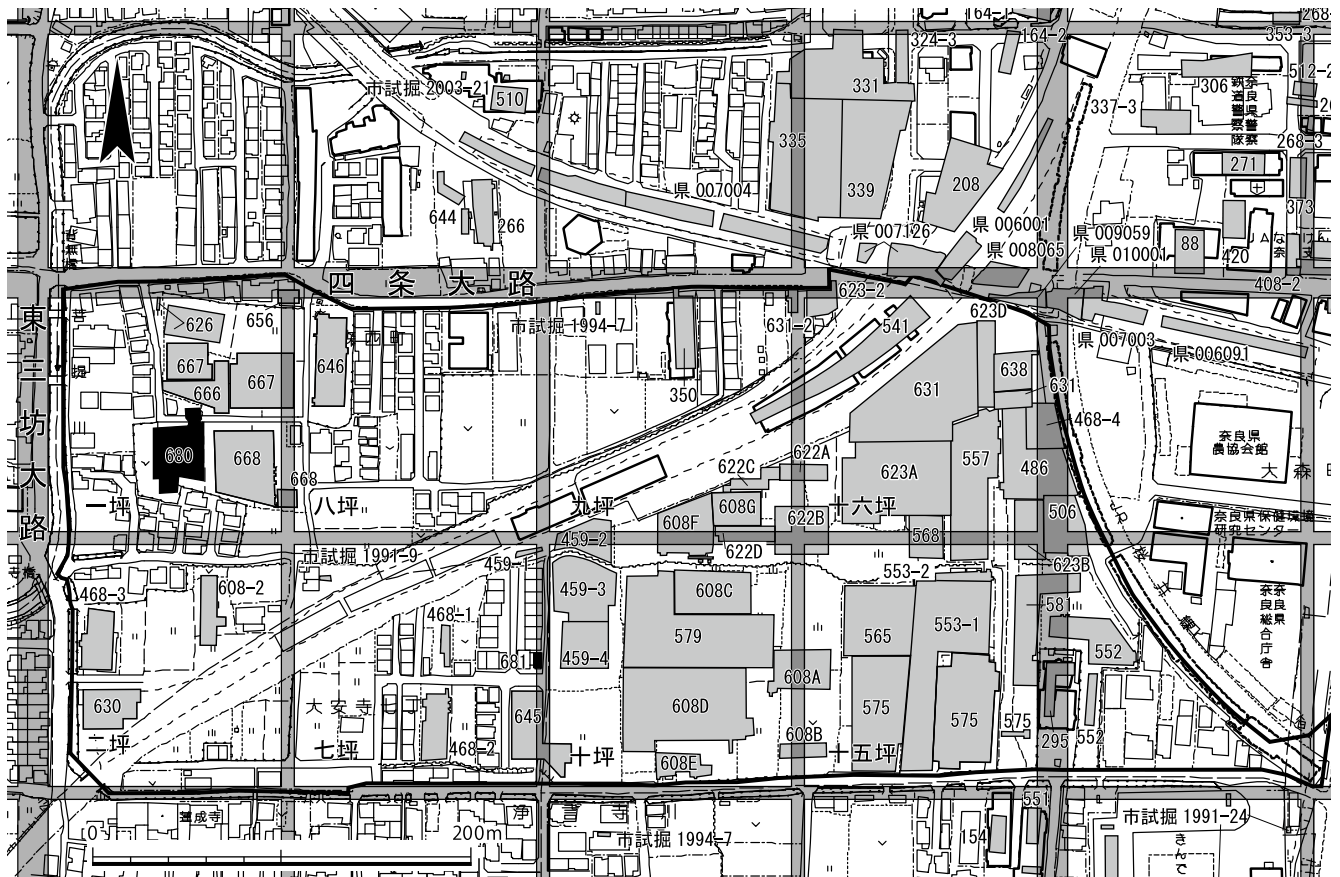
平成26年度は、社会資本整備総合交付金事業として、平城京の条坊復原で左京五条四坊一坪と七坪にあたる場所で各1件ずつの発掘調査を実施した。各調査の概要は下記の通りである。

今回は、今年度実施した市H J第680次調査と平成21～25年度に実施し未報告であった同第626・656・666・667・668次調査とを合わせ、左京五条四坊一坪の調査成果を報告する。なお、今年度行った市H J第681次調査については、次年度以降に報告する予定である。

報告に際しては、古墳時代以前の遺構には2桁、奈良時代以降の遺構には3桁以上の遺構番号を付している。これらは、当事業に係る調査で設定している遺構番号であり、条坊遺構・坪ごとに設定した通し番号である。

平成 26 年度 J R奈良駅南特定土地区画整理事業 発掘調査一覧表

調査回数	事業名	遺跡名	調査面積	調査期間	調査地	調査担当者
H J 第 680 次調査	社会資本整備総合交付金事業	平城京跡 (左京五条四坊一坪)	902.6㎡	H26.5.26～ H26.9.12	大森西町 187-1 他	池田・加藤
H J 第 681 次調査		平城京跡 (左京五条四坊七坪)	60㎡	H26.5.26～ H26.6.13	大安寺七丁目 28-1-1 他	原田憲



J R奈良駅南特定土地区画整理事業 発掘調査位置図 (1/40,000) 黒い網掛け部分が今年度調査

平城京跡（左京五条四坊一坪）の調査 第 626・656・666・667・668・680 次

I はじめに

平城京左京五条四坊一坪では平成 21 年度以来、JR 奈良駅南地区土地区画整理事業に伴いこれまでに 6 度の発掘調査を行なってきた。平成 26 年度に実施した H J 第 680 次調査でこの区画整理事業に伴う一坪の調査が概ね終了したことから、これまでの調査成果をまとめて報告することとした。調査を実施した部分は右図にあるように一坪の中央から東半にかけての部分ということになる。また、四条大路とその南側溝の検出を目的に調査を実施した H J 第 656 次調査の成果についても併せて報告する。

II 基本層序

一坪内の基本的な層序は、各発掘区により多少の違いはあるが、おおよそ表層の旧耕土である灰黒色土の下、灰褐色土（床土）、灰・褐色の砂質土・粘質土の堆積が 0.3～0.4 m 程度みられ、現地表下 0.4～0.5 m で黄白色土、茶黄色土の地山にいたる。弥生時代～平安時代前半の遺構は概ねこの地山上面で検出している。地山上面の標高は、北端の H J 第 626 次発掘区で 60.7～61.3 m、南端の同第 668 次発掘区で 60.8 m である。各々の発掘区内で若干の傾斜はみられるものの概して北東から南西方向に向かって低くなっていく。

数条検出した弥生時代のいくつかの溝の埋土最上層からは奈良時代の土器が出土しており、最終的には奈良時代に整地によって人為的に埋められたようであり、その整地土上面でも奈良時代の遺構を検出している。

H J 第 680 次発掘区の南端では近世の流路を検出し、奈良時代の遺構はそれにより失われている。また、この発掘区の西側も畦畔の遺存状態等からみてこの河川が続くものと判断される。

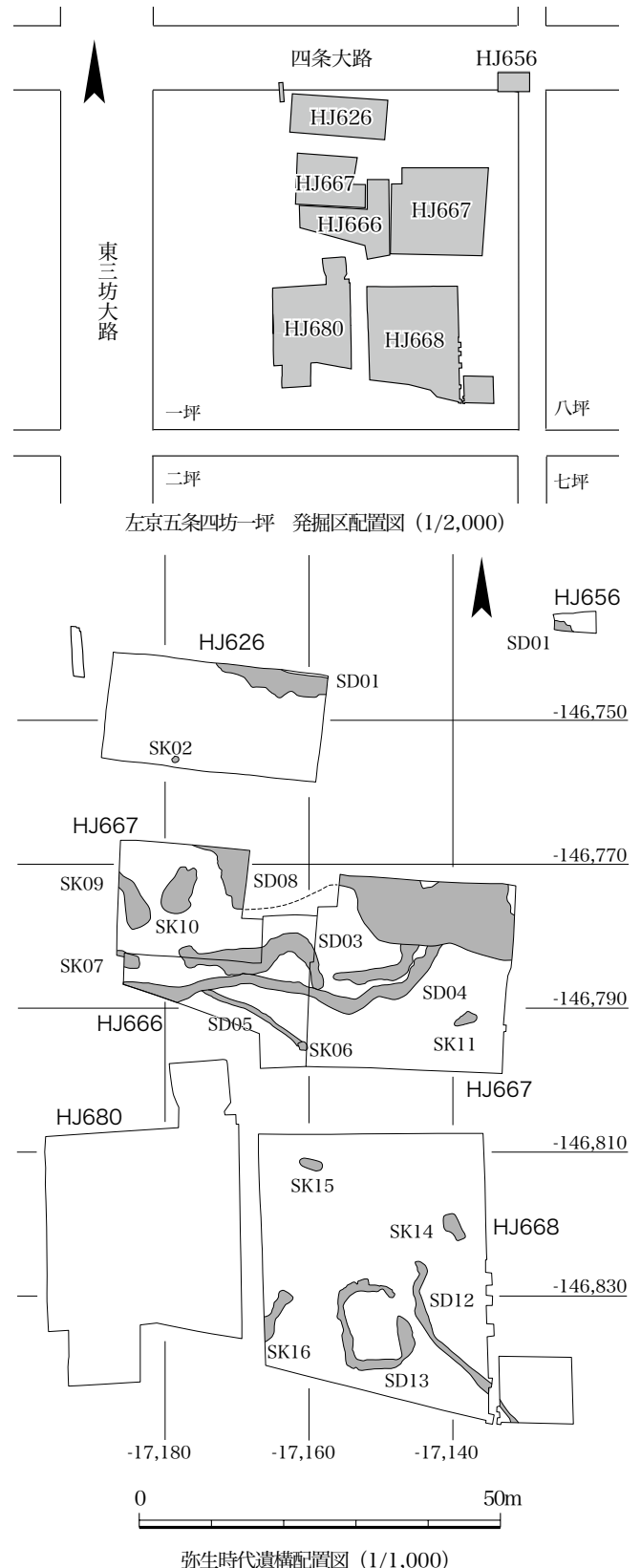
III 検出遺構

検出した遺構には弥生時代、奈良～平安時代のものがある。時代ごとに主な遺構のみをとりあげることとし、詳細は遺構一覧表に記した。

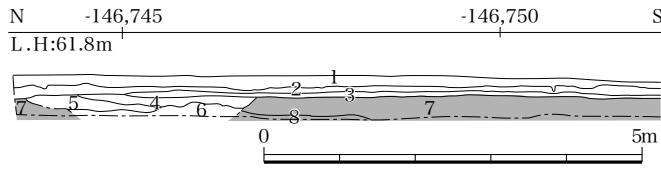
弥生時代の遺構

弥生時代の遺構には溝、土坑がある。出土遺物がなく時期不明のものもあるが（S K 14～16）、埋土の状態や色調が他の弥生時代の土坑と類似していることから同時代と判断した。

S D 01 は H J 第 626 次調査と同第 656 次調査で検出し、これらがつながるとみられる。埋土は上下 2 層に分けられ、下層の灰色砂から弥生時代中期の土器が出土

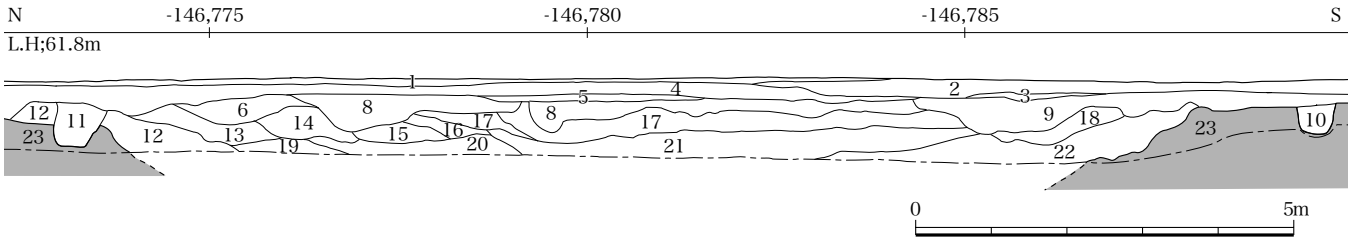


している。最上層の茶褐色土は固くしまっており、整地土の可能性が考えられる。



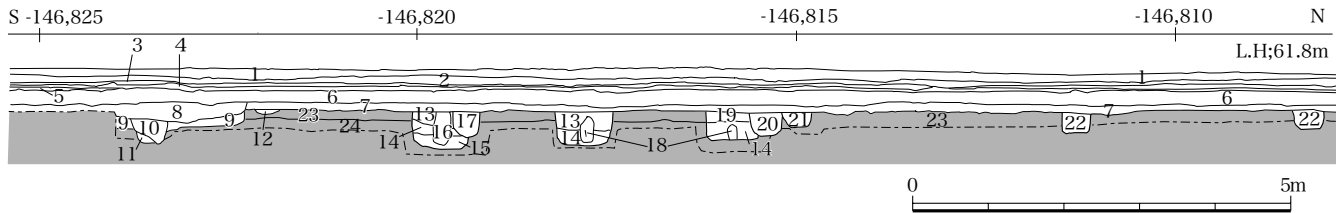
- | | |
|--------------|------------|
| 1 灰黒色土 (耕作土) | 6 褐灰色砂 |
| 2 淡灰褐色砂質土 | (4~6は河川埋土) |
| 3 灰色砂質土 | 7 黄白色細砂土 |
| 4 褐灰色粗砂 | 8 灰色細砂 |
| 5 灰白色礫 | (7・8は地山) |

HJ 第 626 次調査 発掘区東壁土層図 (1/100)



- | | | | |
|----------------|------------------|------------------|----------------|
| 1 灰黒色土 (旧耕土) | 7 黄茶色土・灰褐色土 | 13 暗灰茶色土・暗灰褐色粘質土 | 19 灰茶色土 |
| 2 灰褐色砂質土 (床土) | 8 黄茶色粘質土・灰褐色土 | 14 灰茶色粘質土 | 20 灰褐色シルト |
| 3 灰褐色砂質土 | 9 淡灰褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 15 暗灰色土 | 21 暗灰茶色シルト |
| 4 淡灰褐色砂質土 (床土) | 10 灰色土・褐茶色土 | 16 淡灰茶色土 | 22 褐灰色粗砂 |
| 5 灰白色砂質土 | 11 暗灰褐色土・暗茶褐色土 | 17 暗褐茶色土 | (12~22はSD08埋土) |
| 6 灰褐色土・暗茶褐色土 | 12 暗灰茶色土・暗黄色土 | 18 暗褐灰色粗砂 | 23 暗黄色土 (地山) |

HJ 第 667 次調査 発掘区東壁土層図 (1/100)



- | | | |
|----------------|-------------------|------------|
| 1 灰黒色土 (旧耕土) | 9 暗褐色粘質土 | 17 暗褐色粘質土 |
| 2 黒灰色砂質土 (床土) | 10 暗灰褐色粘質土 | 18 灰色粘質シルト |
| 3 灰褐色粘質土 (床土) | 11 暗灰褐色粘質土・暗褐色粘質土 | 19 暗黄褐色粘質土 |
| 4 橙色土 (鉄分沈着) | 12 灰褐色粘質土 | 20 黒褐色粘質土 |
| 5 暗茶褐色土・暗明灰色土 | 13 黒褐色粘質土・暗褐色粘質土 | 21 暗灰褐色粘質土 |
| 6 暗茶褐色土・明灰色粘質土 | 14 黒褐色粘質土 | 22 茶褐色粘質土 |
| 7 灰褐色粘質土 | 15 黒褐色粘質土・橙色粘質土 | 23 黄白色粘質土 |
| 8 明茶褐色粘質土 | 16 暗茶褐色粘質土 | 24 暗橙色砂質土 |
| | | (23・24は地山) |

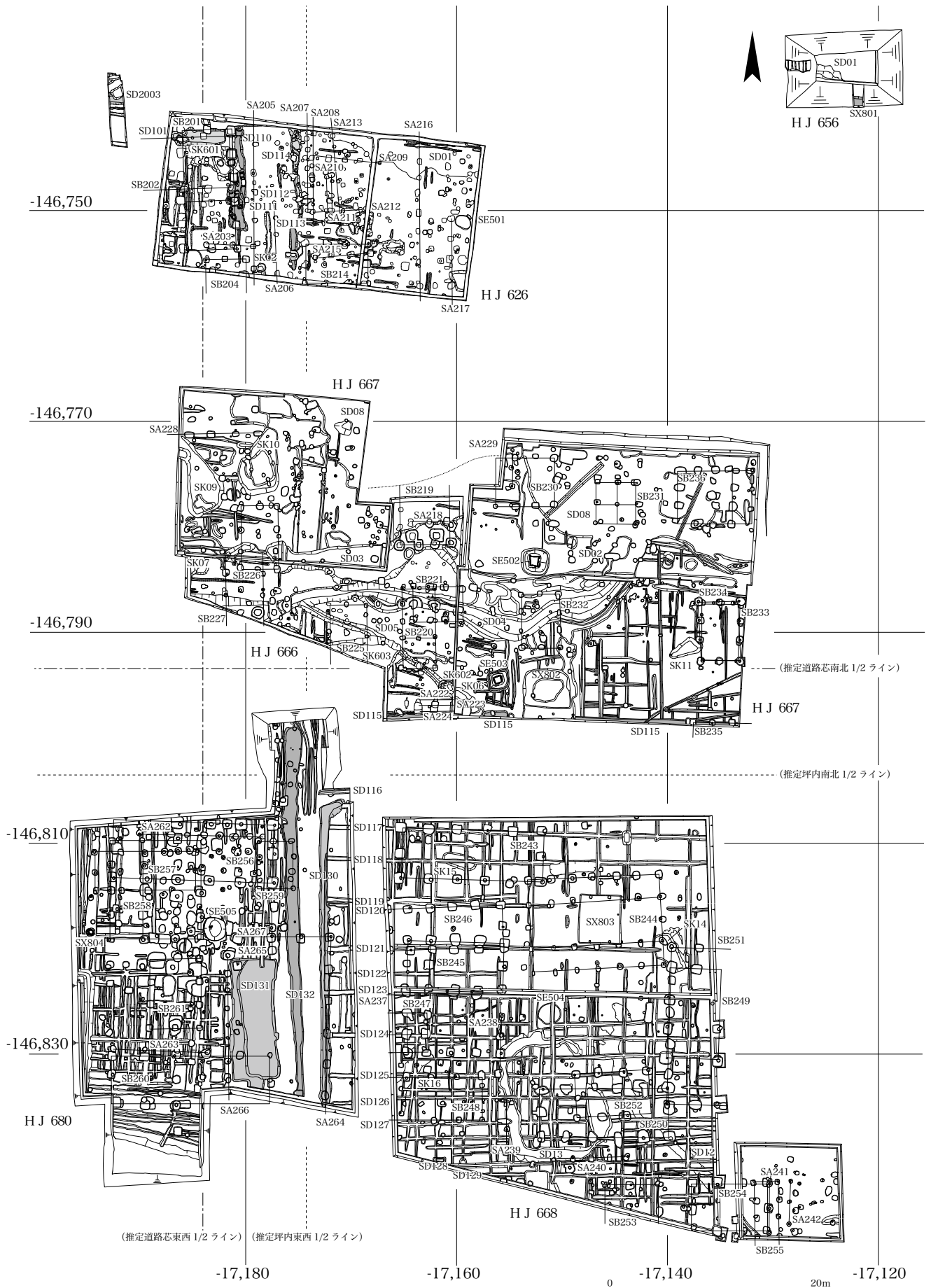
HJ 第 668 次調査 発掘区西壁土層図 (1/100)

S D 03 はやや南北に蛇行する東西方向の溝で、溝幅は概ね 2.5 m である。検出面からの深さは 0.3 ~ 0.7 m、溝底に凹凸があるが東から西へ下る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。S K 09 はこの S D 03 と一連の遺構の可能性も考えられる。

S D 08 は H J 第 667 次調査の東・西発掘区北半を北西-南東方向に蛇行しながら流れる。溝幅は 8 ~ 10 m で、部分的にはあるが掘り下げを行った。その結果、深さが検出面から 1.0 m 以上続くことは確認できたが、粗砂、細砂の堆積が続き、湧水が激しかったこともあり、それ以上掘り下げることができなかった。埋土からは弥生時代の土器や石鏃、サヌカイト剥片が出土した。最上層の暗茶褐色土から奈良時代の土器や瓦片が出土しており、最終的には奈良時代に人為的に埋められたものと思

われる。

S D 13 は H J 第 668 次発掘区の中央南半で検出した。平面形は約東西 9.7m、南北約 12.5m の規模でやや南北に細長く方形に溝が巡るが、北東隅が途切れている。溝幅は 1.2 ~ 2.4m で、深さは 0.2 ~ 0.4 m である。溝が浅いこともあり、途切れている部分が意図的なものがどうかは不明である。埋土から弥生時代中期のものと考えられる壺や甕などの土器片が出土した。平面形からみて上部が削平された方形周溝墓の可能性も考えられるが、主体部は確認できなかった。本調査地周辺では、東南約 200 m の左京五条四坊十坪で行った H J 第 579 次調査でも方形周溝墓 (S X 19) を検出している。S X 19 は北東-南西方向の一辺の長さが約 14 m で、規模もほぼ同様である¹⁾。



左京五条四坊一坪 遺構平面図 (1/500)

奈良時代の遺構

条坊関連遺構 H J 第 626 次調査で検出した溝 S D 2003 は幅 1.1 m、深さ 0.2 m の東西方向の溝である。埋土は上から暗褐色土、茶灰色細砂である。検出した長さが短いので不明確な点もあるが、位置がこの調査地の東で実施した H J 第 350 次・第 623-2 次調査で検出した四条大路南側溝の道路心と近似しており、四条大路南側溝の可能性も考えられる。溝心の国土座標値は $X = -146739.0$ 、 $Y = -17192.8$ である。H J 第 656 次調査で検出した S X 801 はその北岸のラインが S D 2003 とほぼ揃うことから、一連の溝の可能性が考えられる。S X 801 の北側では遺構がなかったのは、四条大路路面であることによるのかもしれない。但し、S X 801 も検出幅、長さとも狭小で S D 2003 と一連と断定できるものではないため、周辺での調査例の増加を待って判断すべきと考える。

一坪の遺構 これまでの発掘調査で、掘立柱建物 35 棟、掘立柱列 32 条、井戸 5 基、土坑、溝を検出した。

一坪は H J 第 626 次調査、同第 680 次調査で検出した数条の南北方向の掘立柱塀や溝、同第 666・667 次調査で検出した東西方向の掘立柱塀や溝が示すとおり、それらにより坪内を分割して利用していたようである。その位置は坪内の東西・南北それぞれ 1/2 の場所にあたる。また、掘立柱塀によりさらに細かく分割された時期もある。このようなことから、坪内道路と掘立柱建物、掘立柱塀との重複関係や出土した遺物をもとにして考える I～V 期の遺構の時期変遷を設定した。以下、この時期変遷にしたがって遺構の概要を記す。しかし、遺構の重複関係がなく、出土遺物からも時期を特定することができない遺構があり、それらについては変遷図中には

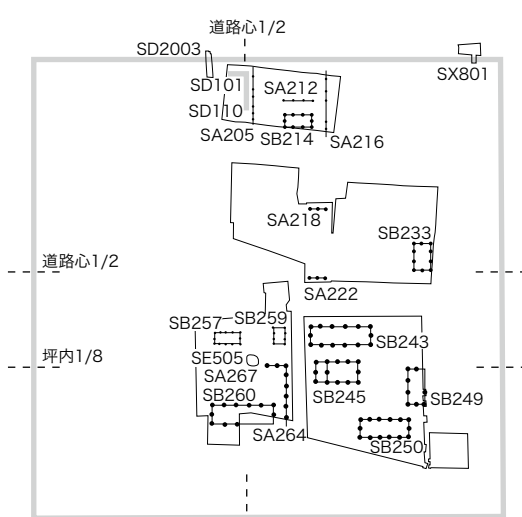
示していない。また、井戸や土坑など特徴のある遺構については各々記述するが、建物、塀などの詳細については一覧表に示したとおりである。

なお、遺構の配置関係を把握するために、一坪の東と西に面する東三坊大路・東四坊坊間路西小路の位置を复原した。東四坊坊間西小路は、道路心が大安寺伽藍中軸線と同じであることから、これをもとにその位置を求めた。東三坊大路は大安寺伽藍中軸線から一坪の計画寸法である 375 大尺西にあたる位置を道路心と推定した。そして、朱雀大路の振れを考慮し、修正を加えて求めた推定条坊道路心々間距離は約 133 m、推定側溝心々間距離は約 124 m となる。

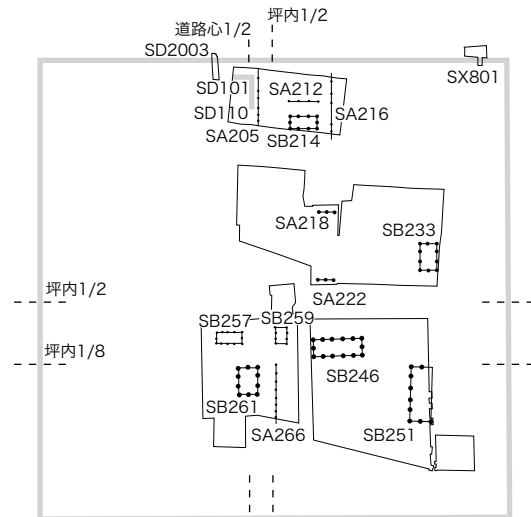
A 期 宅地割施設が道路心を基準に配置され、掘立柱建物や掘立柱列の主軸が国土方眼方位に沿う。

北寄りでは道路心の東西 1/2 ラインに南北溝 S D 110 があり、その東側に南北塀 S A 205 を設ける。S D 110 は幅 0.2～1.8 m、深さ 0.03～0.3m の南北溝。S D 101 は幅 0.8～1.7 m、深さ 0.2～0.3 m の東西溝である。北西拡張区では S D 101 が続かなかつたことから溝の西端は両発掘区の間で収まるのであろう。坪北端の閉塞施設の雨落溝の可能性も考えられる。塀 S A 205 の東側の区画では、掘立柱塀 S A 212・216 で区画された中に桁行 3 間×梁行 2 間の東西棟建物 S B 214 が建てられる。

建物・塀は、道路心の南北 1/2 ラインの北側よりも南側が多い。南北 1/2 ライン付近には東西塀 S A 222 があり、南側では桁行 5 間×梁行 2 間の東西棟建物 S B 260 が道路心の東西 1/2 ライン上に建物の中心をほぼ合わせて建てられる。このことから、坪内を南北に分割して使用された可能性がある。



左京五条四坊一坪 遺構変遷図 A 期



左京五条四坊一坪 遺構変遷図 B 期

南半では、前述の東西棟建物 S B 260 の東に南北塀 S A 264・北に S A 267 があり、後者は南北 1/8 ラインにあたる。東南の区画には桁行 5 間×梁行 2 間の東西棟建物 S B 243 や西廂が付く桁行 3 間×梁行 2 間の東西棟建物 S B 245 などが並ぶ。

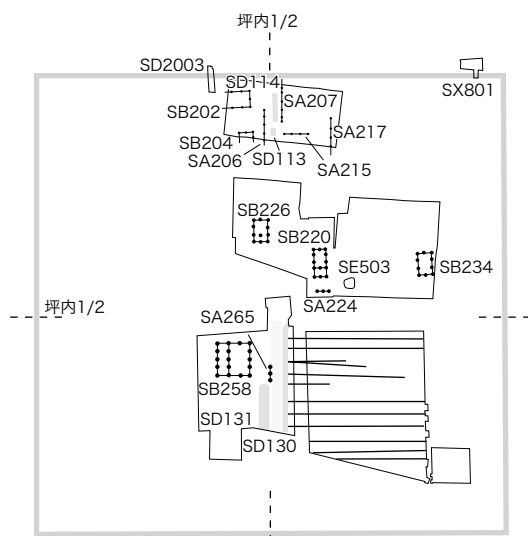
井戸 S E 505 は枠はなかったが規模や湧水があることから枠が抜き取られた井戸と判断した。掘方は南北 2.6 m、東西 2.3 m の楕円形で、深さは 1.55 m。抜き取り穴埋土から 8 世紀後半ないしは末頃に位置づけてよいと思われる土器が出土した。

B 期 北半は A 期と変化はないが、南半の建物に建て替えがみられる。

南北塀 S A 266 は A 期の S A 264 がやや東に位置を変えて建て替えたものとみられるが、坪内の東西 1/2 ラインの位置にあり、設定の方法が変化したことがうかがえる。桁行 3 間×梁行 2 間の南北棟建物 S B 261 は建物の中心が道路心の 1/2 の位置に合致し、規模は小さくなってはいるが、A 期の S B 260 が建て替えられたものかもしれない。S B 243 は柱間はやや狭くなるもののほぼ同位置で同規模の S B 246 に、東端で検出した南北棟建物 S B 249 は 1 間分規模が大きくなり、桁行 5 間×梁行 2 間の南北棟掘立柱建物 S B 251 にそれぞれ建て替えられる。

S B 261 の北側柱列と S B 246 の南側柱列、S B 251 の北側柱列がほぼ直線的に揃い、S A 266 の北端とともに坪内の南北 1/8 ラインに合う。また、このラインをまたぐ建物がないことから、建物・塀の配置や区画にあたってこの位置が意識されていたとみられる。

C 期 坪の北半では、溝 S D 101・110、南北塀 S A



左京五条四坊一坪 遺構変遷図 C 期

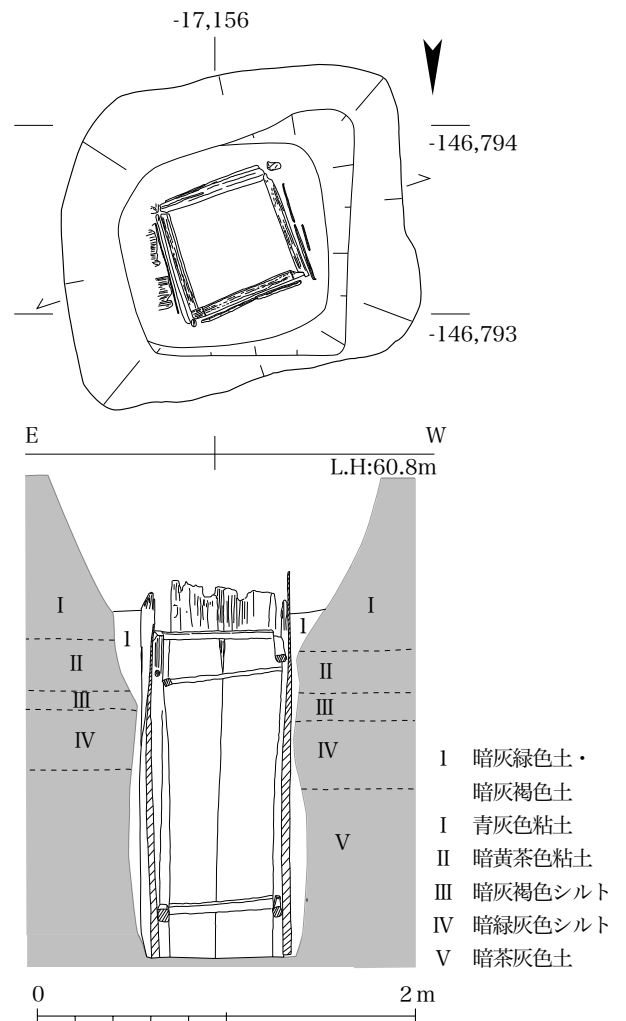
205 が廃され、坪の端から東西 1/2 ラインに南北溝 S D 113・114 が設定される。S D 113・114 の西側に南北塀 S A 206 が設けられ、区画の東を限る。

S A 206 より西側では新たに桁行 3 間以上×梁行 2 間の東西棟建物 S B 202、南北棟建物 S B 204 が建てられる。ともに柱筋が国土方方位北でやや西に傾く。

S D 113・114 の東側は南北塀 S A 207 により敷地の西側を限る。そして東西塀 S A 215、南北塀 S A 217 により敷地内をさらに分割している。東西塀 S A 224 は A・B 期の東西塀 S A 222 が同じ位置で建て替えられたものである。

S B 226 は桁行 3 間×梁行 2 間の南北棟建物で、北から 2 間目に間仕切りを設ける。北西隅の柱穴の柱抜き取り穴から古大内遺跡 (兵庫県加古川市) 等で出土している古大内式軒丸瓦 I 型が 1 点出土した。南北棟建物 S B 234 は B 期の S B 233 と同位置・同規模で、S B 233 が建て替えられたものであろう。

井戸 S E 503 は短辺 0.9m、長辺 1.9 m のやや菱形形状



H J 第 667 次調査 井戸 S E 503 平面・立面図 (1/40)

の掘方の中央に一辺 0.65 m の方形縦板組横棧留の枠を据える。枠は国土方眼方位北で西に傾いて据えられている。深さは 2.65 m。横棧は 3 段が残存。枠材は北面が幅 0.65 m の一枚板で、他の三面は 0.3 ~ 0.4 m の板材を 2 枚並べ立てる。枠内から 8 世紀末 ~ 9 世紀初頭の土師器、須恵器、奈良三彩壺、人面墨書土器、銅銭 (神功開宝)、曲物底板、折敷底板等が出土した。

坪の南半には坪内道路がつくられる。東側溝 S D 130 は幅 0.7 ~ 1.2 m、深さ 0.2 m、西側溝 S D 131 はやや幅広で幅約 4.5 m、深さ 0.3 m である。坪の半ばで途切れ、その北側に南北塀 S A 265 があることから、この付近に何らかの施設があり、坪南西の区画に出入りしたのであろう。坪内道路の西側には西に廂が付く桁行 5 間×梁行 2 間の南北棟建物 S B 258 が建つ。

坪の南東部には幅 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.3 ~ 0.4 m の東西方向の素掘り S D 116 ~ 129 がある。後述する D 期の建物 S B 244・247 よりも古く、奈良時代の遺構であることがわかる。これらの溝はほぼ一定の間隔で掘られ、前述の南北溝 S D 130 より西側には続かず、南東の区画で完結する。これと類似する遺構が左京五条四坊十六坪でも検出されており、中近世の例から作物栽培に伴う溝と考えられている²⁾。そのような例からみると、宅地内に菜園が存在した可能性がある。

D 期 坪の北半は前段階の区画を踏襲し、掘立柱建物、掘立柱塀が建て替えられる。

西側の区画では桁行 5 間×梁行 2 間の南北棟掘立柱建物 S B 201 が建てられる。東側の区画には井戸 S E 501 があり、掘立柱塀 S A 208 で区画内の西端を限る。

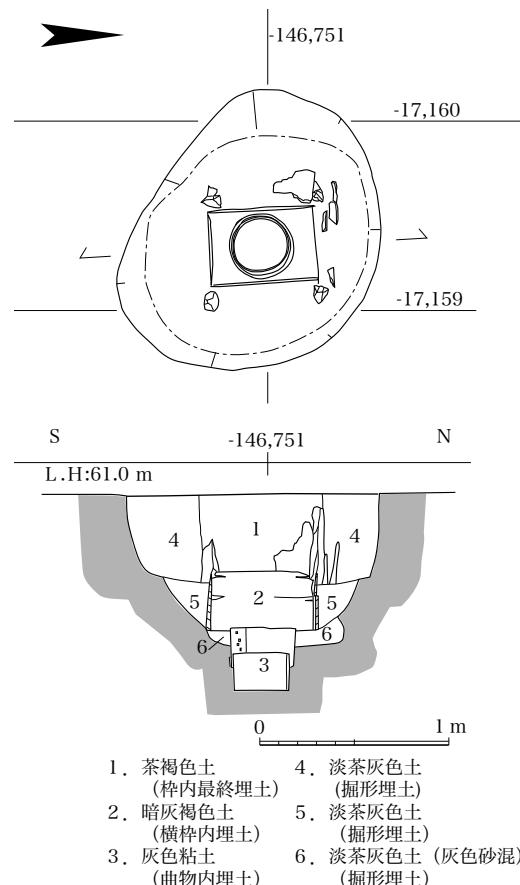
井戸 S E 501 は短径 1.25 m、長径 1.55 m の不整円形の掘方のほぼ中央に径 0.3 m の曲物を 2 段に積み上

げ、その上に幅 0.3 m、厚さ 0.1 ~ 0.2 m の板を相欠き柄で組み合わせた平面長方形を呈する横板組を 1 段据え、さらにその上に内法東西 0.35 m、南北 0.54 m の方形縦板組隅柱横棧留の枠を据える。検出面からの深さは 1.0 m。枠内から 9 世紀初頭の土師器・須恵器、曲物内から曲物柄杓が出土した。

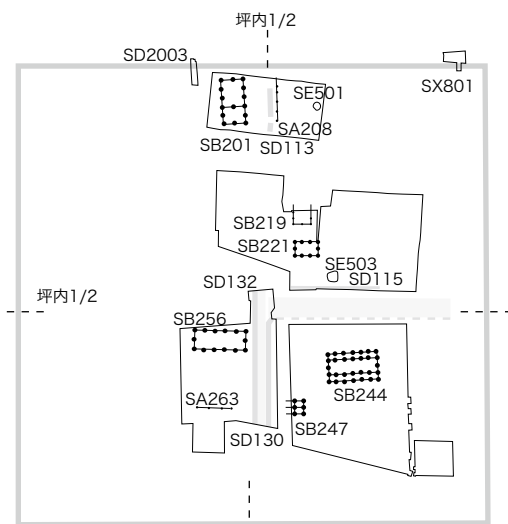
南北 1/2 の位置にあった C 期の東西塀 S A 224 が廃され、同じ位置で幅 0.4 m 以上、深さ 0.1 m の東西溝 S D 115 が掘削される。南北溝 S D 130 は坪のほぼ中心の位置で東に曲がることから、東西方向の坪内道路があり、S D 115 はその北側溝とみられる。この掘立柱塀から溝への変化は坪北半の一坪の東西を 2 分割する南北塀 S A 206 ~ 208 と南北溝 S D 113・114 との先後関係と同様であり、一坪では坪内の区画施設が掘立柱塀から坪内道路へと変化した様子が伺える。

井戸 S E 503 も C 期から続いて使われる。

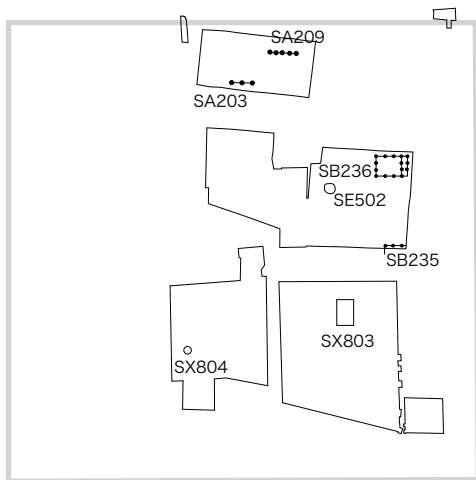
南半では C 期の坪内道路の西側溝 S D 131 が埋められ、やや東に西側溝 S D 132 が掘られる。坪内道路の東には南北に廂が付く桁行 6 間×梁行 2 間の東西棟建物 S B 244 が建つ。西側の区画には、軸が東で南に振る東西棟建物 S B 256 とそれと同じ方向の東西塀 S A 263 がある。



H J 第 626 次調査 井戸 S E 501 平面・立面図 (1/40)



左京五条四坊一坪 遺構変遷図 D 期



左京五条四坊一坪 遺構変遷図 E期

E期 北半は南北溝 S D 113・114 が廃され、国土方眼方位西で北に振れる東西塀 S A 203・209 が設けられる。この掘立柱塀 S A 203・209 は坪の東西 1/2 ラインを超えておらず、この時期においても D 期と同じ区画が踏襲されていたのかもしれない。

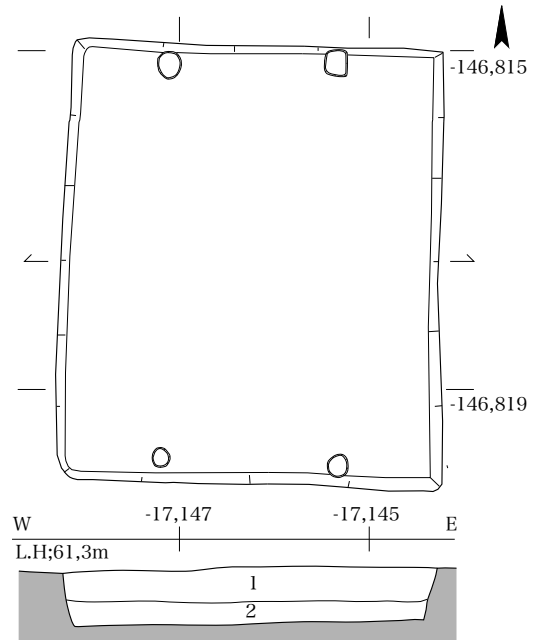
S B 236 は東に廂が付く桁行 3 間×梁行 3 間の東西棟建物である。柱抜き取り穴から 10 世紀初頭のものと思われる灰釉陶器小片が出土している。

S X 803 は東西 3.95 m、南北 4.65 m の平面方形で、深さは 0.6 m である。埋土は 2 層に分けられ、上層が黒褐色粘質土 (土層図 1)、下層が橙色砂質土 (2) である。北辺と南辺沿いに各々 2 つ柱穴があるが、位置的にはこの遺構に伴うものとも考えられる。層位は黒褐色粘質土から掘り込まれており、埋没後に掘られたものである。遺物は土師器・須恵器の小片しかなく、正確な時期は不明である。他の遺物もないため、遺構の性格もよくわからない。類似した遺構を H J 第 667 次調査区でも検出したが (S X 802)、これも出土遺物が土師器・須恵器の小片のみで、奈良～平安時代の遺構であることはわかるものの性格は不明である。

井戸 S E 502 は東西・南北とも約 2.7 m の不整形な掘方のほぼ中央に一辺約 1 m の方形縦板組横棧留の枠を据える。深さは 2.7 m である。枠材は幅 0.2～0.7 m、厚さ 0.02～0.03 m の板材を数枚重ねて並べて立てており、横棧は 2 段分が残存していた。枠内から 9 世紀前半の土師器や斎串、曲物底板、折敷底板などとともに 8 世紀の土師器・須恵器や、伊勢国府の可能性が考えられている三重県鈴鹿市の長者屋敷遺跡

と同範の軒平瓦 (6719 A) が出土した。

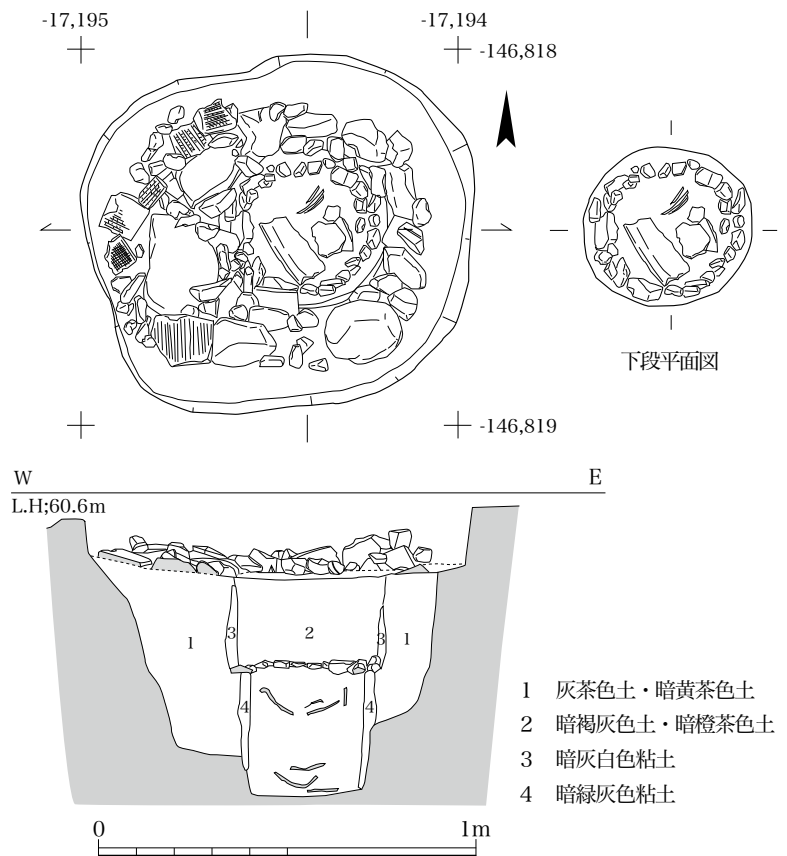
S X 804 は掘方が径約 1.27 m の不整円形で、深さは 0.9 m である。上段は下段の石・瓦列の上に径 0.5 m の曲物を据え、その上に径 5～35 cm 台の石や瓦片を径



1 黒褐色粘質土

2 橙色砂質土

H J 第 678 次調査 SX 803 平面・断面図 (1/80)



- 1 灰茶色土・暗黄茶色土
- 2 暗褐灰色土・暗橙茶色土
- 3 暗灰白色粘土
- 4 暗緑灰色粘土

H J 第 680 次調査 SX 804 平面・立面図 (1/20)

約 0.9 m の平面円形に並べている。下段は径 0.4 m の曲物を据えた上に 2 ～ 10 cm 大の石や瓦片を径約 0.45 m の平面円形に並べている。曲物は残存しなかったが、平面、断面で有機質の材の痕跡が確認でき、杵痕跡内の埋土から曲物の合わせ目を閉じる部材が出土したことからそう判断した。底面は湧水層には達していないが、井戸に類する遺構ではないかと思われる。曲物痕跡内から 10 世紀初頭の黒色土器片が出土した。

時期不明の遺構 遺構の重複がなく、遺物からも時期が特定できない幾つかの遺構についても述べておく。

S A 213 は、南北 6 間以上の掘立柱塀である。柱間は最も北の 1 間が 1.0 m で、他の 5 間は 1.6 m 等間である。塀の主軸は国土方眼方位北で西に振れる。南から 2 番目の柱掘方から三彩丸瓦片が出土している。

S X 802 は、H J 第 667 次発掘区で検出した。東西 4.5 m、南北 3.8 m の北東・北西隅がやや丸味のある方形の土坑で、底部の四周が幅 0.7 ～ 1.0 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m の溝状に掘られ、中央部が高まりとして残る。底部に柱穴等はない。出土遺物も土師器・須恵器片のみで、奈良～平安時代の遺構と考えられるが、時期を特定できない。底部の形状などに違いがあり、性格も不明であるが、E 期の S X 803 と類似した遺構ではないかと思われる。

掘立柱建物 S B 254・255 は、建物の主軸や北端が揃うことから同時期の可能性が考えられ、建物の密度などを考慮すると B 期ないしは D 期に存在したと思われる。S B 252 は D 期もしくは E 期の建物であろう。

S E 504 は径 2.2 m、深さ 1.3 m の杵が抜き取られた井戸であるが、遺物が少ないため時期が決め難い。

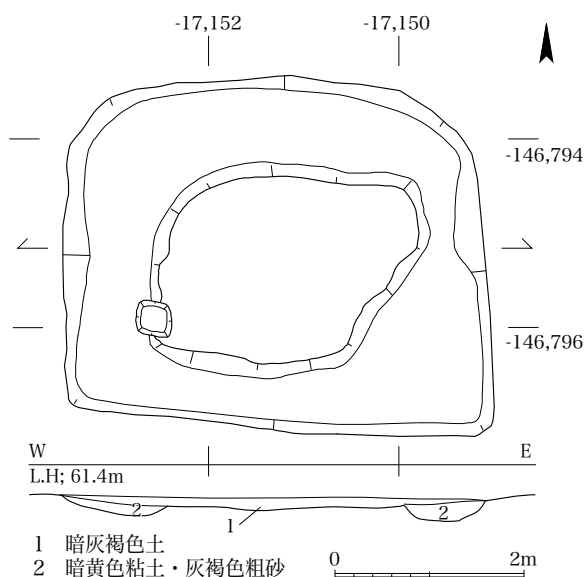
IV 出土遺物

今回の報告に係る発掘調査では遺物整理箱にして 165 箱の遺物が出土した。それらの中には弥生時代の土器、石器 (石鏃・楔形石器・削器・石錐・石包丁)、剥片、石核、奈良時代の軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・三彩丸瓦・磚、土師器・須恵器・奈良三彩・製塩土器・硯・土製品 (土馬・竈・甑・鞆羽口)、木製品 (斎串・曲物・折敷)、金属製品 (錢貨・銅製丸鞆・鋌・青銅製獣脚)、滓、平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器などがある。以下で掘立柱建物、掘立柱塀の柱穴や井戸、溝から出土した主な遺物について報告する。 (池田裕英)

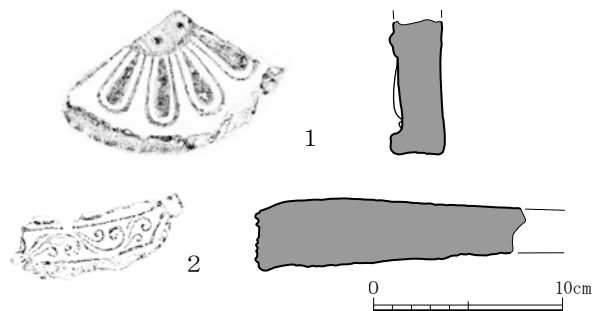
瓦類 1 は単弁蓮華紋軒丸瓦で、兵庫県加古川市の古大内遺跡出土品を標式名とする、古大内式軒丸瓦 I 型である。S B 226 北西隅柱穴の柱抜き取り穴から出土した。外縁頂部からの 1.4 cm 離れた瓦当側面下半部に、範端痕が確認できる。瓦当裏面下半部はタテケズリ。胎土はやや密、焼成はやや軟質で、色調は表面灰白色、内部黒灰色である。一坪の東側の八坪では、播磨産軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦や播磨産とみられる平瓦・熨斗瓦が確認されているが、一坪内では播磨産とみられる瓦類はこの軒丸瓦 1 点であることから、八坪からの流入品であろう。

2 は軒平瓦 6719 A で、右第 3 ～ 5 単位の破片である。井戸 S E 502 杵内から出土した。6719 A は内区に 5 回反転均整唐草紋を飾り、外区は素紋。凹面には糸切り痕・布目痕を残し、瓦当面から約 4.5 cm まではヨコケズリを施す。凸面はタテ縄タタキ目を残す。顎の断面形状は直線顎。胎土はやや密、焼成はやや軟質で、色調は表面灰白色、内部淡赤褐色である。6719 A はこれまでに宮内で 62 点、京内宅地で 21 点、京内寺院遺跡で 5 点確認される³⁾。また平城京外では伊勢国府で 9 点、伊勢国分寺で 2 点確認されており⁴⁾、胎土・調整が平城京出土例と異なることや、範傷の進行状況から、平城京から伊勢国へ範型移動したものとみられている⁵⁾。

2 には、これまでの平城京出土例と異なる点は認めら



H J 第 667 次調査 S X 802 平面図・断面図 (1/80)



左京五条四坊一坪 出土軒瓦 (1/4)

れず、伊勢国に範が移動する前段階での製品とみられ、さらに一例京内出土例を加えることになった。

(原田憲二郎)

土器類 ここではS D 13から出土した弥生時代の土器、S E 502とS E 503から出土した奈良～平安時代の土器、S D 130から出土した奈良三彩小壺について報告する。

S D 13 出土土器 甕、壺が出土した。いずれも摩滅が激しく、調整を観察できるものはない。

甕(1)は、復原口径30.0cmであり、口縁部は比較的短く、胴部は上～中位に張りをもつ形態を推定できる。口縁端部は上下両方向ともに突出し、頸部の屈曲は鋭い。出土した口縁部片は他に2点確認できたが、いずれも同様の形状を呈する。

有段口縁壺(2)は、復原口径21.0cmであり、緩やかに外反する頸部から、ほぼ直立した口縁部をなす。口縁端部には幅0.5cmの平坦面をもつ。頸部下半には粘土帯を貼り付け、その上に斜め方向の刺突文を施す。

他に底部片2点を図化した(3・4)。3は、4に比べて器壁が薄く、立ち上がり之急であり、円板充填技法が観察できることから、甕の底部である可能性が高い。よって、器壁が厚く、開き気味に立ち上がる4は、壺の底部と推定する。

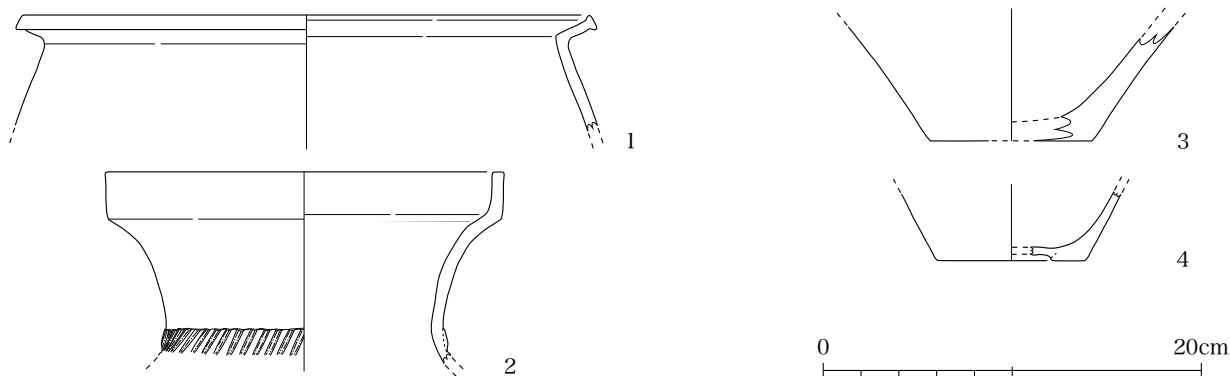
以上の特徴をまとめると、甕はいわゆる瀬戸内系甕であり、端部や屈曲が鋭く、瀬戸内系甕が主体を占めていた可能性が高いことから、大和第Ⅲ-3～4様式に位置づけられる。甕底部の円板充填技法は、大和第Ⅲ-3様式以降に認められる特徴であり、3はこれに矛盾しない。有段口縁壺も、口縁部が直立し、貼付粘土帯上の刺突文であることから大和第Ⅲ-3～4様式のなかにおさまる。このことから、S D 13は弥生時代中期中頃に比定される大和第Ⅲ-3～4様式に帰属すると考える⁶⁾。

(村瀬 陸)

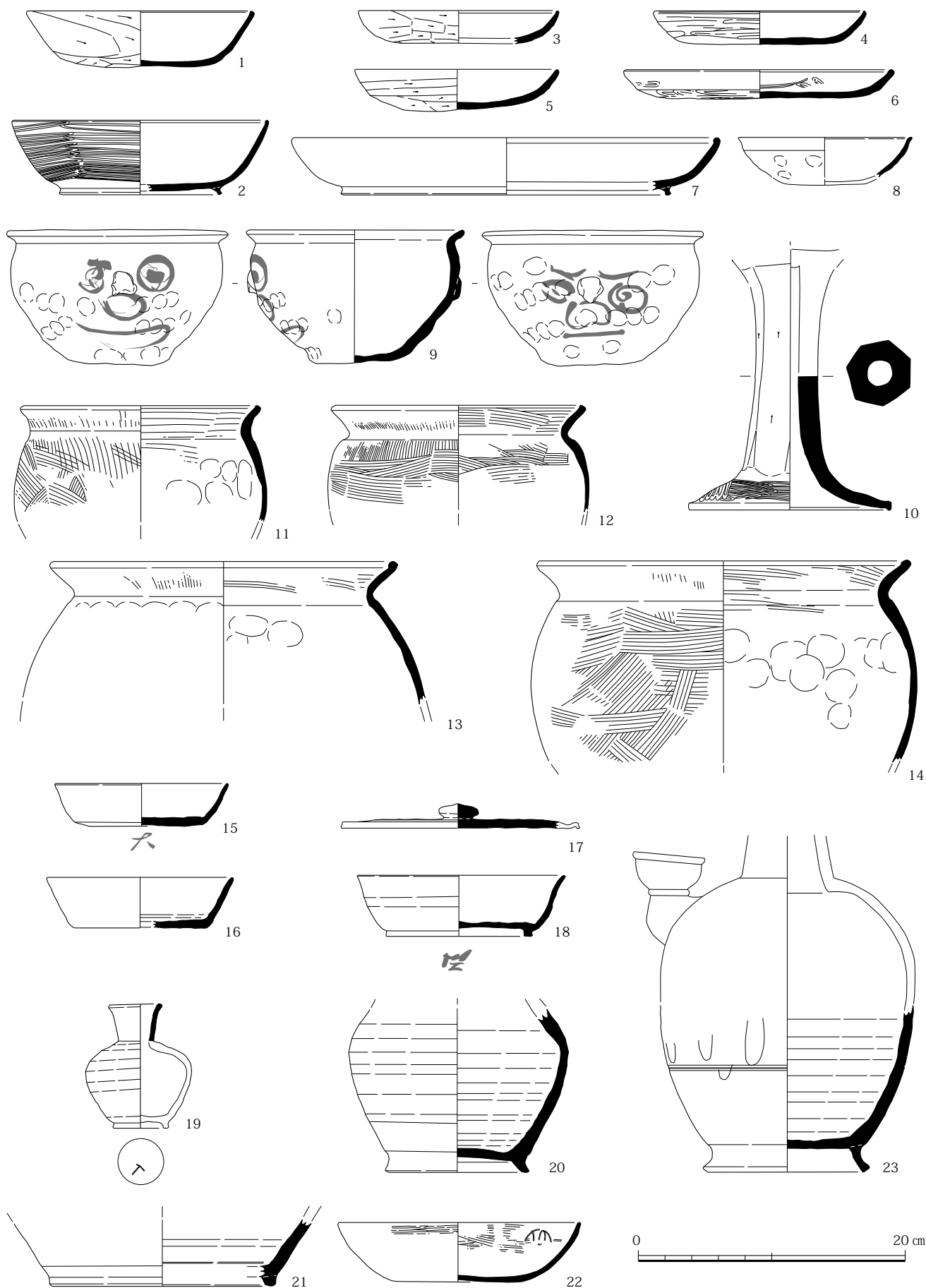
S E 503 出土土器 (1～23) 出土した器種は、土師器には杯A(1)、杯B(2)、皿A(3～6)、皿B(7)、椀C(8)、壺B(9)、高杯A(10)、甕(11～14)、須恵器には杯A(15・16)、杯B蓋(17)・同身(18)、壺M(19)、壺L(20)、鉢D(21)、黒色土器A類杯(22)、奈良三彩浄瓶(23)がある。皿Aは外面をへら削りする c_0 手法、4と6は底部から口縁部にへら磨きを施す c_3 手法である。4は底部に墨書があるが、大部分を欠いており判読できない。9には体部外面2カ所に人面の墨書がある。把手を鼻に見立ててそれを中心に人面を描いている。15には底部に「大」の墨書がある。18は底部内面に墨が付着しており、硯として転用されたものと考えられる。底部に墨書があるが、判読できない。19は底部外面に「入」の線刻がある。黒色土器A類杯(22)は口縁部内面に螺旋状暗文が施されている。奈良三彩浄瓶(23)は底径10.7cm、残存高10.6cmである。底部は外方に開き、体部外面には2条の沈線がある。胴部最大径が中位にあることや、形態の特徴から浄瓶と考える。胎土は軟質で、灰白色を呈する。釉薬はほとんどが剥落しているが、淡緑色釉を全面施釉後、外面に濃緑釉を施す二彩である。

S E 502 出土土器 (1～20) 出土した器種は、土師器には杯A(1・2)、杯B(3)、皿A(4～7)、皿C(8・9)、椀A(10)、高杯A(11・12)、甕(13・14)、須恵器には杯A(15)、杯B(16・17)、壺L(18)、壺G(19)、鉢D(20)がある。1・2は、外面がへら削りで、口縁部は外傾する。4・6は外面を c_3 手法で仕上げる。10は、外面はへら削りで、復原口径13.1cm、器高3.4cmである。9は口縁端部に1カ所、煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと考えられる。16には口縁部内面に煤が付着し、底部には「上」の墨書がある。

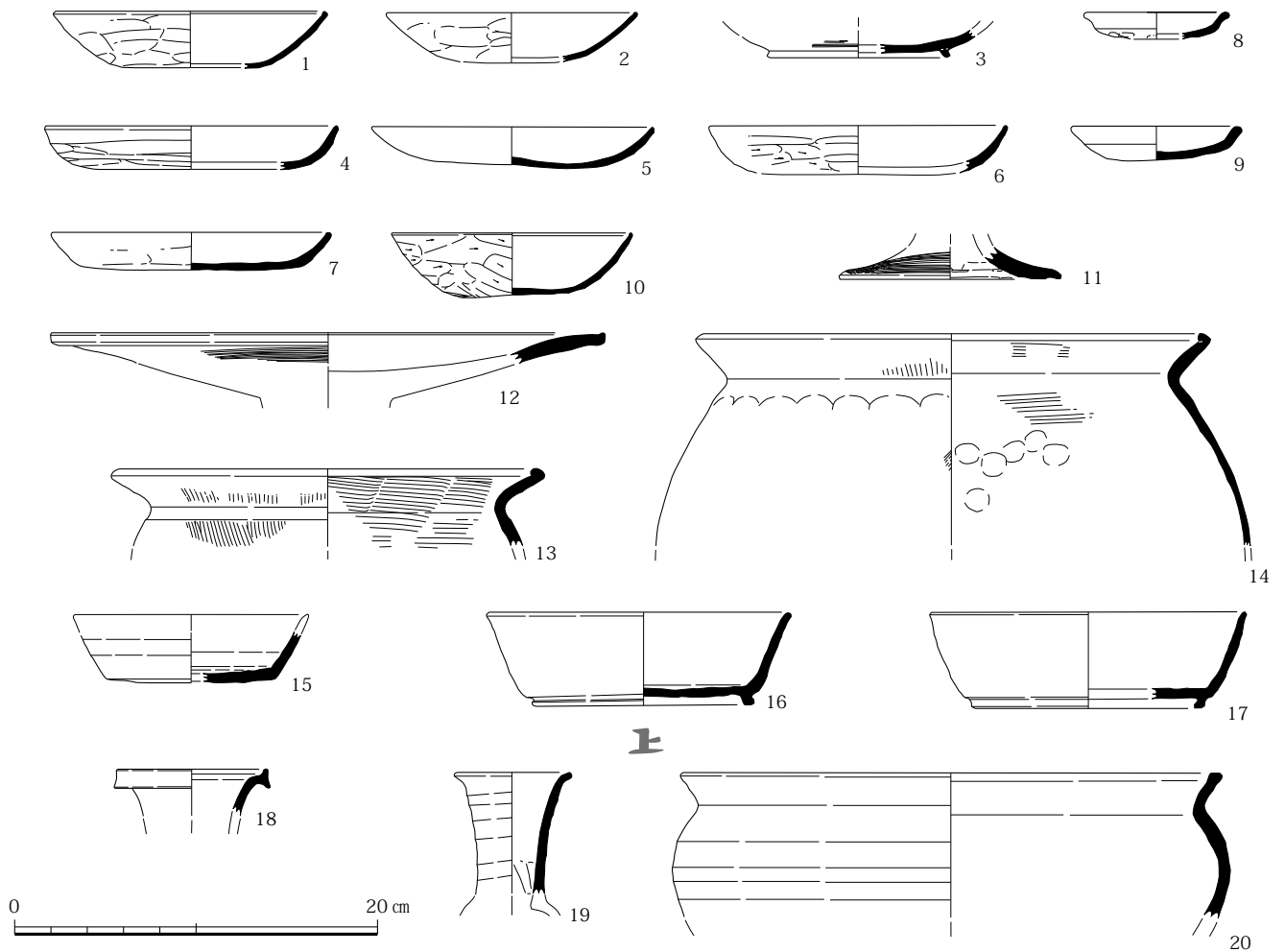
これらの土器は、器形や調整からS E 503は8世紀末～9世紀初頭、S E 502は9世紀前半に位置づけら



H J 第668次調査 溝S D 13出土弥生土器 (1/4)



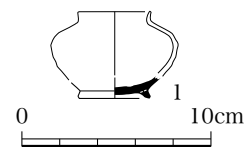
H J 第 667 次調査 井戸 S E 503 出土土器 (1/4)



H J 第 667 次調査 井戸 S E 502 出土土器 (1/4)

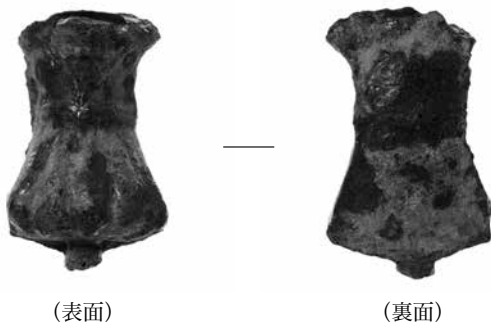
れる。

その他、H J 第 680 次発掘区の S D 130 から奈良三彩小壺の底部片 (1) が出土している。底径 3.7 cm。釉薬は大半が剥離しているが全面施釉で、外面には緑と黄の釉がわずかに残る。胎土は軟質で、灰白色である。

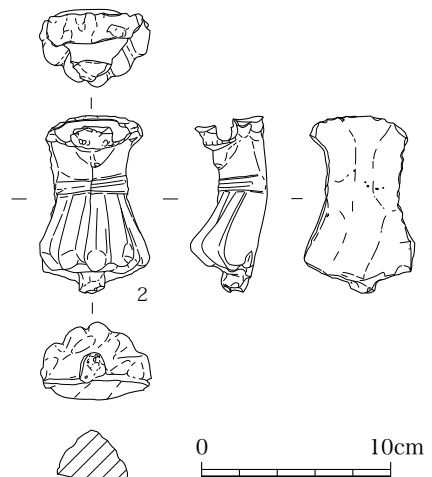


H J 第 680 次調査 溝 S D 130 出土奈良三彩壺 (1/4)

金属製品 S D 121 から火舎の脚とみられる青銅製獣脚 (2) が出土している。長さ 9.4 cm、幅 5.8 cm、厚さ 4.1 cm。鋳造品で、下部には湯口が、周囲にはバリが切り離されずに残っており、鋳放されたままの未成品で



H J 第 668 次調査 溝 S D 121 出土青銅製獣脚



H J 第 668 次調査 溝 S D 121 出土青銅製獣脚 (1/4)

ある。青銅製獣脚は、正倉院宝物 (中倉 165) に類例があり、平城宮第 481 次調査や第 63 次の馬寮の調査、兵庫県繁昌廃寺、讃岐国分寺跡などで出土が報告されている⁷⁾。正倉院金銅製火舎の獣脚は、脚部の上部に獣面が付く。本調査出土遺物にも上部には歯状の表現が確認できるが、鼻から上の部分や背面に鋳出されるはずの火舎本体と結合する柄などはみられない。(永野智子)

V 調査所見

左京五条四坊一坪に係る 7 次の発掘調査により、坪のおおよその様子を知ることができた。

坪の東西 1/2 (道路心・坪内含め) の位置にある S D 110・113・114 や S D 130～132、S A 205～208 や S A 264、南北 1/2 の位置にある S D 115、S A 222～224 の存在からみると、南北 1/2 にあたるところが未発掘で残っている部分が多いものの、坪内を 1/2 あるいは 1/4 に分割して利用していたようである。発掘区南半では坪内道路は両側溝を伴っているが、南北 1/2 の位置付近でも S D 115 があり、溝を伴う坪内道路があった可能性が考えられる。坪北半では坪内道路は検出されていないが、建物の規模をみると南半は桁行 5 間以上の建物がみられるが北半ではあまりみられない。こういった違いが分割方法の違いと係るのはかもしれない。また、坪の北側には四条大路が、西側には東三坊大路がとおることから、大路に面して門が開けなかったという史料があることを考慮すると、宅地に入るには東か南からしかなく、坪内道路の位置はこのこととも関連しているように思われる。南半に桁行 5 間以上の東西棟建物が多く、北側に桁行 3 間程度の小規模な建物が多いことは正面が南で宅地の中心的な建物は南側に置き、北側は雑舎が置かれた空間であったということであろうか。但し、一時期、東南の区画には菜園があったよう

ある。

溝や井戸、柱穴から出土した遺物により時期を類推すると、A・B 期が奈良時代後半、C・D 期が奈良時代末～平安時代初頭、E 期が平安時代前半と考えておきたい。出土している遺物には奈良時代中頃以前のものほとんどみられず、宅地として利用されるのは奈良時代後半以後のようである。これは同じ左京五条四坊の十五・十六坪での調査成果と同様である。その際の報告でも述べているように、この理由としては奈良時代中頃以降、京に住む人々の数が増加することに起因すると考えられる。今回の調査の結果も、平城京にはその増える京住民を受け入れることができる場所があり、左京五条四坊がそのようなところであったという先の成果を追認するものである。(池田裕英)

- 1) 奈良市教育委員会「平城京跡 (左京五条四坊十坪・坊間東小路) の調査 第 579・608 次 A～E」『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成 20 (2008) 年度』 2011。
- 2) 奈良市教育委員会「平城京跡 (左京五条四坊十五坪・十六坪・四条大路) の調査 第 623・631・638 次」『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成 22 (2010) 年度』 2012
- 3) 2014 年までの奈文研・奈良市による調査で出土した資料をカウントした。奈文研の資料数については石田由紀子氏のご教示による。
- 4) 新田剛「伊勢出土の 6719 A」『第 15 回シンポジウム 8 世紀の瓦づくり IV』発表要旨 奈良文化財研究所 2015
- 5) 山崎信二「平城宮・京と同範の軒瓦および平城宮式軒瓦に関する基礎的考察」1993 年度文部省科学研究費一般研究 C 報告書 (2003『古代瓦と横穴式石室の研究』同成社所収) 1994
- 6) 土器編年は下記文献に従う。
藤田三郎・豆谷和之「第 2 節 奈良県における土器編年」『奈良県の弥生土器集成』奈良県立橿原考古学研究所 2003
- 7) 奈良文化財研究所「東院地区の調査—第 481 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』 2012

検出遺構一覧

掘立柱建物・掘立柱塀

遺構番号	棟方向	規模 (間)	桁行全長	梁行全長	柱間寸法 (m)		柱の深さ	備考
		桁行×梁行	(m)	(m)	桁行	梁行	(m)	
SB201	南北	5×2	12.0	4.8	2.4 等間	2.4 等間	0.2～0.4	SB202、SD101・110、SK601 より新しい
SB202	東西	2 以上×2	4.8 以上	4.8	2.4 等間	2.4 等間	0.1～0.5	SB201 より古く、SD101・110、SK601 より新しい
SA203	東西	2	3.9		西から 2.1 - 1.8		0.2～0.5	SB201 より新しい
SB204	南北	1 以上×2	1.8 以上	3.6	1.8	1.8 等間	0.2～0.5	
SA205	南北	6 以上	11.6		北から 2.1 - 2.1 - 2.1 - 2.6 - 2.1		0.1～0.4	道路心から東西 1/2 ラインに位置、SA203 より古い
SA206	南北	4 以上	6.9		北から 1.5 - 1.5 - 2.4 - 1.5		0.1～0.2	
SA207	南北	5 以上	6.9		北から 1.0 - 1.8 - 1.5 - 1.5 - 1.0		0.1～0.2	SA212 より古い
SA208	南北	5 以上	8.6		北から 1.1 - 1.8 - 2.0 - 1.7 - 1.9		0.1～0.2	
SA209	東西	4 以上	6.4		西から 1.6 - 1.7 - 1.3 - 1.6		0.1～0.4	
SA210	南北	2	3.2		1.6 等間		0.2～0.3	SA211・212 より新しい
SA211	南北	2	3.8		1.8 等間		0.3～0.4	SA210 より古い
SA212	東西	3	4.5		西から 1.3 - 1.6 - 1.6		0.2～0.4	SA210 より古い

遺構番号	棟方向	規模 (間) 桁行×梁行	桁行全長		梁行全長		柱間寸法 (m)		柱の深さ (m)	備考
			(m)	(m)	桁行	梁行				
SA213	南北	6	9.0		北から 1.0 - 1.6 - 1.6 - 1.6 - 1.6 - 1.6 - 1.6				0.1 ~ 0.4	南から 2 番目の柱掘方から三彩瓦出土
SB214	東西	3 × 2	6.3	3.7	2.1 等間	北から 1.9 - 1.8			0.3 ~ 0.4	
SA215	東西	3	5.3		西から 1.5 - 1.8 - 2.0				0.2 ~ 0.3	
SA216	南北	7	11.4		北から 1.4 - 1.4 - 1.3 - 2.1 - 1.7 - 2.3 - 2.2				0.2 ~ 0.4	
SA217	南北	3	6.3		北から 1.8 - 1.8 - 2.7				0.2 ~ 0.5	
SA218	東西	2 以上	3.6 以上		1.8 等間				0.3 ~ 0.5	
SB219	南北	3 × 2 以上	4.5 以上	3.6 以上	1.5 等間	1.8 等間			0.1 ~ 0.3	
SB220	南北	3 × 2	4.5	3	1.5 等間	1.5 等間			0.1 ~ 0.2	
SB221	東西	3 以上 × 2	4.5 以上	3	1.5 等間	1.5 等間			0.4 ~ 0.6	SB220 より新しい
SA222	東西	2 以上	3.6 以上		1.8 等間				0.1	
SA223	東西	2 以上	3.6 以上		1.8 等間				0.5	SA222・224 より新しい
SA224	東西	2 以上	3.6 以上		1.8 等間				0.3	
SB225	南北	1 以上 × 2	2.7	3.6	2.7	1.8 等間			0.1 ~ 0.3	
SB226	南北	3 × 2	5.4	3.6	1.8 等間	1.8 等間			0.4	北西隅柱取扱穴から古大内式軒丸瓦 I 型 1 点出土
SB227	南北	2 以上 × 1	4.8 以上	3.6	2.4 等間	3.6			0.1 ~ 0.3	
SA228	東西	3 以上	6.3 以上		2.1 等間				0.2 ~ 0.3	発掘区外西に続く
SA229	南北	2	3.6		1.8 等間				0.2	建物の東側柱列の可能性あり
SB230	東西	3 × 2	5.4	4.2	1.8 等間	2.1 等間			0.2	
SB231	総柱建物	2 × 2	3.6	3.6	1.8 等間				0.1 ~ 0.4	
SB232	南北	3 × 2	4.8	3.6	1.6 等間	1.8 等間			0.1 ~ 0.6	
SB233	南北	3 × 2	5.4	3.6	1.8 等間				0.1 ~ 0.4	
SB234	南北	3 × 2	5.4	3.6	1.8 等間				0.1 ~ 0.4	SB233 より新しい
SA235	東西	2	3.6		1.9 等間				0.2	建物の北側柱列の可能性あり
SB236	東西	3 × 3	5.4	4.8	1.8 等間	1.6 等間			0.1 ~ 0.4	東に廂が付く
SA237	東西	4 以上	7.2 以上		2.4 等間				-	
SA238	南北	3	5.4		1.8 等間				0.1 ~ 0.4	
SA239	南北	2	4.2		2.1 等間				0.2 ~ 0.5	
SA240	東西	4	7.2		1.8 等間				0.2 ~ 0.5	
SA241	南北	2	4.8		2.4 等間				-	SB254 より新しい
SA242	南北	2	4.2		2.1 等間				-	
SB243	東西	5 × 2	15.0	6.0	3.0 等間	3.0 等間			0.4 ~ 0.7	SB244 より古い
SB244	東西	6 × 4	14.4	9.6	2.4 等間	2.4 等間			0.2 ~ 0.6	SB243 より新しい、北と南に 1 間の廂が付く
SB245	東西	4 × 2	8.4	4.2	2.1 等間	2.1 等間			0.2 ~ 0.8	SB246 より古い、西から 1 間目之間仕切り
SB246	東西	5 × 2	9.0	3.6	1.8 等間	1.8 等間			0.2 ~ 0.5	SB245 より新しい
SB247	東西	1 以上 × 2	2.0 以上	3.8	2	1.9 等間			0.4 ~ 0.6	
SB248	東西	4 以上 × 2	8.4 以上	4.2	2.1 等間	2.1 等間			0.6 ~ 0.8	
SB249	南北	3 × 2	9.0	6.0	3.0 等間	3.0 等間			0.3 ~ 0.4	SB251 より古い
SB250	東西	5 × 2	10.5	4.2	2.1 等間	2.1 等間			0.6 ~ 0.8	SB251 より古い
SB251	南北	5 × 1 以上	12.0	2.4 以上	2.4 等間	2.4 等間			0.3 ~ 0.5	SB249・250 より新しい
SB252	東西	3 × 2	7.2	4.2	2.4 等間	2.1 等間			0.1 ~ 0.5	
SB253	南北	2 × 1 以上	4.2	2.1 以上	2.1 等間	2.1 等間			0.4 ~ 0.5	
SB254	東西	3 × 2	7.2	4.2	2.4 等間	2.1 等間			0.1 ~ 0.7	SA241 より古い
SB255	南北	3 以上 × 1	5.4 以上	2.1	1.8 等間	2.1			0.2 ~ 0.5	
SB256	東西	5 × 2	15.0	6.0	3.0 等間	3.0 等間			0.5 ~ 0.7	
SB257	東西	4 × 2	9.6	3.6	2.4 等間	1.8 等間			0.1 ~ 0.5	SB258 より古い
SB258	南北	4 × 2	9.4	4.7	2.3 等間	2.35 等間			0.1 ~ 0.6	SB256 より古い
SB259	南北	3 × 1	4.5	3.0	1.5 等間	3			0.2 ~ 0.3	SD132 より古い
SB260	東西	5 × 2	15.0	4.8	3.0 等間	2.4 等間			0.1 ~ 0.7	SA263・SD131 より古い
SB261	南北	3 × 2	6.6	4.8	2.2 等間	2.4 等間			0.1 ~ 0.5	
SA262	東西	4	12		3.2 - 3.2 - 3.0 - 2.6				0.1 ~ 0.2	
SA263	東西	3	9.0		3.0 等間				0.3 ~ 0.6	
SA264	南北	5 以上	15.0 以上		3.0 等間				0.2 ~ 0.6	SD130 より古い、東西 1/2 ラインに位置する
SA265	南北	2	4.4		2.2 等間				0.2 ~ 0.3	
SA266	南北	7 以上	12.0 以上		1.8 - 1.5 - 1.8 - 1.8 - 1.2 - 2.1 - 1.8				0.2 ~ 0.4	
SA267	東西	2	5.4		2.7 - 2.7				0.3	南北 1/8 ラインに位置する

土坑・溝・その他

遺構番号	平面形等	平面規模 (m)	深さ (m)	時期	主な出土遺物	備考
SD01	東西	幅 3.5 以上	0.5 以上	弥生中期	弥生土器片	
SK02	円形	直径 0.9	0.3	弥生	弥生土器片	土器は細片のため詳細な時期は不明
SD03	東西	幅 0.8 ~ 5.0 × 長さ 33	0.3 ~ 0.7	弥生後期	弥生土器、石鏃	
SD04	東西	幅 1.5 ~ 3.2 × 長さ 42 以上	0.3 ~ 0.5	弥生	弥生土器、石鏃	
SD05	南東-北西	幅 0.6 ~ 0.9 × 長さ 16.5 以上	0.2 ~ 0.3	弥生	弥生土器片	
SK06	不整形	南北 1.5 × 東西 1.7	0.4	弥生	弥生土器片	SD05 より新しい
SK07	長円形	東西・南北とも 2.0 以上	0.2	弥生	弥生土器片	
SD08	北西-南東	幅 8 ~ 10 × 長さ 44 以上	1.0 以上	弥生	弥生土器・石鏃	最上層から奈良時代の土器出土
SK09	長円形	幅 2.0 ~ 3.5 × 長さ 6.7 以上	0.4	弥生	弥生土器	SD02 と同一か
SK10	長円形	幅 2.5 ~ 4.0 × 長さ 7.0	0.5	弥生か		
SK11	長円形	幅 0.8 ~ 1.3 × 長さ 3.3	0.3	弥生	弥生土器、石鏃	
SD12	北西-南東	幅 0.3 ~ 0.8 × 長さ 24 以上		弥生	弥生土器	
SD13	方形	幅 1.2 ~ 2.4 × 長さ 東西 9.5、南北 12.5	0.2 ~ 0.4	弥生中期	弥生土器	方形周溝墓周溝か
SK14	長方形	長辺 3.95 × 短辺 2.2	0.2 ~ 0.3	弥生か		
SK15	長円形	長辺 3.3 × 短辺 1.1 ~ 1.4	0.1	弥生か		
SK16	不整形	長辺 6.3 以上 × 短辺 1.0 ~ 2.0	0.2	弥生か		
SD2003	東西溝	幅 1.1 × 長さ 1.3 以上	0.2	8 世紀 ~ 9 世紀前半	土師器・須恵器	四条大路南側溝か
SD101	東西溝	幅 0.8 ~ 1.7 × 長さ 5.3 以上	0.2 ~ 0.3	8 世紀 ~ 9 世紀初頭	土師器・須恵器	SB201・202、SK601 より古い
SD110	南北溝	幅 0.2 ~ 1.8 × 長さ 12.6	0.03 ~ 0.2	8 世紀 ~ 9 世紀初頭	土師器・須恵器・瓦	SB201・202、SK602 より古い
SD111	南北溝	幅 0.3 ~ 0.5 × 長さ 4.5	0.04 ~ 0.07	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器・須恵器	
SD112	南北溝	幅 0.3 × 長さ 2.3	0.03 ~ 0.1	8 世紀 ~ 9 世紀前半	土師器・須恵器・瓦	
SD113	南北溝	幅 0.7 ~ 1.2 × 長さ 4.0	0.02 ~ 0.07	9 世紀初頭 ~ 前半	土師器	
SD114	南北溝	幅 0.4 ~ 1.1 × 長さ 8.4	0.09 ~ 0.19	9 世紀初頭 ~ 前半	土師器・須恵器・瓦	坪の端から東西 1/2 ラインに位置する
SD115	東西溝	幅 0.2 ~ 0.4 × 長さ 25 以上	0.1	8 世紀 ~ 9 世紀	瓦	SA224 より新しい、南北 1/2 ラインに位置する
SD116 ~ 129	東西溝	幅 0.2 ~ 0.4 × 長さ 30 以上		8 世紀末 ~ 9 世紀初頭		SB244・247 より古い
SD130	南北溝	幅 0.7 ~ 1.2 × 長さ 29 以上		8 世紀末 ~ 9 世紀初頭	土師器・須恵器、奈良三彩、土馬	東西 1/2 ライン付近に位置する
SD131	南北溝	幅 4.5 × 長さ 12.2 以上		8 世紀末 ~ 9 世紀初頭	土師器・須恵器	SD274 より古い
SD132	南北溝	幅 0.7 ~ 1.5 × 長さ 35.5 以上		8 世紀末 ~ 9 世紀初頭	土師器・須恵器、蹄脚面硯	東西 1/2 ライン付近に位置する
SK601	不整形	長軸 4.7 × 短軸 2.4	0.1 ~ 0.3	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器・須恵器	SB201・202 より古く、SB101・110 より新しい
SK602	方形	南北 1.9 × 東西 1.5 以上	0.1	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器	
SK603	不整形	南北 2.8 以上 × 東西 6.6 以上	0.3	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器・須恵器	
SX801	東西	幅 0.6 以上 × 長さ 0.8 以上	0.15	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器・須恵器	
SX802	方形	東西 4.5 × 南北 3.7	0.3	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器・須恵器	
SX803	方形	東西 4.0 × 南北 4.7	0.3 ~ 0.4	8 世紀 ~ 9 世紀	土師器・須恵器	SB243・244 より新しい
SX804	不整円形	東西 1.3 × 南北 1.15	0.9	9 世紀前半に埋没	土師器・黒色土器 A 類、瓦	

井戸

遺構番号	掘方			枠		時期	主要出土遺物
	平面形	平面規模 (m)	深さ (m)	構造	内法 (m)		
SE501	楕円形	長軸 1.6 × 短軸 1.3	1.1	上段：方形縦板組横棧留 下段：方形横板組	上段：0.7 下段：南北 0.6 × 東西 0.4	9 世紀前半	枠内：土師器・須恵器・ 曲物柄杓 掘方：土師器・須恵器
SE502	円形	径 2.7	2.7	方形縦板組隅柱横棧留	1.0	9 世紀前半	枠内：土師器・須恵器、軒平瓦、 斎串・曲物、折敷、 掘方：土師器、須恵器
SE503	不整形	東西 1.8 × 南北 1.65	2.65	方形縦板組隅柱横棧留	0.65	8 世紀末 ~ 9 世紀初頭	枠内：土師器・須恵器、奈良 三彩小壺、人面墨書土器、 曲物・折敷、神功開宝 掘方：土師器、須恵器
SE504	円形	径 2.2	1.3	残存せず			土師器・須恵器
SE505	不整円形	東西 2.3 × 南北 2.6	1.55	残存せず		8 世紀後半 ~ 末	土師器・須恵器



H J 第 626 次調査 発掘区全景 (西から)



H J 第 626 次調査 井戸 S E 501 (東から)



H J 第 656 次調査 発掘区全景 (東から)



H J 第 666 次調査 発掘区東部分 (北から)



H J 第 666 次調査 発掘区東部分中央・西部分 (東から)



H J 第 667 次調査 東発掘区北半部 (西から)



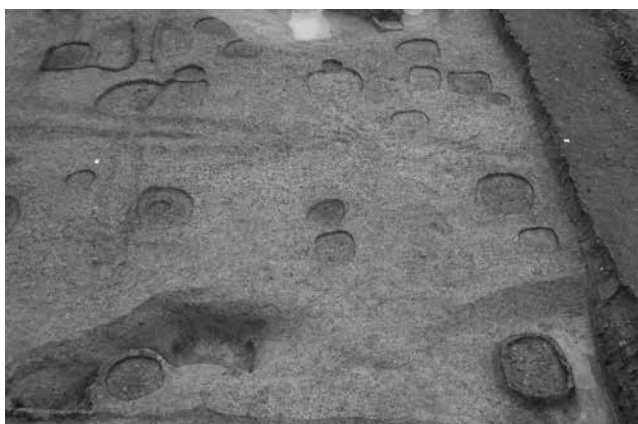
H J 第 667 次調査 東発掘区南半部 (西から)



H J 第 667 次調査 溝 S D 03 (左)・04 (右) (西から)



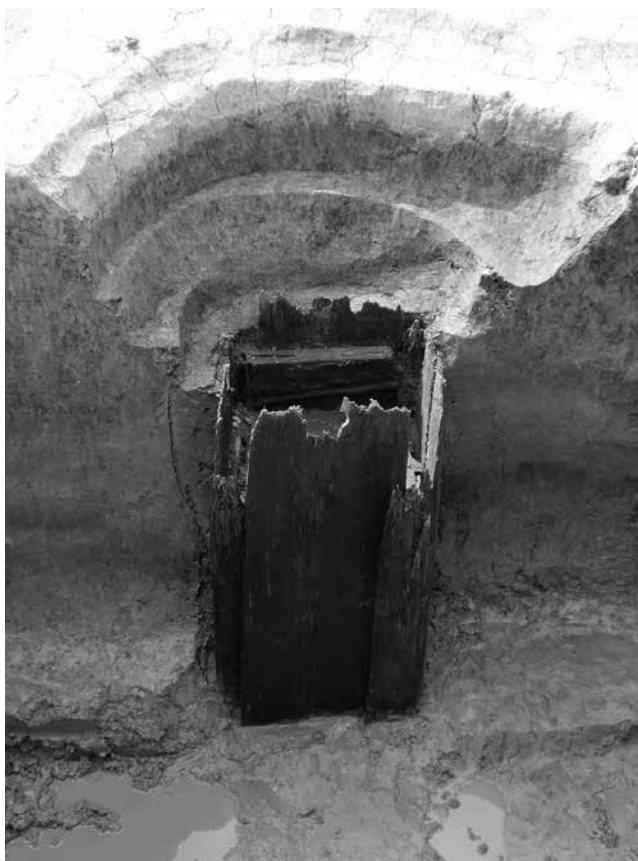
H J 第 667 次調査 溝 S D 08 (東から)



H J 第 667 次調査 建物 S B 226 (南から)



H J 第 667 次調査 S X 802 (北東から)



H J 第 667 次調査 井戸 S E 503 (北西から)



H J 第 667 次調査 井戸 S E 503 枠内遺物出土状況 (北から)



H J 第 667 次調査 井戸 S E 503 検出状況 (北西から)



H J 第 668 次調査 発掘区北半部 (東から)



H J 第 668 次調査 発掘区南半部 (北から)



H J 第 668 次調査 建物 S B 244 (南から)



H J 第 668 次調査 建物 S B 246・247 (北から)



H J 第 668 次調査 S X 803 (東から)



H J 第 680 次調査 発掘区南半全景 (北東から)



H J 第 680 次調査 発掘区北半全景 (南東から)



H J 第 680 次調査 溝 S D 130・132 (南から)



H J 第 680 次調査 溝 S D 130・131・132 (北から)



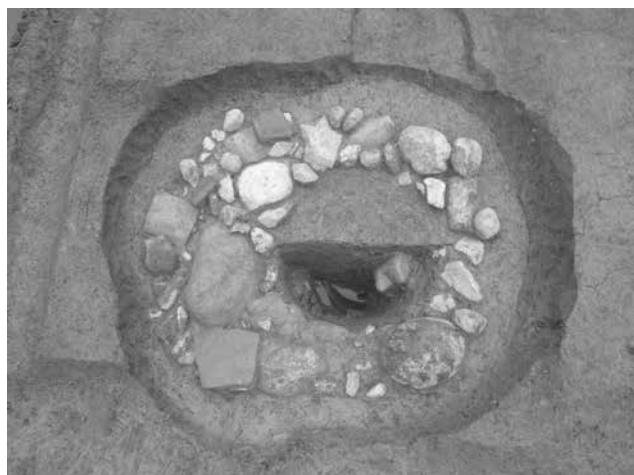
H J 第 680 次調査 建物 S B 257・258・堀 S A 262 (南から)



H J 第 680 次調査 建物 S B 256・257・258 (東から)



H J 第 680 次調査 井戸 S E 505・建物 S B 258 (東から)



H J 第 680 次調査 S X 804 (南から)

2. 平城京跡（右京五条四坊三坪）の調査 第 682 次

事業名	京西中学校給食室建設事業	調査期間	平成26年7月22日～8月6日
通知者名	奈良市長	調査面積	約125.2㎡
調査地	平松町四丁目3番1号	調査担当者	原田憲二郎

I はじめに

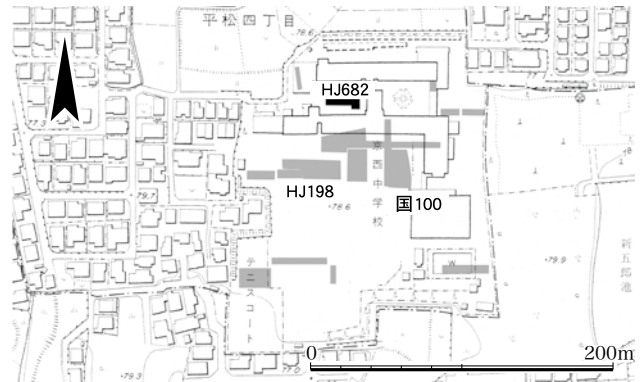
調査地は、平城京の条坊復原によれば右京五条四坊三坪の北西部にあたる。現状は京西中学校の敷地内で、旧地形は北部と西部が丘陵上、南東部が南東から北西に入り込む谷の谷頭部にあたる。

昭和51年度から開始された中学校建設工事では、敷地の北・西部の丘陵部を削って南東部の谷を埋める造成計画があり、事前に奈良国立文化財研究所により第100次調査が行われた¹⁾。この調査では三坪周囲の条坊遺構のうち、東側の西三坊大路、北側の五条条間路、西側の西四坊坊間東小路が確認された。また三坪北半部の調査では、三坪の東西1/2ラインで階段状遺構を、他に東西棟掘立柱建物、掘立柱塀、井戸、埋納遺構が確認され、奈良時代前半の三坪北半部は東西2分割され、三坪は1/4町宅地として利用された時期があったことが判明している。平成2年度には運動場改良工事に先立ち、三坪北西部で市H J第198次調査が行われ、掘立柱建物、溝、井戸などを検出している²⁾。

これらの成果をうけ、今回の調査は三坪北西部の様相解明を主な目的として実施した。

II 基本層序

発掘区内の基本的な層序は、現地表面から約0.05mの厚さの黒褐色の表土の下に、約0.1mの厚さの濁黄褐色の造成土があり、これを除去すると橙白色粘土の地山となる。この地山上面で遺構検出を行なった。検出面上



H J 第 682 次調査 発掘区位置図 (1/5,000)

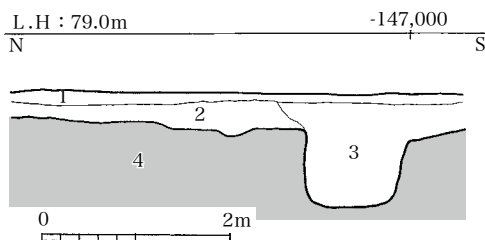
面の標高は概ね78.6mである。

III 検出遺構

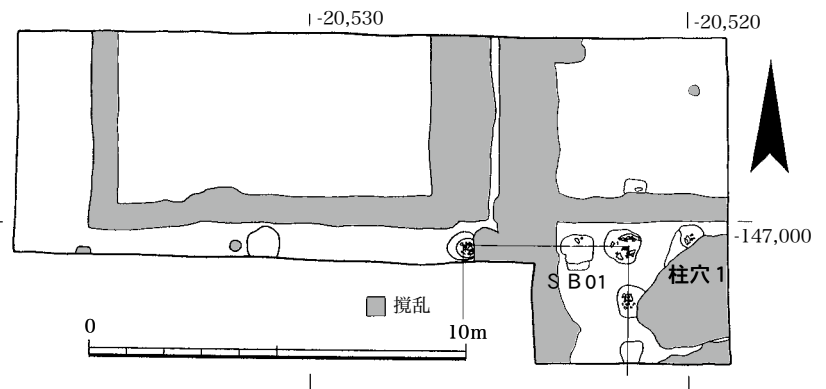
検出遺構は、奈良時代の掘立柱建物1棟である。

建物 S B 01 は発掘区南東隅で検出した。東西3間(4.5m)、南北2間(3.0m)以上で、南側は発掘区外に続く。柱間は東西・南北とも1.5m等間である。柱穴の遺構検出面からの深さは、0.3～0.4mである。柱は全て抜き取られていた。

なお、建物 S B 01 北東隅の柱穴から東へ1.5m離れた場所では、柱穴1を確認した。柱は抜き取られ、柱抜き取り穴には須恵器短頸壺が捨てられていた。柱穴の遺構検出面からの深さは約0.5mである。S B 01 は東側柱列を確認していること、この東側柱列中央の柱穴を、間仕切りと考えても、柱穴1の南側に柱穴は無かったことから、柱穴1がS B 01と一連のものとは考え難い。



- 1 黒褐色土 (表土)
- 2 濁黄褐色土 (造成土)
- 3 濁黄褐色土 (攪乱、建物基礎抜取穴)
- 4 橙白色粘土 (地山)

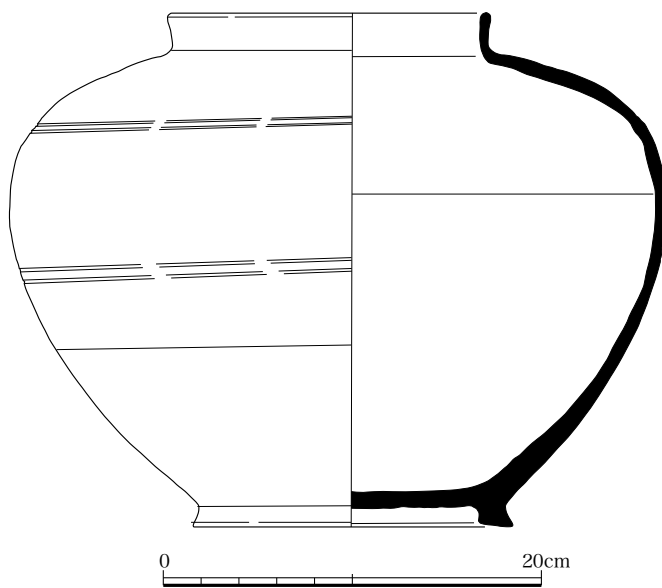


H J 第 682 次調査 発掘区東壁土層図 (1/40)・遺構平面図 (1/200)

IV 出土遺物

8世紀の土師器・須恵器が遺物整理箱4箱分出土した。須恵器には蓋・短頸壺・甕、土師器には皿・高杯があり、これらは建物S B01の柱穴と、柱穴1から出土した。

以下に柱穴1抜き取り穴出土須恵器壺Aについて述べる。底部は完存しているが、口縁部と体部は約1/2の残存である。製作時の歪みがあるが口径17.3cm、底径17.2cm、胴部最大径34.9cm、器高27.5cmに復元できる。調整は体部下半がヘラケズリの後ロクロナデ、体部上半～口縁部がロクロナデである。体部外面の肩部と体部中央部に二条一組の沈線が施されている。外面の肩部から口縁部にかけての部分と内面の体部下半から底部にかけての部分に暗灰緑色の自然釉がみられ、焼成の際には蓋をしていなかったことがわかる。口縁端部は丸みをもって仕上げられている。高台は外端接地である。これらの特徴や黒灰色～暗茶褐色の焼き上がっている点などからみて尾張産と考えられる。



須恵器壺A (1/4)

V 調査所見

調査では、厚さ約0.1mの造成土の直下で地山を確認したことから、周辺にあった遺構は学校建設の際、削平をうけたと考える。ただし、三坪北半は階段状遺構により東西2分割されて利用されていたが、その東西の高低差は、西半部が東半部より約3m低かったことが確認されている。今回の調査で掘立柱建物を確認したことから、発掘区の位置する学校敷地北西部については、同北東部に比べ低かったため、工事の影響が少なく、遺構が残存している可能性が高いとみられる。（原田憲二郎）

- 1) 奈良国立文化財研究所『平城京右京五条四坊三坪発掘調査概報』1977
- 2) 奈良市教育委員会「平城京右京五条四坊三坪の調査 第198次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成2年度』1991



H J 第682次調査 発掘区全景（北から）



建物S B 01 北側柱列（東から）



柱穴1断面（南から）

3. 平城京跡（右京一条二坊十三坪・二条二坊十六坪・一条南大路）の調査 第 683 次

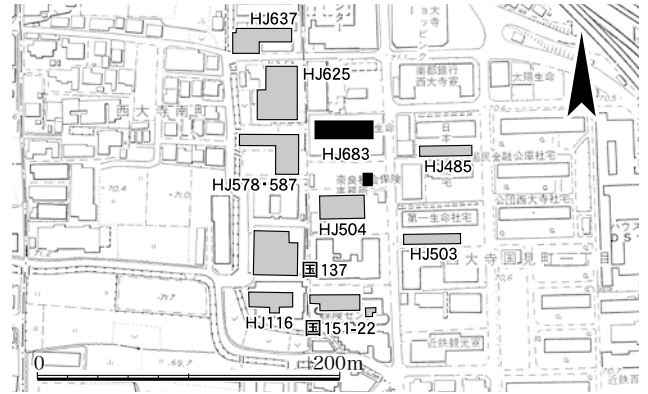
事業名	共同住宅新築	調査期間	平成26年9月20日～11月5日
届出者名	近鉄不動産株式会社	調査面積	583㎡
調査地	西大寺国見町一丁目2137-95	調査担当者	鐘方正樹・村瀬 陸

I はじめに

調査地は、平城京の条坊復原によると、中央に一条南大路が推定され、その北側が右京一条二坊十三坪の南辺、南側が右京二条二坊十六坪の北辺となる。

周辺では、調査地の西隣接地で実施した市HJ第578・587次調査で、一条南大路の南北両側溝および十三坪南端の区画溝を検出したが、南側溝の南端は未確認である¹⁾。調査地北西の十三坪内で実施した市HJ第625次調査では、奈良時代の遺構のほか、埋土に弥生時代前期の土器を含む河川や古墳時代の土坑を検出した²⁾。

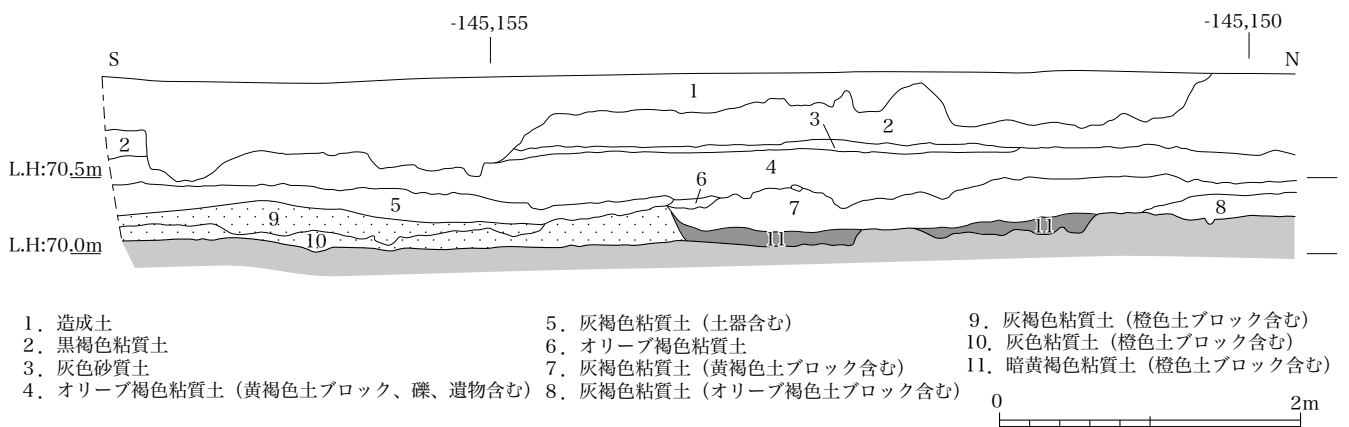
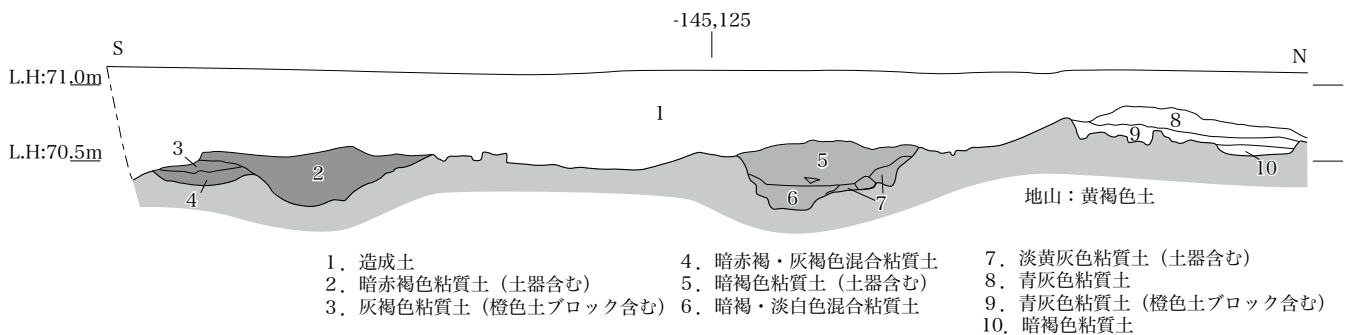
本調査は、一条南大路の規模、右京一条二坊十三坪内の宅地利用の確認を目的とし、弥生～古墳時代の遺跡の広がりにも留意しつつ、北側にA発掘区、南側にB発掘区を設定して調査を実施した。遺構番号は右京一条二坊十三坪の既往の調査報告からの通し番号で付した。



H J 第 683 次調査 発掘区位置図 (1/5,000)

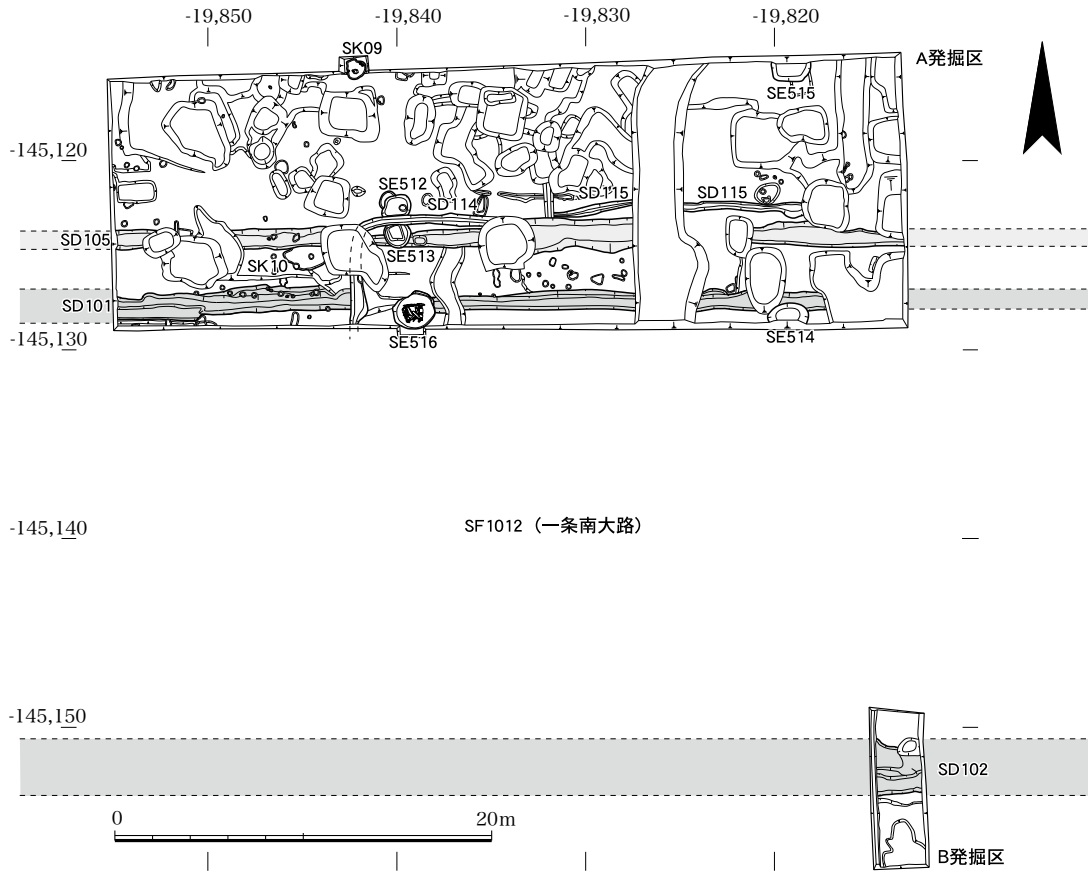
II 基本層序

A 発掘区では旧建物解体時の掘削が広範囲に地山まで及んでいたため、造成土（厚さ約0.5m）の直下で地山上面に至り、部分的に地山直上で暗褐色粘質土の包含層を確認した。B 発掘区では、上から造成土（厚さ



H J 第 683 次調査 土層断面図（上：A 発掘区西壁、下：B 発掘区西壁、1/50）

平城京跡（右京一条二坊十三坪・二条二坊十六坪・一条南大路）の調査 第683次



H J 第 683 次調査 発掘区平面図 (1/400)



H J 第 683 次調査 一条南大路北側溝 S D 101、雨落溝 S D 105（東から）

遺構一覧表

遺構番号	平面形等	規模 (m)	深さ (m)	時期	出土遺物	備考
S D 101	東西溝	38 以上×1.4	0.3	8 世紀	【上層】弥生土器 (高杯)、土師器 (甗、壺B、杯A・C、皿A・C、椀A・C、甑、高杯)、須恵器 (甗、壺A、杯A・B、皿C、平瓶)、黒色土器A類、軒丸瓦 (6314A)、軒平瓦 (6721E)、丸瓦、平瓦 【下層】土師器 (甗、壺、杯C、皿A・C、高杯、製塩土器)、須恵器 (甗、壺A、杯A・B (墨書含む)、杯蓋転用甗、皿A、高杯)、軒平瓦 (6764A)、丸瓦、平瓦	上下2層で、幅は上層1.4m、下層0.8m。上・下層ともに大きな時期幅はないが、上層では、黒色土器A類や8世紀後半の軒平瓦を含み、やや新しい様相を呈する。
S D 102	東西溝	1.5 以上×2.5	0.1	8 世紀	土師器 (杯皿類、甗)、須恵器 (甗、杯B、壺)	溝底は、水流に起因する谷・山・谷に挟れる形態。
S D 105	東西溝	38 以上×1.1	0.3	8 世紀	土師器 (甗、壺B、杯A・B、皿A・C、椀A、高杯、製塩土器)、須恵器 (甗、壺、杯A・B、円盤状製品)、丸瓦 (凸面緑釉含む)	
S D 114	東西溝	7 以上×0.6	0.15	13 世紀	土師器 (羽釜)、須恵器 (杯B、甗、壺)	
S D 115	東西溝	13 以上×0.4	0.15	13 世紀	土師器 (羽釜)、須恵器 (杯B、壺)、瓦器椀	
S K 09	不整円形	1.1 × 1.0	0.3	弥生時代前期後半	弥生土器 (甗・壺・鉢)	
S K 10	不整円形	2.0 × 1.2	0.3	弥生時代前期後半	弥生土器 (壺)	

遺構番号	平面形	掘方		枠			時期	主な出土遺物
		平面規模 (m)	深さ (m)	構造	内法 (m)	濾過装置等		
S E 512	不整方形	1.5	0.5	不明	不明	無	8 世紀後半～末	(掘方) 土師器杯、須恵器 (杯AかB、甗) (枠痕跡内) 土師器 (杯A・C、皿A、甗、壺、小型の食器類)、須恵器 (杯AかE、皿、甗、壺A、鉢A、平瓶?)
S E 513	不整方形	1.4	0.5	方形枠痕跡	0.8 (痕跡)	最下部に礫敷	8 世紀後半～末	(掘方) 土師器 (壺A、高杯)、須恵器 (甗、杯蓋) (枠痕跡内) 土師器 (杯A?・C、皿A、椀A?、高杯、甗)、須恵器 (杯A・B、杯蓋?、甗、壺?、横瓶)
S E 514	不整方形	2.1 × 1.0 以上	0.9	不明	不明	無	8 世紀後半～末	土師器 (甗、高杯)、須恵器 (甗、杯B、杯蓋、壺)
S E 515	不整円形	2.1	0.8	不明	不明	無	8 世紀?	なし
S E 516	不整円形	2.2	1.7	方形縦板組隅柱横棧留	0.7	無	11 世紀後半	(枠内) 土師器 (皿、製塩土器)、黒色土器A・B類 (椀、皿)、羽釜、瓦器椀、灰釉陶器、須恵器 (甗、墨書土器)、軒丸瓦 (6225型式)、軒平瓦 (6691A)、丸・平瓦、磚



H J 第 683 次調査 A 発掘区全景 (垂直写真、上が北)

0.3～0.6m)、旧水田耕土の黒褐色粘質土(0.2m)・灰色砂質土(0.05m)、同床土のオリブ褐色粘質土(0.2m)、奈良時代の整地層である灰褐色粘質土(0.2m)と続き、現地表下0.95～1.25mで地山上面(標高約70.40m)となる。遺構検出は地山上面で行った。

III 検出遺構

検出した主な遺構は、弥生時代の土坑(S K 09・10)、奈良時代的一条南大路(S F 1012)とその南北

側溝(S D 101・102)・十三坪内南端の東西溝(S D 105)、奈良～平安時代の井戸(S E 512～515)、平安時代の井戸(S E 516)、平安～鎌倉時代の溝(S D 114・115)がある。調査地の大部分が旧建物の基礎等で攪乱されているため遺構の残存率が低く、散在する柱穴を建物として復原するのは困難である。

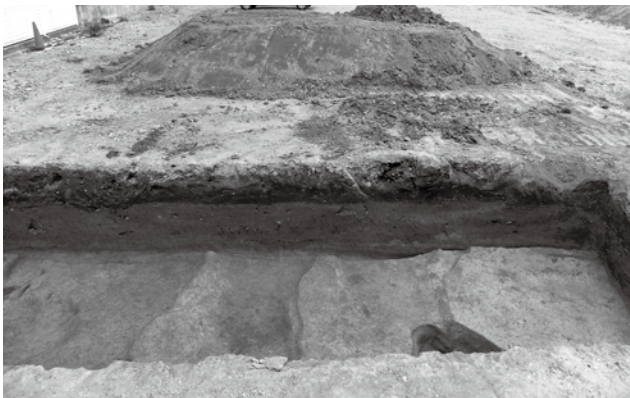
各遺構の詳細は一覧表にまとめ、主要な遺構について概要を記す。



B発掘区全景(南東から)



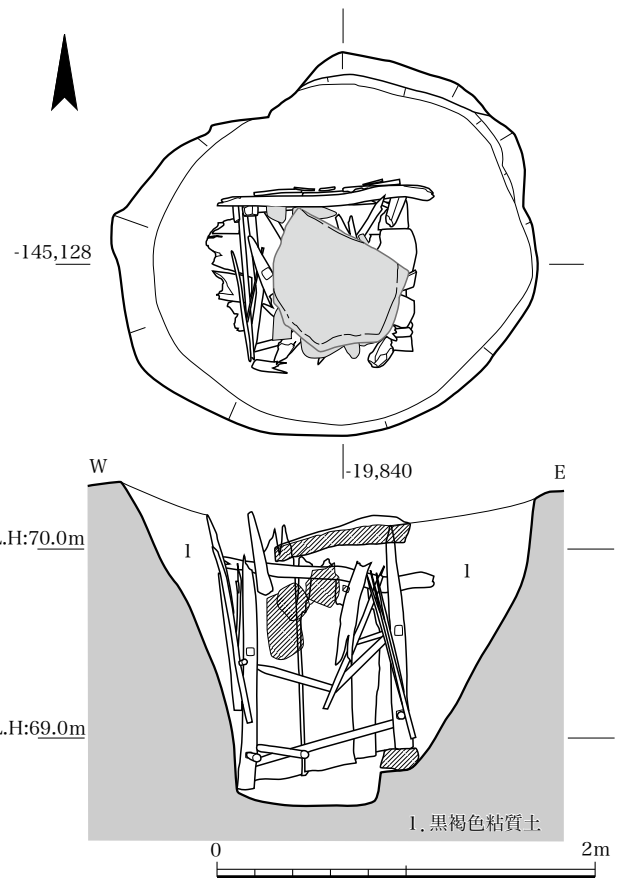
井戸 S E 516 (検出時、南から)



一条南大路南側溝 S D 102 (東から)



井戸 S E 512・513 (東から)



井戸 S E 516 平面・立面図 (1/40)

弥生時代の遺構

SK09・10 ともにA発掘区西寄りで検出した。SK09からは弥生時代前期後半の土器がまとまって出土し、SK10からもSK09と同時期とみられる土器小片が出土した。

奈良時代の遺構

一条南大路（SF1012・SD101・102） A発掘区で北側溝SD101、B発掘区で南側溝SD102を検出した。両側溝間が一条南大路の路面SF1012となる。各溝心の座標は、SD101がX=-145,127.72、Y=-19,850.00、SD102がX=-145,152.24、Y=-19,814.00。溝心々間距離は24.52m、路面幅は約22.5mである。

SD101は西寄りで上下2層の埋土を確認したが、東寄りでは削られて下層のみとなる。底面は東寄りが西寄りに比べて約0.1m低く、東方の秋篠川へ向かって下り勾配がついていたと考えられる。

SD105 一条南大路北側溝北端から約2.1m北側に位置し、十三坪南面を区画する東西溝である。SD101との間に掘立柱塀がないことから、築地塀に伴う雨落溝と考えられる。

SE512・513 南北に並ぶ井戸である。

SE512はSD513を避けて掘削され、SE513はSD105の埋没後に掘削されている。ともに8世紀後半～9世紀の土器類が出土した。

出土遺物の時期と位置関係から、SE512がSE513に先行し、8世紀後半に築地塀が取り壊された後、SE513が掘削されたと考える。

平安時代の遺構

SE516 方形縦板組隅柱横棧留構造の井戸で、SD101の埋没後に掘削される。北東隅柱は人頭大の石を底にかませて高さを調節する。井戸上面を最大長約1.5mの巨石で封じ、その下で人頭大の石数個と土師器、瓦器の投棄を確認した。いずれの石にも火を受けた痕跡がある。

IV 出土遺物

出土遺物は、遺物整理箱で30箱分がある。内訳は、弥生時代前期後半の土器（甕、壺、鉢）、8～9世紀の土師器（杯、皿、甕、製塩土器）・須恵器（杯、皿、碗、甕、壺、鉢、横瓶、平瓶）・灰釉陶器碗・軒丸瓦（6225型式1点・6314型式A種1点）・軒平瓦（6647型式C種1点・6682型式B種1点・6691型式A種1点・6721型式E種1点・6764型式A種1点）・丸瓦・平瓦、11世紀の土師器・黒色土器・羽釜・瓦器碗、13世紀の土師器・瓦器碗がある。遺構ごとの詳細は一覧表にまとめた。以

下、主要な出土遺物について述べる。

SK09出土土器

甕（1）は復原口径29.0cmで、外面にミガキ調整を施す。直口鉢（3）は口径13.7cm、器高7.8cmで、口縁端部は外傾する面をなす。

壺は2個体分ある。胎土の特徴から同一個体と考える4・5は口縁部が緩やかに外反し、頸上部の外面に削り出し突帯があり、底はドーナツ状を呈する。6は体部片で中位に最大径をもつ。外面はミガキ調整で肩部に2条のヘラ描き直線文を施す。いずれも胎土は粗く、3mm以下の砂礫を多く含む。

各器種の形態的特徴から、大和第I-2-b様式¹⁾に位置づけられる。奈良市内で弥生時代前期の各器種が揃った一括資料は少なく、貴重な資料である。

SD101出土遺物（土器・石器）

土師器杯皿類は、内面に暗文を施すものはわずかで、多くが内面無文外面ケズリ調整（22）である。

須恵器は、底部ヘラ切り後にロクロケズリ調整を施す杯（11・13）は古相を示す可能性があるが、概して8世紀後半のものが多し。杯B（14）は、器壁が厚く、三角形の高台をもつ。包含層出土の美濃印がある杯B（15）も同様の特徴があり、いずれも岐阜県老洞朝倉須恵器窯跡産と推定される。他に火轆のある杯A（12）や、内面が平滑化した蓋の転用硯（9）があるほか、放射状のタタキ原体で成形された甕（18）がある。

また、縄文～弥生時代の磨製石器（24）が混入して出土した。形態的特徴から石刀の未成品の可能性があり。刀部にあたる部分の側面には磨いた痕跡が残り、柄頭部分にはスリット様の痕跡が確認できる²⁾。

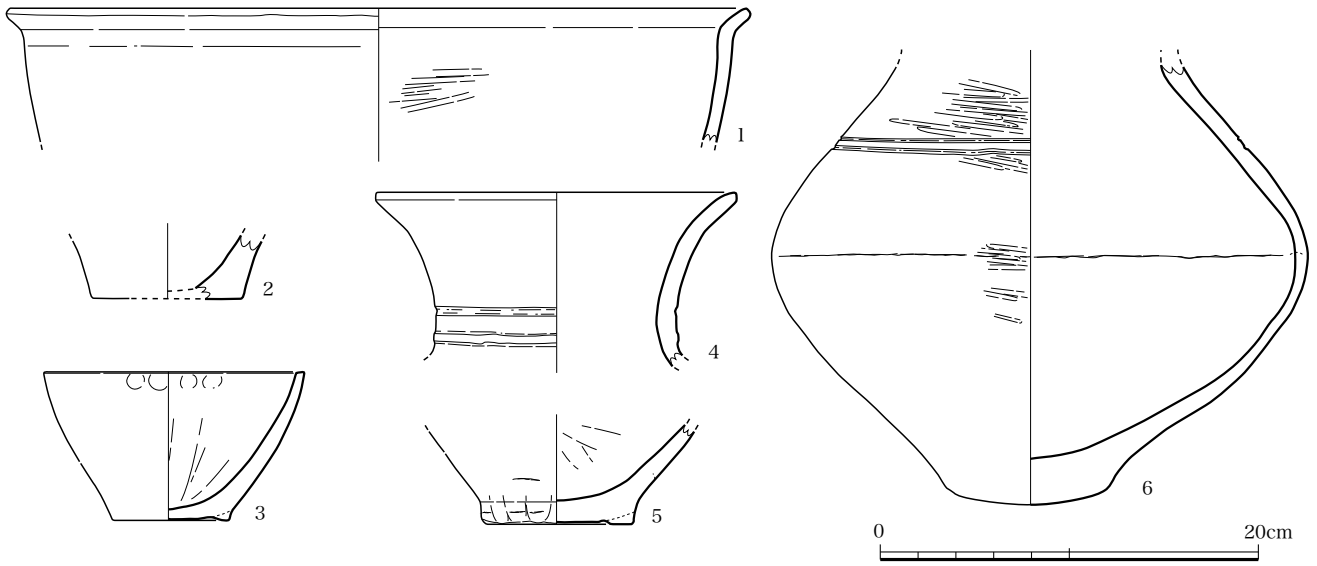
SE516出土土器

黒色土器A類（33・34・35）・B類（26・27）、瓦器碗（25・28～32）、土師器皿（36～42）、羽釜（43～47）がある。

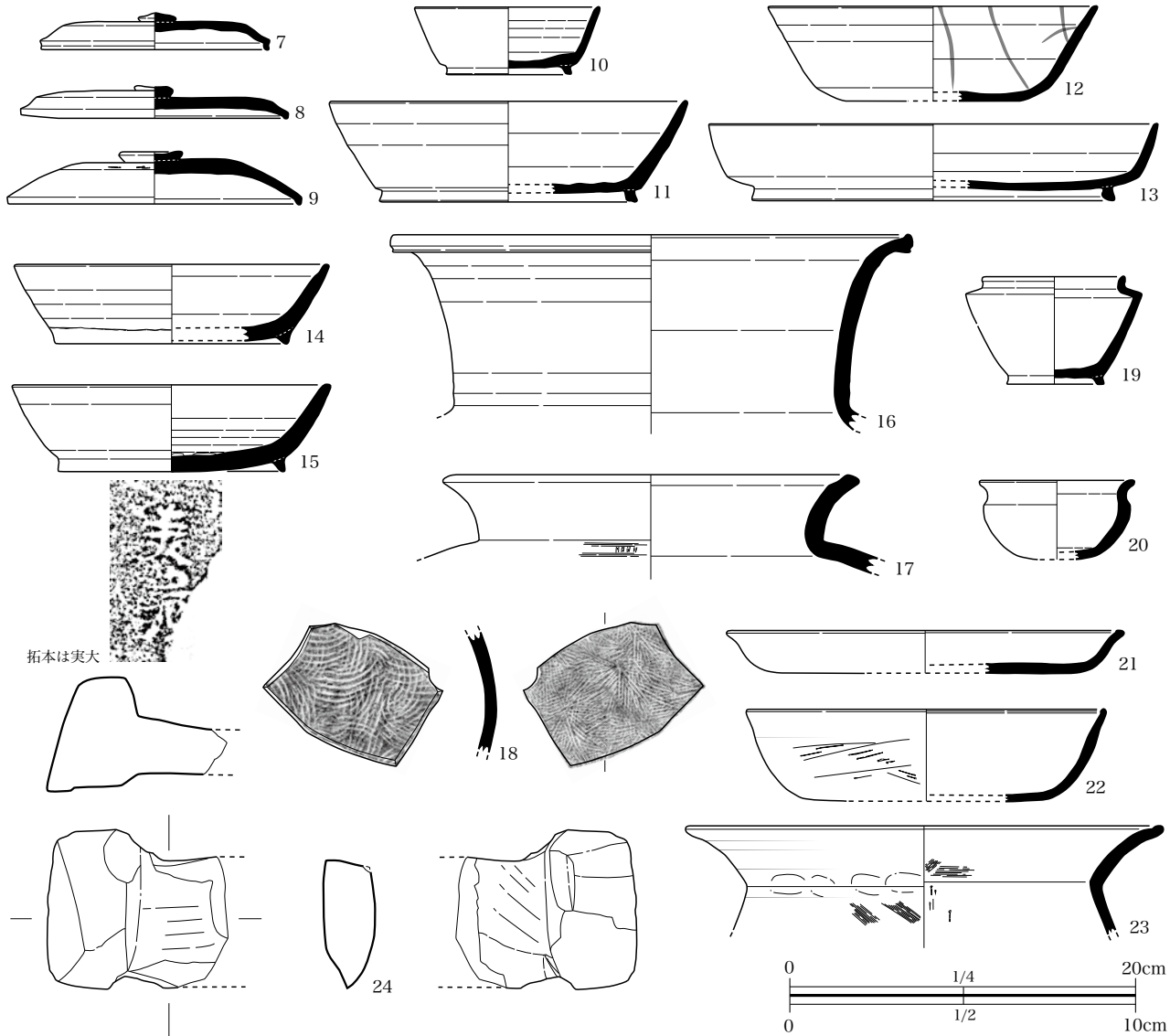
黒色土器A類は少ない。33は、暗文はないが底部内外面に線刻を施す。34は見込みに放射状暗文をもち外面下部にケズリ調整を施す。35は、口縁部を内外面ともにミガキ調整し、見込みにジグザグ状暗文を施す。

黒色土器B類もわずかである。26は外面を下部までミガキ調整し、内面に2次焼成痕跡がある。27は杯の形態を残す。摩耗し調整は不明瞭であるが、見込みには十字状暗文を施す。

主体を占めるのは瓦器碗で、いずれも外面を下半部までミガキ調整する。高台は突出するもの（25）、台形状の

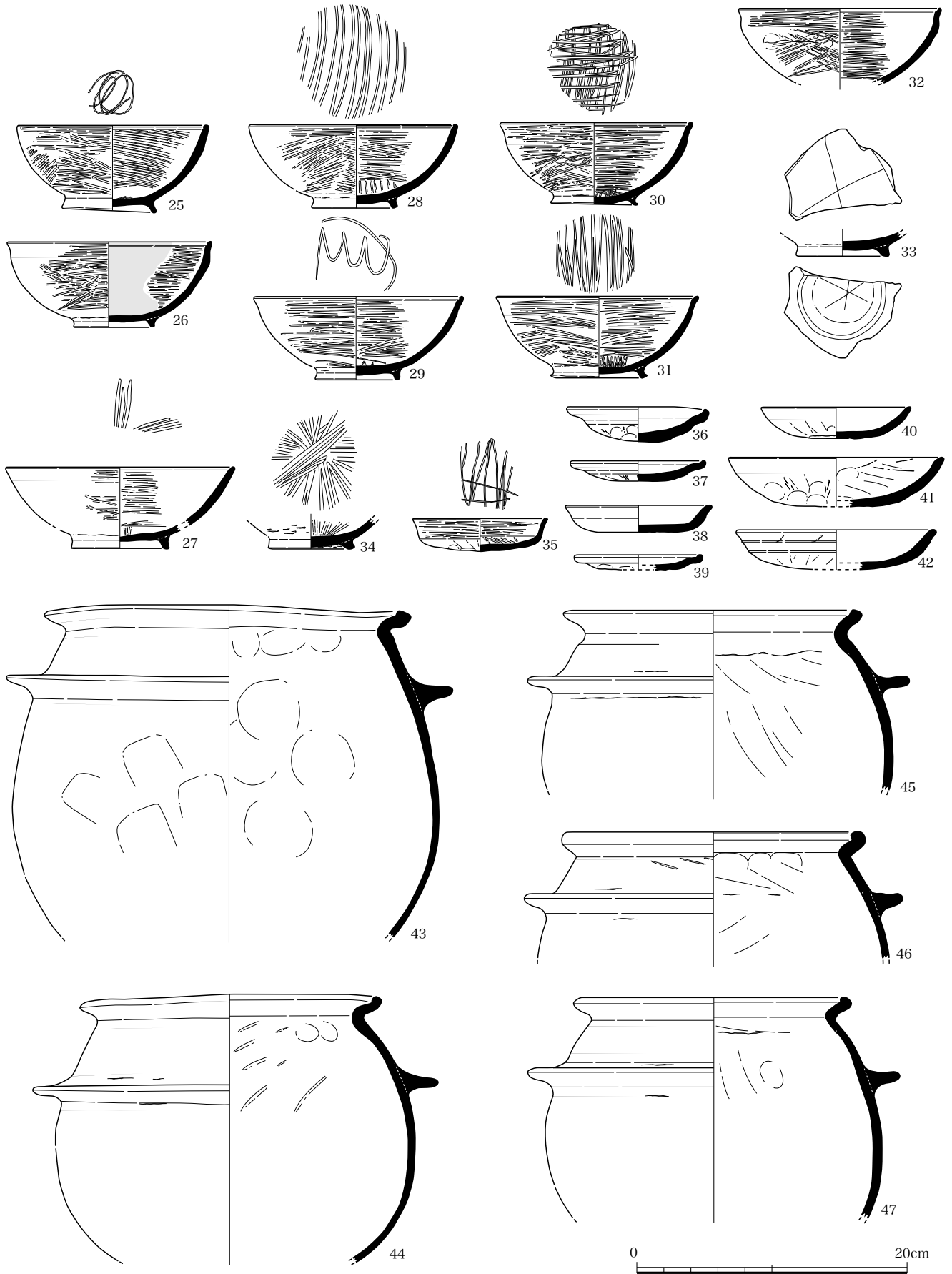


土坑 S K 09 出土土器 (1/4)



拓本は実大

一条南大路南側溝 S D 101 出土遺物 (15 は包含層出土、1/4、24 のみ 1/2)



井戸SE516 出土土器 (1/4)

もの(28・29)、外側に張りだすもの(30・31)があり、見込みの暗文は同心円状(25)、平行線状(28・31)、格子文状(30)、ジグザグ状(29)がある。32は前述のものに比べミガキ調整が粗く器壁も薄いので、時期が新しい可能性がある。なお、26の中に重なって25が出土した。

土師器皿は、ての字状口縁のもの(36・37)、平底で口縁端部がやや外反するもの(38)、コースター状のもの(39)、器高が高く杯形態のもの(40～42)がある。

羽釜は、いずれも大和B型³⁾で、頸部は47を除き緩やかに屈曲し、口縁端部は肥厚する。いずれも口縁部径より体部最大径が上回る。外面はタタキ調整と考えられ、46はその痕跡を残し、内面の当て具痕跡が残るもの(43・44・46)がある。

これらの土器の時期は、瓦器碗で外面のミガキ調整が下半部に達し、見込みの連結輪状文がない点、羽釜で頸部の屈曲が鋭いものが主体を占めない点、一定量のての字状口縁土師器皿がある点から、11世紀後半に位置づけることができる。

V 調査所見

本調査では、弥生～鎌倉時代までの遺構を確認した。

弥生時代

弥生時代前期後半の土坑S K09・10を検出した。近接する市H J第625次調査地で埋土に弥生前期の土器片を含む河川を確認していることをふまえれば、調査地一帯に弥生時代前期の遺跡の広がりが想定できる。

秋篠川右岸の沖積平野では、これまでに弥生時代前期の遺跡が菅原東遺跡⁴⁾(土坑)や平城宮跡馬寮地域⁵⁾(土坑・溝)で確認されていたが、広がりが不明瞭であった。最近、調査地の約3km南東の三条大路一丁目で大規模な水田跡が確認され⁶⁾、沖積平野を広く土地利用している可能性が高まっている。本調査で確認した遺構もこれを補強する資料であろう。

また、S K09からは土器がまとまって出土したが、大和北部の器種が揃う良好な一括資料である。

奈良～平安時代

一条南大路とその南北両側溝を検出した。溝心々間の距離は24.52mで、東方約400mで平成26・27年度に奈良文化財研究所が調査を実施した一条南大路の成果⁷⁾(溝心々間24.9m)とほぼ一致することから、右京一・二坊では溝心々間を70大尺で施工されたことがわかった。

また、本調査では北側溝S D101の底面が西から東へ低くなっていることがわかった。西隣接地の市H J第578・587次調査では東から西へ低くなっており、本調

査地内のY = -19,842付近が坪内の東西2分割線に位置することから、底面は坪の中心から東西両方向へ低くなり、二方向へ排水していた可能性がある。

B発掘区内では地山上面が北から南へ低くなっていることに伴い、土器の混じる粘質土で整地を行い、その後一条南大路南側溝S D102が掘削され、十六坪内が宅地として利用されていることを確認した。

一条南大路沿いの遮蔽施設については、塀とみられる掘立柱列がみられないことや、両側溝S D101・102から一定数の瓦が出土することから、築地と考えられる。また、北側溝S D101の北側に沿う溝S D105は、S D101と同様に一定数の瓦が出土する点も考慮すれば、築地の雨落ち溝とみて差し支えない。溝S D105の埋没後に井戸S E513が掘削されており、8世紀後半～9世紀の土器が出土したことから、奈良時代末～平安時代初頭に築地が取り壊されるが、その後も宅地利用が継続したことが推察できる。

平安～鎌倉時代

井戸S E516からは、11世紀後半の土器類が出土した。市内で同時期の一括資料が出土した遺構は、左京六条三坊十三坪(市H J第56次調査)の井戸S E14・土坑S K22⁸⁾、左京四条六坊八坪(市H J第490次調査)の土坑S K07⁹⁾等があるがきわめて少ない。この時期に瓦器生産が始まったと想定されており、同時期の遺構には黒色土器と瓦器を共伴する事例が散見され、井戸S E516の出土土器類もその一例として重要である。

一条南大路は井戸S E516がその北側溝上に位置することから、平安時代後半には側溝としての機能が完全に失われている。しかし、13世紀の瓦器片などを含む溝S D114・115がS D105に平行して掘削され、同時期の瓦器片が出土する柱穴も散在することから、平城京の地割を利用して土地利用を行っていた可能性がある。(村瀬 陸)

- 1) 奈良県立橿原考古学研究所『奈良県の弥生土器集成』2003
- 2) 上峯篤史氏(京都大学白眉センター特定助教)のご教示を得た。
- 3) 菅原正明「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所 1982
- 4) 奈良市教育委員会「平城京右京三条二坊十五坪の調査 第200、213-1・2・3次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成2年度』1991
- 5) 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告XII』1985
- 6) 奈良県立橿原考古学研究所「平城京左京三条二坊十四坪 現地説明会資料」2016
- 7) 奈良文化財研究所「右京一条二坊四坪・二条二坊一坪・一条南大路・西一坊大路の調査 第530次・第546次・第560次」『奈良文化財研究所紀要2016』2016
- 8) 奈良市教育委員会「平城京左京六条三坊十三坪の調査」『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和58年度』1984
- 9) 奈良市教育委員会「平城京跡(左京四条六坊八坪)・奈良町遺跡の調査」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成15年度』2006

4. 平城京跡（右京四条一坊十五坪）の調査 第 684 次

事業名 仮称都跡地域ふれあい会館整備事業
 通知者名 奈良市長
 調査地 四条大路五丁目131-2、140

調査期間 平成27年1月13日～2月6日
 調査面積 210.8㎡
 調査担当者 加藤梨津子

I はじめに

調査地は、平城京の条坊復原によれば平城京右京四条一坊十五坪の北西部にあたる。

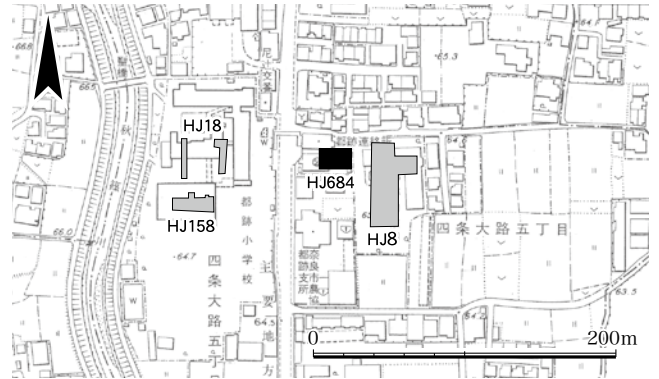
十五坪内では、北東部で昭和55年度に市H J 第8次調査が実施されている。周辺の調査は、十六坪の南西隅及び西一坊大路と十五・十六坪の坪境小路交差点推定地で平成2年に市H J 第214次調査を、西一坊大路を挟んだ西隣の右京四条二坊二坪は、北東部を昭和56年にH J 第18次調査を、昭和63年に市H J 第158次調査が実施されている。これらの調査で、室町時代の粘土採掘土坑によって、奈良時代の遺構のほとんどは破壊されていることがわかっている。また、本調査地を含む西の京地域で検出される粘土採掘土坑は、興福寺赤土器座・白土器座、火鉢座などが14・15世紀ごろに行った粘土採掘との関連が指摘されている。

本調査は、平城京の宅地の利用状況の把握を目的として実施した。

II 基本層序

造成土・攪乱土（厚さ0.4m）、旧耕土・床土（同0.3m）、遺物包含層（同0.1m）と続き、現地表から0.8mで黄褐色粘土の地山上面となる。その標高は概ね62.9mである。遺構検出はこの地山上面で行った。

発掘区の中央で北西から南東に流れる河川1条を検出した。長さ8.0m、幅1.6m、深さ0.6m。埋土は灰色粗砂で、遺物は出土しなかった。位置関係から、隣接する



H J 第 684 次調査 発掘区位置図 (1/5,000)

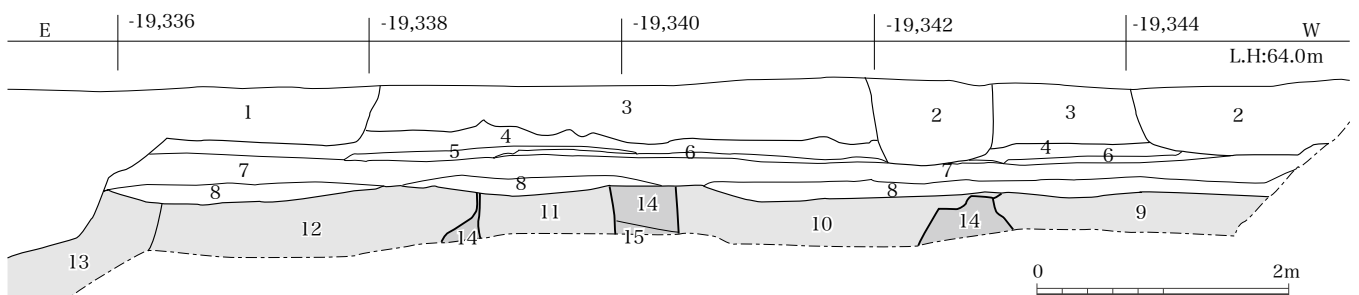
H J 第8次調査で検出した河川S D 05¹⁾と繋がる可能性がある。

III 検出遺構

発掘区の東側、北西隅が大きく攪乱されており、遺構の残存状態は悪かった。検出した遺構には室町時代の土坑がある。

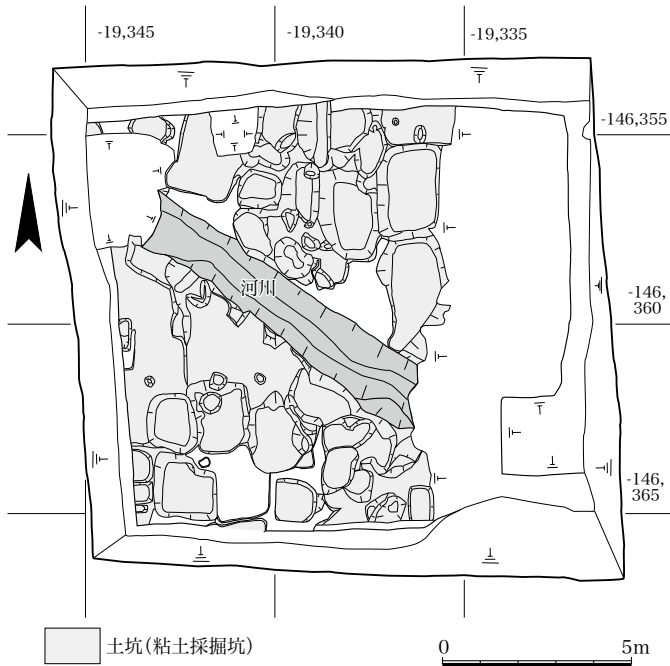
土坑は、発掘区全体で検出した。ほとんどの土坑が重複して掘られており、掘方がわかるものは一辺1.0m～1.5mの平面隅丸方形か不整形な形をしている。深さは0.5m程度で、埋土は概ね地山ブロックと暗褐色粘質土の混合土である。重複関係から河川よりも新しい。13世紀末から14世紀初頭の瓦器とともに、8世紀中ごろの土師器・須恵器が出土した。

土坑は、黄褐色粘土の地山からその下の灰色粘土を掘りぬぎ、その下の少し砂の混じる淡灰色粘質土層で掘削

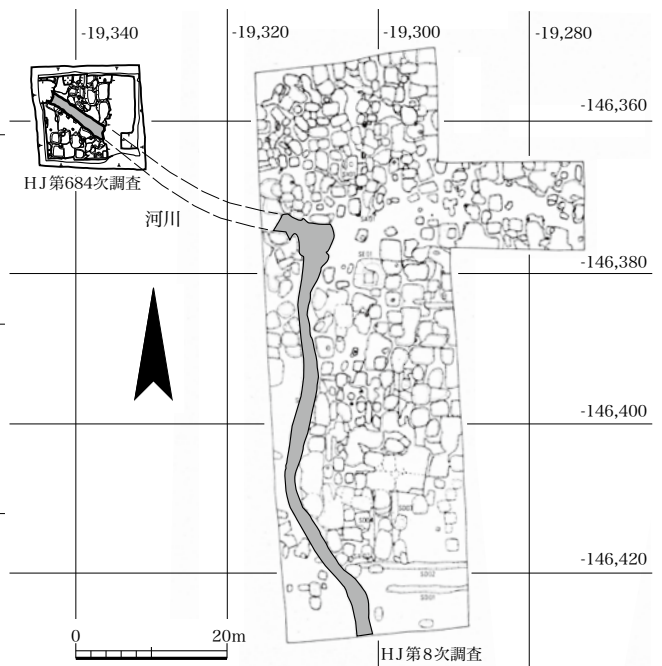


- | | | | |
|------------------------------------|-----------|---------------------------|----------|
| 1 灰色砂土
(コンクリート・アスファルト含む) | 4 濃灰色粘質土 | 9 暗褐色粘質土と14・15(地山)ブロック混合土 | 14 黄褐色粘土 |
| 2 黄褐色砂土 | 5 灰色砂質土 | 10 同上、9より色調が暗い | 15 灰色粘土 |
| 3 茶色砂質土と茶色粘質土の混合土
(1～3:造成土、攪乱土) | 6 黄色粘砂質土 | 11 同上、9より15(地山)ブロック少ない | |
| | 7 淡灰色粘質土 | 12 同上 9より14(地山)ブロック少ない | |
| | 8 明茶褐色粘質土 | 13 灰褐色粘質土 | |
- (1～3:造成土・攪乱土 8:遺物包含層
 4:旧水田耕土 9～13:土坑埋土
 5～7:旧水田床土 14・15:地山)

H J 第 684 次調査 発掘区南壁土層断面図 (1 / 60)



H J 第 684 次調査 発掘区平面図 (1/200)



H J 第 8 ・ 684 次調査 位置関係 (1/1,000)

をやめている。ほとんど垂直に掘り込まれているが、若干横に掘り込むものもある。また、河川を避けるように掘られていることから、粘土採掘土坑と考えられる。

IV 出土遺物

遺物整理箱で約7箱分ある。土器は8世紀中ごろの土師器・須恵器、13世紀末から14世紀初頭の土師器・瓦器があり、瓦は丸瓦・平瓦がある。

V 調査所見

周辺の調査同様、13世紀末から14世紀初頭の粘土採掘坑を検出した。粘土採掘土坑から8世紀中ごろの遺物も出土したことから、奈良時代の遺構は粘土採掘土坑によって破壊された可能性がある。(加藤梨津子)

1) 奈良市教育委員会「平城京右京四条一坊十五坪」『奈良市埋蔵文化財調査報告 昭和55年度』1981



H J 第 684 次調査 発掘区南壁土層断面 (北から)



H J 第 684 次調査 発掘区遠景 (北西から)



H J 第 684 次調査 発掘区全景 (南から)

5. 平城京跡（右京四条四坊五坪・四条大路）の調査 第685次

事業名	宅地造成	調査期間	平成27年1月13日～1月29日
届出者名	ウィルエステート株式会社	調査面積	135㎡
調査地	平松四丁目483番他	調査担当者	鐘方正樹・村瀬 陸

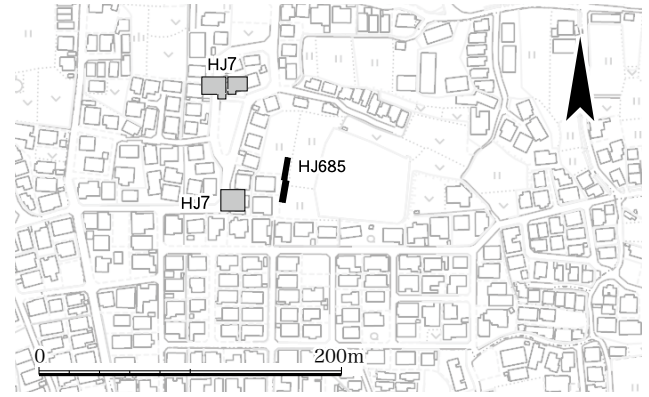
I はじめに

調査地は、平城京の条坊復原では右京四条四坊五坪にあたり、南側に四条大路が推定される。現況は西から東へ下がる地形を改変した水田で、東には溜池が隣接する。北側には低い丘陵が東西にのびており、浅い谷となっている。昭和55年度に、同じ坪内で市H J第7次調査1)を実施し、奈良時代の掘立柱建物、五坪と十二坪を画する坊間路や四条大路北側溝を検出した。

本調査は、四条大路の確認と五坪内の宅地利用の様相把握を目的に実施した。

II 基本層序

発掘区内の層序は南北で異なる。発掘区南寄りでは造成土の下に、暗褐色土（厚さ約0.1m）、オリーブ褐色土（約0.1m）、黒褐色土（約0.2m）、黄褐色土（約0.2m）、灰色土・黄褐色土混合土（約0.2m）と続き、現地地表下約0.8mで地山となる。北寄りでは、造成土の下に、黒褐色土（厚さ約0.2m）、灰色土（約0.1m）、橙色土ブロックを含む灰色土（約0.1m）、褐色土（約0.1m）、灰褐色土（約0.1m）、灰色土ブロックを含む褐色土（約0.2m）、灰褐色土（約0.2m）、黄褐色土（約0.1m）と続き、奈良時代の整地土層（約0.5m）をはさんで現地地表下約2.3mで地山となる。地山は南から北へ低くなり、標高は南側で79.1m、北側で78.1mである。発掘区東辺では、現代の水田造成に伴い地山が削られていた。



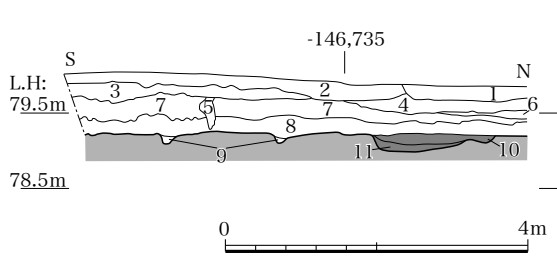
H J 第685次調査 発掘区位置図 (1/5,000)

III 検出遺構

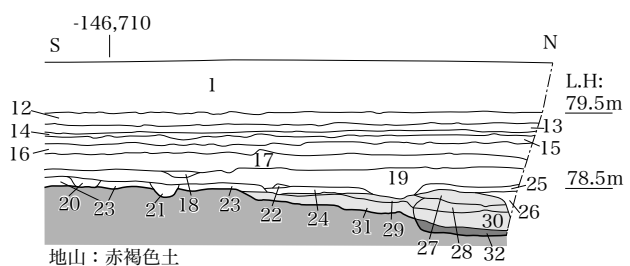
地山上面で奈良時代の溝SD01（四条大路北側溝）・04、掘立柱列SA02、土坑SK03を検出した。

SD01（四条大路北側溝） 発掘区南側で検出した東西方向の溝で、長さ3m以上、幅1.7m、深さ0.1m。溝心の座標値はV節の一覧表に記した。市H J第7次調査で検出した四条大路北側溝の溝心とほぼ一致し、かつV節で後述するように左京域で確認した溝心とも振れを考慮した上で合致することから、四条大路北側溝と判断できる。

SA02 SD01の北側で約3m隔てて平行する。3つの柱穴を検出し、柱間は1.5m等間である。検出した中央の柱穴は1.1×0.8m、深さ0.9mで、東西の柱穴に比べて規模が大きい。四条大路に面して平行することか

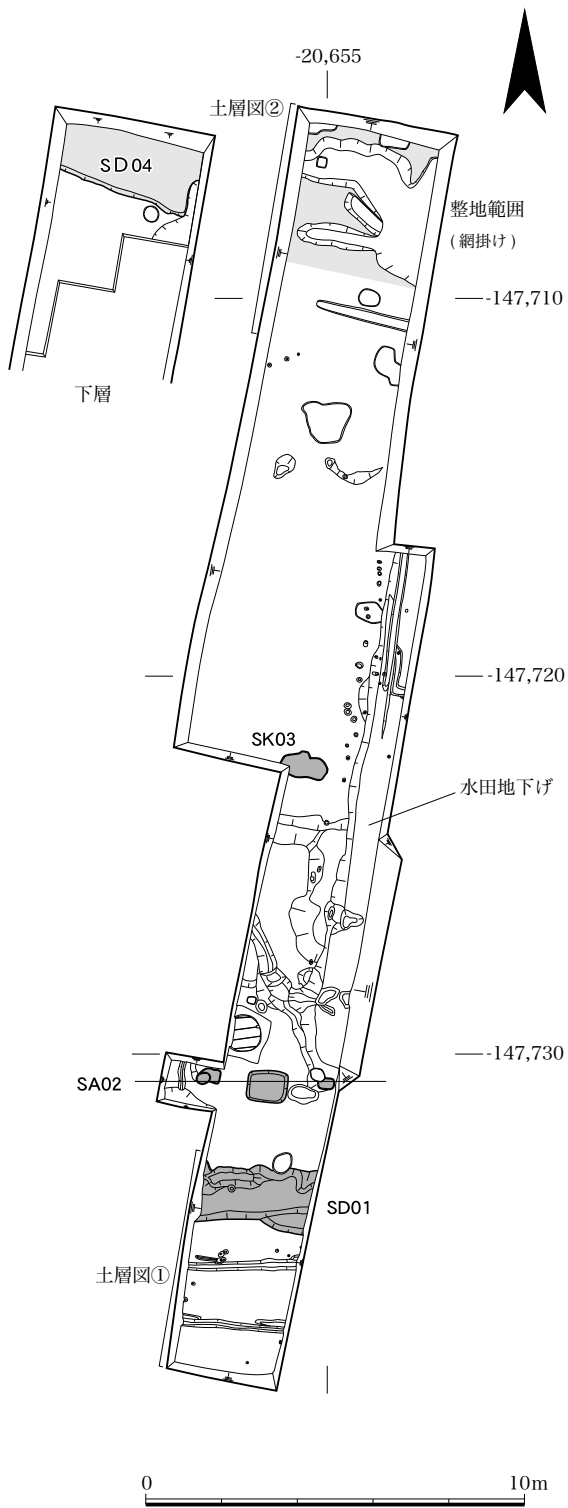


- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 造成土 | 12. 黒褐色土 |
| 2. 暗褐色土 | 13. 灰色土 |
| 3. オリーブ褐色土、黄褐色ブロック含む | 14. 灰色土、橙色ブロック含む |
| 4. 黒褐色土 | 15. 褐色土 |
| 5. 灰色土、根攪乱 | 16. 灰褐色土 |
| 6. 灰色土 | 17. 褐色土、灰色ブロック含む |
| 7. 黄褐色土 | 18. 褐色土 |
| 8. 灰色土・黄褐色土混合土 | 19. 灰褐色土 |
| 9. 灰褐色土 | 20. 褐色土 |
| 10. 黄褐色土(SD01上層) | 21. 褐色土 |
| 11. 褐色土(SD01下層) | 22. 黄褐色土 |



- | | |
|-------------------------|-------|
| 23. 黄褐色土・赤褐色土混合土 | } 整地土 |
| 24. 黄褐色土 | |
| 25. 黄褐色土 | |
| 26. 暗褐色土、灰色砂土+黄灰色ブロック含む | |
| 27. 黄褐色土、礫含む | |
| 28. 暗褐色土・灰色土混合土 | |
| 29. 黄褐色土・暗褐色土混合土 | |
| 30. 黄褐色土・暗褐色土混合土 | |
| 31. 灰褐色土 | |
| 32. 灰色シルト(SD04) | |

H J 第685次調査 発掘区西壁土層断面図 (1/100)



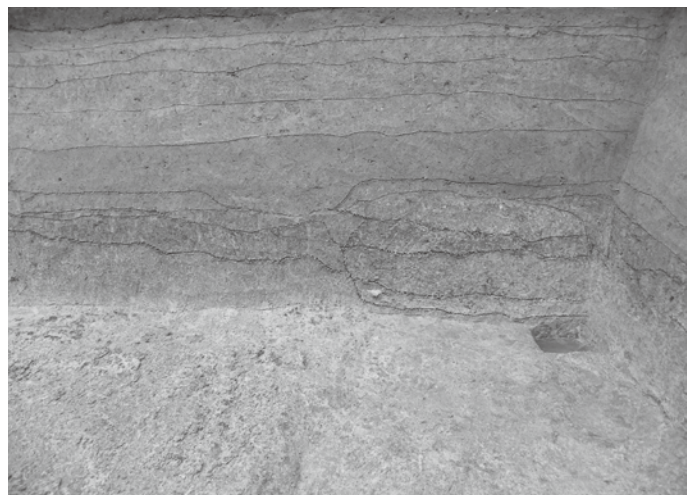
H J 第 685 次調査 遺構平面図 (1/200)



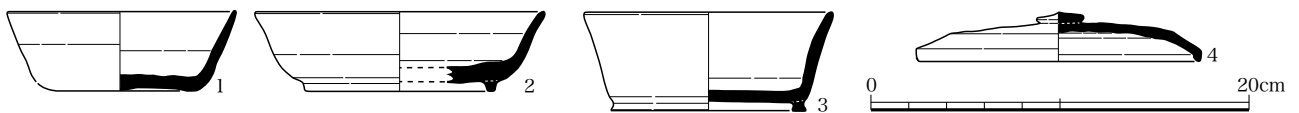
溝SD01・堀SA02 (北東から)



土坑SK03 (北東から)



西壁 整地土層 (東から)



溝SD04 出土土器 (1/4)

ら、五坪の南を限る塀と考えられる。

SK03 東西1.25m、南北0.8m、深さ0.15mの平面不整形の土坑である。

SD04 長さ3.6m以上、幅1.6m以上、深さ0.1mの東西溝で、発掘区北端において整地土の下で確認した。8世紀中頃の土器片が出土した。

IV 出土遺物

遺物整理箱で2箱分がある。SD01からは8世紀の土師器碎片、須恵器杯・甕が出土した。SK03からは8世紀の土師器甕、須恵器杯・甕が出土した。整地土下層のSD04からは外面をナデ調整後にミガキを施す土師器杯皿類小片、須恵器杯A(1)・杯B(2・3)・杯蓋(4)・甕が出土した。特徴から8世紀中頃に位置づけられる。

V 調査所見

今回の調査では、市HJ第7次調査で確認された四條大路北側溝の東延長部分を検出した。

四條大路北側溝は、約4km東方の左京四條四坊付近でも確認されている。右上の一覧表の座標値から求められる県007126調査地(三條本町)²⁾と今回の調査地との溝心の振れは、W0°09'50"Sで、東西大路の振れの平均値W0°09'16"S³⁾とほぼ一致する。このことは、右京城における四條大路の施工が計画的で、左京城と同時に行

四條大路北側溝の溝心の座標値

調査地	条坊の位置	X座標	Y座標	
市HJ 685	平松町	右京四條四坊五坪	-146,733.70	-20,657.00
市HJ 7	平松町	右京四條四坊五坪	-146,734.02	-20,711.65
県007126	三條本町	左京四條四坊十三坪	-146,722.66	-16,796.00

われた可能性が高いことを示す。

また、右京四條四坊五坪内の宅地利用については、建物を検出しなかったため詳細は不明であるが、宅地化の変遷に関する手がかりを得た。調査地付近は、発掘区南寄りに比べて北寄りが浅い谷となり、約1m低くなっていることから、本来は宅地利用に不向きな地形であったことがわかった。この場所に掘削された溝SD04が8世紀中頃の特徴を持つ土器片を含む厚さ0.4m以上の整地土で埋められることから、奈良時代後半に高低差を小さくし、宅地化を図ったことが推察できる。(村瀬 陸)

- 1) 奈良市教育委員会「平城京右京四條四坊五坪 発掘調査報告」『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和55年度』1981
- 2) 奈良県立橿原考古学研究所『平城京左京四・五條四坊、五條五坊』奈良県文化財調査報告書 第153集 2012
- 3) 武田和哉「平城京跡発掘調査の成果と条坊制研究の課題」『条里制古代都市研究』第18号 条里制古代都市研究会 2002



HJ第685次調査 発掘区全景(南から)

6. 平城京跡（右京二条二坊十三坪）の調査 第 686 次

事業名	宅地造成	調査期間	平成27年2月2日～2月6日
届出者名	株式会社 吉川商事	調査面積	100㎡
調査地	西大寺国見町二丁目296番84他	調査担当者	鐘方正樹・村瀬 陸

I はじめに

調査地は、平城京の条坊復原では右京二条二坊十三坪の中央西寄りに相当する。周辺は早くに宅地化されたため、十三坪内の発掘調査は今回が初めてである。ただし、調査地の西側一帯で行われた区画整理事業に伴う右京二条三坊の発掘調査では、平城京の遺構が良好に残っていることが確認されており、ここでも同様であることが推測できた。そこで、事業地内中央に東から取り付く道路の西部分において発掘調査を実施した。

II 基本層序

発掘区内の層序は、造成土（厚さ0.5m）の下に旧耕土（0.25m）、灰色土（0.05m）、黄褐色土（0.1m）、褐色土（0.1m）と続き、現地表下約1.0mで灰黄色粘土・シルトの地山となる。旧耕土には葦類の根が密に残り、その繁茂した様子がうかがえた。遺構検出は地山上面（標高：70.9m）で行った。

III 検出遺構

古墳時代前期の土坑 1 基と奈良時代の掘立柱建物 3 棟・土坑がある。概要は下記及び一覧表の通り。

古墳時代の遺構

SK01 径0.8m・深さ0.55mで、建物S B03の北妻柱穴と重複する。埋土は黒褐色土で、土師器壺の体部 1 点が出土した。

奈良時代の遺構

SB01～03 いずれも南北棟建物で、発掘区外へ続くため全体の規模は不明である。

SB01とSB02はほぼ同じ場所に重複するので、建て替えが行われた可能性が考えられるが、両建物の新古関係はわからない。SB03は比較的規模が大きく、柱はすべて抜き取られている。調査範囲内のSB03南西に位置する柱穴の掘方底部には花崗岩の礎石があり、柱抜き穴から6316Dc型式の軒丸瓦 1 点が出土した。

SK02 SB01の西辺に位置する南北方向の土坑で、発掘区外北へ続く。長さ1.2m以上・幅0.7m・深さ0.4mである。埋土から奈良時代の須恵器甕、土師器甕・杯あるいは皿が出土した。

IV 出土遺物

遺物整理箱で 2 箱分の遺物が出土した。内訳は、古墳



H J 第 686 次調査 発掘区位置図 (1/5,000)



H J 第 686 次調査 発掘区全景（北東から）

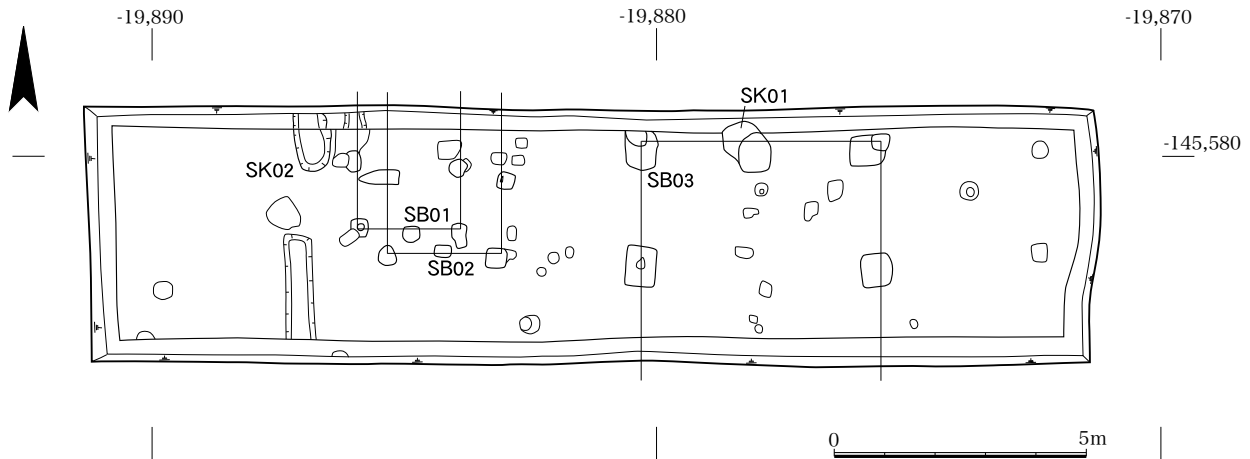
時代前期の土師器壺、8世紀の土師器・須恵器・製塩土器・瓦である。瓦には、丸瓦・平瓦と軒丸瓦6316Dc型式 1 点がある。

V 調査所見

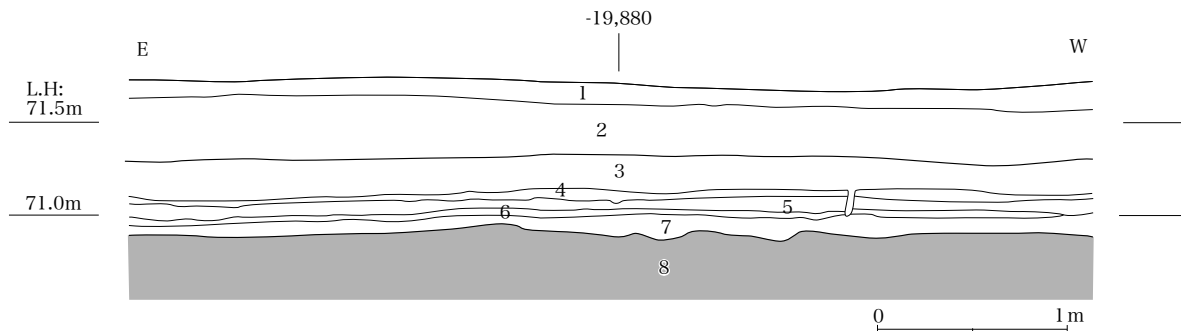
平城京右京二条二坊十三坪内を初めて発掘調査し、良好に遺構が残っているのを確認した。掘立柱建物 3 棟があり、SB01・02の 2 棟はほぼ同じ場所で建て替えられている。規模の大きなSB03は、柱抜き穴から出土し

た軒丸瓦の型式から奈良時代末頃に解体された可能性が想定できるので、奈良時代後半の建物だろう。十三坪内においても、何度かの宅地利用の変遷があったことを推察させる。

また、古墳時代前期の土坑が分布することを確認できた点は、菅原東遺跡北端付近の様相を知り得る資料として注目できよう。（鐘方正樹）



H J 第686次調査 発掘区平面図 (1/150)



1. 黄色土 (造成土) 2. 暗青灰色土 (造成土) 3. 黒褐色土 (旧水田耕土) 4. 灰色土 (旧水田耕土)
 5. 黄褐色土 (灰色土ブロック含む) 6. 黄褐色土 7. 褐色土 (黄褐色土ブロック含む) 8. 灰褐色粘土・シルト (地山)

H J 第686次調査 発掘区南壁土層断面図 (1/40)

遺構一覧表

遺構番号	棟方向	規模 (間) 桁行×梁行	桁行全長 (m)	梁行全長 (m)	柱間寸法 (m)		柱穴の深さ (m)	備考
					桁行	梁行		
S B 01	南北	1 以上×2	1.35 以上	2.0	1.35	1.0 等間	0.1 ~ 0.2	
S B 02	南北	1 以上×2	1.6 以上	2.3	1.6	1.15 等間	0.2 ~ 0.3	
S B 03	南北	1 以上×2	2.4 以上	4.8	2.4	2.4 等間	0.4 ~ 0.6	柱抜取り穴から軒丸瓦 6316 D 1 点出土
遺構番号	方向・形状	平面規模 (m)		深さ (m)	時期	主要出土遺物	備考	
S K 01	不正円形	径 0.8		0.55	4 世紀	土師器壺		
S K 02	楕円形	南北 1.2 以上×東西 0.7		0.4	8 世紀	須恵器・土師器	発掘区外北に続く	

7. 平城京跡（左京四条五坊九坪）・奈良町遺跡の調査 第 687 次

事業名	店舗及び共同住宅新築	調査期間	平成27年3月2日～3月5日
届出者名	株式会社 車屋	調査面積	35.2㎡
調査地	三条町511番の1の一部	調査担当者	鐘方正樹・加藤梨津子

I はじめに

調査地は、平城京の条坊復原によれば左京四条五坊九坪の西南隅及び東五坊坊間路と四条条間北小路の交差点付近に相当する。また、江戸時代の奈良町の西端部にあたる。地形的には台地の南側に接する沖積平野で、北から南に緩やかに下る。

九坪内での調査は今回が初めてである。周辺では、隣接する八坪内で市HJ第71・377-5・462-1～3・477-2次の各調査が実施されているが、いずれも奈良時代の条坊や宅地に関連する遺構は見つかっていない。

東五坊坊間路は、これまでに左京五条五坊にあたる西木辻町内で実施した市HJ第9・17・313・615次調査¹⁾と県011022調査（平成13年度）²⁾、同三条五坊にあたる大宮・芝辻町内で実施した県999134調査（平成11年度）³⁾で東西両側溝と路面が検出されている。

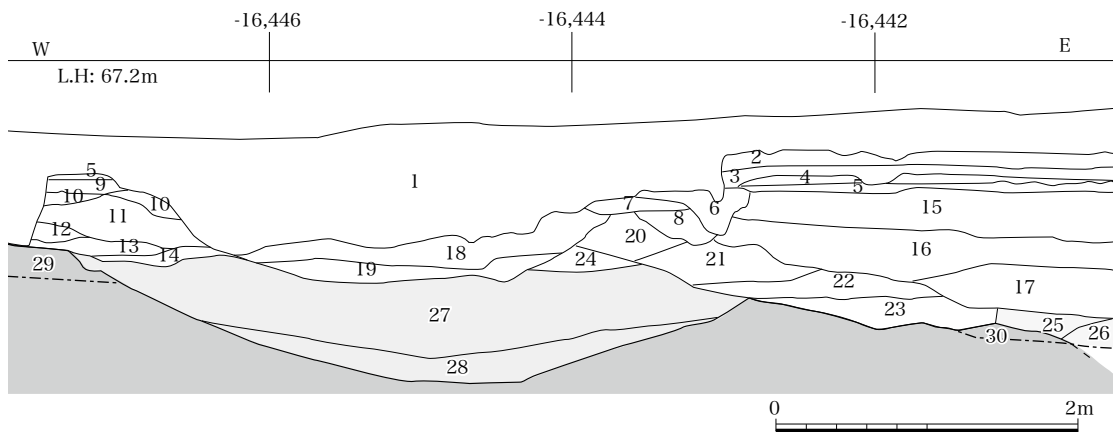
本調査は、奈良時代の九坪の南西隅及び条坊道路と江戸時代の町場の様相の確認を主な目的として実施した。



H J 第 687 次調査 発掘区位置図 (1/5,000)

II 基本層序

造成土、黒色粘質土、灰色・褐色粘砂質土混合土、青灰色粘質土、旧耕土の下に15・16世紀頃に造られた溝の埋土があり、その下が発掘区西端では青灰色粘質シルトの地山、その東では後述する奈良時代の溝 S D01や平安時代の河川の埋土となる。地山上面は現地地表下0.9mで、その標高は66.4mである。



- | | | |
|----------------------------------|---------------------|---------------------------------------|
| 1 クラッシャーと濁暗灰色粘質土(造成土) | 11 黄灰色粘砂質土 | 21 青茶灰色粘質土と灰色細かい砂混合 |
| 2 黒色粘質土 | 12 黄褐色土 | 22 暗灰色細砂に青灰色シルトブロック含む
(4cm大礫・木片含む) |
| 3 灰色粘砂質土と褐色粘砂質土の混合土
(3cm大礫含む) | 13 灰色粘土・細砂 | 23 淡灰色細砂(木片含む) |
| 4 青灰褐色粘質土 | 14 灰色細砂と淡灰色砂混合 | 24 黄灰色粗砂 |
| 5 濃灰色粘土(旧耕土) | 15 濃灰色粘砂質土(2cm大礫含む) | 25 灰色粗砂(河川埋土) |
| 6 青灰色粘質土 | 16 濃明灰色粘土 | 26 黒灰色細砂(5cm大礫含む)(河川埋土) |
| 7 茶灰色粘砂質土(2cm大礫含む) | 17 青灰色砂質土 | 27 淡灰色粗砂(2cm大礫含む)(S D01埋土) |
| 8 暗青灰色粘砂質土 | 18 濃明灰色粘砂質土 | 28 淡灰色細砂(S D01埋土) |
| 9 淡灰色土 | 19 濃灰色シルト | 29 青灰色粘質シルト(地山) |
| 10 茶灰色粘質土 | 20 青灰色細砂 | 30 青灰色砂礫・黄灰色粘土(地山) |

H J 第 687 次調査 発掘区北壁土層断面図 (1/50)

III 検出遺構

奈良時代の溝 S D01、平安時代の河川と平安時代以降の木杭列 S A02を検出した。

S D01 発掘区の西寄りで検出した南北方向の溝で、地山上面から掘削されており、北から南に流れる。長さ4.3m以上、幅4.0m、深さ0.65m。方眼方位北に対し東へ若干振れる。埋土は上から淡灰色粗砂・灰色細砂である。8世紀の土師器壺Bや土製品が出土した。溝心の座標値は $X = -146,326.000$ 、 $Y = -16,445.015$ である。

河川 南北方向の河川で、発掘区の東端で西肩付近を確認した。長さ1.3m以上、幅1.2m以上、深さ0.15m以上。地形的にみて北から南に流れている可能性が高い。埋土は上から灰色粗砂・黒灰色粗砂である。饒益神宝が出土したことから、初鑄の859（貞観元）年以降に埋没したと考えられる。

S A02 東西方向の木杭列。長さ5.8m以上で、方眼方位東で北に振れる。杭は、樹皮をむいて先端を円錐状に削り尖らせていた。溝 S D01及び河川の埋土の上から打ち込まれていることから、9世紀以降に打ち込まれたものと考えられる。

なお、四条坊間北小路北側溝と推定される東西溝や江戸時代の町場に関連する遺構はなかった。

IV 出土遺物

遺物整理箱で約4箱分ある。主なものは、8～9世紀の土師器・須恵器、土製品、丸・平瓦、銭貨（饒益神宝）と17世紀以降の国産陶器・土師器・瓦質土器である。

溝 S D01から出土した8世紀の土師器壺Bには、人面の墨書がなされたものが12点ある。土製品には土馬・ミニチュア炊飯具がある。

V 調査所見

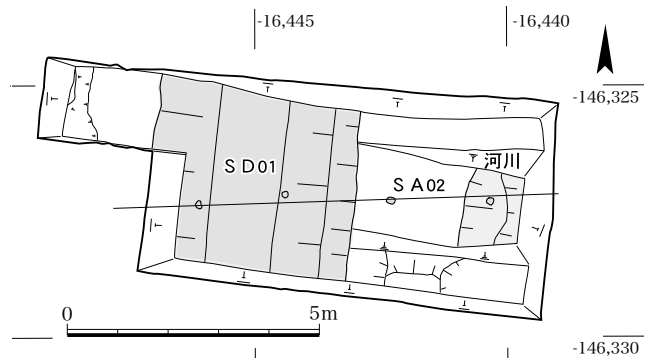
今回の調査で検出した溝 S D01の溝心の位置は、既往の調査成果から求めた東五坊坊間路の道路心の推定位置（ $X = -146,326.000$ 、 $Y = -16,452.746$ ）⁴⁾の約8m東である。これまでの調査で確認された東五坊坊間路の両側溝の心々間距離が8.4～9.5m（25大尺）であることを踏まえれば、溝 S D01を東五坊坊間路東側溝と考えることはできず、その性格は今後の検討課題である。

溝 S D01から出土した8世紀の土師器壺Bは水辺の祭祀用と考えられるため、周辺で祭祀が行われたとみられる。
（加藤梨津子）

1) H J 第9次調査：市概報(1982)、同第16次調査：市概報 S 56、同第313次：市概報 H 6、同第615次：市年報 H 20

2)・3) 奈良県立橿原考古学研究所『平城京左京二・三・五坊五坊』奈良県文化財報告書第160集 2013

4) 東五坊坊間路の振れは $N 0^{\circ} 30' 38'' W$ （奈良県立橿原考古学研究所2000「平城京 1999年度発掘調査概報 I. 左京三条五坊六坪の調査」『奈良県遺跡調査概要報（第一分冊）1999年度』）を使用した



H J 第687次調査 遺構平面図 (1/150)



発掘区全景（北西から）



発掘区西端（拡張部分、南西から）

(1) 賤院推定地の調査 第135次

I はじめに

調査地は、平城京の条坊復原では左京六条四坊十一坪の北東隅で、大安寺旧境内の伽藍復原では賤院推定地東端のほぼ中央に位置する。

周辺では、調査地北側で、県75-4次調査・市DA第25・40次調査が実施され、このうち市DA第40次調査¹⁾では東四坊坊間東小路の西側溝を確認している。また、調査地の約20m南方で実施した市DA第61次調査²⁾では粘土採掘坑を検出している。調査地の西方では市DA第49次調査³⁾が実施され奈良時代の井戸と土坑を検出している。

今回の調査は、大安寺に関連する遺構の確認を主な目的とした。

II 基本層序

発掘区内の層序は、黄褐色砂礫土（1層）、濁暗褐色土（2層）、暗灰色粘土（3層）、淡灰色粘砂（4層）、濃灰色粘砂質土（5層）、淡灰褐色粘砂質土（6層）と続き、現地表下約1.3mで淡黄灰色粘土（7層）の地山上面にいたる。

1～4層は現代の層で、1層は旧建物解体後の造成土、2層は旧建物建設時の造成土で、3～4層は池の埋土である。この池は、周辺住民によると、昭和40年代に作られた旧建物建設の前に存在していた溜池で、南側に広がっていたという。5層は水田床土で発掘区全体に広がっており、3・4層に削られているところ以外では、5層の上に水田耕土が残存していた。そのため、溜池以前に水田があったことを示している。

遺構検出は7層上面で行った。標高は約63.1mである。

III 検出遺構

平面不整形の土坑SK01を検出した。南北1.5m分、東西1.7m分を検出し、南・北・東方は発掘区外に広がる。深さは約0.35mである。地山が粘土層から粗砂土あるいは細砂土に変化する深さで掘削を止めていること、不整形に掘削していること、埋土に地山ブロックが含まれることから、粘土採掘土坑と考える。埋土から8世紀の土器が出土した。

IV 出土遺物

遺物整理箱で1箱分出土した。土坑SK01から出土した8世紀の須恵器杯蓋・壺A蓋、土師器の小片、表土掘削時に出土した18世紀頃の播鉢がある。

V まとめ

本調査では、粘土採掘土坑を検出したのみで、奈良時

代の大安寺に関係する遺構は無かった。史跡大安寺旧境内の北東辺の調査では、賤院推定地南半（十一坪）から苑院推定地（十二坪）にかけての範囲の調査のうち、市DA第16・43・61・66・134次の5次の調査で粘土採掘土坑を検出している⁴⁾。この範囲では、今後の調査でも粘土採掘坑が確認され、またこのため、奈良時代の遺構が削平されている可能性も考えられる。

なお、市DA第134次調査では粘土採掘土坑から18世紀の陶磁器が出土しており、発掘区内の粘土採掘も江戸時代に行われた可能性が考えられる。

(原田憲二郎・加藤梨津子)

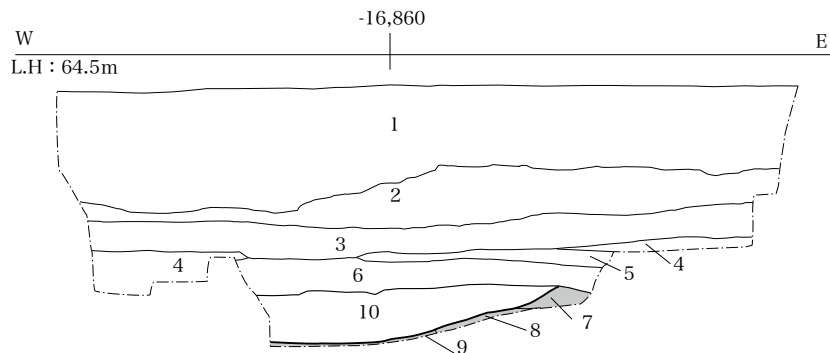
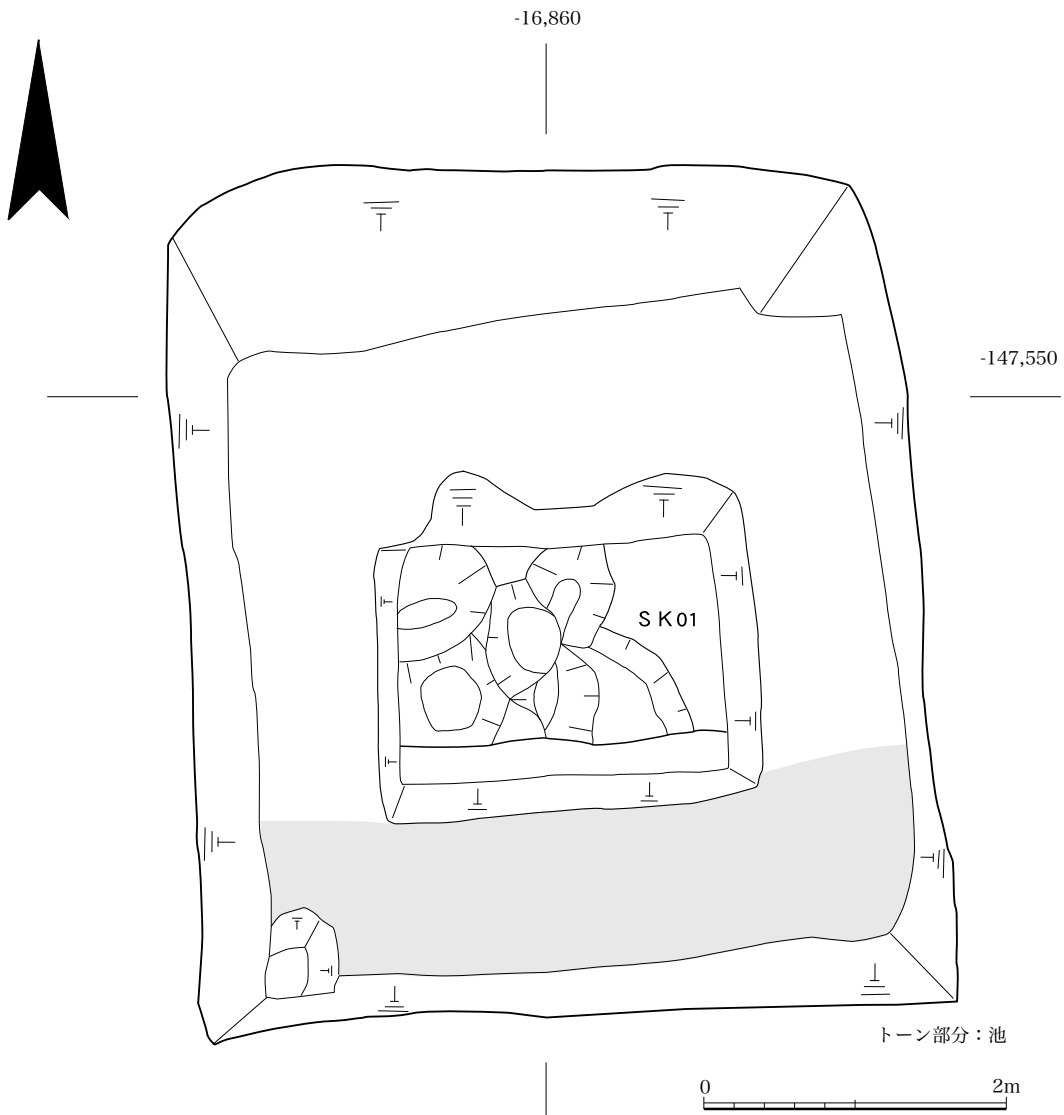
- 1) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成元年度』1990
- 2) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成5年度』1994
- 3) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成4年度』1993
- 4) 市DA第16次：『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和58年』1984
市DA第43次：『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成2年度』1991
市DA第66次：『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成6年度』1995
市DA第134次：『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成25年度』2013



DA第135次調査 発掘区全景（北東から）



同上（北から）



- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 黄褐色砂礫土（造成土） | 6 淡灰褐色粘砂質土（包含層） |
| 2 濁暗褐色土（40cm 大花崗岩含む・造成土） | 7 淡黄灰色粘土（地山） |
| 3 暗灰色粘土（池埋土） | 8 淡灰褐色粗砂土（1cm 大礫含む） |
| 4 淡灰色粘砂（池埋土） | 9 淡灰黄色細砂土（地山） |
| 5 濃灰色砂質土（水田床土） | 10 灰茶色粘質土と7層ブロック混合土（SK01埋土） |

DA第135次調査 遺構平面図・南壁土層断面図（1 / 50）

(2) 賤院推定地の調査 第136次

I はじめに

本調査は、個人住宅新築に係る調査である。調査地は平城京の条坊復原では左京六条四坊十坪の中央部にあたる。史跡大安寺旧境内の伽藍復原によれば、賤院推定地で、杉山古墳の東側に位置する。

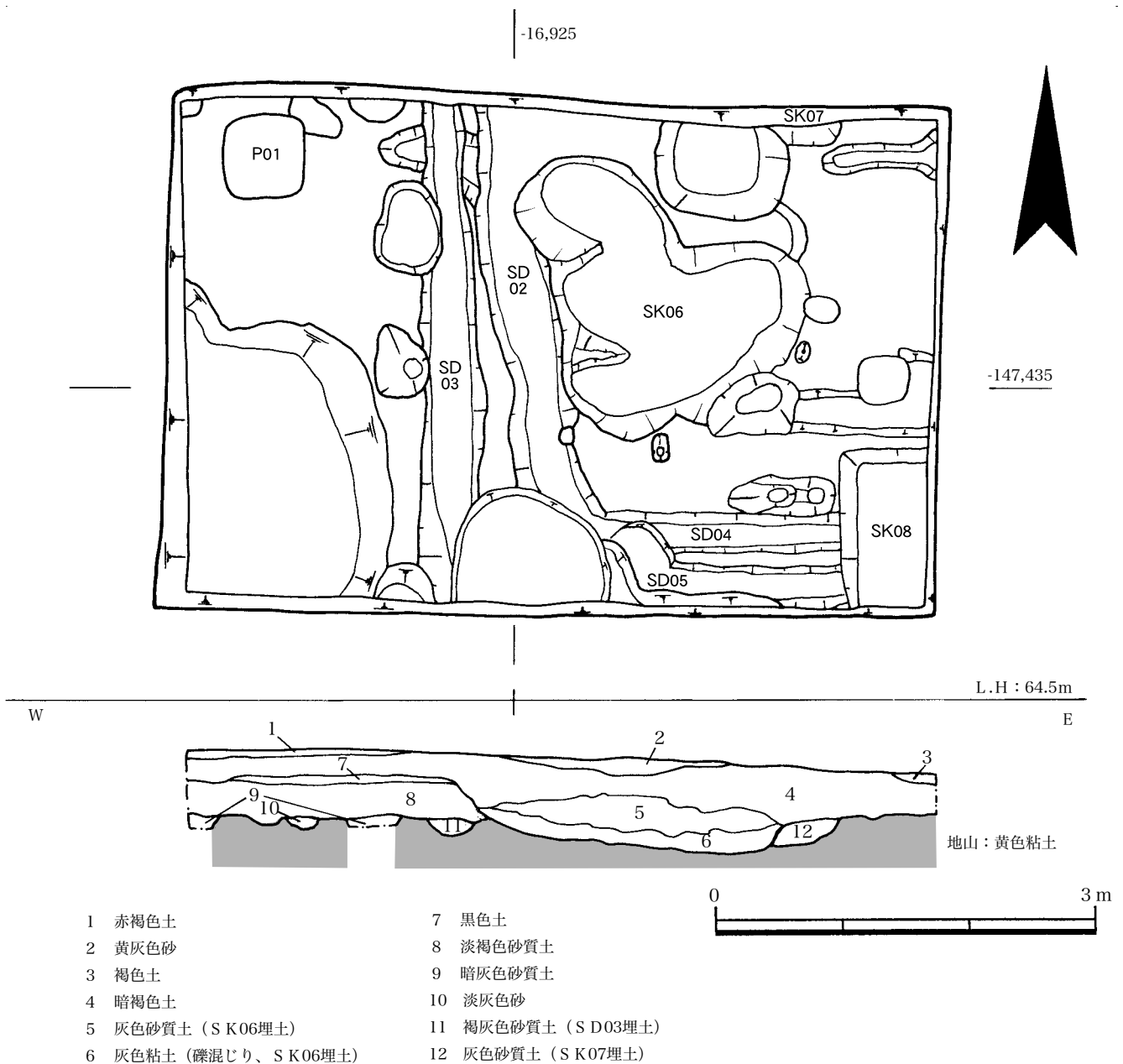
調査地の東方約30mで実施した市DA第54・55次調査地では、杉山古墳の東側外堤の西側斜面を確認している¹⁾。しかし、杉山古墳東側外堤の東側斜面については市DA第20²⁾・36³⁾・120次⁴⁾と3次の調査を実施して

いるが、いずれの調査でもみつかっていない。

本調査は、大安寺に関連する遺構の確認と、杉山古墳東側外堤東側斜面の有無確認を主たる目的とし、建物建設予定範囲に発掘区を設定して実施した。

II 基本層序

発掘区内の層序は上から、赤褐色土あるいは黄灰色砂もしくは褐色土（厚さ0.05～0.3m）、暗褐色土（厚さ0.2～0.4m）と続き、東辺ではこの下で黄色粘土の地山となる。西辺では暗褐色土下に黒色土（厚さ約0.05



DA第136次調査 遺構平面図・北壁土層図 (1/50)

m)、淡褐色砂質土(厚さ約0.2m)が堆積し、この下で黄色粘土の地山となる。遺構検出は地山上面で行った。その標高は、概ね63.6mである。

III 検出遺構

検出した主な遺構は、奈良時代の可能性が高い柱穴1基(P01)と溝1条(SD02)、江戸時代以降の溝3条(SD03~05)と土坑3基(SK06~08)である。

P01 一辺約0.5mの平面隅丸方形の柱穴で、深さは約0.2m。柱は抜き取られていた。抜き取り穴から土師器

が出土したが、細片のため詳細な時期は不明である。

SD02 幅約0.5mで、深さ約0.1mの南北溝である。埋土は褐灰色粘土である。埋土から土師器が出土したが、細片のため詳細な時期は不明である。遺構の重複関係から、溝SD04・土坑SK06より古い。

SD03 幅約0.5mで、深さ約0.1mの南北溝である。埋土は褐灰色砂質土である。埋土から土師器が出土したが、細片のため詳細な時期は不明である。

SD04・05 ともに幅0.3mで、深さは約0.1mの東西溝である。埋土は淡褐灰色砂質土で、17世紀以降の陶磁器が出土した。遺構の重複関係から、土坑SK07より古いことがわかる。

SK06 東西約2.0m、南北2.5m以上の、平面不整形の土坑である。深さは0.1~0.4mで、底面は一定ではない。埋土は大きく上下2層に分けることができ、上層は灰色砂質土、下層は礫を多く含む灰色粘土である。埋土から17世紀以降の陶磁器・平瓦が出土した。

SK07 東西0.5m以上、南北0.2m以上の土坑である。深さは約0.2mである。埋土は灰色砂質土で、17世紀の陶磁器が出土した。遺構の重複関係から、土坑SK06より古いことがわかる。

SK08 東西0.7m以上、南北1.3m以上の、平面方形の土坑で、深さは約0.3mである。埋土は褐灰色砂質土で、17世紀の陶磁器が出土した。

IV 出土遺物

遺物整理箱で3箱分出土した。出土遺物には奈良~平安時代の土師器・平瓦・丸瓦、江戸時代以降の陶磁器・平瓦・軒丸瓦がある。軒丸瓦は内区に右巻き三巴紋を飾る。出土遺物の大半は土坑SK06から出土した。

V 調査所見

今回の調査でも杉山古墳東側外堤部の東側斜面はみつからなかった。このことは、もともと地形の高い杉山古墳東側には、明確な外堤としての高まりを構築する必要がなかったのかもしれないとの従来の指摘⁵⁾を補強したといえる。
(原田憲二郎)



DA第136次調査 発掘区全景(東から)



同上(北東から)

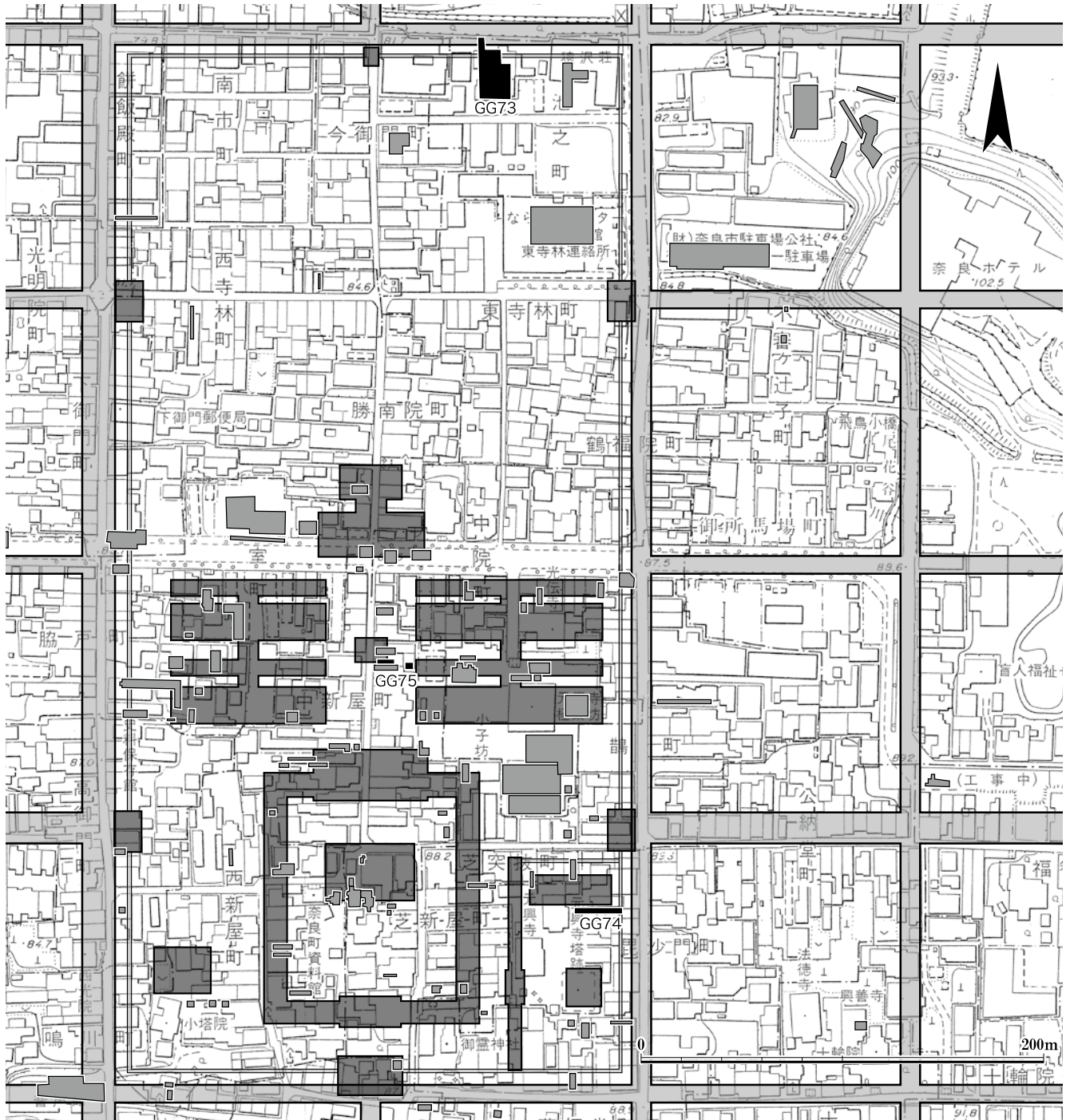
- 1) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成4年度』1993
- 2) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和59年度』1985
- 3) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和63年度』1989
- 4) 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成19(2007)年度』2010
- 5) 奈良市教育委員会『史跡大安寺旧境内I』1997

9. 元興寺跡の調査

奈良市教育委員会では、平成26年度に元興寺跡において計3件の調査を実施した。市GG第73次調査では平安時代末以降の土地利用の変遷がわかった。同第74次調査

では江戸時代後期の火災の廃棄物処理土坑を確認し、同第75次調査では室町時代後半に町場が形成され、江戸時代初頭まで鍛冶屋が営まれたことがわかった。

調査回数	事業内容	調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
GG第73次調査	集会所新築	今御門町 15	H26.7.18～H26.9.18	273㎡	鐘方・村瀬
GG第74次調査	店舗付個人住宅新築	毘沙門町 23	H27.2.24～H27.3.3	30㎡	原田憲
GG第75次調査	店舗新築	中新屋町 28	H27.3.23～H27.3.27	27㎡	鐘方



元興寺跡 発掘調査一覧表及び位置図 (1/3,000) 黒い網掛け部分が今年度調査

(1) 北面築地推定地・奈良町遺跡の調査 第73次

I はじめに

本調査は、集会場新築に伴う発掘調査である。調査地は、元興寺旧境内の北端東寄りに位置し、調査地外北側に沿って率川が西流する。調査地北端には、東西方向の元興寺北面築地塀跡が推定されている。昭和51年に東側隣接地の猿沢荘改築に伴って奈良県が発掘調査を実施しており、元興寺造営時に率川の旧河道を整地するとともに築地塀の基礎地業を行っていたとする知見が得られている。また、鎌倉～室町時代の井戸や土坑が見つかっており、周辺に中世の遺構が広がることも判明した¹⁾。

今回の調査は、元興寺北面築地塀の痕跡と中世以降における元興寺旧境内の変遷の一端を確認することを目的として実施した。なお、旧旅館の基礎解体時に行った立会調査によって、敷地内西側にあったRC造の本館・別館部分及び東端のボイラー棟部分の遺跡が残存しないことが判明したため、木造建屋があった敷地中央東寄り部分のみを調査の対象とした。

なお、旧旅館建設以前の調査地には長屋が並び建ち、敷地内北端に沿って点在する井戸はその名残りである。庭石に利用されたとみられる石や燈籠も近くに残されており、その中には興福寺と東大寺から移動したと伝える凝灰岩(榛原石)製の礎石が一つずつあった。この礎石については、調査期間中に略測図の作成と写真撮影を行い記録した。

II 基本層序

調査地は南東から北西へ向かう緩傾斜地で、北端における率川との比高差は約2mである。全体的に近現代の掘削が地山上面まで及んでおり、基礎解体後の整地層がその上を覆っていた。近現代の掘削を受けていない北端

での基本層序は、上から暗灰褐色土(土層図-2層)、灰褐色土(土層図-4層)、黄灰色土(土層図-10層)と続き、深さ0.7~0.8mで黄灰色砂礫あるいは黄灰白色シルト・粘土の地山となる。黄灰色土は14世紀頃の整地土とみられ、地山の窪みを均すように局所的に堆積する。遺構は地山上面で検出した。発掘区内での地山の標高は概ね82.3~82.8mである。

また、発掘区北東隅では地山上面が東側へ大きく下がっていくのを確認した。その比高差は1.3m以上で、北へ向かってさらに低くなるためにその部分の掘削を断念した。最も低いところに堆積した灰色砂層からは12世紀頃の土器が少量出土している。

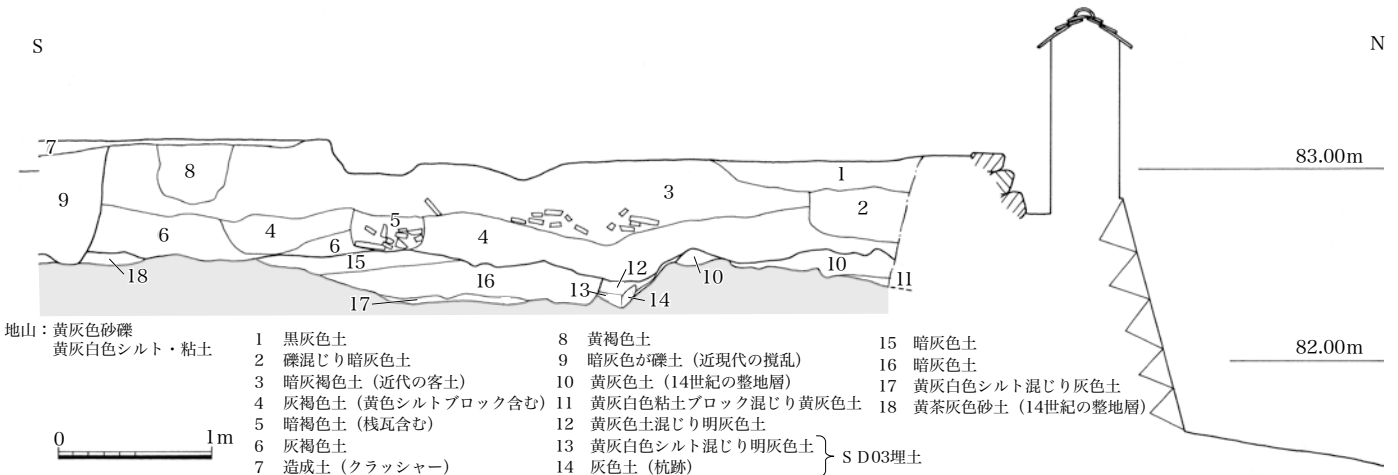
III 検出遺構

主な検出遺構には、平安時代末～鎌倉時代の井戸2基、室町時代の溝・土坑、江戸時代の石組遺構・埋桶土坑・埋甕土坑がある。奈良時代の遺構は確認できなかった。各遺構の概要は以下の通りである。

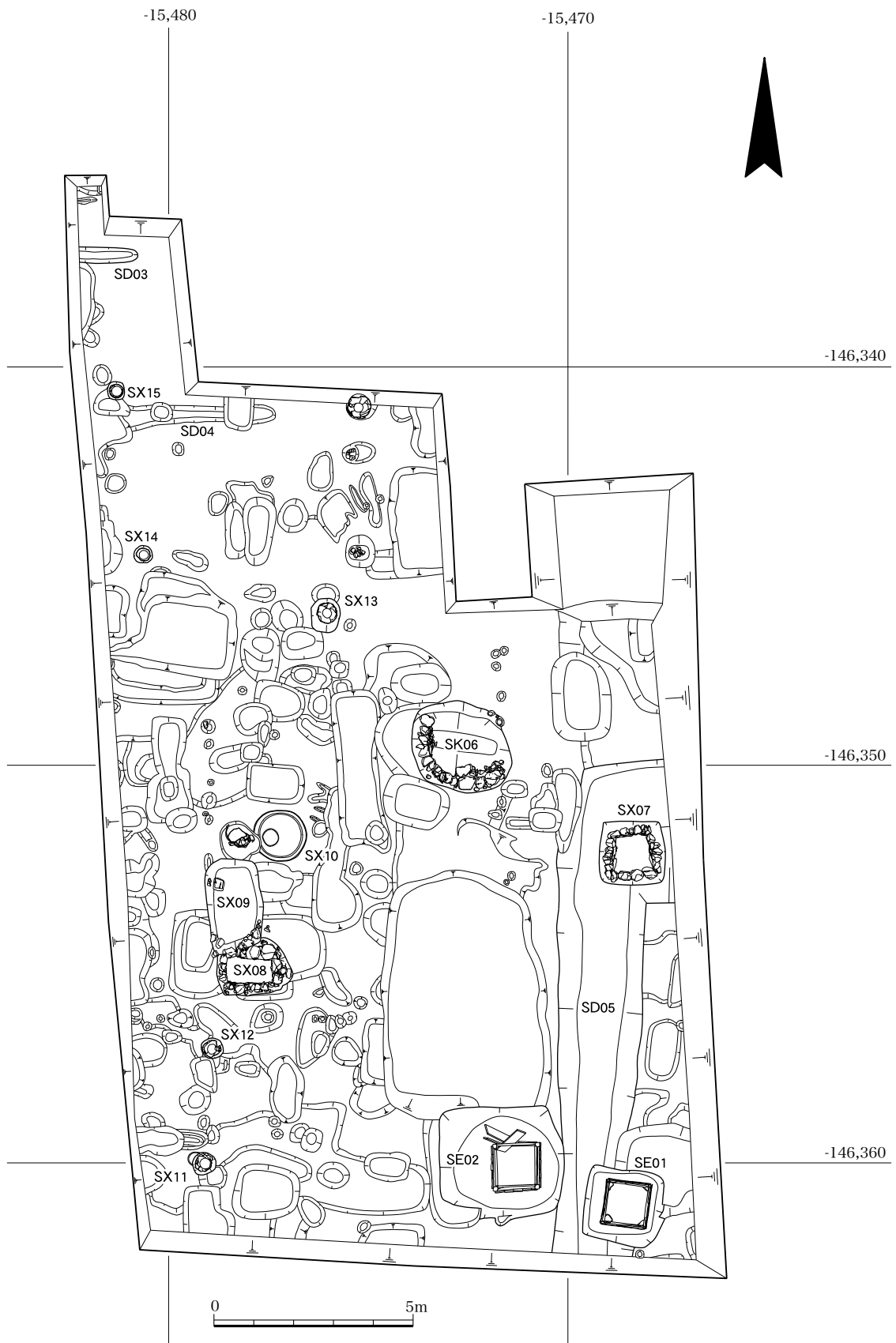
平安時代末～鎌倉時代の遺構

SE01 発掘区南東隅で検出した方形縦板組支柱横棧留構造の井戸である。掘方は、平面形が一边約2mの方形で、深さは約2.5m。掘方底の四隅を掘りくぼめて礎石を配置し、その上に一边1.1mの方形土台を載せ四隅に支柱を立てる。南辺に6枚、その他の辺に4枚ずつ縦板を立て並べ、支柱の上に置き重ねた横棧で内側からそれを支持する。高さ0.5m前後しか井戸枠は残っていなかった。埋土から12世紀後半の土器が出土した。

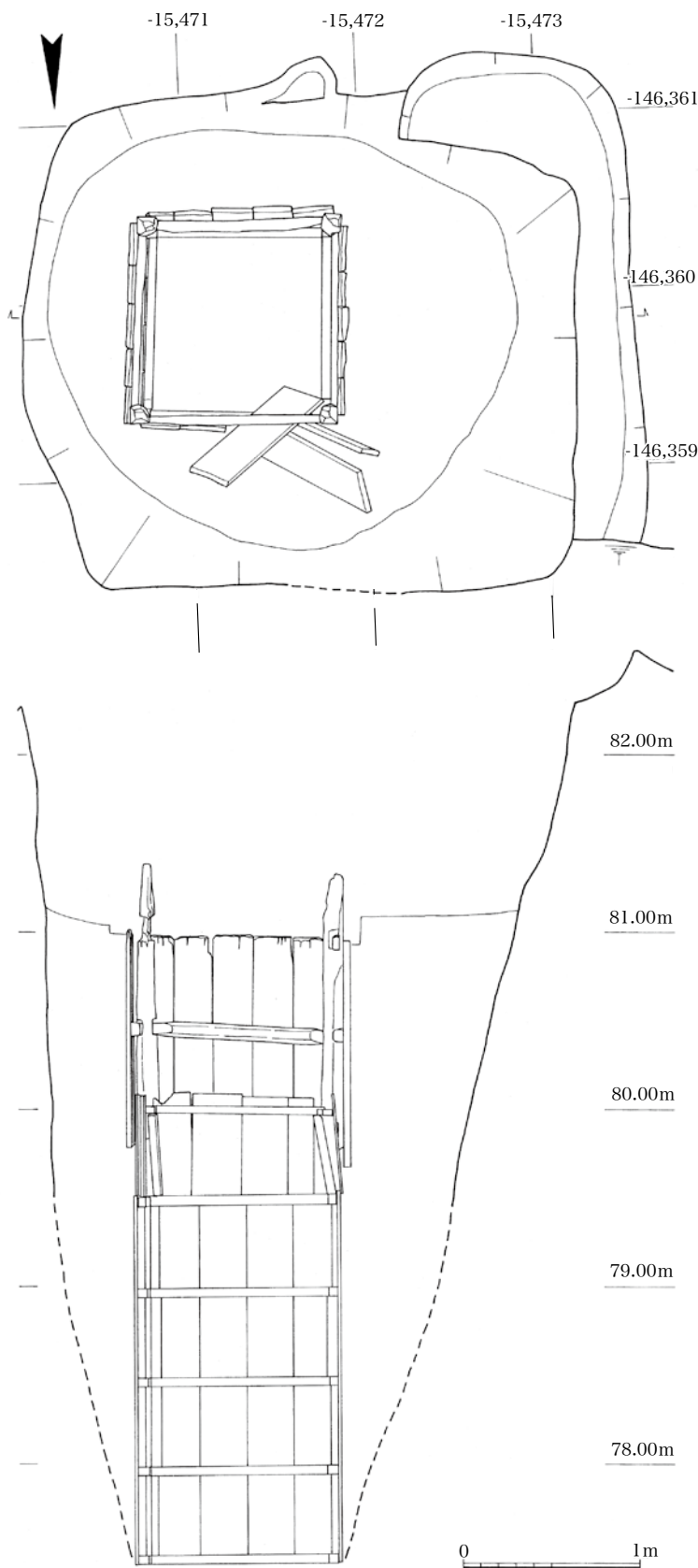
SE02 SE01の西側にある方形縦板組横棧留構造の井戸である。掘方は、南北2.8m・東西3.1mの長方形で、深さは約5.1m。井戸枠は一边1.2mの上段と一边1.1



GG 第73次調査 発掘区西壁の堆積土層と調査地北端の地形 (1/50)



GG第73次調査 遺構平面図 (1/150)



G G 第73次調査 井戸 S E 02 平面・立面図 (1/40)

mの下段で構成され、上段は隅柱、下段は支柱で横棧を支持する。各辺の縦板は上段が5枚、下段が4枚で、北辺西側の上段縦板3枚が崩れていた。下段では横棧を挟みながら5段分の支柱を積み上げるが、縦板の高さは4段分しかなく、5段目のみ別材を立てている。仕口の構造をみると、隅へ寄せた小さな柄を支柱の上下につくり出し、方形に組んだ横棧の四隅に設けた柄穴に差し込んで固定している。埋土から12~14世紀初頭頃の土器・瓦と共に石硯、石鍋、下駄、横櫛、開元通寶1枚が出土した。

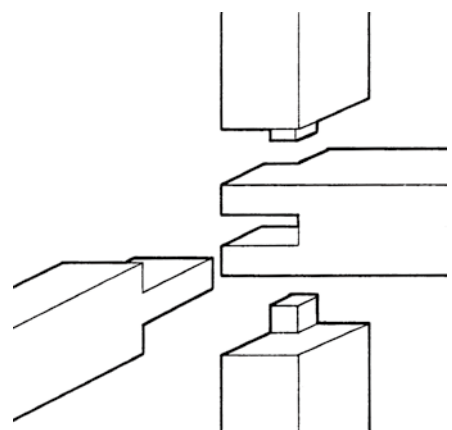
室町時代の遺構

S D 03 長さ1.5m以上、幅0.4m、深さ0.2mの東西溝で、東へ向かって徐々に浅くなり途切れる。14世紀頃の土器が出土した。

S D 04 長さ3.7m以上、最大幅0.6m、深さ0.2mの東西溝で、東へ向かって徐々に浅くなり途切れる。S D 03と約4m南へ離れた位置で並行する。14世紀頃の土器が出土した。

S D 05 発掘区東壁に沿った長さ12.3m以上、幅約2m、深さ0.7~1mの南北溝で、北端で東へ直角に曲がる。断面V字形を呈し、底は北へ向かって低くなる。埋土から15世紀後半頃の土器とともに瓦が多く出土した。なお、この溝の北側では、これを延長したかのように地山が下がっている。

S K 06 南北2.3m・東西2.6mの楕円形土坑で、深さ0.9mである。西側から南側にかけての地盤の一部が脆弱な砂地であるため、この部分に石積みの擁壁をつくって補強している。南側の石積みには段をつけており、土坑



井戸 S E 02 支柱と横棧の仕口構造模式図

内への出入りを意図した構造のようにみえる。木炭を含む埋土から16世紀後半頃の土器、瓦が出土した。

江戸時代の遺構

S X07 S D05の屈曲部に重複してつくられた石組遺構である。一辺1.6mの方形掘方内に内法南北0.9m・東西1.0mの方形石組をつくる。深さは0.45mである。埋土から16世紀末～17世紀初頭頃の土器が出土した。

S X08 発掘区南西側につくられた石組遺構である。南北1.4m・東西1.9mの長方形掘方内に内法南北0.6m・東西1.15mの方形石組をつくる。深さは0.55mである。埋土から17世紀前半頃の土器が出土した。

S X09 S X08の北側に重複してつくられた石組遺構で、S X08よりも新しい。南北2.4m・東西1.4mの長方形掘方内に内法南北1.4m前後・東西0.6m前後の方形石組をつくっていたとみられるが、ほとんどの石が抜き取られている。深さは0.4mである。埋土から18世紀前半頃の土器が出土した。

S X10 直径1.3mの円形掘方内に内法直径1.05mの木桶を埋設した土坑である。深さ0.25mが残るだけで、木桶もほとんど腐朽してその痕跡をとどめたに過ぎない。埋土から16世紀末頃の土器が出土した。

S X11～15 発掘区西側で概ね南北方向に埋土土坑が5基分布していた。S X11～14は瓦質土器甕の底部のみが残っている。一方、S X15は信楽焼甕を逆さに伏せてあり、肩部から口縁部だけが残る。水琴窟の可能性もあるが、掘方底に礫などを敷いた痕跡がなく断定できない。いずれも19世紀以降の遺構とみられる。

IV 出土遺物

遺物整理箱で72箱分が出土した。平安時代末～江戸時代にかけての土器類(土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・国産陶磁器・中国産陶磁器)、奈良～江戸時代の瓦類(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・雁振瓦・棧瓦)、鎌倉時代の木製品(下駄1点)や銭貨(開元通宝1枚、寛永通寶1枚、不明2枚)などがある。

土器類

遺物整理箱で23箱分ある。井戸S E02と土坑S K06から出土したものについて記す。

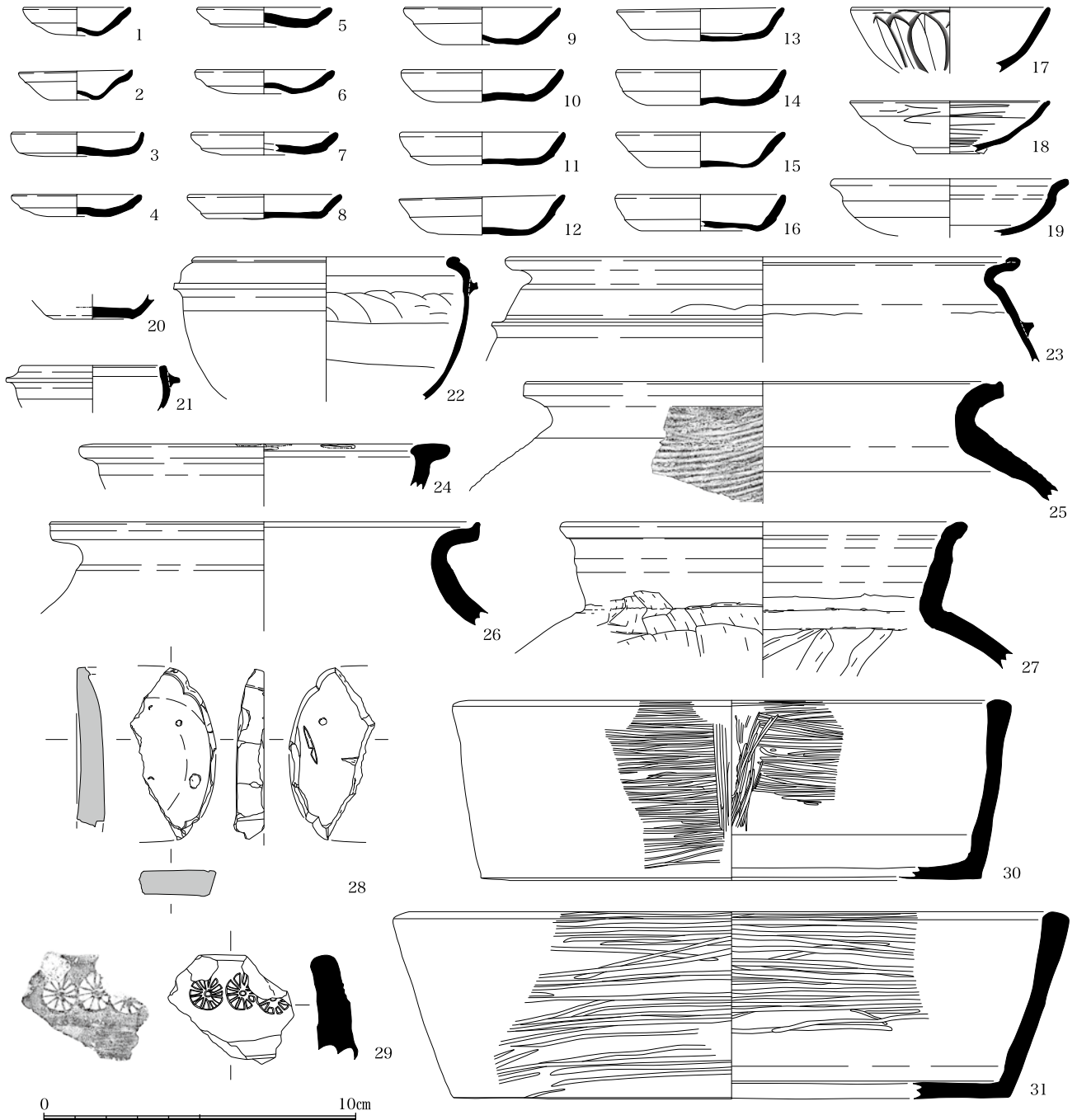
S E02出土土器 遺物整理箱8箱分、破片点数で約7,500点の土器が出土した。内訳は右上の表に記す。土師器が約8割を占めるが細片が多く、型式は12世紀頃～14世紀初頭のものがある。14世紀初頭のものものの残存状況がよく、主にこれらを図示した。1と2は京都産のへソ皿である。3～6は胎土が赤褐色のいわゆる赤土器(A群)で、口径9.0cm前後のへソ皿と、口径10.0～11.0

G G第73次調査 井戸S E02出土土器点数表

種類	産地等	器種	埋土・枠内		掘形	
			出土点数	出土比率	出土点数	出土比率
土師器		皿(A)群	5,483	72.77%	606	79.42%
		皿(B)群	26	0.35%	0	0.00%
		皿(京都産)	9	0.12%	0	0.00%
		高台付皿	3	0.04%	1	0.13%
		鉢他	4	0.05%	0	0.00%
		羽釜	252	3.34%	10	1.31%
小計			5,777	76.67%	617	80.87%
瓦器		碗・皿	1,379	18.30%	104	13.63%
		鉢類	1	0.01%	0	0.00%
小計			1,380	18.31%	104	13.63%
瓦質土器		浅鉢	70	0.93%	3	0.39%
		鉢類	41	0.54%	9	1.18%
		蓋	1	0.01%	0	0.00%
		不明	1	0.01%	0	0.00%
小計			113	1.50%	12	1.57%
国産陶器	東海産	壺・甕	147	1.95%	23	3.01%
		鉢	6	0.08%	1	0.13%
	小計		153	2.03%	24	3.15%
	備前	甕	18	0.24%	0	0.00%
	東播系	鉢	29	0.38%	2	0.26%
		甕	14	0.19%	1	0.13%
小計			43	0.57%	3	0.39%
小計			214	2.84%	27	3.54%
輸入陶磁器	青磁	碗・皿	16	0.21%	0	0.00%
		碗・皿	16	0.21%	3	0.39%
	白磁	壺	7	0.09%	0	0.00%
		小計		23	0.31%	3
	青白磁	壺	5	0.07%	0	0.00%
	陶器	盤・鉢	5	0.07%	0	0.00%
		壺	2	0.03%	0	0.00%
小計			7	0.09%	0	0.00%
小計			51	0.68%	3	0.39%
合計			7,535	100.00%	763	100.00%

G G第73次調査 土坑S K06出土土器点数表

種類	産地等	器種	埋土		掘形		
			点数	出土比率	点数	出土比率	
土師器		皿(A)群	42	6.79%	2	9.52%	
		皿(C)群	156	25.20%	1	4.76%	
		壺	1	0.16%	0	0.00%	
		羽釜	287	46.37%	2	9.52%	
小計			486	78.51%	5	23.81%	
瓦質土器		搦鉢	18	2.91%	6	28.57%	
		捏鉢	5	0.81%	0	0.00%	
		浅鉢	3	0.48%	1	4.76%	
		深鉢	66	10.66%	2	9.52%	
		鉢類	15	2.42%	7	33.33%	
		小型浅鉢	2	0.32%	0	0.00%	
小計			109	17.61%	16	76.19%	
国産陶器	常滑	甕	15	2.42%	0	0.00%	
		鉢	1	0.16%	0	0.00%	
	美濃	備前	甕	1	0.16%	0	0.00%
		信楽	搦鉢	2	0.32%	0	0.00%
	壺・甕		1	0.16%	0	0.00%	
小計			20	3.23%	0	0.00%	
輸入陶磁器	青磁	碗	4	0.65%	0	0.00%	
		小計		4	0.65%	0	0.00%
合計			619	100.00%	21	100.00%	



GG第73次調査 井戸SE02出土土器 (1/4)

cmの大皿とがある。8はやや古い時期のものと考えられる。胎土が白色系の白土器（B群）は、小片がわずかに出土するのみである。19は深手の器形に外反する口縁端部で、珍しい器形である。胎土の色調は3～16とは大きく違い、黄橙色系でやや古い時期のものとも考えられる。土師器羽釜は、口縁部を外反させる大和B型（23）と、内湾させる大和H型（22）があり、いずれも銜は短いものである。21は土師器のミニチュア羽釜である。

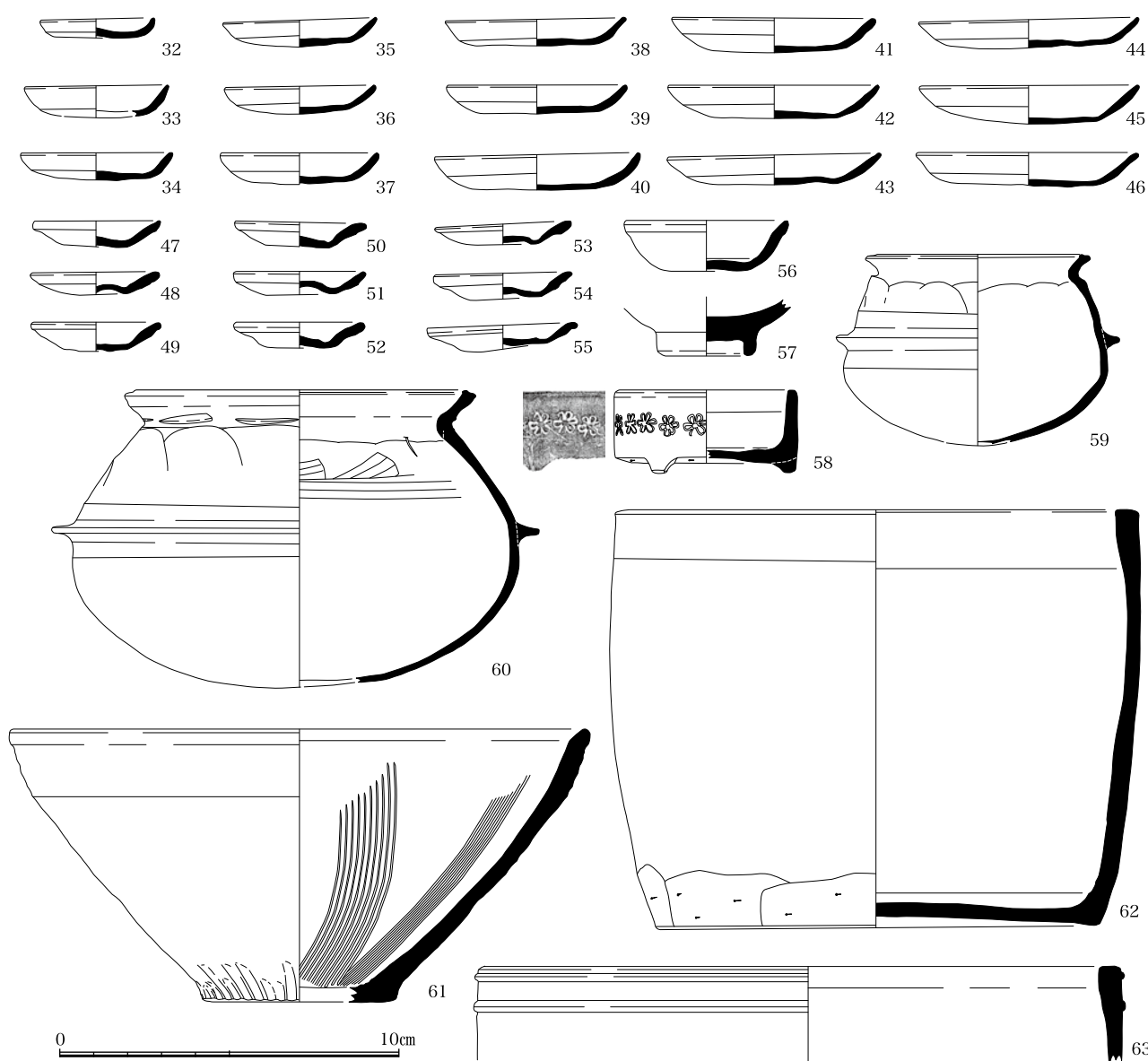
瓦器碗は12～13世紀のものが出土しており、最も新しい型式のものが18である。出土する最も新しい型式の土

師器皿に比べ、やや古い時期のものである。

17は龍泉窯系青磁の鎬蓮弁文碗、20は口禿の白磁皿で、底部は露胎である。24は灰白色の釉薬を掛けた陶器で、口縁端部上面は鉄釉を斑点状に掛け、さらに重ね焼きの痕跡が残る。

25は東播系の須恵器甕、26は東海産陶器の甕、27は備前産陶器の甕で、いずれも13世紀中頃以前のもので、東海産の出土量が多い。

瓦質土器は平面円形の浅鉢（31）を主体に出土しており、この他輪花形のもの（30）と菊花のスタンプ文を押



GG第73次調査 土坑SK06出土土器(1/4)

捺するものと(29)がある。

28は平面木瓜形の石硯で、暗緑色の粘板岩製である。側面を打ち欠いて再利用しているが、用途は不明。さらに方形の黒色の粘板岩製石硯の小片が1点ある。

SE02の資料は出土土器の年代幅が大きいものの、14世紀初頭頃の良好な遺物を含み、また備前産陶器など搬入品が豊富な点が特色と言えよう。

SK06出土土器 遺物整理箱2箱分、破片点数で640点の土器が出土した。内訳はP53右下の表に記す。

土師器は出土遺物の約8割を占め、土師器羽釜が過半数を占める。土師器皿は、胎土に砂粒を多く含む形態的に赤土器の系譜を引くA群(47~56)と、胎土の色調が灰白色のC群(32~46)とがある。A群とC群の出土比

率は約1:4である。A群は口径が7~8cm代のものが主で、9cm代のやや深手のものが1点ある。C群には、口径が6・8・9・10・12・13cm代のものがあり多様である。12cm代のものが最も多く62点(約47%)、13・9cm代のものがそれに次ぎ25・20点(約19・18%)ある。土師器羽釜は大和I型(59・60)が主体で、大和H型は4点のみである。

瓦質土器は、土師器に次いで多く約2割を占める。小形浅鉢(58)は、外面を丁寧にヘラミガキ調整後、花文の単体スタンプを連続して押捺する。深鉢(62・63)のうち62はほぼ完形に復原できる。

57は龍泉窯系の青磁碗で、畳付部を含め全面施釉する。高台内には、焼台の一部が熔着する。

S K06出土土器は、土師器羽釜の型式が、市H J第482次調査（平成14年度）の埋甕遺構S X14²⁾から出土したものと同じで、土師器皿の様相も似ており、ほぼ同時期頃と考えられる。S X14は天文年間の一方向一揆による焼失した遺構と想定され、S K06出土資料も16世紀前半頃の年代が考えられる。

軒瓦

軒丸瓦は18点あり、奈良時代の6201 A型式2点、6235型式種別不明1点、型式不明1点、平安時代以降14点である。軒平瓦は13点あり、奈良時代の6661型式種別不明1点、6671 A型式1点、6733 J型式1点、型式不明1点、平安時代以降9点である。

V まとめ

元興寺北面築地塀の確認を目的として調査地北端まで発掘区を設定したが、その痕跡は全く確認できなかった。地山のすぐ上に14世紀頃の整地土が堆積しそれ以前の堆積土が認められない点から考えて、この頃に削平を受け残っていないと判断できる。また、その周辺で奈良時代の瓦の分布が認められないのは、北面築地塀が板葺であったと記す『元興寺堂舎損色検録帳』の内容を反映しているように思われる。

調査地内で最も古い遺構は平安時代末の井戸S E01で、奈良時代の遺構は認められなかった。S E01のすぐ西側に鎌倉時代の井戸S E02がつくられている点を考慮すれば、平安～鎌倉時代には土地利用形態の顕著な変化がなかったとみられる。

室町時代になると、遺構の様相に変化がみられる。まず、発掘区北端に沿って2条の併行する東西溝S D03・04があり、この附近の遺構密度が低い点に注意される。明治23年の地籍図を見ると、率川に沿って調査地北端に東西道が存在したことがわかる。文明4～6年（1472～74）頃に描かれた小五月郷絵図にも同じ位置に率川に沿う小道と思われる表現があり、15世紀以前からこの小道があった可能性が考えられる。S D03とS D04が小道の痕跡（幅約4m）を示すとすれば、14世紀頃に小道がつくられたと推測することも可能であろう。ただし、それが四条七坊条間北小路を踏襲したものであるかは明らかでない。同じく14世紀頃には発掘区全体に及ぶ整地も行われている点を勘案すれば、この時期に土地利用形態が変化し、北面築地塀を撤去して元興寺旧境内から分離するような動向を看取できるようなにも思われる。

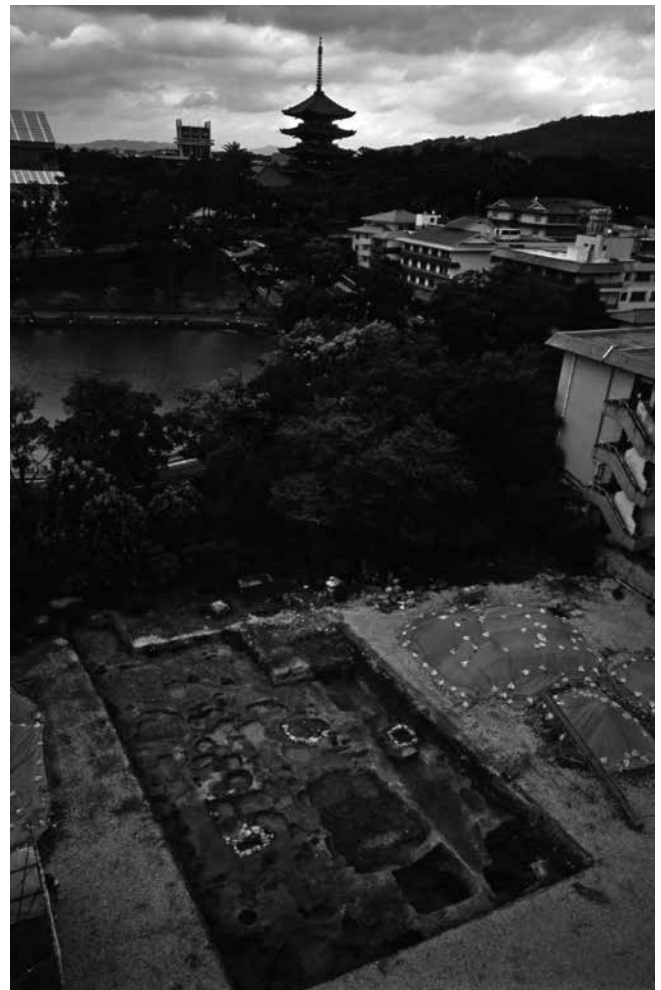
15世紀後半頃には規模の大きな区画溝S D05が掘削されて、土地の分割利用が明確となる。ただし、S D05

掘削以前と同じ位置で南北方向の地下げが行われており、調査地周辺を東西に分割利用する時期がもう少し古くなる可能性も考えられる。S D05の位置は元興寺の東西1/4分割ラインに近く、東寺林町の中央を南北に走る菱屋辻子・北辻子を北側へ延長した位置にほぼ相当する。中世の都市開発に伴い設定された辻子が近世の間に消滅する例も知られており、S D05が示す中世後期の区画割りについても同様に継承されなかったのだろう。

江戸時代になると、高密度で遺構が形成される。建物跡としてまとまる遺構はないが、複数の石組遺構や埋甕が一定の距離を置いて認められる点、明治時代の地籍図に残る地割りが江戸時代にまで遡る点などからみて、現在に続く町屋の形成がこの頃に始まることを示している。

（鐘方正樹・中島和彦）

- 1) 奈良県立橿原考古学研究所「元興寺旧境内東北隅発掘調査概報」『奈良県遺跡調査年報 1976年度』1977
- 2) 奈良市教育委員会「平城京左京四条六坊十五坪・奈良町遺跡の調査 第482次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成14年度』2006



GG第73次調査 発掘区全景（西南から）



発掘区垂直写真（右が北）



土坑 S K 06（東から）



井戸 S E 01（北から）



石組遺構 S X 08・09（南から）



井戸 S E 02（南西から）



木桶埋設土坑 S X 10（南から）



溝 S D 05・石組遺構 S X 07（北から）



埋甕土坑 S X 13（東から）

(2) 東塔院推定地・奈良町遺跡の調査 第74次

I はじめに

調査地は、元興寺の伽藍復原によれば、東塔院地区の北東辺で、東面築地塀が想定される場所にあたる。北側隣接地には東塔院の僧房が想定されている。

元興寺は宝徳3（1451）年の土一揆により大きく衰亡したが、この時、東塔は火災を免れている。

江戸時代になると、東塔院の一部は町屋と化した。幕末まで東塔は健在であった。しかし安政6（1859）年、東塔東側の毘沙門町の町屋からの出火により、東塔は焼失した。

元興寺東面築地塀の調査は本調査地の北方約160mの市GG第6次調査¹⁾と、南方約50mの市GG第70次調査²⁾で実施している。市GG第6次調査では東七坊坊間路の西側溝と東面築地塀・その雨落溝を検出している。市GG第70次調査は、限定的な調査であり、遺構面まで達せず、元興寺東面築地塀は確認できていない。

今回は、元興寺東面築地塀とその雨落溝の確認を調査の主たる目的として実施した。

II 基本層序

発掘区内の基本的な層序は、約0.2mの表土以下、黒灰色砂質土（厚さ約1.0m）、暗灰色砂質土（厚さ約0.5m）と続き、現地表下1.3～1.6mで明黄褐色礫土の地山となる。地山上面の標高は87.9～88.1mである。

発掘区東西両端辺りでは、焼土・炭の他に、二次焼成を受け赤く焼けた瓦を多く含む赤褐色砂質土が、黒灰色砂質土を切り込んで堆積していた。赤褐色砂質土中には瓦類が多く含まれており、出土した棧瓦には橘紋を飾る軒棧瓦があることから19世紀の瓦類とみられる。安政の火災によって生じた廃瓦等の廃棄物処理土坑と考える。

III 検出遺構

地山上面で溝状遺構、落ち込みと小柱穴を検出した。

SX01 発掘区西端部で検出した、幅約2.2mの溝状遺構である。南側・北側は発掘区外に続く。検出面からの深さは約0.6mである。

埋土は上から順に褐灰色粘土、濁黄褐色土、灰色粘土である。灰色粘土層から15世紀の土師器皿、凝灰岩片が出土した。

SX02 発掘区東端部で検出した東へ下る落ち込み。幅1.5m分を検出した。検出面からの深さは、壁面崩壊の恐れから、約1.0m分を確認したにとどまる。

埋土は淡黄褐色砂質土である。遺物はまったく出土し

なかったため、時期は不明である。

P03 発掘区東辺で検出した小柱穴である。平面は径約0.3mの円形で、深さ約0.2mである。柱は抜き取られていた。

IV 出土遺物

出土遺物は15世紀の土師器皿・軒丸瓦、19世紀の瓦質土器浅鉢・国産陶器行平鍋・国産磁器皿・軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・軒棧瓦・棧瓦、凝灰岩片がある。

軒丸瓦の内訳は15世紀の右巻き三つ巴紋1点、江戸時代の左巻き三つ巴紋3点である。軒平瓦の内訳は、すべて19世紀の橘紋を飾るもので、9点ある。

出土遺物の大半は安政の火災による廃棄物処理土坑から出土した瓦類である。

V 調査所見

東端で検出した落ち込みSX02は、市GG第6次調査で検出された東面築地塀雨落溝の延長線上に位置する。しかし、今回の発掘区では、SX02の平面形状が不明であることから、溝か土坑かの判断ができない。さらには遺物がまったく出土しておらず、雨落溝と速断することはできない。

安政の火災による廃棄物処理土坑には大量の棧瓦がみられたが、古代の瓦類は無かった。これらは町屋に葺かれた瓦が廃棄されたものとする。（原田憲二郎）

- 1) 奈良市教育委員会「第6次の調査」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和61年度』1987
- 2) 奈良市教育委員会「東塔院推定地・奈良町遺跡の調査 第70次」『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成23（2011）年度』2014



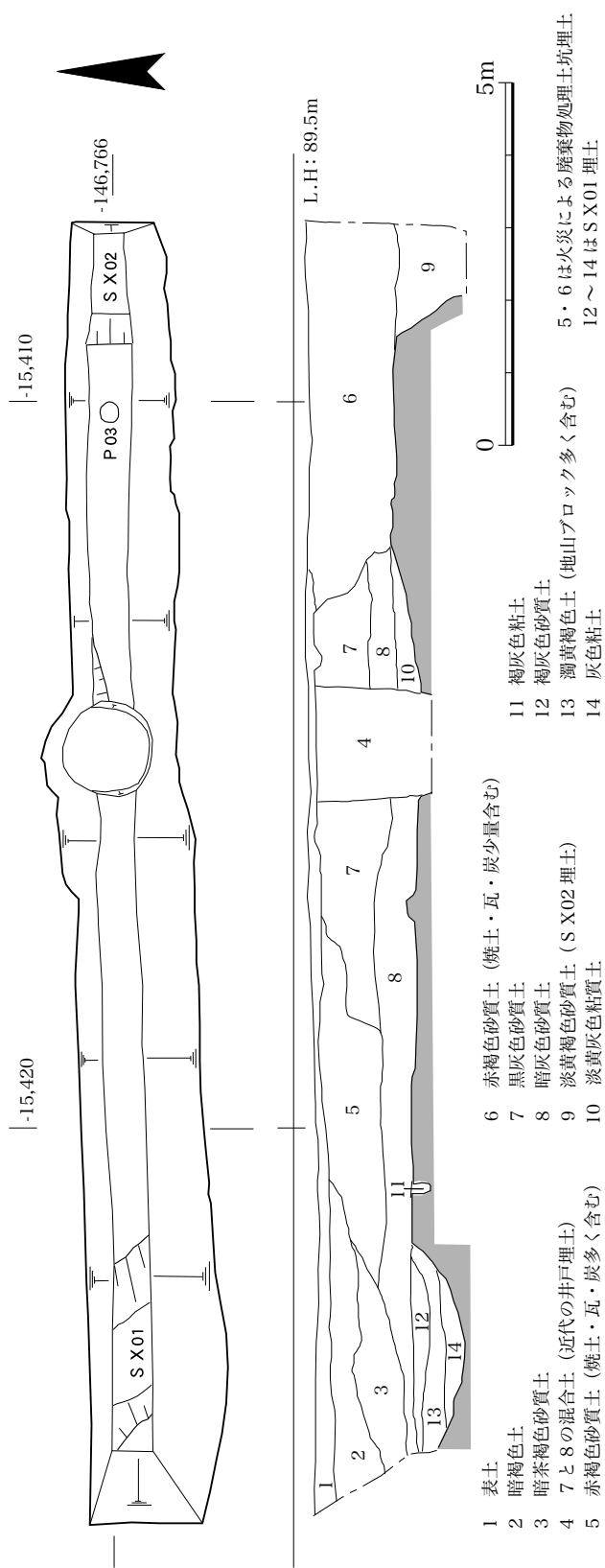
発掘区東端部 廃棄物処理土坑の土層（北西から）



GG第74次調査 発掘区全景（東から）



同上（西から）



GG第74次調査 遺構平面図・北壁土層断面図（1/100）

(3) 鐘楼及び小子坊推定地・奈良町遺跡の調査 第75次

I はじめに

調査地は元興寺旧境内のほぼ中心区域にあたり、敷地の西側に鐘楼跡、東側に小子坊西端が想定される。

周辺では、過去に南隣接地で市GG第3次調査（昭和56年度）、北隣接地で同第18次調査（平成元年度）が実施されている。前者は住宅建設中に礎石2個を発見したことが契機で行われ、調査の結果、16世紀末～17世紀初頭に穴を掘ってその礎石を片付けたと推定された。後者では奈良時代の掘立柱列を検出した。ともに鐘楼関連の遺構は残っていなかった。また、45m南西で実施された同第47次調査（平成10年度）では17世紀初頭以前の鍛冶関連遺構が見つかっており、礎石の片付け前に周辺で鍛冶生産が行われていた可能性が指摘されている。

今回の調査は、鐘楼及び小子坊西端に関連する遺構と、第3次調査地と同様の礎石や第18次調査で見つかった奈良時代の掘立柱列と関連する遺構の有無の確認を目的として、鐘楼跡推定箇所以西発掘区、小子坊西端推定箇所に東発掘区を設定して実施した。

II 基本層序

東・西発掘区の基本層序は大きくみると共通するが、東発掘区では多くの土坑が重複するために堆積土層が大きく乱れている。各層位の対応関係を検討した結果、表土下に整地層と炭や焼土を含む層を一つの単位とする堆積層群が4回繰り返して堆積することが判明した。東発掘区のSK05から鍛冶関連の遺物が出土した点から考えると、鍛冶屋の操業単位を示す可能性が想定できた。そこで、この堆積層群を下から「整地I～IV層」と「操業I～IV層」に呼び分けて、以下に層序を説明する。

西発掘区 造成土（黄色砂・クラッシャー）、旧表土（暗灰褐色土）の下に明黄灰色土・炭混じり黒色系土・焼土混じり赤褐色系土の互層（操業IV層）、淡黄褐色土（整地IV層）、暗赤褐色焼土（操業III層）、淡黄灰色シルト（整地III層）、炭混じり黒褐色土（操業II層）、地山起源の黄褐色土（整地II層）、炭混じり黒褐色土（操

業I層）、黄灰色土・黄褐色土の混合土（整地I層）が堆積し、その下で黄褐色砂礫層の地山となる。

地山上面は現地表下0.9～1.0mで、概ね平坦であり、標高は88.1m前後である。

東発掘区 表土（暗灰褐色土）の下に淡灰色シルト（整地IV層）、炭混じり暗灰色土（操業III層）、淡灰白色シルト（整地III層）、地山起源の黄褐色土（整地II層）、淡灰色土（操業I層）、淡灰白色シルト・黄灰色粘質土（整地I層）が堆積し、その下で黄褐色砂礫層の地山となる。

地山上面は現地表下1.3～1.4mで、その標高は88.0～88.1m前後である。

III 検出遺構

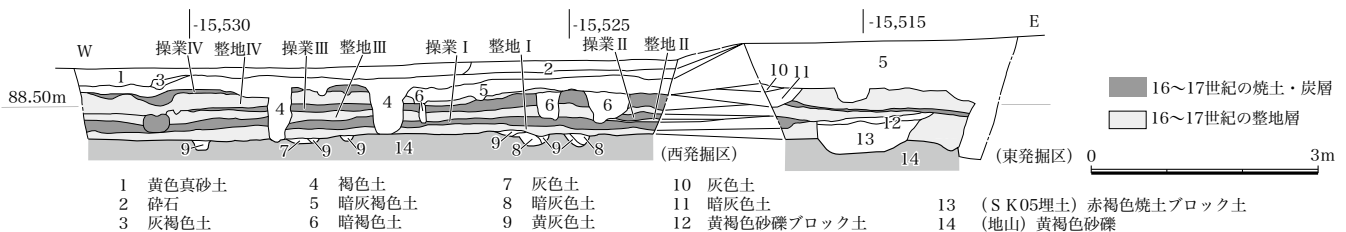
西発掘区 深さ0.1m前後の浅い小柱穴や土坑が散在する。

SK01・02 どちらも発掘区外南へ続く不整形な土坑で、深さ0.17mである。重複関係からSK02が新しい。SK01から16世紀の白磁皿片1点、SK02から15～16世紀の土師器、陶器が少量出土した。

東発掘区 複数の土坑や整地土が重複する。淡灰白色シルトの整地III層上面（上層）と黄灰色粘質土の整地I層上面（下層）で遺構検出を行い、上層でSK03、下層でSK04・SK05・SX06を検出した。

SK03 南北1.4m・東西1.5m、深さ1.2m以上の平面円形の土坑で、灰色土と黄灰色粘土ブロックを交互に入れて入念に埋められていた。地山上面の約0.5m下から北東方向へ向かって横穴が掘削されている。発掘区内北東隅に地山の陥没穴があり、それが横穴の天井崩落によるものと認められた。この点から、横穴の奥行きは0.8m以上と想定できる。崩落の危険性を考慮し、横穴と土坑の底までの掘削を行わなかった。埋土から19世紀中頃の国産磁器が出土した。

SK04 南北0.95m・東西0.75m、深さ0.2mの平面不整形の土坑である。埋土から16世紀末～17世紀初め頃の瓦質土器鉢、青花皿、鞆羽口が出土した。



GG第75次調査 西・東発掘区北壁土層断面図 (1/100)

SK05 南北0.8m以上・東西1.3m、深さ0.4mの土坑で、重複関係からSK04より古い。赤褐色焼土ブロックで埋まり、多量の鉄滓とともに16世紀後半の土師器皿・羽釜、瓦質土器鉢、鞆羽口、砥石が出土した。

SX06 東壁に沿って南北に広がる幅0.5～0.8m以上、厚さ0.2mの整地層である。土質は明黄灰色粘土で、しまりがある。重複関係から整地I層より古く、地山上に堆積する。6201A型式軒丸瓦3点・四重弧紋軒平瓦1点を含む飛鳥～奈良時代の瓦が包含されていた。元興寺造営に関わる奈良時代の整地土の可能性はある。

IV 出土遺物

7世紀の軒丸瓦6201A型式3点・型式不明1点・四重弧紋軒平瓦1点・平瓦、15世紀以降の土師器・瓦質土器・国産陶磁器・輸入陶磁器・鞆羽口・鉄滓・砥石・円盤状土製品・銭貨3枚（寛永通宝1枚・不明2枚）が遺物整理箱で8箱分出土した。

V 調査所見

元興寺の鐘楼や小子坊の痕跡は、今回の調査でも確認できなかった。東発掘区の東端で元興寺造営に関わる可能性がある整地土の一部を検出したにとどまる。

地山の上にある堆積層は16世紀以降の遺物を含んでおり、周辺での調査成果と同様に16世紀頃大きな削平を受けた可能性が高い。そして、その直後から鍛冶生産が始まり、17世紀まで継続したと考えられる。

『奈良曝』（1687年）には、中新屋町の南西に接する西新屋町に鍛冶屋が存在したことが記されており、17世紀までは中新屋町近くにも鍛冶屋があったことがわかる。中新屋町は芝新屋町とともに永禄～天正年間（1558～1592年）に町場となり、西新屋町も同様に永禄・元亀年間（1558～1573年）に町場となったことが『奈良坊目拙解』（1735年）に記されている。いずれも元興寺伽藍中心域に新たに形成された町場で、16世紀後半に一齐に形成され始める点で共通する。その過程で調査地周辺に鍛冶屋が現れ、長期的に鉄製品の生産を継続したとみられる。

なお、中新屋町に伝わる天保六年（1835年）の絵図によれば、調査地が19世紀に鮎屋喜兵衛の居宅であったことがわかるが、それに関わる資料は今回得られていない。

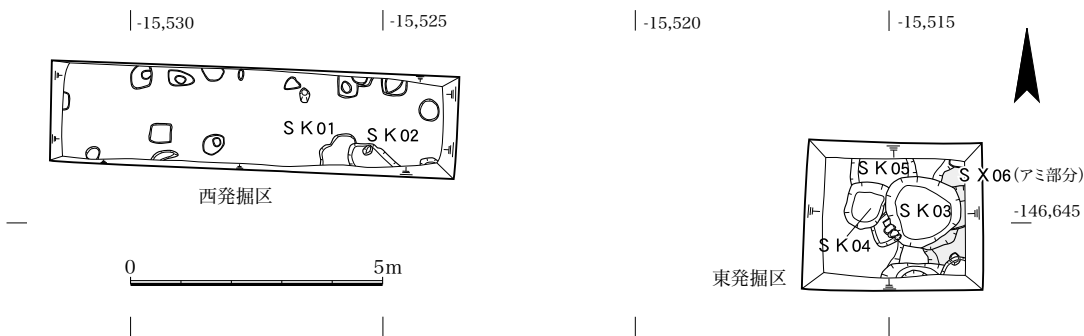
（鐘方正樹）



西発掘区（東から）



東発掘区（南から）



G G 第75次調査 遺構平面図 (1/150)

10. 西大寺跡（政所院推定地）の調査 第34次

事業名	宅地造成	調査期間	平成27年2月16日～3月4日
届出者名	株式会社 ソニック	調査面積	300㎡
調査地	西大寺新田町499番他	調査担当者	鐘方正樹・村瀬 陸

I はじめに

調査地は、西大寺の伽藍復原によると政所院推定地であり、平城京の条坊復原では右京一条三坊十六坪にあたる。地形は、西ノ京丘陵の東縁に広がる台地の東端に位置し、北西から南東へ向かって緩やかに下る。現状は地形の傾斜に合わせて造成された水田で、比高差 0.7mの段差を挟んで北側が高く、南側が低い。

周辺では、平成24年度に東隣接地で市SD第31次調査を行い、奈良時代の一条条間北小路の南北両側溝、鎌倉・室町時代の掘立柱建物・掘立柱列・井戸・土坑と、底に8～9世紀の平瓦を敷いた鎌倉時代以降の溝状遺構を検出した^{註)}。

本調査は、西大寺に関連する遺構の検出、および西大寺創建以前の平城京としての宅地利用の有無の確認を目的とし、道路予定地に発掘区を設定して実施した。なお、遺構番号は市SD第31次調査からの続き番号とした。

II 基本層序

基本的に、上から黒褐色土（厚さ約0.2m）、灰色土（約0.1m）、橙色土・灰色土の混合土（約0.2m）、灰色土・褐色土の混合土（約0.3m）と続き、現地表下約0.8mで地山上面となる。地山上面は、水田造成に伴う段差の北側が黄褐色砂礫で標高が概ね76.7m、南側が明黄褐色または明青灰色粘土で標高が概ね76.0mである。この面で遺構検出を行った。

なお、発掘区西寄りでは、池状の落ち込みと、その底面に重複する河川を確認した。池状の落ち込みの埋土は青灰色シルト（0.2～0.4m）で、8～9世紀の遺物を主とするが、18世紀の陶磁器碗1点を確認したため、近世以降と考える。河川は長さ16m以上、幅約7mであり、灰色粗砂が堆積する。発掘区西壁沿いでは、現地表下約2mで底部を確認した。埋土から縄文～弥生時代前期の土器がわずかに出土した。

III 検出遺構

地山上面で検出した主な遺構には、古墳時代の土坑（SK12・13）、奈良～平安時代の掘立柱建物（SB16）・土坑（SK14・15）、不明遺構（SX17）、鎌倉～室町時代の溝（SD11）がある。詳細は一覧表にまとめ、特筆すべき遺構について以下に述べる。



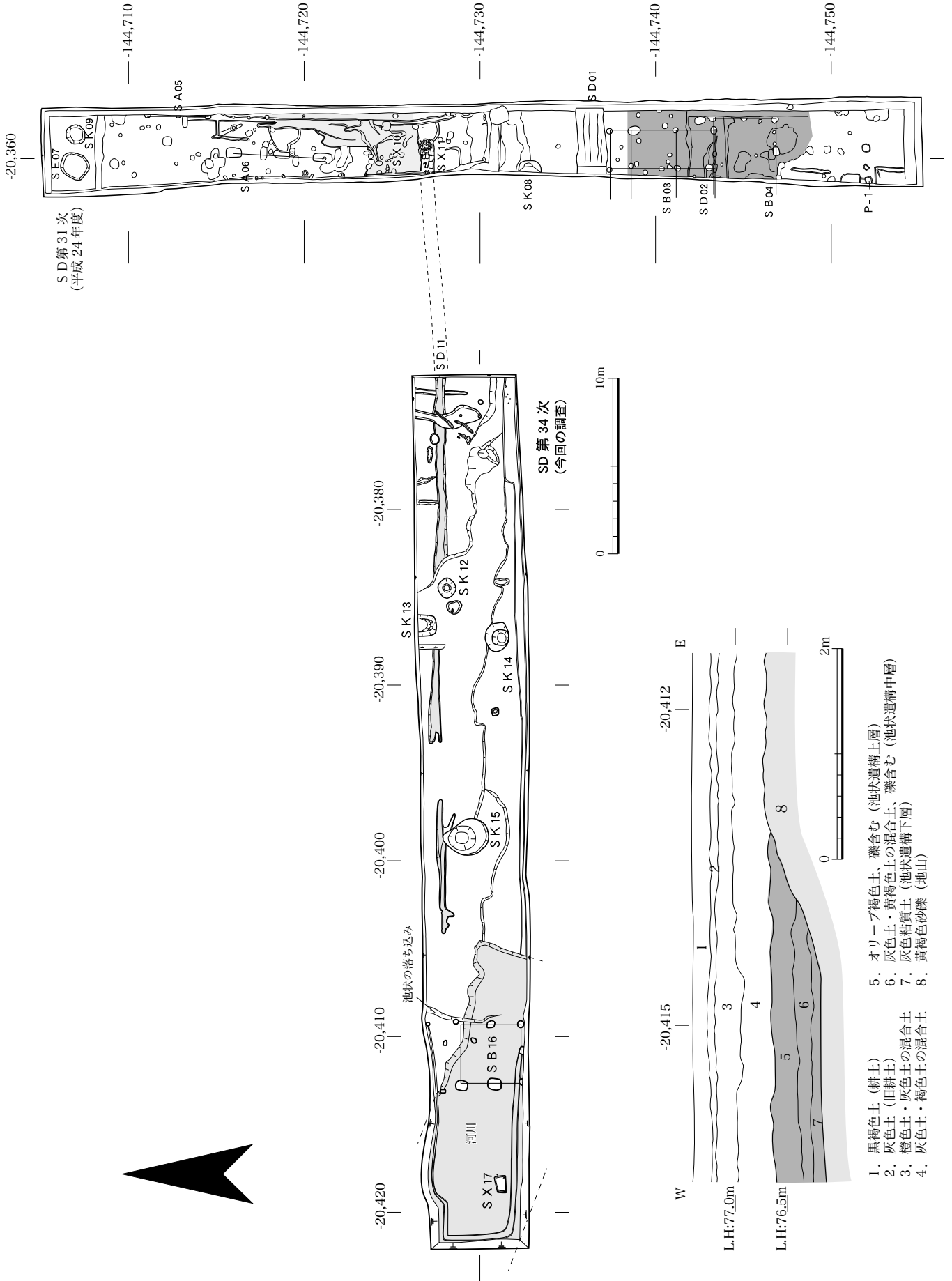
SD第34次調査 発掘区位置図 (1/5,000)



SD第34次調査 発掘区全景（東から）

古墳時代の遺構

SK12 二段に掘り込まれ、底は湧水層に達する。古墳時代前期後半の土器が密集して出土した。土器は比較的遺存状態が良好で、完形に復原できるものが多く、廃棄したというよりは埋納した状態に近い。出土状況は、土器類が土坑の中心方向に倒れた状態を呈する。



SD第34次調査 発掘区平面図 (1/300)、北壁土層断面図 (1/50)

遺構一覧表

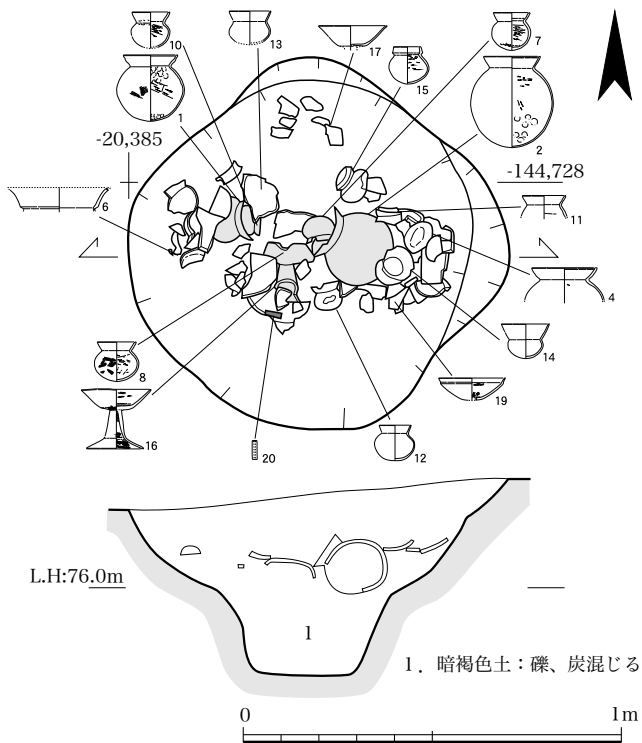
遺構番号	棟方向	規模(間)		桁行全長 (m)	梁行全長 (m)	柱間寸法(m)		柱穴の深さ (m)	備考
		桁行	梁行			桁行	梁行		
S B 16	不明	2	2	3.4	3.4	1.7	1.7	0.1 ~ 0.5	柱穴から土師器小片2点、須恵器壺片1点出土。

遺構番号	平面形等	規模(m)	深さ(m)	時期	出土遺物	備考
S D 11	東西溝	長さ31.7以上 幅0.4~1.1	0.1	12世紀後半~13世紀	土師器杯皿類・羽釜、平瓦	S D第31次調査のS X 11に接続すると推定。
S K 12	不整形円形	2.0	0.5	古墳時代前期後半	土師器甕・高杯・小形丸底壺、鉢、管玉	完形に近い土器が多く、小形丸底壺を主とする。廃棄というよりは埋納した様相。中心に向けて倒れ込むように出土。
S K 13	不整形円形?	1.2	0.8	古墳時代前期後半	土師器甕・高杯・小形丸底壺	甕を主とする破片が多い。
S K 14	不整形円形	1.3~1.6	1.35	8世紀末~9世紀	土師器杯A・皿B・甕、須恵器甕C、丸瓦、平瓦	枠はないが、深さ約1.4mで湧水層に達することから井戸の可能性あり。埋土は上から暗褐色土(約1.0m)、灰色シルト・暗褐色シルト混合土(約0.4m)で、須恵器甕が主として出土。
S K 15	不整形円形	2.0~2.5	1.3	8世紀末~9世紀	土師器杯・皿・甕、須恵器杯・甕・壺、丸瓦、平瓦、朝顔形埴輪、弥生土器壺	枠はないが、深さ約1.2mで湧水層に達することから井戸の可能性あり。埋土は上から褐色土(約0.4m)、暗灰色土(約0.1m)、灰色シルト(約0.4m)、灰色砂(約0.3m)で、須恵器甕が主として出土。弥生土器壺は中期か。朝顔形埴輪は埴輪編年IV期。
S X 17	長方形	1.0×0.8	0.2	8世紀中頃	土師器杯C、丸瓦	遺構の性格は不明だが、湧水層に達することから井戸の可能性あり。

小形丸底壺は、甕と入れ子状態になっているもの(1と10、2と7)や、倒れた高杯の杯部内に確認できたもの(16と8)があることから、小形丸底壺は甕や高杯にのせられていた可能性がある。高杯が倒れたことによって割れた甕の中から、完形の緑色凝灰岩製管玉1点が出土した。

SK13 土坑は約半分を検出したのみで、北半分は

発掘区外である。底は湧水層に達している。古墳時代前期後半の土器が出土した。土器の遺存状態は悪く、多くが破片である。



土坑S K 12 平面・立面図 (1/20)



土坑S K 12・13 (南東から)



土坑S K 12 土器出土状態 (南西から)

奈良時代の遺構

SX17 長さ1.0m、幅0.8mの長方形の掘方内に木板2枚を直角に組んだ遺構で、各板の両端に内側から杭を打ち込んで固定する。遺構の性格は不明だが、湧水層に達することから、井戸枠最下段の可能性がある。

鎌倉～室町時代の遺構

SD11 東西方向の素掘溝で、市SD第31次調査で検出したSX11に繋がると推定できる。市SD第31次調査では、溝底部で8～9世紀の平瓦が凹面を下に向けて敷かれた状態で検出されたが、本調査地ではなかった。このような瓦を用いた構造物は部分的なもの、あるいは廃絶時に大部分を取り除いた可能性もあるが、いずれかの判断はできない。

IV 出土遺物

遺物整理箱で10箱分がある。内訳は、縄文～弥生土器、古墳時代前期後半の土師器（甕・高杯・小形丸底壺、鉢）・管玉、古墳時代中期の朝顔形埴輪、奈良～平安時代の土師器（甕・皿・鉢）・須恵器（甕・杯）・瓦（軒丸瓦6133型式R種2点・軒平瓦6675型式A種・隅木蓋瓦・丸瓦・平瓦）、鎌倉～室町時代の土師器（杯皿類・羽釜）・瓦器碗、江戸時代の陶磁器碗である。

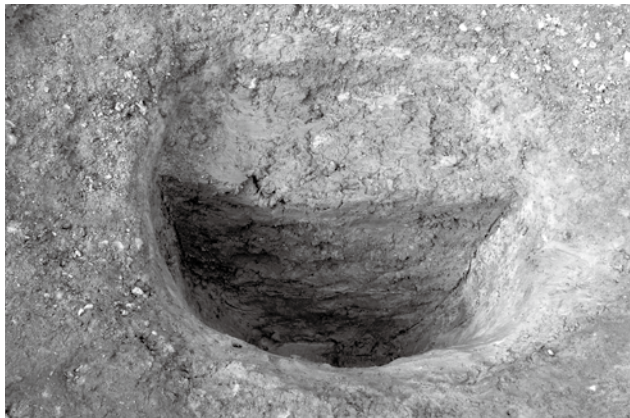
遺構ごとの出土遺物は一覧表にまとめ、特筆すべき遺物について述べる。

SK12出土遺物（1～20） 土師器甕・高杯・小形丸底壺・杯があり、小形丸底壺が占める割合（47%）が高く、次いで甕（21%）・高杯（15%）がある（器種不明・その他17%）。搬入・模倣品の判別は困難であるが、いわゆる外来系土器も確認できる。

甕（1～4）は、内外面ともに摩滅したものが多いが、いずれも口縁端部が肥厚し、頸部に強いヨコナデを施す。口縁部は内湾するもの（1・3）と直線的なもの（2・4）がある。1は、体部の外面がハケ調整、内面がヘラケズリで、頸部・底部の内面に指頭圧痕が多く残る。ほかに、S字状口縁甕（5）や、複合口縁甕の可能性のあるもの（6）がある。

小形丸底壺（7～15）は、摩滅したものを除きいずれも体部内面がヘラケズリ、頸部付近のみナデ調整を施す。外面調整は2種類あり、体部下半がヘラケズリ、体部上半が平滑でミガキを施したとみられるもの（7）と、ハケ調整のもの（8・9）がある。体部は均等な丸みを帯びるもの（7・11）と、中位に張りをもつもの（8・9・10・12・13）がある。7～13は体部高に対して口縁部高が低く、14は体部高に対して口縁部高が高い。15は複合口縁で、山陰系の特徴をもつ。

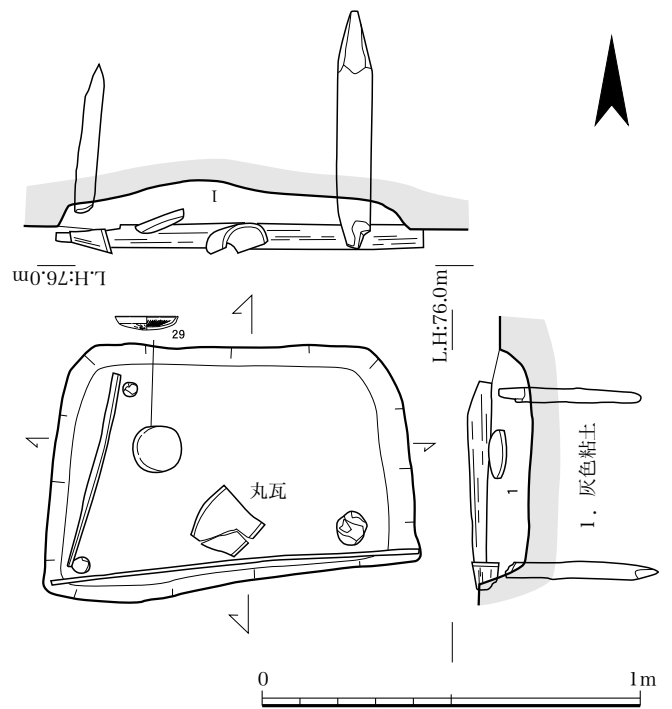
高杯（16～18）は、いずれも脚部と杯部の接合部に棒状工具の刺突痕跡がある。杯部は受部と口縁部の境の



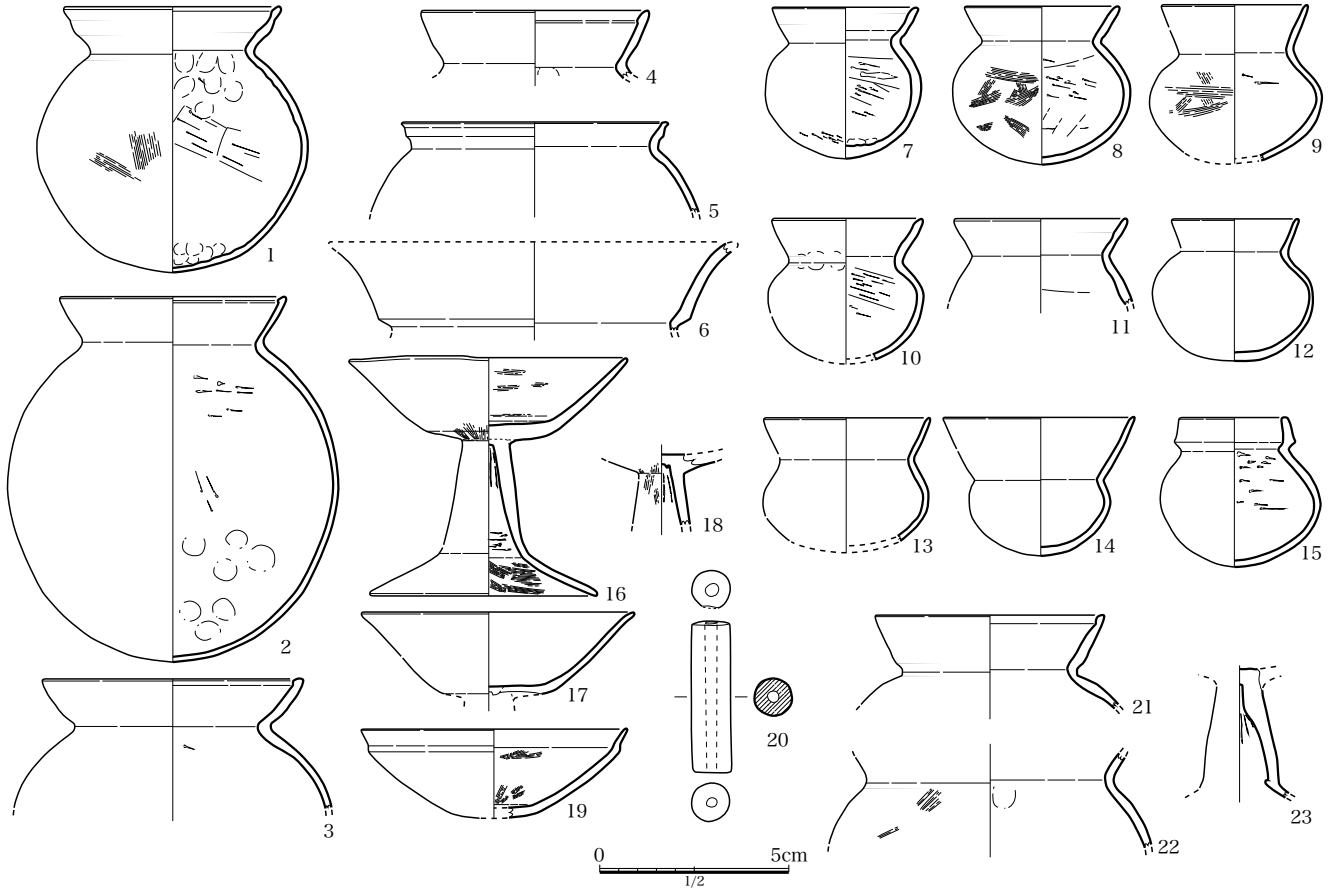
土坑SK 14（南から）



SX 17（南から）

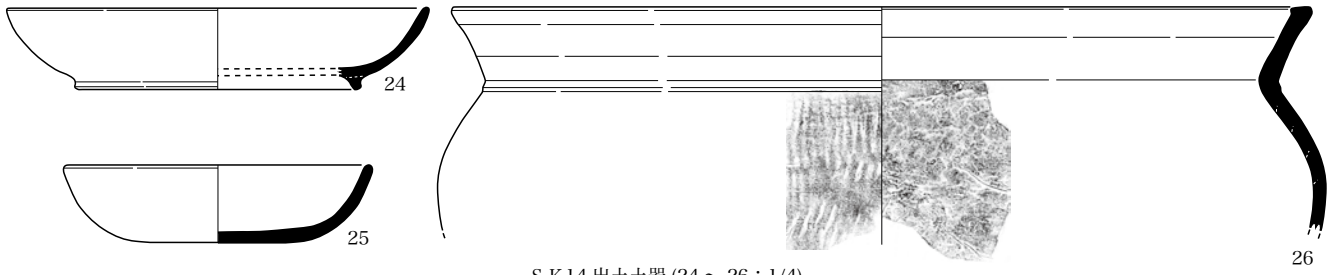


SX 17 平面・立面図（1/20）

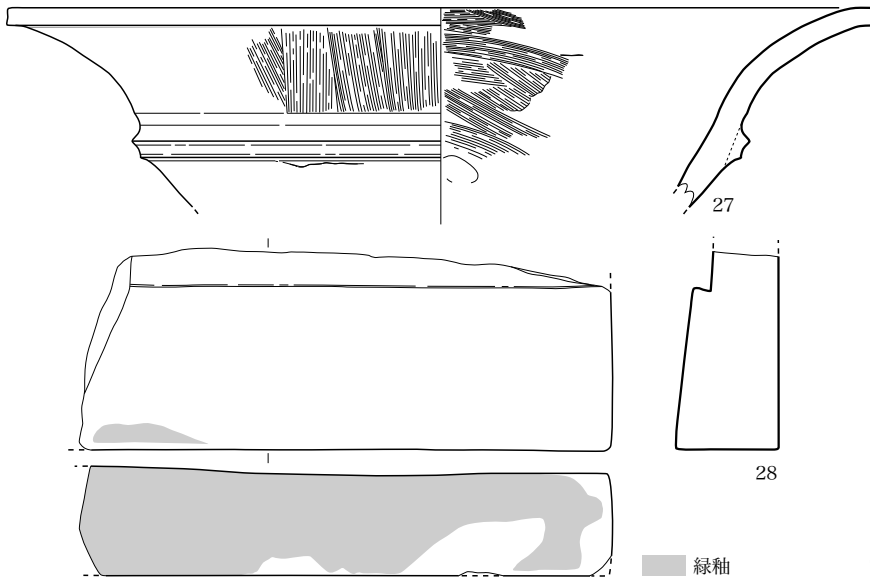


S K 12 出土土器 (1 ~ 19 : 1/4) ・管玉 (20 : 1/2)

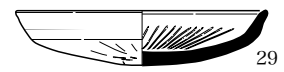
S K 13 出土土器 (21 ~ 23 : 1/4)



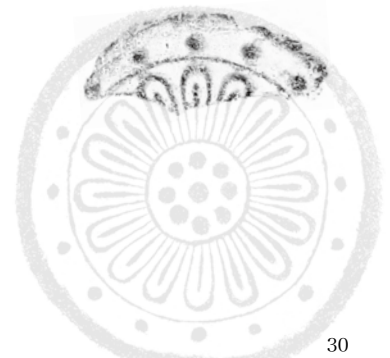
S K 14 出土土器 (24 ~ 26 : 1/4)



S K 15 出土朝顔形埴輪 (27) ・隅木蓋瓦 (28) 1/4



S X 17 出土土器 (29 : 1/4)



包含層出土軒丸瓦 (30 : 1/4)



S D 第 34 次 調査 出土遺物

稜が鈍く、口縁部が開く。17では口縁端部がやや外反する。脚部はややハの字状に直線的に開き、裾部へは緩やかに屈曲する。確実にわかる調整は、受部および脚部外面ハケ、脚部内面ヘラケズリ、脚裾部内面ハケであり、16では杯部内面にナデ調整後、横方向のミガキを施した痕跡がわずかに残る。杯（19）は、内面ハケ調整で、短い口縁部と体部の境が段をなす。

20は緑色凝灰岩製管玉で、長さ3.9cm、径1.0cm。

口縁部の発達したものと体部下半のみヘラケズリで上半はミガキの可能性のある小形丸底壺、稜が鈍くなりつつもミガキを伴う可能性のある高杯が存在する一方で、外面上半までヘラケズリの小形丸底壺や小形器台がないことから、布留2式新相～3式に位置づけられる。

SK13出土土器（21～23）土師器甕・高杯・小形丸底壺があるが破片が多い。甕の占める割合（86%）が高く、次いで小形丸底壺（9%）、高杯（5%）がある。

甕は、口縁端部が肥厚するもの（21）と、外面タタキ調整のもの（22）がある。高杯（23）の脚部は、脚柱部がやや膨れる形態を呈し、脚裾部を別途貼りつけることで屈曲を明瞭にしている。器面調整は不明瞭であるが、脚部と杯部の接合部に棒状工具の刺突痕跡、脚柱部内面に絞り目がみられる。

全体のわかる資料が乏しいため不明確であるが、SK12と比較して甕の割合が圧倒的に多いこと、タタキ甕が相伴すること、高杯の脚部の特徴からSK12よりやや古い可能性があり、布留2式ごろに位置づけられる。

SK14出土遺物（24～26）須恵器甕が主体であるが、土師器皿B（24）・杯A（25）、須恵器甕C（26）を凶化した。土師器皿Bの口縁部が開く傾向にあることから、8世紀後半～9世紀初頭に位置づけられる。

SK15出土遺物（27・28）SK14と同時期の土器類が出土したがいずれも小片である。凶化したものは、朝顔形埴輪（27）と隅木蓋瓦（28）である。27は、黒斑がなく窯焼成で、埴輪編年IV期に位置づけられる。なんらかの理由で混入した遺物であろうが、周辺に古墳時代中期の古墳は確認されておらず、今後注意が必要である。28は、長さ28.2cm以上、幅10.1cm以上で、長側面を中心に緑釉が付着する。

SX17出土遺物（29）土師器杯Cは、口径13.2cm、器高2.9cm。口縁端部が外傾し、内面に斜放射状暗文が施される。内外面に火を受けた痕跡がある。暗文を比較的密に施し、器壁も厚いことから8世紀中頃以前に位置付けられる可能性が高く、SK14・15の出土土器より古くなる可能性がある。

その他 包含層から西大寺創建瓦の軒丸瓦6133型式R種（30）が出土した。

V 調査所見

本調査では、古墳～室町時代についての下記の成果を得ることができた。

古墳時代 土坑SK12・13を検出した。出土した土器はいずれも甕・高杯・小形丸底壺からなるが、SK12が完形かつ小形丸底壺を主とするのに対し、SK13は破片が多く甕を主とする点で、両者の性格の違いが読み取れる。SK12で主となる小形丸底壺は、古墳や祭祀関連遺構から出土する機会が多く、甕との入れ子、高杯にのせられた状態が復原でき、完形品を主とすることや、管玉を相伴することをふまえると、土坑の用途は祭祀的な性格を想定できる。同様の事例には、調査地の南約1.5kmに位置する菅原東遺跡の市HJ第236次調査で、高杯に小形丸底壺をのせたものが倒れた状態で検出された土坑がある。また、管玉が古墳時代前期の祭祀土坑から出土した県内の例は、桜井市の纏向遺跡第117次調査例のみで、布留0式の土器と相伴する。祭祀土坑から玉類が出土する例は、古墳時代中期以降に増加するが、SK12はそれ以前の例として重要である。

奈良時代 掘立柱建物SB16、土坑SK14・15とSX17を検出した。『西大寺資財流記帳』によると、政所院には10棟の建物があり、いずれも檜皮葺であったことが記されている。記載された建物は全てSB16より大きく、政所院に関連する建物である可能性は低い。また、SX17出土土器も8世紀中頃以前に遡る可能性があり、これらの遺構は西大寺創建以前に遡る可能性がある。一方、包含層から西大寺創建瓦の軒丸瓦6133型式R種、土坑SK15から緑釉隅木蓋瓦が出土したことから、西大寺の寺域として土地利用されたことも確認できた。

鎌倉～室町時代 溝SD11を検出した。市SD第31次調査で確認した奈良時代の瓦を底に敷いた13世紀以降の溝状遺構SX11と位置が揃うことから、一連の溝と判断した。本調査ではこの時期の建物を検出していないが、市SD第31次調査では東西溝から南へ約10mの位置で掘立柱建物2棟を検出している。『金剛仏子観尊感身学正記』には、文暦二（1235）年に観尊が西大寺宝塔院持斎僧として西大寺に入った際に寺院の整備を行い、復興を進めたことが記されている。SD第31・34次調査で確認したこれらの遺構は、この復興整備に伴う可能性がある。

（村瀬 陸）

註）奈良市教育委員会「西大寺跡（政所院推定地）の調査 第34次」『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成24（2012）年度』2015

11. 上ノ口遺跡・中之庄上ノ山古墳の調査 第2次

事業名	有料老人ホーム新築	調査期間	平成26年5月12日～6月20日
届出者名	社会福祉法人 大和清寿会	調査面積	656㎡
調査地	窪之庄町721番地、田中町627番地	調査担当者	鐘方正樹・村瀬 陸

I はじめに

調査地は、笠置山地から奈良盆地に向かって派生した尾根上にあり、帯解黄金塚古墳の東約450mに位置する。敷地の南辺は天理市との市境で、両市にまたがる古墳（県遺跡地図第1分冊 8-B84）が含まれる¹⁾。古墳は書類上消滅したとされていたが、北および西側が削られているものの、墳丘の一部が現存していた。

この古墳は、明治26年に奈良県属の野淵龍潜によって調査・作成された『大和國古墳墓取調書』に記録が残っており、添上郡帯解村大字田中字上ノ山に壹畝三步（約109㎡）、同郡樅本村大字中之庄字上ノ山に四畝拾歩（約430㎡）、根廻四十五間（約81m）、高二間五分（約4.5m）の古墳が存在することが絵図とともに報告されている。また、大正14年の『奈良懸史蹟名勝天然記念物調査報告8』には、上ノ山が稍方形で約貳畝歩（198㎡）であることが記されており、明治26年から大正14年の間に古墳が大きく削られたことがわかる。その後の過程で消滅したと認識されたようである。『奈良県遺跡地図』では埴輪の出土が記されているが詳細は不明で、古墳に関する情報も上述の文献のみである。

上ノ口遺跡は、平成12年度に調査地西側で第1次調査を実施し²⁾、飛鳥時代の掘立柱建物2棟と溝1条を検出したことによって存在が明らかとなった。また、平成8年に調査地南西側で実施された天理市の発掘調査では、6世紀前半～中頃の土器・埴輪が出土した小林古墳を確認している³⁾。

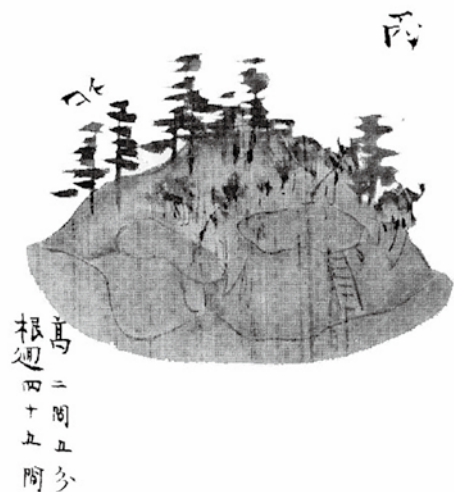
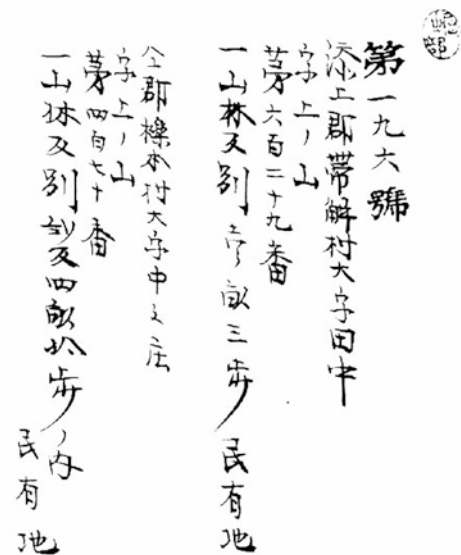
このため、本調査は上ノ口遺跡の広がりと同様相、削られた古墳の規模などの把握を目的に実施した。

発掘区は、古墳の残存状態を確認するためにA～D発掘区、計画建物建設範囲の東側にE発掘区、西側にF発掘区を設定した。調査開始後、古墳の墳丘裾が遺存することを確認したため、古墳の墳形や規模を明確にする目的で墳丘の周囲に発掘区（以下、墳丘発掘区）を広げて調査を行った。

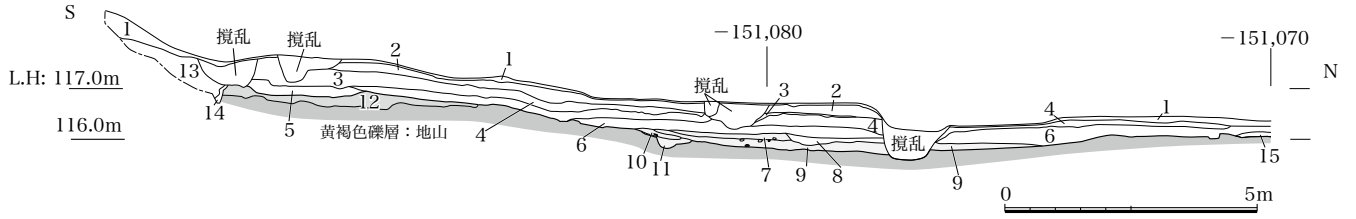
なお、本調査後、天理市・奈良県との協議を経て、奈良県による平成28年3月11日付の異動届により、古墳（県遺跡地図第1分冊 8-B84）は「中之庄上ノ山古墳」と命名された（以下、上ノ山古墳と記述）。



UK第2次調査 調査地位置図 (1/25,000)



上ノ山（『大和國古墳墓取調書』）



- | | | |
|-------------------------------|------------------------|---------------------------|
| 1 腐植土:表土 | 6 暗褐色粘質土(埴輪片含む) | 11 明黄褐色粘質土:周溝埋土 |
| 2 黄褐色粘質土(黄・赤褐色ブロック含む) | 7 暗褐色粘質土(礫混じる):周溝埋土 | 12 明黄褐色粘質土:墳丘盛土(地山ブロック含む) |
| 3 黄褐色粘質土(赤褐色ブロック含む) | 8 暗灰黄色粘質土 | 13 明黄褐色粘質土:墳丘崩落土 |
| 4 黄褐色粘質土 | 9 オリブ褐色粘質土:周溝埋土(埴輪片含む) | 14 暗褐色粘質土:現代の市境界溝埋土 |
| 5 黄褐色粘質土:墳丘崩落土(赤褐色ブロック、炭化物含む) | 10 黄褐色粘質土:周溝埋土(埴輪片含む) | 15 明黄褐色粘質土 |

UK第2次調査 B発掘区西壁土層断面図(1/150)

II 基本層序

層序は、古墳周辺とその北側の平坦面とで異なる。

古墳の墳丘盛土が削られた部分では、上から腐植土(厚さ0.1m)、近現代の堆積層である黄褐色粘質土(0.5m)、墳丘崩落土である黄褐色粘質土(0.1m)、しまりのある明黄褐色粘質土の墳丘盛土(0.3m)と続き、現地表下1.0mで黄褐色礫層の地山上面(標高116.7m)となる。周溝部分では、上から腐植土(厚さ0.1m)、近現代の堆積層である黄褐色粘質土(0.35m)、埴輪片を含む暗褐色粘質土(0.2m)と続き、その下にオリブ褐色粘質土の周溝埋土(0.2m)があり、現地表下0.85mで地山上面(標高115.5m)となる。

古墳北側の平坦面では、上から腐植土(厚さ0.2m)、埴輪片を含む暗褐色粘質土(0.2m)、明黄褐色粘質土(0.1m)と続き、現地表下0.5mで地山上面(標高116.1m)となる。

III 検出遺構

主なものは、古墳の墳丘裾および周溝、古墳北側の平坦面の地山上面で検出した掘立柱建物5棟、土坑5基、井戸1基、溝3条、木炭敷設遺構がある。詳細は一覧表にまとめ、特筆すべき遺構について述べる。

古墳時代以前の遺構

SK10 胎土の特徴から古墳時代以前の可能性がある土器片が出土した土坑である。土器片の器種等は不明である。後述する上ノ山古墳の築造以前に土地利用があった可能性を示す。

古墳時代の遺構

上ノ山古墳 天理市側に残る墳丘は、外観および測量では方形を呈していた。一方、墳丘が削られて平坦地となっていた奈良市側で、前方後円形を呈する墳丘裾(標高116.2~116.5m)と、墳丘に沿う幅約5m、深さ約0.2mの周溝を検出した。

後円部は、墳丘裾を全体の1/4程度検出し、その形

状から直径約27mに復原できる。前方部は北西方向にのび、くびれ部から先端にかけて削られていたが、約7m分を検出した。周溝はB発掘区で外側のたち上がりを確認しただけで、全体の形状は不明である。

以上の検出状態をもとに古墳の規模を復原すると、後円部径27m、前方部長7m以上、全長34m以上の前方後円墳となる。

周溝からは、6世紀前半~中頃の土師器・須恵器・埴輪(円筒・形象)、7世紀の土師器・須恵器が出土した。形象埴輪は主に北東側くびれ部付近の周溝から出土し、後円部の周溝からは主に円筒埴輪が出土したことから、形象埴輪はくびれ部付近にまとまって立て並べられた可能性が高い。削られた前方部周辺で6世紀前半~中頃の須恵器甕・器台などが密集して出土したことから、これらの土器が前方部上に置かれていた可能性が高い。

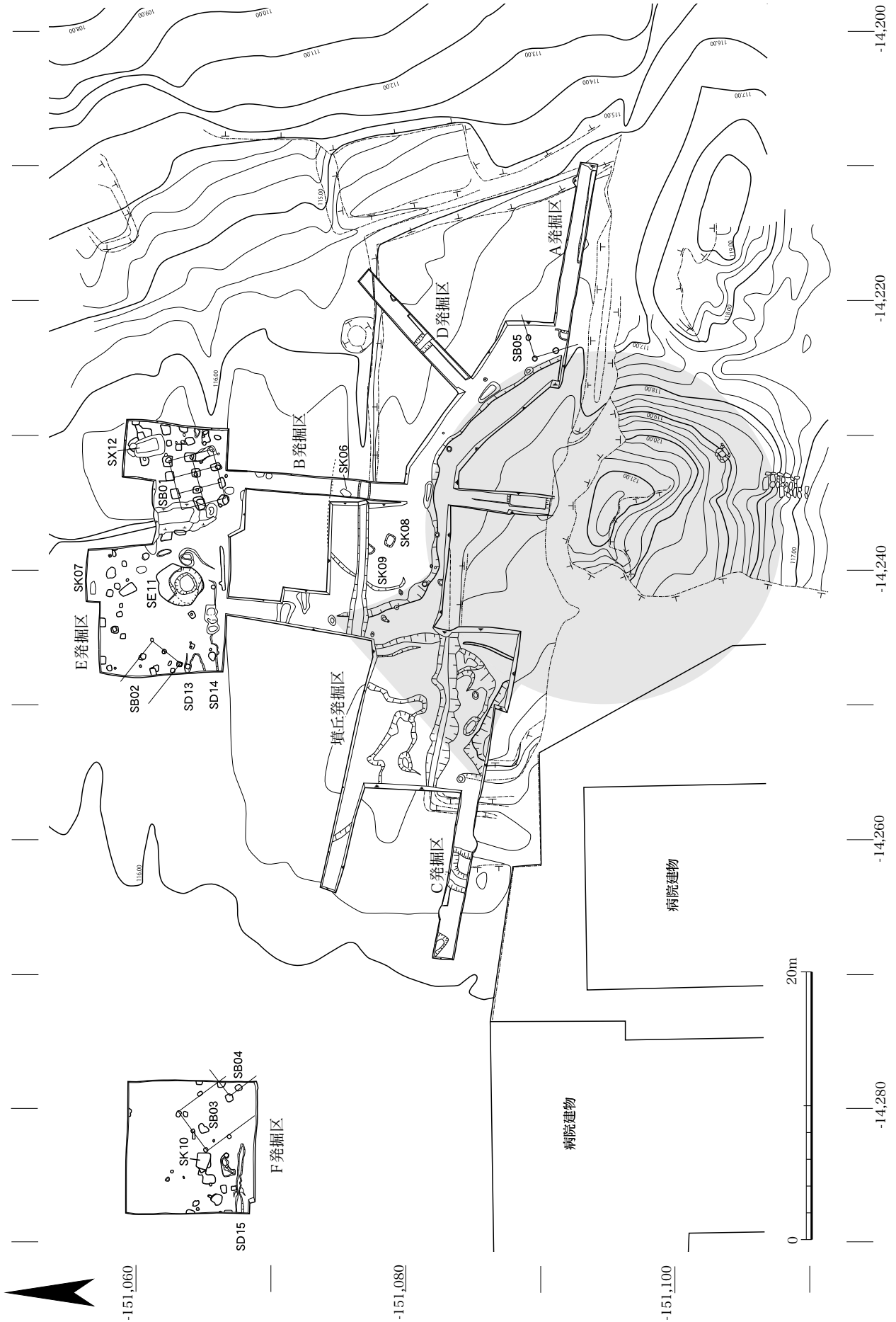
出土遺物の特徴から、古墳の築造時期は6世紀前半~中頃に推定できる。7世紀の土器は6世紀の土器・埴輪と混在して出土した。後述する飛鳥時代の遺構が北側にあることから、これと関連することが想定できる。

飛鳥時代の遺構

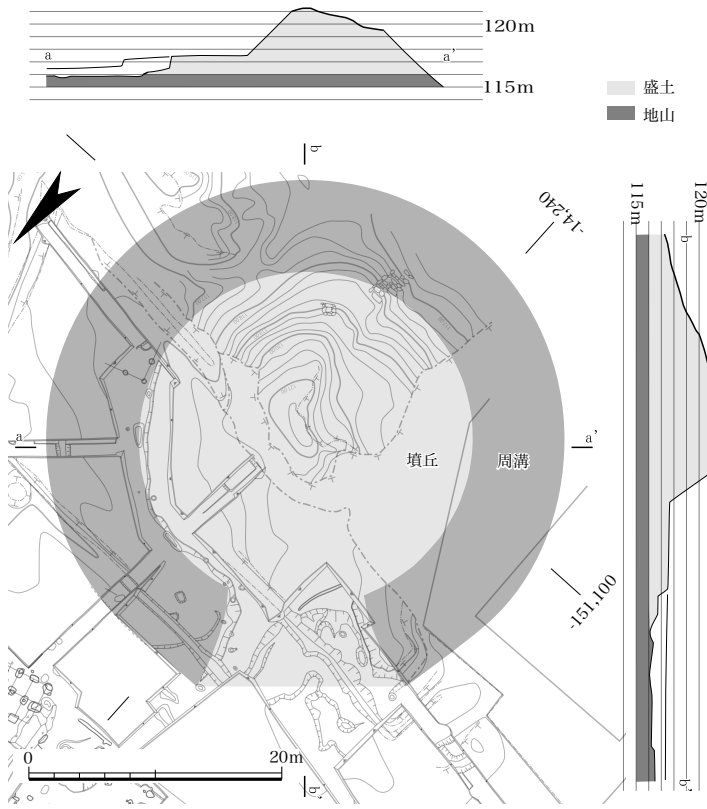
SB01 B発掘区で確認した3×2間の総柱建物で、北で西に振れる。一部の柱穴には、人頭大の石を礎板に用いる。柱穴から7世紀の土器が出土した。

SB02~05 SB04はF発掘区で検出した掘立柱建物で、柱穴から7世紀の土師器皿が出土した。SB02・03・05は出土遺物がないものの、SB04と柱穴の形状が似ることから、同時代の建物である可能性が高い。

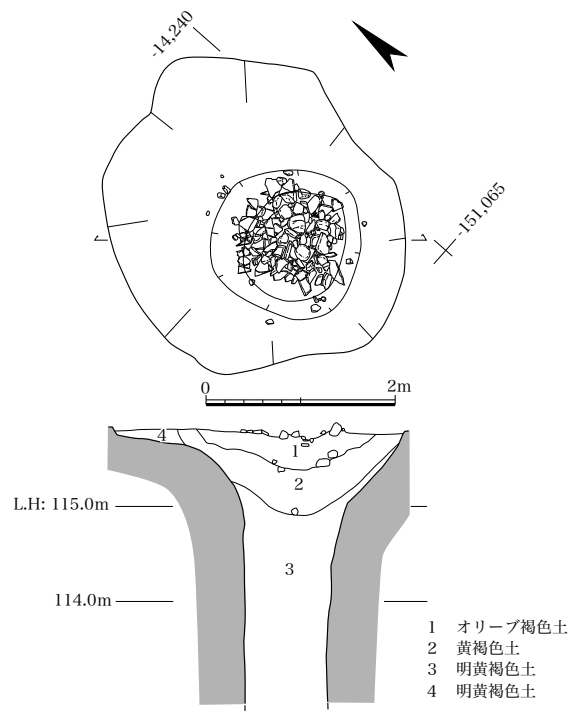
SE11 E発掘区で確認した井戸。掘方は平面不整形円形で、深さは2.9m以上。枠はない。埋土は上からオリブ褐色土(厚さ0.4m)、黄褐色土(0.5m)、明黄褐色土(2m以上)。最上層上面に溶結凝灰岩の板石が多数投棄されていた。7世紀の土器が出土したことから、建物と同時期であると考えられる。



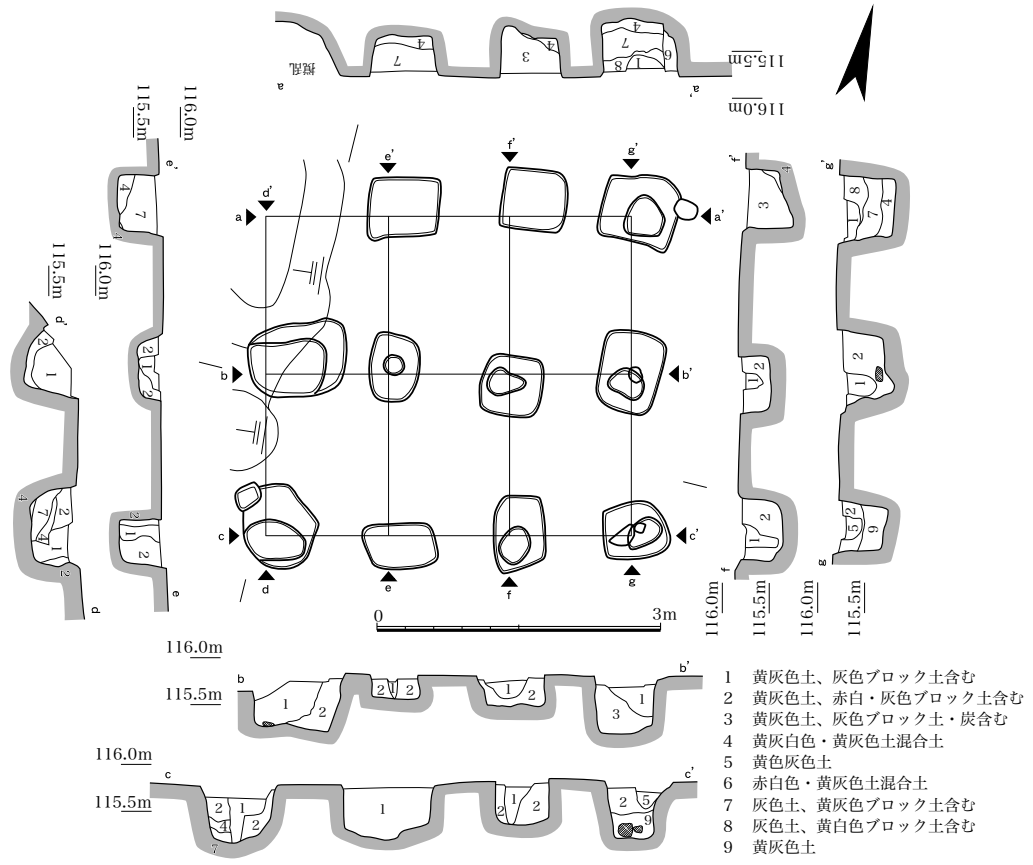
UK第2次調査 調査地及び発掘区平面図 (1/400)



上ノ山古墳 復原図 (1/600)



井戸 S E 11 平面・断面図 (1/80)



総柱建物 S B 01 平面・断面図 (1/80)

遺構一覧表

遺構番号	発掘区	棟方向	規模(間)	桁行全長(m)	梁行全長(m)	柱間寸法(m)		柱穴深さ(m)	時期	出土遺物	備考
			桁行×梁行			桁行	梁間				
S B 01	B	東西	3×2	4	3.4	1.2	1.5	0.2～0.5	7世紀	土師器、須恵器(杯)、埴輪	総柱建物
S B 02	E	東西	1以上×2	1.5以上	2.7	1.5	1.5	0.08～0.32	7世紀?	なし	
S B 03	F	南北	1以上×2	2以上	3.5	2	1.7	0.12～0.28	7世紀?	なし	
S B 04	F	不明	1以上×1以上	1以上	1以上	1	1	0.12～0.2	7世紀	土師器(皿)	
S B 05	墳丘	不明	1以上×1以上	1.8以上	1.6以上	1.7	1.7	0.4	7世紀?	土師器、埴輪	

遺構番号	発掘区	方向	規模(長さ×幅)(m)	深さ(m)	時期	出土遺物	備考
S D 13	E	東西	1.8以上×0.6	0.1	7世紀後半	土師器、須恵器	
S D 14	E	東西	1.8以上×1.3	0.15	7世紀後半	土師器(甕)、須恵器(杯B)	
S D 15	F	東西	6.5以上×0.7	0.21	7世紀	土師器、須恵器	

遺構番号	発掘区	平面形	規模(m)	深さ(m)	時期	出土遺物	備考
S K 06	B	長方形	0.84×0.43	0.12	7世紀後半以降	なし	焼土坑
S K 07	E	不整形	0.98×0.42	0.08		鉄釘、鉄片	焼土坑
S K 08	墳丘	隅丸方形	0.98×0.74	0.2	7世紀後半以降	なし	焼土坑
S K 09	墳丘	隅丸方形	0.72×0.62(残存)	0.08	7世紀後半以降	なし	焼土坑
S K 10	F	隅丸方形	1.5×1.3	0.12	古墳時代以前	古墳時代以前の土器	胎土等から古墳時代以前の土器の可能性あり。ただし、土器の器種・部位ともに不明。
S E 11	E	不整形円形	4.5(掘方長径) 1.5(底部長径)	3以上	7世紀前半～中頃	土師器(甕)、須恵器(杯G・杯H・甕)、埴輪、瓦	上面に溶結凝灰岩を集石し封じている。井戸枠、濾過装置等なし。
S X 12	B	長方形	2.3×1.4(掘方) 1.8×0.50～0.68(木炭敷設)	0.18	7世紀後半以降	土師器、須恵器(小片)	重複関係から、S B 01周辺の柱穴より新しい。時期不明の土器小片出土。木炭墓か。

SD13～15 SD14からは7世紀の土器が出土した。SD13は土器小片のみであったが、SD14と接続するため同時期を想定する。SD15からも7世紀の土器が出土した。これらの溝も、先述の建物や井戸と同時期と考えられる。

その他の遺構

SK06～09 いずれも壁面が赤く焼けた焼土坑。SK07は、鉄釘や鉄片を数十個含む焼土坑である。木材が出土しておらず規模も小さいことから、木棺を納めたとは考えがたい。SK07を除く焼土坑は、いずれも規模や埋土が類似することから同時期と想定できる。出土遺物はSK07の鉄製品のみで、時期は判断できない。SK09は上ノ山古墳の周溝埋土の褐色土上面から掘り込まれており、褐色土中から7世紀後半の須恵器杯Bが出土していることから、飛鳥時代後半以降と想定できる。

SX12 隅丸長方形の掘方内に長さ1.8m、幅約0.6m、深さ約0.2mの範囲で長方形の窪みがあり、このなかに木炭が敷かれていた。木炭周囲の壁面が焼けておらず、SK06～09とは明らかに規模や構造が異なる。鉄釘等の出土はないものの、木炭墓の可能性が考えられる。時期不明の土師器・須恵器小片が出土したが、胎土等の

特徴は飛鳥時代の遺構から出土したものに似る。重複関係からもSB01周辺の柱穴より新しいため、飛鳥時代後半以降と想定できる。

IV 出土遺物

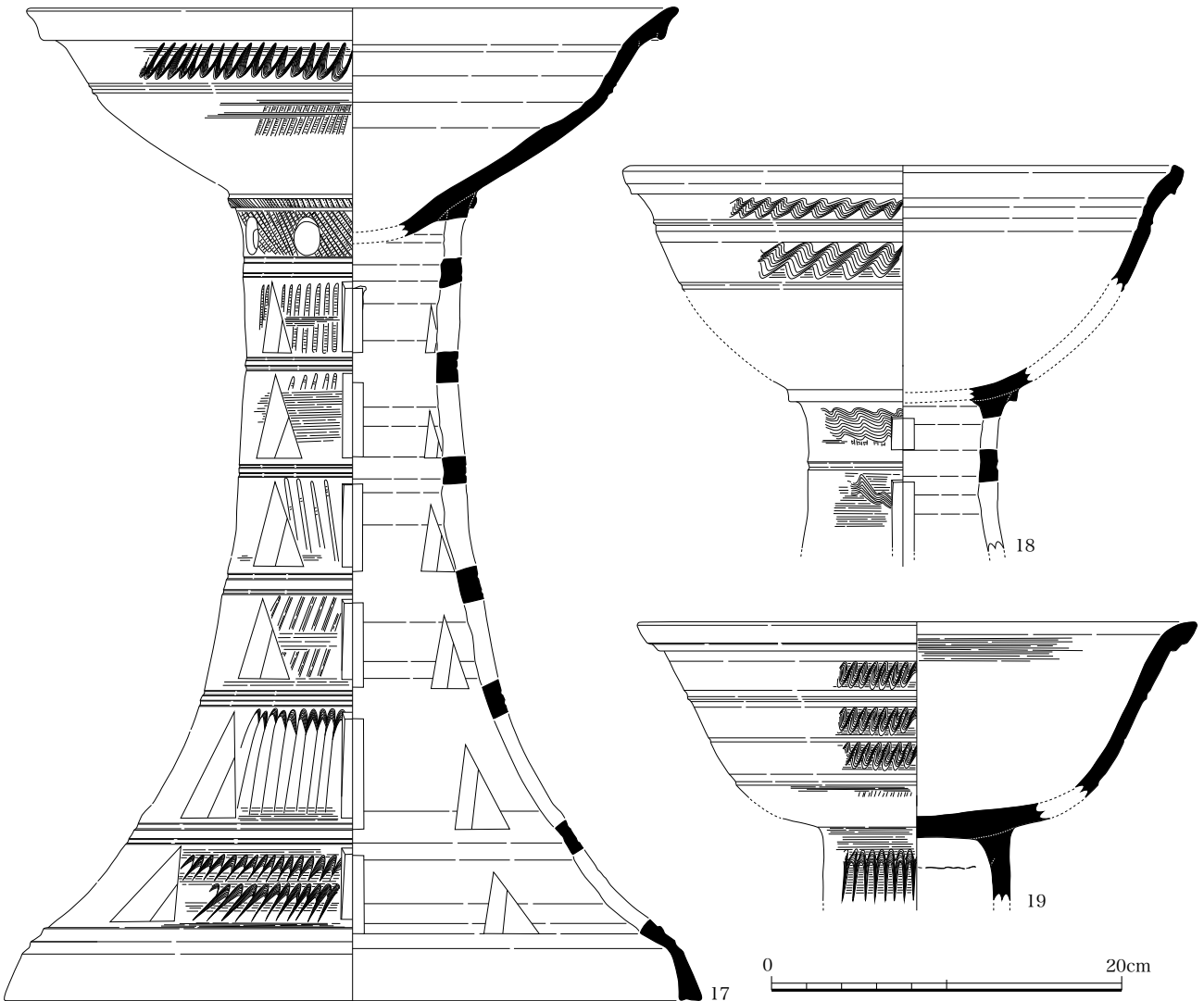
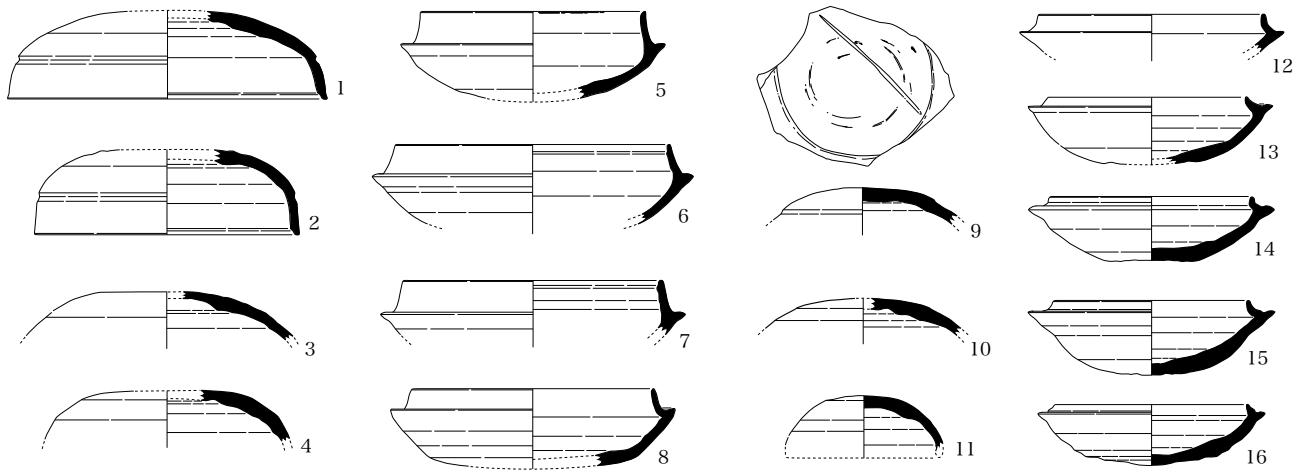
遺物整理箱19箱分がある。内訳は、6世紀前半～中頃の土師器(甕・高杯)・須恵器(杯身・杯蓋・甕・壺・高杯・器台)・円筒埴輪・形象埴輪(蓋・鞞・石見型・人物・馬・鳥・不明)、7世紀の土師器(皿)・須恵器(杯G・杯H・杯B・甕・壺)、7世紀の鉄製品(直刃鎌)、時期不明の鉄製品(釘・鉄板)がある。

上ノ山古墳出土遺物

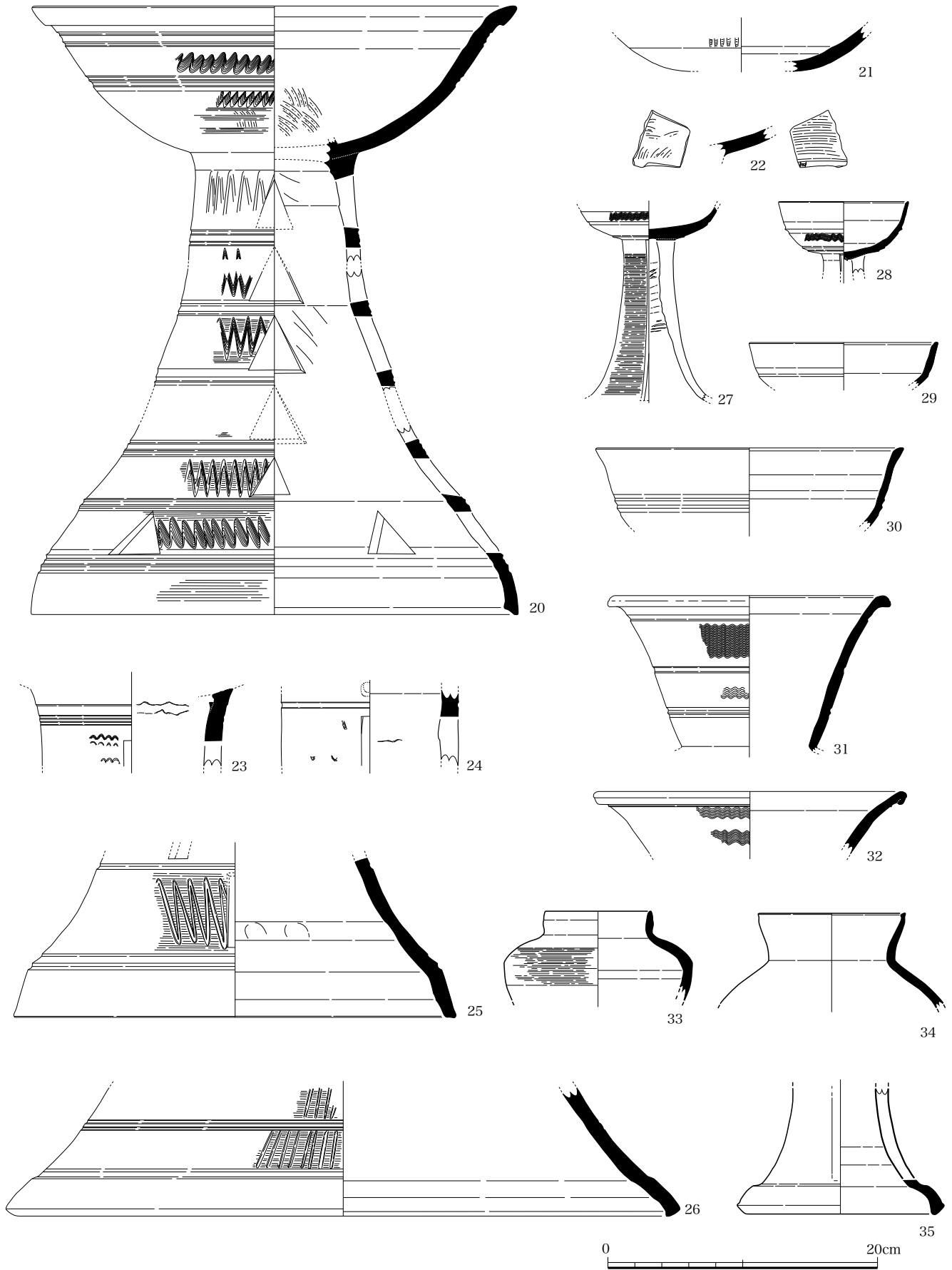
主に周溝と削られた前方部周辺で出土し、両者で接合するものがある。土器は前述のように古墳に伴うものと北側の飛鳥時代の集落に関連すると考えられるものがある。埴輪はすべて古墳に伴うものである。

須恵器 杯蓋(1～4、9～11)、杯身(5～8、12～16、40)、器台(17～26)、高杯(27～30)、壺(31～35)、甕(36～39)がある。

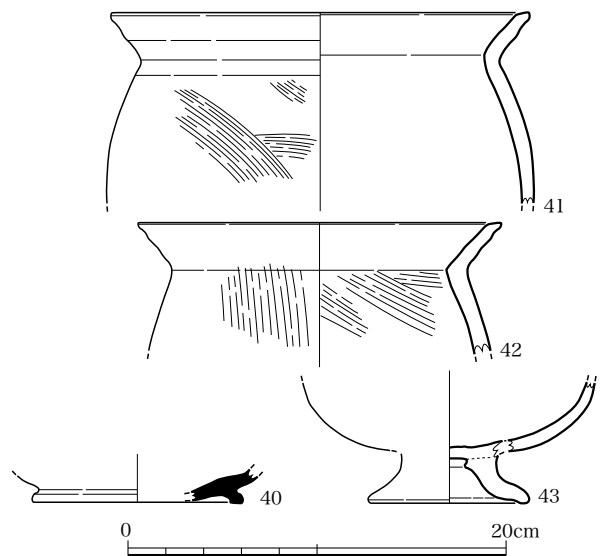
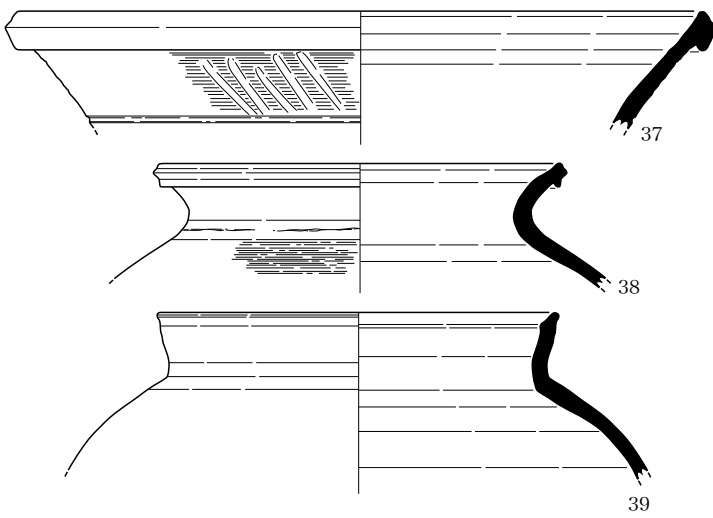
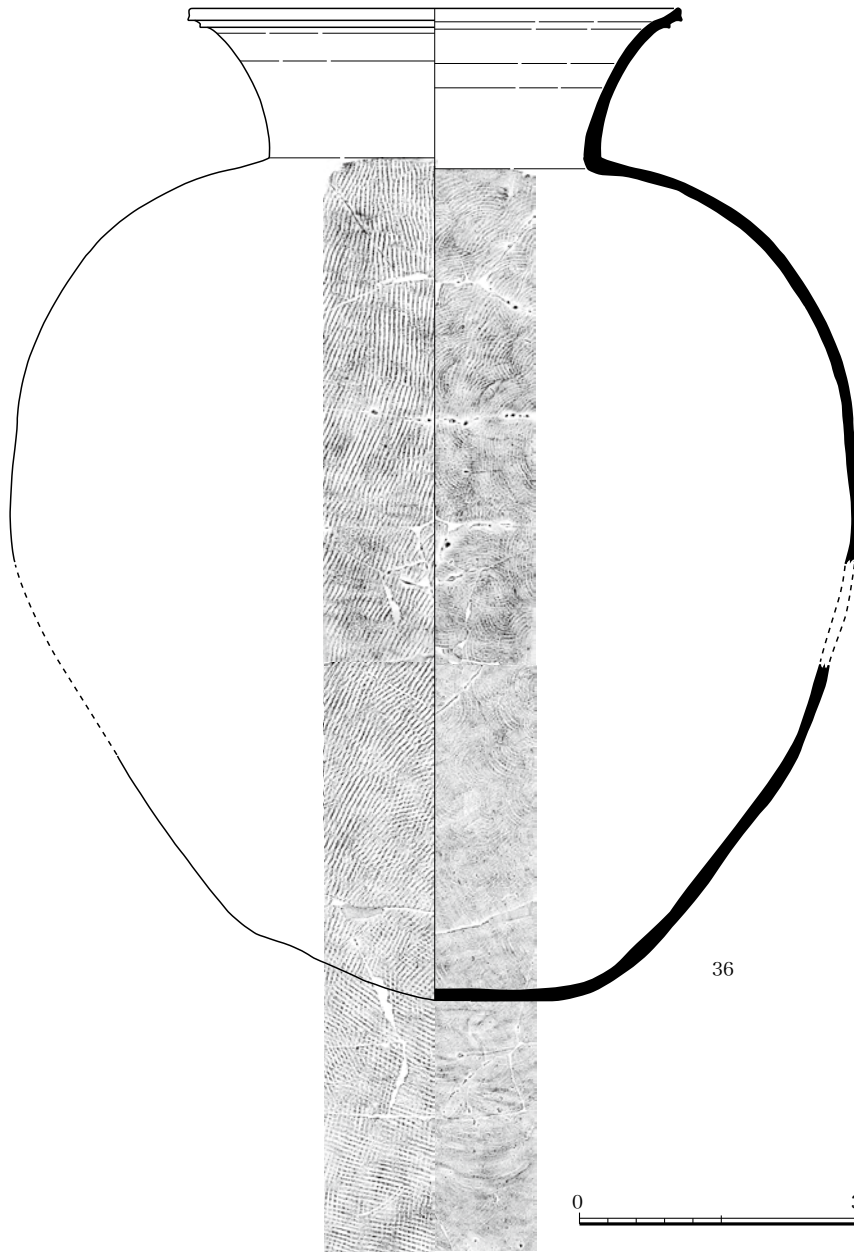
蓋杯は田辺編年MT15～TK10型式のもの(1～8)、これより法量が小さく調整が粗雑なTK209～TK217型式のもの(9～16)がある。周溝出土の杯B(40)



出土土器① (1/4)



出土土器② (1/4)



出土土器③ (36 : 1/8、37 ~ 43 : 1/4)

は飛鳥編年⁴⁾の飛鳥Ⅲ以降の特徴をもつ。

器台は、杯部片が4個体分、脚部片が5～6個体分あり、最低でも5個体以上確認できる。全体の形状が復原できた個体は2点ある。17は復原口径36.6cm、復原器高56.6cmで、脚部が8段構成の高脚化したもの。20は復原口径35.6cm、復原器高45.0cmでやや短脚なもの。

高杯は、27・28が高脚1段3方向透かしで脚部カキメ、杯部下半に波状文を施す。これとは別にTK43～209型式の高杯(29)があるほか、復原口径22.6cmで大型の杯部をもつ高杯(30)がある。

壺には、口縁部がハの字に開いて波状文を施し、器台とセットになり得るもの(31・32)、口縁部が短いもの(33)、透孔があるやや高脚の台付壺になり得るもの(35)などがある。

甕は、蓋杯と同じくMT15～TK10型式のもの、7世紀代のものがある。前者(36～38)は、口縁端部外面に突帯を貼り付けている。全形を復原できる36は、復原口径51.4cm、復原器高104cm。後者(39)は、口縁部は直立気味で端部に平坦面をもつ。

土師器 甕(41・42)と短脚高杯(43)がある。甕は内外面ともにハケ調整で、42は頸部までハケ調整が残り屈曲が大きい。口縁は直線的にのび、端部には平坦面をもつ。43の杯部は、脚底径に対して口径が大きい碗形である。中空の脚部を作った後、杯部をのせて接合する。

円筒埴輪 全てが埴輪編年V期のものである。

全体をおよそ復原できた個体(1)は、4条突帯5段構成である。形状は底部から口縁部にかけてハの字に開く。底部は板押圧により調整し、外面タテハケ、内面ナデ調整を基調とする。5段目内面にハケ調整が確認でき、口縁部付近のみハケ調整を施す。2段目と4段目に直交して2孔1対の円形透孔がある。突帯間隔は約10～12cmとばらつきがある。突帯の貼り付け方法は不明瞭であるが、3・4などで断続ナデ技法Aの痕跡を確認できることから、突帯間隔設定技法を用いない可能性が高い。1などで断続ナデ技法の痕跡が不明瞭なのは、突帯を丁寧にヨコナデ調整しているからであろう。丁寧な製作の痕跡は13でも確認でき、口縁部外面にタテハケ調整、内面ハケ調整を施した後、再度外面に横方向のハケ調整を施しており、この調整に伴う指頭圧痕が内面ハケ調整の上から確認できる。

底部径は、15cm前後のものを中心とし、20cm前後、30cm前後の中・大型品も存在する。焼成には土師質と須恵質が認められる。須恵質の11・12は同一個体と考えられ、焼け歪みが激しい。このような不良品も供給されて

いたことを示す。

石見型埴輪 断片的な破片であるが、部位がわかるものを図示した。1・2は形象部上面の破片である。いずれも上2面の鱗端部に上方から刺し込んだ穿孔がある。上1・2面の境界側面に、表裏を挟むように粘土が貼りつく。同様の事例は、菅原東遺跡SD03出土資料⁵⁾で確認できるが類例は少ない。3は上辺の割り部で、その下に穿孔がある。4は中央分割帯付近でくびれ部中央の内外面に粘土の貼りつけが認められる。奈良市率川古墳から、中央分割帯表面全体に粘土を貼りつけた例があり⁶⁾、これと関連する可能性がある。5・6は下半端部で、6の端部には穿孔がある。同一個体であるかは不明であるが、すべて無文で形態的特徴は似る。

人物埴輪 腕の破片が3点あり、胎土等が類似することから同一個体の可能性がある。7は、小壺をもつ女性埴輪である。腕は中実で、手の表現は親指とその他に分かれただけの抽象的なものである。手首～肘にかけては、扁平な粘土の下に粘土をつけ足すことで腕の膨らみを表現している。9は肩部で、袈裟を沈線と刺突で表現する。内面で腕との接合方法が明瞭に観察でき、口の空いた肩部に中実の腕部をさし込み、外面を丁寧にナデ調整することで接合している。

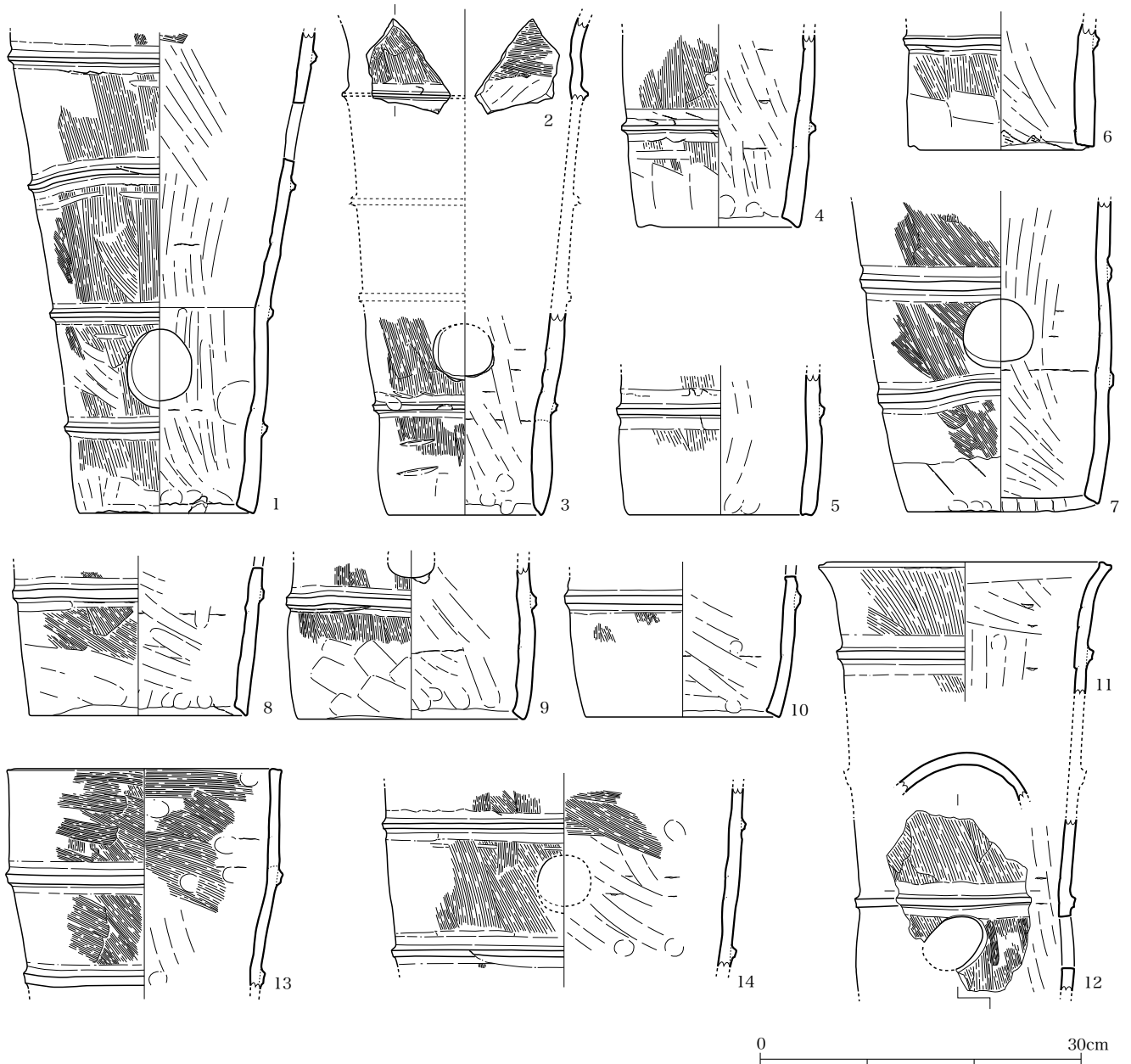
馬形埴輪 各部位の断片的な破片のみで、胎土等から同一個体と考えられる。10はタテガミで、先端の片側のみ粘土を貼りつけて厚く成形する。11は馬鈴で、裸馬ではなく飾り馬であることがわかる。鈴は板状工具で切れ込みをいれ、粘土板に押しつけて貼りつけている。円形粘土を貼りつけて鋳を表現している。12は鞍で前輪または後輪の一部である。端面と片面縁部に鋳状の円形粘土を貼りつける。13・14は脚部で、脚下端部に突帯を貼りつけて蹄を表現する。

蓋形埴輪 立ち飾りと、笠部がある。

立ち飾りには下半に抉り込みがある個体(19・20)とない個体(15)があり、前者が後者よりやや大型である。いずれも無文でナデ調整である。立ち飾り先端は切り込みがないもの(17・18)である。比較的残存度の高い15では、積み上げ休止部に沿って割れており、乾燥工程を挟みながら製作したことがわかる。

笠部(16)は、全体をナデ調整し無文である。軸受部下端に明瞭な突帯をもつ。台部は膨らみをもって下半が窄まる形状を想定できる。接合痕の観察によって、台部から短めの笠基部を貼りつけ、さらに先端部を貼りつけた痕跡を確認できる。

鳥形埴輪 22は羽の一部と考えられる。表面に羽を表



円筒埴輪 (1/6)

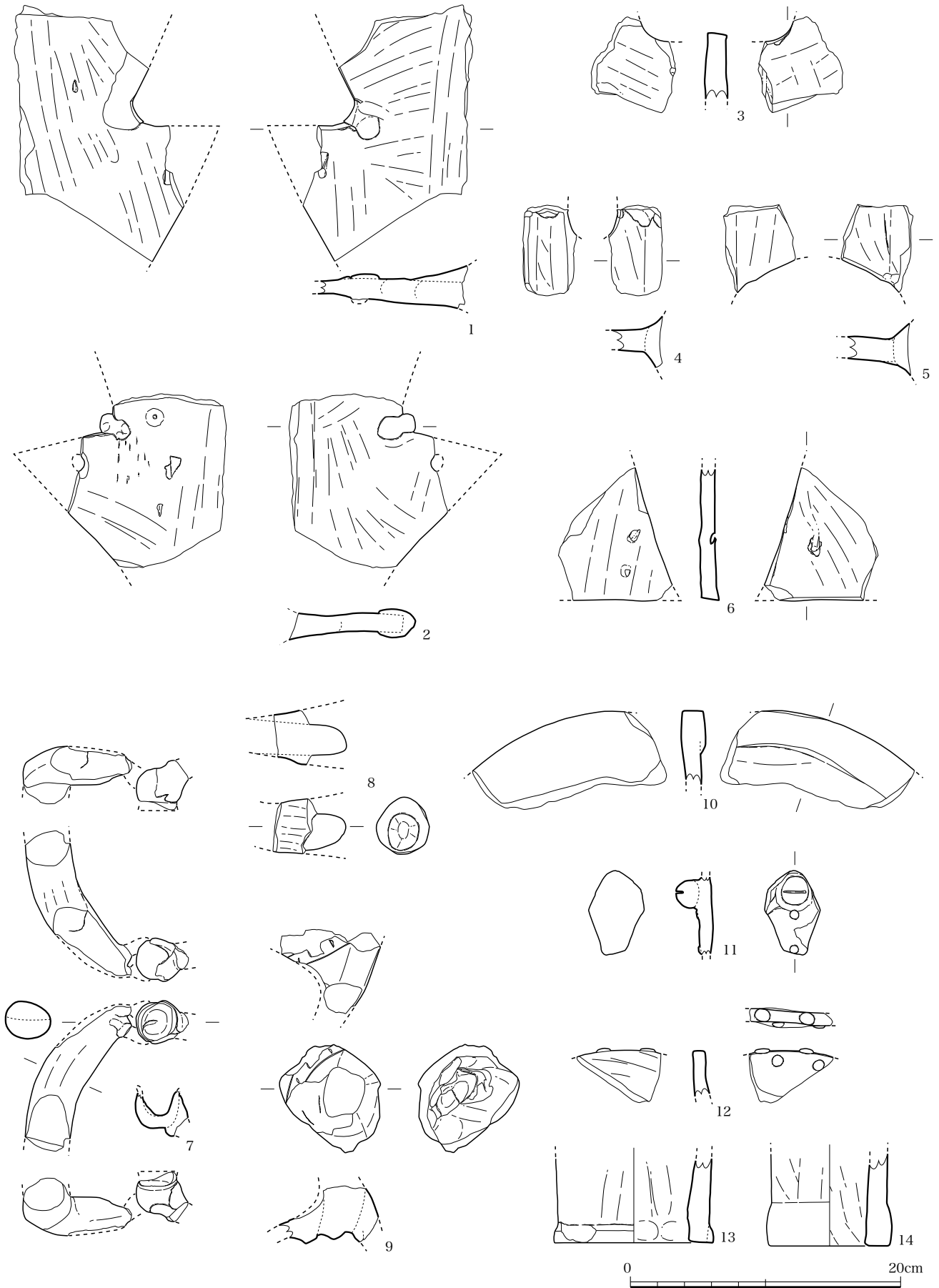
現した沈線が施され、裏面には体部から剥離した痕跡が確認できる。

靱形埴輪 鏃部、飾板があり、両者は胎土が酷似することから同一個体と判断した。全体の形状は不明確である。鏃部(23)は、5本以上の矢の柄部が沈線で表現され、その下に円形粘土が剥離した痕跡が横並びで4つ残る。右側に矢筒部との接合面が残存していることから、矢筒部に鏃部を上からさし込む形態を推定できる。飾板(24・25・26)は古墳時代後期に出現する奴舩形と類似した形状に復原できる。外周を沈線で縁取りし、側面に鋸歯文、上辺に格子文が線刻される飾板の上辺に二重沈線による連弧文、矢筒部上方に格子文の線刻が認めら

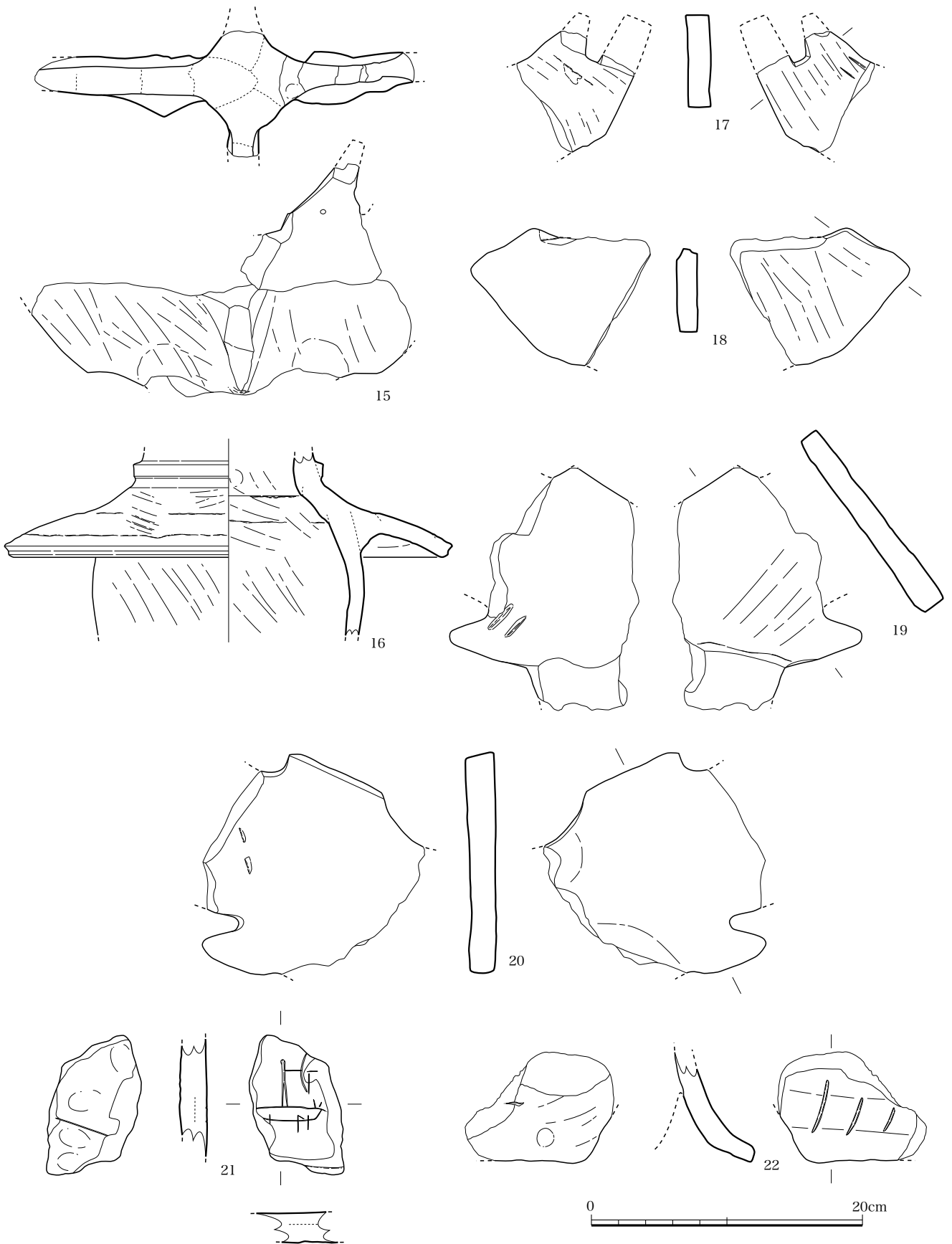
れる。下部に1条の突帯があり、以下基部となる。飾板側面はヘラケズリされている。また、基部と飾板の接合面で剥離した部分には縦方向の刻み目が確認できる。基部成形後、刻み目を入れて飾板を貼りつけ、補充粘土で固定し、奴舩形に切って成形した過程がわかる。

胎土・焼成の似る27は、同一個体になる可能性もあるが、沈線間に櫛歯文を認める点で、盾形埴輪など別の形象埴輪である可能性が高い。

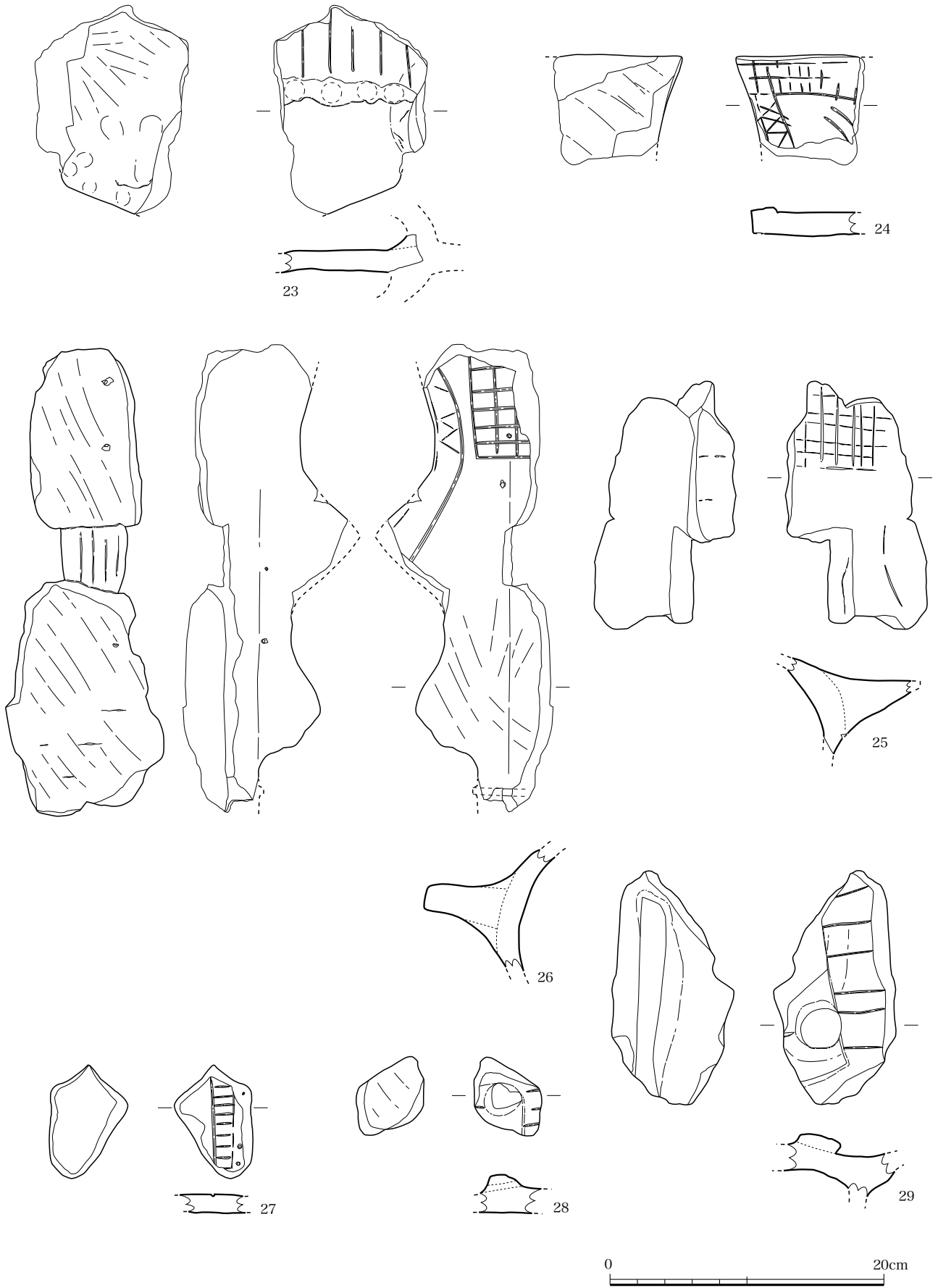
絵画埴輪 21の埴輪片には絵画が沈線で描かれている。接合部に補充した粘土の上面に描かれたことが断面観察を確認でき、湾曲がないことから、家形埴輪の破片の可能性が高い。長さ10.3cm、幅7.0cmで、表面に弓矢



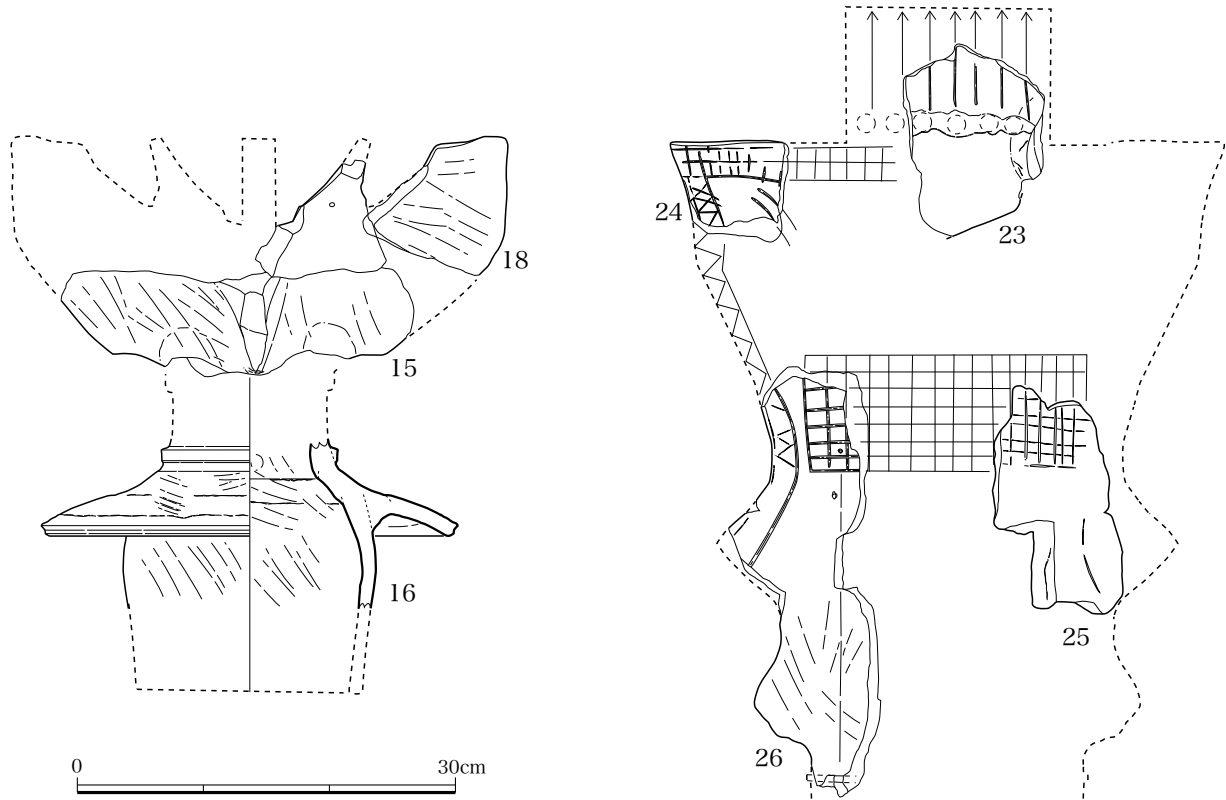
形象埴輪① (1/4、1~6 : 石見型、7~9 : 人物、10~14 : 馬形)



形象埴輪② (1/4、15～20：蓋形、21：絵画、22：鳥形)



形象埴輪③ (1/4、23～27：鞍形、28・29：その他)



形象埴輪復原図 (1/6、左：蓋形、右：鞍形)

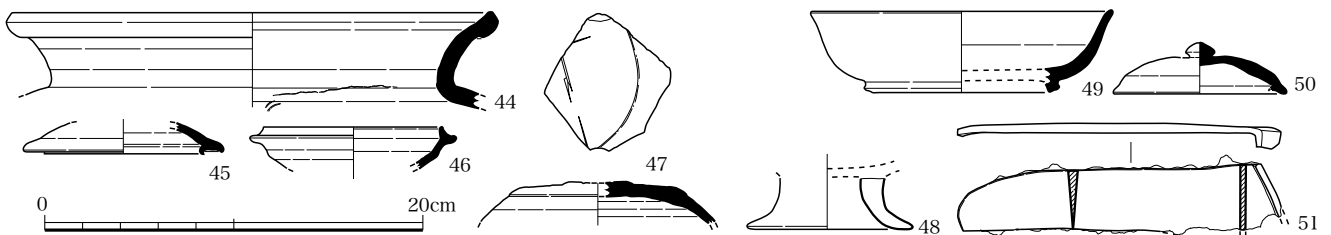
を射る人物と動物が描かれている。人物は、わずかに膨らみのある頭部から胸部をへて、二股に分かれる足がのび、棒状の腕が胸部から水平に右へのびる。矢は手から離れているので、射った瞬間の場面と考えられ、弓は弦と弓幹が左右入れかわった形状である。動物は四足と推定でき、2本の耳が頭部に表現される。首のあたりにわずかな屈曲点がある。内面は表面に比べ指頭圧痕が目立つが、1条の沈線が認められる。

絵画は、動物を馬とみれば騎射人物、あるいは弓を射る人物と猟犬を描いたとみれば狩猟の場面の可能性が考えられる。

その他の形象埴輪 28・29は形状や胎土から同一個体と考えられる。粘土を貼りつけて盛り上げた部分に円形粘土を貼りつける。また、平行する沈線を数条刻む。



絵画埴輪 (図：形象埴輪②-21)



出土土器⑤・鉄製品 (1/4)

飛鳥時代の遺物

SE11出土土器 土師器短脚高杯(48)、須恵器甕(44)・杯蓋(45・47)・杯身(46)がある。蓋杯は、矮小化した杯G蓋と杯Hが共伴しており、飛鳥編年の飛鳥Ⅱの特徴をもつ。

その他出土遺物 SD14から出土した杯B(49)、F発掘区で表採した杯G蓋(50)は7世紀代のもので、調査地一帯に飛鳥時代の集落が広がっていたことを示唆する。直刃鎌(51)は、南側くびれ部周溝付近から出土したもので、直線的にのびる刃先に対して折り曲げが斜めになることから7世紀代の特徴をもつ。

V 調査所見

本調査では、古墳時代後期の古墳1基と、飛鳥時代の集落遺跡を確認することができた。

中之庄上ノ山古墳について

上ノ山古墳は明治時代に確認され、大正時代までの畑地造成に伴い削られたことで以後消滅したと認識されていたが、本調査によって6世紀前半頃に築造された全長34m以上の前方後円墳であることが判明した。埋葬施設は未確認であり、後世の大規模な改変の影響で墳丘や周濠の形状や規模に不明な点は残るが、出土遺物から下記の見解を得ることができた。

須恵器器台は、墳頂または石室内に配置される場合が多く、奈良県内では古墳時代後期以降に出土が増加する。通常はひとつの古墳に対して1・2個出土することが多いが、例えば葛城市大和二塚古墳で5個、平林古墳で4個といったように、首長墳に位置づけられる古墳には複数個体確認できる場合がある。このことから、5個以上を確認できる上ノ山古墳は、これらに匹敵する首長墳である可能性がある。器高104cmに復原できる大甕は、これを追認する資料と言える。これらの須恵器は、削られた前方部周辺からまとめて出土し、原位置を保たない

ものの、前方部上に配置されたと推測できる。

一方、形象埴輪はくびれ部にまとめて配置されていた可能性が高い。多種多様な形象埴輪を用いた葬送儀礼は、古墳時代後期の前方後円墳で散見され、調査地に近いところでは、天理市荒蒔古墳や小墓古墳などがある。

これらの成果は、帯解地域における古墳時代後期の地域首長墳の様相の解明につながるとともに、帯解黄金塚古墳出現に至るまでの動向を考える上でも重要である。

飛鳥時代の集落について

上ノ山古墳の北側平坦面には7世紀代の集落が広がることを確認した。立地関係から、集落を形成した集団は上ノ山古墳の被葬者と何らかの関係があることが想定できる。また、井戸SE11の上面に投棄された溶結凝灰岩は、周辺で産出するものではなく遠隔地から運んできたものである。石材は板状に加工されており、使用することを目的としたことがわかる。同様の石材は、西約450mに位置する帯解黄金塚古墳の礎室に用いられている。黄金塚古墳の詳細な時期は不明であるが、埋葬施設や外護施設の形態、わずかに出土した土器から7世紀前半～中頃と推定されている。本調査で確認した集落と時期・立地が近接し、両者の関係性を示唆する。奈良市域で飛鳥時代の遺跡は少なく、その実態を考える上でも重要な成果が得られた。(村瀬 陸)

- 1) 奈良県教育委員会『奈良県遺跡地図』1971
- 2) 奈良市教育委員会「上ノ口遺跡の調査 第1次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成12年度』2002
- 3) 天理市教育委員会「小林古墳群」『天理市埋蔵文化財調査概要報告書 平成8・9年度』2003
- 4) 西弘海『土器様式の成立とその背景』真陽社 1988
- 5) 奈良市教育委員会「平城京右京三条三坊七坪・菅原東遺跡の調査 第257-2次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成5年度』1994
- 6) 鐘方正樹「率川古墳と外京条坊および出土埴輪」『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成18(2006)年度』奈良市教育委員会 2009



UK第2次調査 調査地遠景(西から)



同左(東から)



UK第2次調査 調査地遠景(北東から)



上ノ山古墳 全景(北西から)



上ノ山古墳 後部墳丘裾と周溝(東から)



上ノ山古墳 削られた後部部と土層(北から)



総柱建物SB01(北から)



SX12(窪み内に木炭、北から)



E発掘区 全景(北西から)



井戸SE11 断面(南西から)



土坑SK07(南西から)



土坑SK08・09(北から)



F発掘区 全景(東から)



現在の中之庄上ノ山古墳(北西から)

12. 試掘調査一覧

調査次数	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積	事業者/事業内容	届出受理番号
2014-1	平城京跡（左京三条七坊二坪） 奈良町遺跡	中筋町 31 番 1 他	H26.6.30	6 m ²	(公財) 自転車駐車場整備センター/自転車駐車場設置	H26.3147
黄色礫混じり粘質シルトの地山上面（標高：82.1～82.4 m）で江戸時代以前の土坑を検出。工事立会に対応。						
2014-2	平城京跡（右京一条四坊十・十五坪）、 西大寺跡	西大寺新池町 1599-1 他	H26.9.17～ 9.19	84 m ²	個人/宅地造成	H26.3114
明黄褐色砂もしくは橙白色粘土の地山上面（標高：89.6～91.0 m）で江戸時代の落込みを検出。工事立会に対応。						
2014-3	古市遺跡	古市町 1697-1	H27.1.21～ 1.27	58 m ²	(有) トライアングル/有料老人ホーム・通所介護施設新築	H26.3367 H26.3368
褐色礫土の地山上面（標高：95.9～96.5 m）で遺構検出を行うが、検出遺構なし。工事立会に対応。						
2014-4	特別史跡・特別名勝平城京三条二坊宮跡庭園	三条大路一丁目 5-37	H27.3.2	12.01 m ²	奈良市長/特別史跡・特別名勝 平城京左京三条二坊宮跡庭園 保存整備事業	H26.1038
奈良時代の園地護岸立石据え方、池外側整地土の広がりを確認。遺構を養生し、保護を図る。						
2014-5	平城京跡（右京七条四坊十三・十四坪・西四坊大路）	七条西町二丁目 1099 他	H27.3.16～ 3.23	352 m ²	市民生活共同組合 ならコープ/店舗新築	H26.3314
丘陵北斜面の地山上面（標高：80.4～86.4 m）で奈良時代以降の掘立柱列、溝、土坑を検出。慎重工事に対応						

13. 遺跡有無確認踏査一覧

No.	踏査地	事業者	事業内容	事業面積	届出受理番号	踏査期日	踏査所見
1	小倉町 185 番地、都祁白石町 1396	(株) 洗陽電気	太陽光発電設備設置	25448.23 m ²	H26.4001	H26.4.30	遺跡は存在しない。

14. 工事立会一覧

No.	届出・申請受理番号	遺跡	届出・申請地	届出・申請者	事業内容	現況	立会調査	
							日付	結果
1	H25.3514	右京五条六坊十四坪奈良町遺跡	北京終町 34-1 他、瓦堂町 12-2 の一部他	(株) さやか	店舗新築	宅地	H26.4.1	GL-0.3～0.6 mまで掘削、黒灰色土内
2	H25.3453	左京四条五坊七坪	杉ヶ町 32-1 番地	大阪ガス (株)	ガス管敷設	道路	H26.4.7	GL-1.25 mまで掘削、盛土内
3	H25.3389	左京三条六坊十坪奈良町遺跡	西御門町 16-1	(株) 上村ビル	個人住宅建設	宅地	H26.4.8	GL-2.2 mまで掘削、GL-1.4 mで地山確認
4	H25.3403	松林苑跡	歌姫町地内（歌姫町 1423 付近）	奈良市長	河川改修工事	水路	H26.4.9 H27.1.8	GL-0.7 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認 GL-1.3 mまで掘削、暗灰色土内
5	H25.1078	史跡大安寺旧境内附石橋瓦窯跡	大安寺二丁目 1309-2	奈良市長	大安寺小学校	学校	H26.4.22	GL-1.1 mまで掘削、GL-0.45 mで焼土層、同-1 mで地山確認
6	H25.3330	左京二条六坊十三・十四坪、奈良奉行所跡	北魚屋東町	(大) 奈良女子大学	エレベーター増築	学校用地	H26.4.9 H26.4.24	GL-2.2 mまで掘削、GL-1.8 mで地山確認 GL-4.1 mまで掘削、GL-3 mで地山確認
7	H25.3481	左京四条六坊十三坪奈良町遺跡	阿字万字町 20-1	個人	個人住宅建設	宅地	H26.4.11	GL-0.7 mまで掘削、GL-0.5 mで地山確認
8	H25.3485	左京一条三坊五坪・一条南大路、法華寺垣内古墳	法華寺町 1241-11	個人	個人住宅建設	宅地	H26.4.23	GL-0.15 mまで掘削、盛土内
9	H25.3544	左京三条六坊十坪奈良町遺跡	中筋町 35-2	個人	青空駐輪場建設	宅地	H26.4.23	GL-0.3 mまで掘削、黒褐色土内
10	H26.3019	左京七条四坊十四坪	七条西町一丁目 627 番 268	(株) モリタ住建	個人住宅建設	宅地	H26.4.25	GL-0.3 mまで掘削、GL-0.2 mで地山確認
11	H26.3020	左京七条四坊十四坪	七条西町一丁目 627 番 337	(株) モリタ住建	個人住宅建設	宅地	H26.4.25	GL-0.3 mまで掘削、GL-0.2 mで地山確認
12	H25.3510	奈良町遺跡	高畑町 1368-1 他	個人	個人住宅建設	宅地	H26.4.28	GL-0.35 mまで掘削、GL-0.35 mで遺構面確認
13	H25.3549	左京五条六坊十六坪・四坊大路、奈良町遺跡	陰陽町 14 番 4 の一部	個人	個人住宅増築	宅地	H26.4.28 H26.5.12	GL-1.1 mまで掘削、黒褐色土内（北側擁壁部分） GL-0.35 mまで掘削、黒褐色土内（住宅基礎部分）
14	H25.3365	左京四条六坊十一坪奈良町遺跡	東城戸町 16～31	大阪ガス (株)	ガス管敷設	道路	H26.5.7・8	GL-1.1 m～1.5 mまで掘削、盛土内
15	H25.3550	右京七条一坊十五坪・七条条間路	六条町 99-2 番地	大阪ガス (株)	ガス管入替	道路	H26.5.9	GL-1.2 mまで掘削、GL-0.95 mで地山確認

No.	届出・申請 受理番号	遺跡	届出・申請地	届出・申請者	事業内容	現況	立会調査	
							日付	結果
16	H25.1174	史跡大安寺旧境内 附石橋瓦窯跡	大安寺一丁目1238-1・ 1294-2	芝池水利組合	堤防の一部補強 工事	池	H26.5.12	堤防下端において地山確認
17	H25.3545	右京二条四坊十坪	青野町 229-15	(株) 日本中央 住販	分譲住宅新築	宅地	H26.5.13	GL-0.2 mまで掘削、GL-0.1 mで地 山確認
18	H25.3516	左京九条二坊十二坪	西九条町四丁目2番地2	大和ハウス工業 (株)	汚染土壌除去、 基礎撤去	宅地	H26.5.14	GL-2 mまで掘削、河川堆積確認
19	H26.3047	左京二条五坊六坪	法蓮町 40-11・12	一建設(株)	分譲住宅新築	宅地	H26.5.19	GL-0.2 mまで掘削、盛土内
20	H26.3007	古市城跡	古市町 2139 番 35	個人	個人住宅新築	宅地	H26.5.20	GL-0.2 mまで掘削、表土内
21	H26.3014	左京四坊五条大路	大安寺四丁目 894-7	関西地版(有)	分譲住宅新築	宅地	H26.5.22	GL-0.1 mまで掘削、盛土内
22	H25.3557	右京七条三坊五坪	七条一丁目 405 番 22	個人	分譲住宅新築	宅地	H26.5.22	GL-0.6 mまで掘削、GL-0.2 ~ 0.6 mで地山確認
23	H25.3555	左京五条一坊十六坪 東一坊大路	尼辻町乙 431 番 3 の一 部	(株) 初亀オペレ ーションサービス	店舗新築	宅地	H26.5.26	GL-1.55 mまで掘削、耕土内
24	H26.3027	奈良町遺跡	紀寺町 1091 番 2 他	個人	個人住宅新築	宅地	H26.5.26	GL-1.6 mまで掘削、耕土内
25	H25.3473	一条条間路、西大寺 旧境内	西大寺南町 1 街区 16 画 地	(福) サンライフ	介護老人福祉施 設新築	駐車場	H26.5.28	GL-2.6 mまで掘削、灰色砂(旧河 川堆積)内
26	H25.3553	左京二条六坊六坪	法蓮町 7 番 8 他	個人	個人住宅新築	宅地	H26.6.9	掘削を伴わず
27	H25.3455	赤田横穴墓群隣接地	西大寺赤田町一丁目 958-1 他	(福) 秋篠茜会	特別介護老人ホ ーム増築	山林	H26.6.11	斜面上部で GL-0.2 ~ 0.6 mまで 掘削、0.1 ~ 0.4 mで地山確認
							H26.6.12	斜面下部で GL-0.5 mまで掘削、 0.1 mで地山確認
							H26.6.16・ 17	進入路及び北上方斜面を地山上面か ら 0.3 m下まで掘削
							H26.6.23・ 24	進入路北上方斜面を地山上面より 1.6 m下まで掘削
							H26.6.25・ 26	斜面最上段〜上段部を地山上面から 1 ~ 2 m下まで掘削
							H26.6.27	斜面中段部を地山上面から 2 m下ま で掘削
							H26.6.30	進入路南下斜面を GL-0.6 mまで掘 削、GL-0.1 ~ 0.5 mで地山確認
H26.8.5	文化財課へ工事中に遺物発見の通報 があり、現地で古墳(赤田1号墳) の石室の一部と土器の出土を確認 *工事中止、本調査実施							
28	H25.3013	左京五条六坊十五坪 奈良町遺跡	東木辻町 17-3 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.6.13	GL-0.2 mまで掘削、表土内
29	H25.3559	右京六条四坊一坪	六条一丁目 948 番 25	個人	個人住宅新築	宅地	H26.6.13	GL-1.7 mまで掘削、地山確認
30	H25.3028	左京五坊四条大路	杉ヶ町 30 番地	大阪ガス(株)	ガス管入替・撤 去	道路	H26.6.18	GL-1.7 mまで掘削、盛土内
31	H25.3060	左京三条六坊六坪 奈良町遺跡	高天町 38-3 番地	大阪ガス(株)	ガス管入替	道路	H26.6.18	GL-1 mまで掘削、盛土内
32	H25.3282	左京四条五坊九坪	三条町 500-1	大和リース(株)	ビジネスホテル 新築	宅地	H26.6.23	GL-2.0 mまで掘削、盛土内
33	H26.3093	右京二条三坊十六坪	西大寺芝町二丁目 2071 番 1 の一部他	三和住宅(株)	道路・下水道新 設	宅地	H26.6.23	GL-1.2 mまで掘削、盛土内、GL- 0.8 mで地山確認
34	H26.3119	左京二条五坊北郊	法蓮町 745 番 7 の一部	(株) ダイワ興産	分譲住宅新築	宅地	H26.6.25	GL-0.5 mまで掘削、耕土内
35	H25.3564	左京五条四坊十四坪	大安寺六丁目 779 番 6	個人	個人住宅新築	宅地	H26.6.27	GL-1.8 mまで掘削、GL-1 mで地山 確認
36	H25.3015	左京五条四坊十四坪	大安寺六丁目 779 番 7	個人	個人住宅新築	宅地	H26.6.30	GL-1.8 mまで掘削、GL-1 mで地山 確認
37	H25.3084	左京六条四坊三・四坪	六条二丁目 854-1、 855-3-4	(株) 南都銀行	店舗新築	宅地	H26.6.30	GL-1.6 mまで掘削、GL-1.4 mで地 山確認
38	H26.3088	西一坊坊間路	四条大路四丁目 43 番 8	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.7.2	GL-0.6 mまで掘削、灰色土内
39	H26.3103	右京三条二坊三坪	三条大路五丁目 255 番 1	(株) アトリエ	個人住宅新築	宅地	H26.7.3	GL-0.4 mまで掘削、暗褐色土内
40	H26.3081	左京二条五坊十四坪 奈良町遺跡	北市町 63 番の1	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.3	GL-1.2 mまで掘削、GL-0.8 mで地 山確認
41	H26.3037	遺物散布地(奈良県 遺跡地図 09B-0003)	荻町 515 番 1	KDDI(株)	携帯電話基地局 設地	水田	H26.7.8	GL-3.6 mまで掘削、GL-2.8 mで地 山確認
42	H26.3125	二条大路、奈良町遺跡	芝辻町 52-1 の一部他	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.8	GL-0.3 mまで掘削、表土内
43	H25.3507	左京一条四坊十一坪	法蓮町 549 番地他	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.7.8	GL-1.0 mまで掘削、耕土内
44	H25.3040	南紀寺遺跡	南紀寺町二丁目 343- 6	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.7.8	GL-0.7 mまで掘削、盛土内
45	H25.3090	東一坊坊間路	柏木町 158-11 他	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.7.14	GL-1.2 mまで掘削、褐色土内
46	H25.3062	右京一条北辺京極路	西大寺赤田町一丁目 823-4 他	(有) 奈良健康 企画	店舗新築	宅地	H26.7.15	GL-1.0 mまで掘削、GL-0.9 mで地 山確認
47	H26.3063	右京五条三坊三坪	五条二丁目 533 番 1・2	個人	個人住宅	宅地	H26.7.16	GL-0.2 mまで掘削、盛土内
48	H26.3067	右京二条五坊五坪・ 二条大路	芝辻町三丁目地内	奈良市公営企業 管理者	水道管改良工事	道路	H26.7.16	GL-0.65 mまで掘削、盛土内
49	H26.1018	史跡大安寺旧境内附 石橋瓦窯跡	東九条町 1375-1	奈良市長	L型側溝据付工 事	道路	H26.7.22	GL-0.3 mまで掘削、盛土内
50	H26.3095	元興寺跡・奈良町遺跡	鶴町 14 番の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.23	GL-1.75 mまで掘削、GL-1.14 mで 地山確認

No.	届出・申請 受理番号	遺跡	届出・申請地	届出・申請者	事業内容	現況	立会調査	
							日付	結果
51	H26.3509	一条条間路、西大寺跡	西大寺新田町 539-1・2	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.23	GL-0.3 mまで掘削、灰褐色土内
52	H26.3089	右京二条四坊十五坪	若葉台四丁目 291 番 4	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.23	GL-1.7 mまで掘削、灰色粗砂内
53	H26.3101	右京五条三坊六坪	五条二丁目 601 番 81	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.24	GL-1.8 mまで掘削、GL-0.7 mで地山確認
54	H26.3152	右京七条三坊十一坪	宝来三丁目 13-9-102	大阪ガス(株)	個人住宅新築	宅地	H26.7.24	GL-0.3 mまで掘削、盛土内
55	H26.3097	右京北辺四坊一坪・西三坊大路	西大寺赤田町一丁目 2-29 他	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.7.28	GL-0.8 mまで掘削、盛土内
56	H26.3169	秋頭古墳群	山陵町 425 番 1 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.7.28	GL-0.4 mまで掘削、盛土内
57	H26.3048	左京三条五坊四坪	大宮町一丁目 3-4-10	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.7.29	GL-0.55 mまで掘削、盛土内
58	H26.1034	史跡元興寺極楽坊境内	中院町 11 番地・17 番地	(宗) 元興寺	カーポート新設・フェンスの設置	境内地	H26.7.30	GL-0.5 mまで掘削、黒褐色土内
59	H26.3136	右京六条四坊一坪	六条一丁目～二丁目	奈良市公営企業管理者	配水管敷設	道路	H26.7.31	GL-1.4 mまで掘削、盛土内
60	H26.3113	右京二条三坊八坪・一条南大路	西大寺芝町一丁目 2476 番の一部	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.8.1	GL-0.4 mまで掘削、GL-0.3 mで地山確認
61	H26.1065	史跡大安寺旧境内 附石橋瓦窯跡	大安寺二丁目 18 番 1 号 1299-1 番地	(宗) 大安寺	通路の石敷設置	境内地	H26.8.4	GL-0.05 mまで掘削、表土内
62	H26.3214	右京二条三坊十六坪	西大寺芝町二丁目 5-17～二丁目 6	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.8.5	GL-0.9 mまで掘削、GL-0.8 mで旧河川の堆積層確認
63	H26.3124	左京四条六坊十二坪 奈良町遺跡	小太郎町 3 番	個人	個人住宅新築	宅地	H26.8.5	GL-0.45 mまで掘削、表土内
64	H26.3099	左京三条四坊十二坪	宝来町四丁目 3	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.8.6	GL-1.45 mまで掘削、GL-0.8 mで地山確認
65	H26.3068	右京三条四坊五坪	宝来三丁目 736-1 他	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.8.7	GL-0.4 mまで掘削、GL-0.3 mで地山確認
66	H26.3339	左京二条六坊三坪・二条条間路	法蓮町 15 番 5	個人	共同住宅新築	宅地	H26.8.7	GL-1 mまで掘削、黒褐色土内
67	H26.3167	菅原寺跡 菅原東遺跡	菅原町 132-1 他	(株) シーザープロパティ	宅地造成	荒蕪地	H26.8.7	GL-1～1.1 mまで掘削、灰色粘質土内
68	H26.3105	左京三条四坊十四坪 油阪遺跡	大宮町二丁目 8-17～7-1	大阪ガス(株)	ガス管入替	道路	H26.8.8	GL-0.7 mまで掘削、灰色土内
69	H26.3165	左京四条五坊十二坪	杉ヶ町 18 番 1 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.8.11	GL-0.2 mまで掘削、盛土内
70	H26.3173	左京二条六坊北郊	法蓮町 1289 番 2 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.8.13	GL-0.3 mまで掘削、茶褐色土内
71	H26.3542	秋頭古墳群	山陵町 649 番 2	個人	個人住宅・倉庫新築	山林	H26.8.19	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.3 mで地山確認
72	H26.3145	左京四条四坊七坪	三条宮前町 235-4	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.8.19	GL-0.9 mまで掘削、盛土内
73	H26.3175	右京五条六坊五坪	西木辻町 135-1 他	(株) セブンイレブン・ジャパン	店舗新築	宅地	H26.8.19	GL-0.6 mまで掘削、GL-0.2 mで旧河川の堆積層確認
74	H26.3120	左京三条三坊十二坪	大宮町四丁目 252-1 の一部	個人	長屋新築	宅地	H26.8.19	GL-0.6 mまで掘削、盛土内
75	H26.3202	左京五条六坊八坪 奈良町遺跡	南袋町 5-1-2	(福) ルーテル福祉会	仮設保育所・協会新築	宅地	H26.8.20	GL-0.6 mまで掘削、GL-0.6 mで地山確認
76	H26.3038	興福寺跡 奈良町遺跡	東向中町 21 番地	個人	店舗新築	宅地	H26.8.21	GL-1.0 mまで掘削、GL-0.7 mで地山確認
77	H26.3172	元興寺跡 奈良町遺跡	中新屋町 5 他	奈良市長	町屋の改修等	宅地	H26.8.21・22 H27.1.7～9・13	GL-0.2～0.8 mまで掘削、黒褐色土内 GL-0.4 mまで掘削、GL-0.3～0.4 mで地山確認
78	H26.3146	西大寺跡	西大寺野神町一 5 番 23 号	個人	個人住宅新築	宅地	H26.8.25	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認
79	H26.3219	奈良町遺跡	高畑町 824 番・825 番合併 2 の一部	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.8.25	GL-0.2 mまで掘削、GL-0.2 mで地山確認
80	H26.1033	史跡大安寺旧境内 附石橋瓦窯跡	東九条町 1344-2 番地先	奈良市長	街路灯新設	道路	H26.8.25	GL-0.6～0.7 mまで掘削、盛土内
81	H26.3217	右京二条四坊七坪 西四坊間路	青野町 229-17	(株) 日本中央住販	分譲住宅新築	宅地	H26.8.25	GL-0.2～1.8 mまで掘削、GL-0.2 mで地山確認
82	H26.3196	左京四条六坊四坪	杉ヶ町 82～75	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.8.27	GL-0.7 mまで掘削、盛土内
83	H26.3108	左京三条四坊十四坪	大宮町二丁目 6-17～7-5	大阪ガス(株)	ガス管入替	道路	H26.8.27	GL-0.9 mまで掘削、盛土内
84	H26.3240	奈良県遺跡地図 05A-0046 隣接地(古墳・横穴)	山陵町 871 番 22	個人	個人住宅新築	宅地	H26.8.29	GL-1.1～1.65 mまで掘削、GL-1.35 mで地山確認
85	H26.3220	奈良町遺跡	高畑町 824 番 825 番合併 2 の一部他	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.8.29	GL-0.4 mまで掘削、表土内
86	H26.3161	左京七条三坊十二坪	七条一丁目 23-32	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.9.2	GL-1.0 mまで掘削、盛土内
87	H26.3153	古市遺跡	古市町 268 番地	奈良市長	校舎耐震補強工事・昇降口棟建替工事	学校用地	H26.9.5	GL-1～1.7 mまで掘削、GL-0.7 mで地山確認
88	H26.3117	左京五条六坊五坪	西木辻町 130 番 4 他	草竹コンクリート(株)	店舗新築	宅地	H26.9.5	GL-0.8 mまで掘削、GL-0.6 mで地山確認

No.	届出・申請 受理番号	遺跡	届出・申請地	届出・申請者	事業内容	現況	立会調査	
							日付	結果
89	H26.3205	左京四条一坊三坪・朱雀大路	四条大路三丁目981-1他	個人	青空駐車場造成	水田	H26.9.9	GL-0.7 mまで掘削、GL-0.6 mで地山確認
90	H26.3151	左京八条四坊十六坪	七条西町一丁目627番227	個人	個人住宅新築	宅地	H26.9.11	GL-0.6 mまで掘削、GL-0.35 mで地山確認
91	H26.3261	正暦寺	菩提山町143番1の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.9.11	GL-0.25 mまで掘削、灰褐色土内
92	H26.3177	左京四条五坊十三坪	杉ヶ町12-5の一部(1号地)	ファースト住建(株)	分譲住宅新築	宅地	H26.9.22	GL-0.10 mまで掘削、表土内
93	H26.3178	左京四条五坊十三坪	杉ヶ町12-5の一部(2号地)	ファースト住建(株)	分譲住宅新築	宅地	H26.9.22	GL-0.10 mまで掘削、表土内
94	H26.3186	左京四条五坊十三坪	杉ヶ町12-5の一部(3号地)	ファースト住建(株)	分譲住宅新築	宅地	H26.9.22	GL-0.18 mまで掘削、表土内
95	H26.3164	左京九条二坊十一・十二坪・東二坊坊間路	西九条四丁目2番1他	大和ハウス工業(株)	第2工場棟新築工事	宅地	H26.9.25	GL-2.0 mまで掘削、GL-1.6 mで地山確認
							H26.9.29	GL-2.0 mまで掘削、GL-1.35 mで遺構面確認
							H26.12.2・3・5	GL-2.4 mまで掘削、GL-1.4 mで地山確認
							H26.2.2	GL-2.45 mまで掘削、GL-1.9 mで地山確認
96	H26.3247	元興寺跡、大乘院跡奈良町遺跡	高畑町1096番地36	個人	個人住宅	宅地	H26.9.30	GL-0.3～0.7 mまで掘削、表土内
97	H26.3154	左京二条六坊五坪奈良町遺跡	西新在家号別所町～内侍原町31-3	大阪ガス(株)	ガス管入替	道路	H26.10.1	GL-0.35～0.65 mまで掘削、盛土内
98	H26.1073	史跡春日大社境内	春日野町160番地の1	(宗)春日大社	通拝所設置	境内地	H26.10.2	GL-0.4～0.7 mまで掘削、褐色土及び暗褐色土内
							H26.10.10	GL-0.8 mまで掘削、GL-0.6～0.7 mで地山確認
99	H26.3272	左京五坊二条大路奈良町遺跡	芝辻プラス町11-21、舟橋町10	大阪ガス(株)	ガス敷設・撤去	道路	H26.10.3	GL-1.5 mまで掘削、盛土内
100	H26.3122	角山城跡	中町地内	奈良市公営企業管理者	水道工事	道路	H26.10.7	GL-0.8 mまで掘削、盛土内
							H26.10.22	GL-1.1 mまで掘削、盛土内
101	H26.1038	特別史跡・特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園	三条大路一丁目5-37	奈良市教育委員会 教育長	排水溝の掘削	庭園	H26.10.8・9	GL-0.3～0.68 mで地山確認
							H26.10.10・14	GL-0.3～0.5 mで地山確認
							H26.10.15	GL-0.5 mで地山確認
							H26.10.16	GL-0.42～0.56 mで地山確認
							H26.10.17・20	GL-0.42～0.63 mで地山確認
102	H26.3252	左京八条四坊六坪	東九条町地内	奈良市公営企業管理者	配水管の布設工事	道路	H26.10.8	GL-0.6 mまで掘削、盛土内
103	H26.3288	右京二条四坊七坪西四坊坊間路	青野町229-18	(株)日本中央住販	分譲住宅新築	宅地	H26.10.10	GL-0.3 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認
104	H26.3190	新薬師寺	高畑町234-1他	奈良市道路管理者	歩道拡幅工事	道路	H26.10.16	GL-2.5 mまで掘削、GL-0.6 mで地山確認
105	H26.3277	右京二条四坊十坪西四坊坊間路	青野町229-16	(株)日本中央住販	分譲住宅新築	宅地	H26.10.16	GL-0.3 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認
106	H26.3311	奈良町遺跡	紀寺町1002番1、1004番3	(株)日本中央住販	分譲住宅新築	宅地	H26.10.20	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.5 mで地山確認
107	H26.3300	右京二条四坊十坪	青野町229-12	(株)日本中央住販	分譲住宅新築	宅地	H26.10.20	GL-0.8 mまで掘削、GL-0.4 mで地山確認
108	H26.3229	左京一条三坊三坪東二坊大路	法華寺町1210～1298	大阪ガス(株)	ガス管理設	道路	H26.10.21	GL-0.8 mまで掘削、灰褐色土内
109	H26.3312	右京三条一坊十三坪・三条大路・西一坊坊間小路	三条大路五丁目167-1他	個人	共同住宅新築	宅地	H26.10.21	GL-0.95 mまで掘削、GL-0.55 mで旧河川堆積確認
110	H26.3283	右京四条一坊六坪	四条大路四丁目123-1他	個人	個人住宅増築	宅地	H26.10.24	GL-0.2 mまで掘削、灰褐色土内
111	H26.3236	右京二条四坊四坪	菅原町382番5	個人	個人住宅新築	宅地	H26.10.28	GL-0.45 mまで掘削、灰褐色土内
112	H26.3237	左京五条四坊十四坪	大安寺六丁目779番5	個人	個人住宅新築	宅地	H26.10.29	GL-1.7 mまで掘削、GL-1.2 mで地山確認
113	H26.3318	右京五条四坊八坪	平松三丁目449番10	個人	個人住宅新築	宅地	H26.11.4	GL-0.35 mまで掘削、GL-0.3 mで地山確認
114	H26.3195	左京一条四坊十二坪	法蓮町631番5	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.11.10	GL-0.4 mまで掘削、盛土内
115	H26.3276	左京六条四坊四・五坪	六条二丁目1112-1他	個人	個人住宅改築・駐車場新築	宅地	H26.11.13	GL-1.6 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認
116	H26.3016	西大寺跡	西大寺小坊町309	個人	共同住宅新築	宅地	H26.11.14	GL-1.5 mまで掘削、GL-0.4 mで地山確認
117	H26.3267	西大寺跡	若葉台三丁目1937番2	個人	個人住宅新築	宅地	H26.11.17	GL-0.6 mまで掘削、GL-0.2 mで地山確認
118	H26.3289	左京五条六坊五坪	西木辻町130番4他	ウェルシア薬局(株)	看板設置	宅地	H26.11.17	GL-1.2 mまで掘削、GL-0.9 mで地山確認

No.	届出・申請 受理番号	遺跡	届出・申請地	届出・申請者	事業内容	現況	立会調査	
							日付	結果
119	H26.3301	水間遺跡	水間町 989 - 1 地先から 1042 地先、1005 - 2 地先から 978 地先	奈良市企業局 下水道部下水道 建設課長	下水道工事	道路	H26.11.17	GL-0.7 mまで掘削、盛土内
							H26.11.27	GL-1.1 mまで掘削、GL-0.2 mで地 山確認
							H26.12.3	GL-0.9 mまで掘削、GL-0.4 mで地 山確認
120	H26.3340	右京二条四坊十坪	青野町 229-14	(株) 日本中央 住販	分譲住宅新築	宅地	H26.11.19	GL-0.2 mまで掘削、盛土内
121	H26.3320	左京三条四坊十三坪	大宮町二丁目 119-4 他	個人	個人住宅新築	宅地	H26.11.25	GL-1.0 mまで掘削、GL-0.75 mで 地山確認
122	H26.3145	左京五条四坊一坪	奈良市大森西町 (土地 区画整理事業地)	奈良市長	JR 奈良駅南特 定土地区画整理 事業整備工事	道路	H26.11.27	GL-3 mまで掘削、GL-1.3 mで地山 確認
123	H26.3265	左京三条四坊七・十 坪・東四坊間路	大宮町五丁目 2 ~ 大宮 町五丁目 1-3	大阪ガス (株)	ガス管入替	道路	H26.11.28	GL-1.05 mまで掘削、GL-0.55 mで 地山確認
124	H26.3346	左京四条六坊六坪 奈良町遺跡	南魚屋町 1-2、柳町 10-2	個人	居宅付賃貸住宅 新築	道路	H26.11.28	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.5 mで地 山確認
125	H26.3114	西大寺跡	西大寺新池町 1599-1 他	個人	宅地造成	宅地	H26.12.2	GL-3.5 mまで掘削、現地表面にて 地山確認
126	H26.3365	右京二条四坊十坪	青野町 229 - 11	(株) 日本中央 住販	分譲住宅新築	宅地	H26.12.2	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.1 mで地 山確認
127	H26.3358	右京三条二坊十坪	尼辻西町 252-1 の一部他	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.12.5	GL-0.45 mまで掘削、黒褐色土内
128	H26.3357	右京三条二坊十三坪	尼辻西町 252-1 の一部他	個人	賃貸住宅新築	宅地	H26.12.5	GL-0.45 mまで掘削、黒褐色土内
129	H26.3273	左京八条四坊六坪	東九条町 626-1、625-1 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H26.12.5	GL-0.45 mまで掘削、灰褐色土内
130	H26.3351	新薬師寺隣接地	高畑町	(大) 奈良教育 大学	掲示板の設置及 び電機工事	学校用 地	H26.12.8	GL-0.45 ~ 0.9 mまで掘削、GL- 0.5 mで地山確認
131	H26.3270	左京四条六坊四・五坪 奈良町遺跡	南魚屋町 13 - 3	個人	共同住宅新築	宅地	H26.12.15	GL-0.6 mまで掘削、盛土内
132	H26.3256	右京二条三坊一坪	西大寺南町 2388 - 1 の一部	個人	共同住宅新築	宅地	H26.12.15	GL-2.0 mまで掘削、GL-1.6 mで地 山確認
133	H26.3297	遺物散布地 (奈良県遺 跡地図 08B - 0261)	横井三丁目地内	奈良市長	井堰整備工事	河川	H26.12.16	GL-2.7 mまで掘削、GL-1.44 mで 地山確認
134	H26.3388	右京二条四坊十坪	青野町 229-13	(株) 日本中央 住販	分譲住宅新築	宅地	H26.12.17	GL-0.3 mまで掘削、GL-0.2 mで地 山確認
135	H26.1081	史跡大安寺旧境内 附石橋瓦窯跡	大安寺二丁目 1 番地先	関西電力 (株)	電柱移設建替・ 支線新設工事	道路	H26.12.18	GL-1.1 から 1.3 mまで掘削、灰褐 色粘砂
136	H26.3331	右京三条四坊十三坪	宝来四丁目 674・678 - 1・680 - 1・680 - 2	個人	個人住宅新築	宅地	H26.12.22	GL-0.3 mまで掘削、盛土内
137	H26.1122	史跡平城京朱雀大路跡	二条大路南四丁目 100 番 23 他	奈良県奈良土木 事務所	仮設フェンスの 設置	工場用 地	H26.12.24	掘削を伴わず
138	H26.3363	左京四条五坊七・八坪	三条本町 1082 番地 6	(公財) 自転車駐 車場整備センター	自転車駐車場新 築	宅地	H27.1.5	GL-2.4 mまで掘削、GL-1.15 mで 地山確認
139	H26.3203	左京四条六坊四・五坪 奈良町遺跡	小太郎町 19 - 1 の一部 他	(福) 近畿福音 ルーテル福祉会	共同住宅新築	宅地	H27.1.6	GL-1.3 mまで掘削、盛土内
140	H26.3147	左京三条六坊十坪	中筋町 31 番 1 他	(公財) 自転車駐 車場整備センター	駐輪場・駐車場 新設	宅地	H27.1.7	GL-0.8 mまで掘削、GL-0.7 mで地 山確認
141	H26.3335	右京三条二坊五坪	尼辻北町 326 番 6	個人	個人住宅新築	宅地	H27.1.16	GL-0.3 mまで掘削、黒褐色土内
142	H26.3411	四条条間北小路、興 福寺跡、奈良町遺跡	高畑町 1113 - 3	大阪ガス (株)	ガス管敷設・撤 去	道路	H27.1.20	GL-1 mまで掘削、盛土内
143	H26.3356	古市城跡	古市町 1846 - 76 ~ 2112 - 30	大阪ガス (株)	ガス管入替	道路	H27.1.20	GL-0.9 mまで掘削、盛土内
							H27.1.21	GL-1.0 mまで掘削、GL-0.75 mで 地山確認
							H27.1.23	GL-1.35 mまで掘削、GL-0.85 mで 地山確認
							H27.1.27	GL-1.0 mまで掘削、GL-0.2 mで地 山確認
							H27.2.2	GL-1.0 mまで掘削、GL-0.6 mで地 山確認
H27.2.4	GL-1.4 mまで掘削、GL-1.3 mで地 山確認							
144	H26.3376	霊山寺	中町 3879 番地	(宗) 霊山寺	消化設備設置	境内地	H27.1.23	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認
							H27.1.26	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.4 mで地山確認
							H27.1.28	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.1 mで地山確認
							H27.1.29	GL-0.5 mまで掘削、GL-0.4 mで地山確認
							H27.2.6	GL-0.7 ~ 0.9 mまで掘削、盛土内
H26.3.16	GL-2.05 mまで掘削、GL-0.3 mで地 山確認							
145	H26.3341	東七坊間東小路 元興寺跡、大乘院跡 奈良町遺跡	高畑町 1095 番 1 の一 部他	個人	個人住宅新築	宅地	H27.1.23	GL-0.5 mまで掘削、灰褐色土内
146	H26.3405	奈良町遺跡	紀寺町 986 - 1・2	個人	個人住宅新築	宅地	H27.1.23	GL-0.3 mまで掘削、暗褐色土内
147	H26.3435	左京二条六坊北郊	法蓮町 962 番 17	(有) 京奈モー ターズ	個人住宅新築	宅地	H27.1.26	GL-0.5 mまで掘削、灰褐色土内

No.	届出・申請 受理番号	遺跡	届出・申請地	届出・申請者	事業内容	現況	立会調査	
							日付	結果
148	H26.3434	右京三条二坊十三坪	尼辻西町 257-3 の一部	個人	共同住宅新築	宅地	H27.1.26	現地表で耕土を確認
149	H26.3352	右京三条三坊九坪 菅原寺跡菅原東遺跡	菅原町 447 番 4	個人	個人住宅新築	宅地	H27.1.28	GL-0.45 m まで掘削、GL-0.3 m で 地山確認
150	H26.3465	右京一条四坊十三坪 西大寺跡	若葉台三丁目 1893 - 3	個人	個人住宅新築	宅地	H27.1.30	GL-0.7 m まで掘削、GL-0.2 m で地 山確認
151	H26.3372	平城京南方遺跡	北之庄西町一丁目 11 番 1	個人	共同住宅新築	宅地	H27.2.2	GL-0.1 m まで掘削、盛土内
152	H26.1134	史跡大安寺旧境内 附石橋瓦窯跡	大安寺四丁目 1011	関西電力(株)	電柱の新設	宅地	H27.2.3	GL-2.3 m まで掘削、GL-0.2 m で地 山確認
153	H26.3390	七条条間南小路	七条西町一丁目 627 番 43	ファースト住建 (株)	個人住宅新築	宅地	H27.2.5	GL-1.5 m まで掘削、GL-1.2 m で地 山確認
154	H26.3291	左京九条四坊十四坪 東四坊大路	東九条町 162 - 1 他 13 筆	(株) トライアル カンパニー	店舗新築	宅地	H27.2.5	GL-2.0 m まで掘削、灰白色土砂内
155	H26.3375	左京三条三坊十一坪	菅原町 9 番 1 の一部	(株) 都ウイズテ ック	事務所新築	宅地	H27.2.9	GL-1.7 m まで掘削、灰褐色土内
156	H26.3444	古市城跡	古市町 2139 番 43	個人	個人住宅新築	宅地	H27.2.9	GL-1.8 m まで掘削、GL-1.5 m で地 山確認
157	H26.3184	左京八条四坊十二坪	東九条町 644 - 1、644 - 3、639 - 4 の一部	個人	宅地造成	宅地	H27.2.9	GL-0.6 m まで掘削、褐灰色土内
158	H26.3387	左京三条二坊三・四坪	三条大路一丁目 591-1、 591-4	西栄不動産(株)	貸事務所新築	宅地	H27.2.9	GL-1.3 m まで掘削、盛土内
159	H26.3466	左京五条六坊二坪	西木辻町 9 番 9・10	個人	個人住宅新築	宅地	H27.2.12	GL-0.4 ~ 0.65 m まで掘削、GL- 0.4 m で地山確認
160	H26.3164	右京六条一坊十五坪	六条町 260 番 2 の一部	(株) 乾工務店	分譲住宅新築	宅地	H27.2.18	GL-1.7 m まで掘削、GL-1.2 m で地 山確認
161	H26.3432	南紀寺遺跡	南紀寺町三丁目 142 - 21 ~ 139 - 5	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	H27.2.23	GL-0.8 m まで掘削、GL-0.6 m で地 山確認
162	H26.3392	奈良町遺跡	高畑町 939 - 1	個人	文化財防災施設 工事	宅地	H27.3.1・ 11	GL-0.3 m まで掘削、GL ± 0 ~ -0.3 m で地山確認
163	H26.1140	史跡平城京朱雀大路跡	二条大路南三丁目 191 - 4 他	国土交通省近畿 地方整備局国営 明日香歴史公園 事務所長	平城宮跡区域の 整備にかかる工 事用道路設置	公園	H27.3.3	暗渠掘形掘削、GL-0.9 m まで掘削、 灰色土内
							H27.3.6	案内板撤去、GL-0.5 m まで掘削、 盛土内
							H27.3.9	路面掘削、GL-0.2 ~ 0.5 m まで掘削、 盛土内
							H27.3.10	集水枡掘形掘削、GL-0.85 m まで掘 削、灰褐色土内
							H27.3.10	路面掘削、GL-0.4 ~ 0.8 m まで掘削、 盛土内
164	H26.1098	史跡大安寺旧境内 附石橋瓦窯跡	東九条町 1320 番地	個人	木造倉庫の撤去	水田	H27.3.4	掘削工事なし
165	H26.3457	八条大路・東四坊大路	東九条町 519 - 2	個人	賃貸住宅新築	駐車場	H27.3.11	GL-1.0 m まで掘削、灰色土内
166	H26.3368	古市遺跡	古市町 1697 - 1 の一 部	個人	住宅型有料老人 ホーム新築	宅地	H27.3.3	GL-0.4 m まで掘削、盛土内
167	H26.3427	左京四条六坊十六坪 奈良町遺跡	橋本町 36 番 1 他	(株) 明新社	店舗付共同住宅	宅地	H27.3.4	GL-0.8 m まで掘削、盛土内
168	H26.3463	奈良町遺跡	高畑町 1443 - 1	個人	個人住宅新築	宅地	H27.3.9	GL-0.7 m まで掘削、GL-0.4 m で地 山確認
169	H26.3468	左京三条一坊五坪	三条大路三丁目 492 - 7 他	(株) イムラ	事務所新築	宅地	H27.3.10	GL-0.5 m まで掘削、盛土内
170	H26.3471	西大寺跡	西大寺新池町 1869	(株) 一建設	分譲住宅新築	宅地	H27.3.10	GL-0.3 m まで掘削、盛土内
171	H26.3456	興福寺跡 奈良町遺跡	東向北町 16 番 2 及び 18 番の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H27.3.11	GL-0.3 m まで掘削、黒褐色土内
172	H26.3496	右京三条四坊十六坪	菅原町 661 - 4・5	個人	個人住宅新築	宅地	H27.3.11	GL-0.6 m まで掘削、盛土内
173	H26.3452	左京四条六坊六坪 奈良町遺跡	西城戸町 9 - 3、10、 11 の各一部	個人	個人住宅新築	宅地	H27.3.12	GL-1.7 m まで掘削、GL-0.7 m で地 山確認
174	H26.3467	元興寺跡奈良町遺跡	今御門町 5 番	個人	個人住宅新築	宅地	H27.3.16	GL-0.6 m まで掘削、黒色土内
175	H26.3483	左京三条一坊五坪	三条大路三丁目 491 番 1	個人	青空駐車場新設	宅地	H27.3.17	GL-0.4 m まで掘削、褐灰色土内
176	H26.3269	左京二条六坊十三坪	坊屋敷町 1 番 1・3	個人	個人住宅新築	水田	H27.3.17	GL-0.6 m まで掘削、褐灰色土内
177	H26.3144	左京六条一坊七坪・六 条条間路・東一坊大路	柏木町 160 番 1 他	東燃ゼネラル石油 (株)	店舗新築	宅地・	H27.3.18	GL-4.2 m まで掘削、GL-2.0 m で地 山確認
						水田	H26.3.30	GL-1.2 m まで掘削、盛土内
178	H26.3488	左京一条四坊十一坪・ 一条条間路	法蓮町 600 番の一部	個人	共同住宅	宅地	H26.3.20	GL-1.3 m まで掘削、GL-0.4 m で地 山確認
179	H26.3464	左京五条七坊大路 奈良町遺跡	福智院町 45 番 1 の一部 ・45 番 2 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	H27.3.20	GL-0.25 m まで掘削、黒褐色土内
180	H26.3518	左京二条三坊一坪	法華寺町 371 - 2、371 - 17	(株) アーネスト ワン	分譲住宅新築	宅地	H27.3.23	GL-0.6 m まで掘削、黒灰色土内
181	H26.3470	左京九条二坊八坪	西九条町三丁目 1 - 16	個人	賃貸住宅新築	宅地	H27.3.22	GL-0.65 m まで掘削、盛土内

第2章 平成26年度 保存活用事業報告

平成 26 (2014) 年度 埋蔵文化財学習活用事業報告

1. 展 示

埋蔵文化財調査センターの展示室において、以下の展示を開催。いずれも一般を対象。

A. 常設展示

奈良市内の旧石器時代～江戸時代の埋蔵文化財を時代及び遺跡ごとに展示し、奈良市の歴史を紹介。

会 期：平成26年4月1日(火)～7月4日(金)
平成26年9月1日(月)～10月21日(火)
平成27年1月5日(月)～2月27日(金)
(のべ139日間)

観覧者数：1,366人

B. 秋季特別展「甦る大寺—大安寺発掘調査成果展—」

本市教育委員会が昭和56年度から継続的に実施する史跡大安寺旧境内の調査について、伽藍等の遺構の写真と出土遺物の展示を通じて、最新の成果及び大安寺の様相・特色と変遷を紹介。

会 期：平成26年10月22日(月)～12月27日(金)
(46日間)

観覧者数：953人

広 報：・案内を市民だより(平成26年10月号)と奈良市ホームページに掲載。
・宣伝用のポスター・チラシを作成し、配布
・展示解説用パンフレットを作成。
・事前に報道機関へ資料を配布。

C. 発掘調査速報展示(2回)の開催

発掘調査等の最新の成果について、夏と春の2回に分けて展示・紹介。

(1) 夏季発掘調査速報展「赤田横穴墓群の陶棺」
平成22年度に発掘調査を実施した赤田横穴墓群の

3・5号墓(6世紀後半)と7号墓(7世紀中頃)から出土した土師質亀甲形陶棺の復元が完了し、副葬品の整理も進んだことから、両者をあわせて展示し、意匠・技法や葬送の変遷を紹介。

会 期：平成26年7月7日(月)～8月29日(金)
(39日間)

観覧者数：867人

広 報：・案内を市民だより(平成26年7月号)と奈良市ホームページに掲載。
・宣伝用のポスター・チラシを作成し、配布
・展示リーフレットを作成。
・事前に報道機関へ資料を配布。

(2) 春季発掘調査速報展

赤田横穴墓群の東方で新たに確認された横穴式石室内に陶棺を納めた円墳の赤田1号墳(6世紀後半)と、JR奈良駅南土地区画整理事業地内の調査で8～10世紀の宅地利用の変遷がわかった平城京左京五条四坊一坪について、出土遺物と展示パネルで調査成果を紹介。

会 期：平成27年3月2日(月)～3月27日(金)
(21日間)

観覧者数：336人

広 報：・案内を市民だより(平成27年3月号)と奈良市ホームページに掲載。
・宣伝用のポスター・チラシを作成し、配布
・展示リーフレットを作成。
・事前に報道機関へ資料を配布。

D. 年間観覧者数

総数は3,522名(開館：245日間)で、その内訳は男性が2,526名、女性が996名。なお、月平均観覧者数は293.5名で、月別の内訳は次頁の表1の通り。



秋季特別展「甦る大寺」(左：展示状況、右：展示解説—11月15日)



夏季速報展「赤田横穴墓群の陶棺」

表1 月別来館者数一覧

月期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来訪者数	248	208	158	470	432	222	360	457	286	173	146	362

表2 施設見学者数一覧

No.	見学日	見学者名(見学者数)
1	平成26年4月1日	生駒寿会(17名)
2	平成26年4月2日	新人市議勉強会(4名)
3	平成26年4月3日	日本セカンドライフ協会(25名)
4	平成26年5月22日	生駒歩みの会(47名)
5	平成26年10月24日	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会(30名)
6	平成26年11月11日	奈良市立大安寺西小学校 3年生(10名)
7	平成26年11月27日	国立歴史民俗博物館友の会(37名)

開催日：平成27年3月14日(土)

会 場：埋蔵文化財調査センター 講座室

報 告：村瀬 陸

「赤田1号墳の発掘調査」

加藤梨津子

「平城京左京五条四坊一坪の発掘調査」

参加者数：43人

広 報：・市民だより(平成26年3月号)

・奈良市ホームページに掲載

・春季速報展ポスター・チラシ

・報道機関

2. 施設見学の受け入れ

埋蔵文化財調査センター施設見学

見学者名、期日、見学者数は、表2の通り。

3. 講演会・教室の開催

A. 埋蔵文化財講演会

秋季特別展と関連し、大安寺の特色や変遷に関する理解をより一層深めることを目的として、外部から講師を招いて講演会を開催。一般を対象。

開催日：平成26年11月15日(土)

会 場：埋蔵文化財調査センター 講座室

講 演：神野 恵(国立文化財機構 奈良文化財研究所)

「大安寺出土の唐三彩枕」

森下恵介(埋蔵文化財調査センター所長)

「大安寺の発掘調査」

参加者数：64名

広 報：・市民だより(平成26年11月号)に掲載

・奈良市ホームページに掲載

・秋季特別展のポスター・チラシ

・報道機関

B. 埋蔵文化財発掘調査報告会

春季速報展で紹介する遺跡の発掘調査成果や出土遺物について、調査を担当した当センター職員がパワーポイント等を使用して報告。一般を対象。



埋蔵文化財講演会



埋蔵文化財発掘調査報告会

C. 夏休み親子考古学体験

遺跡から出土した土器や瓦の実物に触れ、親子で楽しみながら考古学や埋蔵文化財への理解を深める。

対 象：小学校4年生以上の児童とその保護者

開催日：平成26年8月21日（水）

会 場：埋蔵文化財調査センター 講座室

内 容：① 土器の分類・観察、器面調整の実験
② 軒瓦の拓本作成

参加者：9組・19名

広 報：・市民だより（平成26年8月号）に掲載

・奈良市ホームページに掲載

・宣伝用チラシを作成し、配布



夏休み親子考古学体験

4. 市民考古学講座

生涯学習の一環として体系的に考古学を学び、地域における歴史文化遺産の保護活用のリーダーとして活躍できる人材の育成を目指した講座。職員が講師をつとめる講座・実習により、将来の活動に必要な基本的知識・技術を身につける。受講定員25名で、一般から募集。

期 間：平成26年7月9日～平成27年3月4日

（水曜開講、全13回）

内 容：表3参照

広 報：・市民だより（平成26年8月号）に掲載

・奈良市ホームページに掲載

表3 市民考古学講座 内容

回	月日	内容
1	7月9日（水）	開講式、オリエンテーション 講義『考古学って何？』
2	7月30日（水）	講義『石器のはなし』 講義『縄文時代の基礎知識』
3	8月6日（水）	現場見学『発掘現場をみる』
4	9月10日（水）	講義『発掘調査の流れ』
5	9月17日（水）	講義『弥生時代の基礎知識』 講義『古墳時代の基礎知識』
6	10月1日（水）	講義『奈良の都 平城京』
7	10月15日（水）	講義『古代の瓦』
8	11月5日（水）	講義『古代の土器』
9	11月26日（水）	屋外実習『平城宮跡をみる』
10	12月3日（水）	屋外実習『佐紀古墳群を訪ねる』
11	1月28日（水）	実習『舞台裏（遺物整理作業）をみる』
12	2月18日（水）	実習『拓本のとり方』
13	3月4日（水）	実習『土器類の分類整理』 閉講式

5. 市民考古サポーターとの協働

市民考古学講座の受講者のうち希望者を「市民考古サポーター」として登録し、埋蔵文化財の保護活用業務の支援をお願いするとともに学習の場を提供している。今年度は新たに10名が登録し、総数は85名。

活動期間：平成26年4月7日～平成27年3月27日

活動員数：年間1,623人（月平均135人）

活動内容：・遺物整理の補助（洗浄・分類収納、瓦の接合・拓本採取など）
・展示や講座の補助（受付・展示解説など）
・職場体験学習や発掘調査実習の補助



上：遺物の分類、下：遺物整理実習での拓本実演



発掘調査の実習（一条高校）



職場体験学習（田原中学校）

6. 体験学習・実習・研修の受け入れ

A. 市立一条高校人文科学科 実習

(1) 発掘調査

対象：2年生 40名

期 日：平成26年7月22・24・25日

場 所：平城京跡 第680次調査現場（大森西町）

内 容：遺構検出・掘削・土層観察・遺物取り上げ

(2) 出土遺物の整理

対象：1年生 40名

期 日：平成26年9月16日

場 所：埋蔵文化財調査センター整理室・講座室

内 容：洗浄・注記・拓本

B. 中学校職場体験学習

市内の中学校2年生を対象に、埋蔵文化財調査センターにおいて出土遺物の整理業務（洗浄・注記・拓本）を通じた職場体験学習を行った。受け入れた中学校と人数、期間は、下表のとおり。

表4 職場体験学習受け入れ校一覧

No.	学校名	人数	期間
1	田原中学校	男子3	平成26年9月3日(水)～5日(金)
2	春日中学校	男子2・女子1	平成26年9月9日(火)～11日(木)
3	伏見中学校	男子3	平成26年10月29日(水)～31日(金)
4	都跡中学校	女子2	平成26年11月19日(水)～21日(金)
5	京西中学校	女子2	平成27年1月21日(水)～23日(金)

C. その他

(1) 奈良市教職員研修講座

対象：奈良市の教職員 14名

期 日：平成26年7月22日

場 所：埋蔵文化財調査センター 講座室

内 容：奈良市の埋蔵文化財についての概説

(2) 生涯学習課 姉妹都市交流プロジェクト

対象：福島県郡山市と奈良市の小学生等 54名

期 日：平成26年7月22日

場 所：埋蔵文化財調査センター

内 容：・奈良市の埋蔵文化財についての概説

・瓦の拓本作成

(3) 奈良県大学連合 インターンシップ

対象：奈良女子大学学生 1名

期 間：平成26年8月18～22日

場 所：埋蔵文化財調査センター

内 容：・出土遺物の整理業務（洗浄・注記・拓本）

・夏休み親子考古学体験の準備、補助

7. 文化財学習キットの貸出し

市内の発掘調査した石器・土器・瓦等の実物資料の貸し出しキットで解説書付き。小・中学校の社会科学習・郷土学習の補助教材に利用でき、埋蔵文化財センターを見学する小中学生・自主活動グループにも「触れることのできる文化財」としても使用する。

対象：奈良市内の小・中学校

内 容：①～⑥の6キット

① 縄文土器と弥生土器

② 縄文時代の石鏃と弥生時代の石鏃・石包丁

③ 古墳時代の埴輪と須恵器

④ 奈良時代の土器（A・Bの2セットあり）

⑤ 奈良時代の瓦－軒丸瓦・軒平瓦

⑥ 奈良時代の硯と墨書土器・和同開珎

貸出・利用

- (1) 中学生職場体験学習
期日等：6-B参照、キット：④～⑥
- (2) 奈良市教職員研修講座
期日等：6-C参照、キット：④～⑥

8. 職員の派遣（講師など）

A. 市立一条高校人文科学科「総合文化研究」 授業

- 期日：① 平成26年7月10日（火）
② 平成26年9月16日（火）
- 場所：市立一条高校 講義室
- 人数：①・②各1名
- 内容：① 発掘調査について
② 考古学とは何か

B. 奈良の文化財をもっと知る講座2014 講義

- 期日：平成26年7月20日（日）
- 場所：赤膚山元窯（奈良市五条山町）
- 人数：1名
- 内容：赤膚焼絵付け体験・土器の歴史

C. 奈良県立大学「地域創造学特別講義Ⅲ」 講義

- 期日：平成27年1月6日（木）
- 場所：奈良県立大学 多目的ホール
- 人数：1名
- 内容：よみがえる大寺—大安寺の発掘調査成果—

D. 奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会 調査報告会 報告

- 期日：平成27年3月7日（土）
- 場所：上牧町健康福祉センター2000年会館 多目的ホール
- 人数：2名
- 内容：赤田1号墳の調査
平城京跡（左京五条四坊一坪）の調査

E. 奈良大学博物館企画展「発掘された古代国家」 展示協力

- 期日：① 平成27年3月9～13日
② 平成27年3月28日（土）
- 場所：① 奈良大学博物館 展示室
② 奈良大学 講堂
- 人数：1名
- 内容：① 展示物及び展示レイアウト等の確認
② 記念シンポジウム

9. 出土遺物保存処理

埋蔵文化財調査センターで保管・管理している金属製・木製の遺物について、化学的保存処理を計画的に行い恒久的な保存を図った。

（保存処理資料）

- ① 木装刀子（HJ第355次調査出土）：2点
- ② 木簡（平城京跡・史跡大安寺旧境内・西大寺旧境内出土）：168点

10. 保管資料・写真の貸出し・閲覧等

埋蔵文化財調査センターで保存・管理している遺物・写真などの貸出・提供・掲載許可を行った。また、学術研究等に関わって、資料の閲覧を受け入れた。

- A. 遺物・複製品の貸出 11件（表5）
- B. 写真等の貸出・提供・掲載許可 24件（表6）
- C. 学術研究等に係る資料閲覧 7件（表7）

11. 全国埋蔵文化財センター連絡協議会 研修会

平成26年度10月に全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会を下記の内容で実施し、32機関42名の参加があった。

期日：平成26年10月23日（木）・研修会

平成26年10月24日（金）・視察見学

研修会場：研修会春日野荘（奈良市法蓮町）会議室

視察見学：史跡大安寺旧境内整備地・埋蔵文化財調査センター展示室・薬師寺東塔発掘調査現場

研修内容：今回の研修会では都に寺院をとりあげ、幅広い視点をもとに遺跡を再検討することにより導き出される成果について検討をおこなった。

表5 遺物・複製品の貸出

機関名	使用目的	貸出期間	資料内訳
1 奈良市観光振興課	針テラス情報館展示室で常設展示	H26.4.1～ H27.3.31	高塚遺跡出土遺物 43 点—縄文土器 20 点、石器 23 点（石鏃・石匙・削器・尖頭器） 下深川遺跡出土石器 1 点（独鈷状石器） ゼニヤクボ遺跡出土遺物 28 点—弥生土器 4 点（甕・高杯・鉢・手炙形）、土師器 10 点（壺・甕・高杯・器台・鉢・蓋）、ミニチュア土器 3 点、石器他 11 点（石鏃・ 石包丁・砥石・紡錘車） 川向遺跡出土遺物 2 点—土師器甕 1 点、木製梯子 1 点 三陵墓西古墳出土土門筒埴輪 1 点宮山 3 号墳出土須恵器 3 点（杯蓋・杯身・提瓶）
2 東京国立博物館	平成館考古展示室で常設展示	H26.4.1～ H27.3.31	平城京跡出土木簡（模造品）10 点（礫進上木簡 1 点、月借銭進上木簡 1 点、豹皮 分銭付札 1 点、渋皮御田侍奴画指木簡 1 点、北宮封緘木簡 1 点、衛府進塩付札 1 点、 祿布付札 1 点、槐花進上木簡 1 点、造酒司符 1 点、瓦進上木簡 1 点）、分銅（模造品） 1 点（平城京跡第 167 次調査出土）
3 橿原考古学研究所附 属考古博物館	速報展「大和を掘る 32」	H26.7.1～ H26.9.19	史跡東大寺旧境内第 14 次調査出土遺物 15 点—瓦類 3 点（軒丸・軒平・平）、奈良 三彩 4 点（鉢）、土師器 4 点（甕・杯・碗・鉢）、須恵器 4 点（横瓶・杯・皿・蓋） 平城京跡・奈良町遺跡第 672 次調査出土遺物 21 点—土師器 6 点（皿）、瓦質土器 1 点（香炉）、備前焼 1 点（甕）、磁器 1 点（碗）、陶器 7 点（土鍋・碗・仏飯具・ 急須・植木鉢・硯）、犬型土製品 2 点、滑石製賽子 1 点
4 平城宮跡博物館	夏季企画展「平城京ビックリ はくらんかい」	H26.7.8～ H26.9.25	奈文研平城第 193 A 次調査出土木簡（複製品）1 点
5 葛城市博物館	特別展「葛城とヤマトタケル 白鳥伝説」	H27.9.8～ H26.12.5	平城京跡出土須恵器 8 点（鳥紐蓋 4 点、杯蓋（鳥墨書）1 点、鳥形硯 2 点、平瓶 1 点）
6 生駒ふるさとミュージアム	秋季企画展「好きスキ須恵器」	H26.9.16～ H26.10.26	平城京跡出土須恵器 15 点（杯 5 点、杯蓋 3 点、壺 4 点、壺蓋 1 点、甕 1 点、横瓶 1 点）
7 国立歴史民俗博物館	国際企画展示「文字がつなぐ」	H26.9.22～ H27.1.9	西大寺旧境内第 25 次調査出土須恵器杯 1 点（「皇甫東朝」墨書）
8 国立歴史民俗博物館	常設展示用の複製品作成	H26.11.20～ H27.3.20 ※：H26.11.20 ～H27.4.30 *：H27.1.15 ～H27.4.30	平城京跡出土遺物 13 点—※独楽 2 点、錘 1 点、物差 1 点、須恵器碗 1 点（「三合 一勺」墨書）、賽子 1 点、甲斐型土師器杯 2 点、駿河型須恵器壺 1 点、新羅製石製 容器 3 点（壺・杯・蓋）、松扇 1 点 西大寺旧境内第 25 次調査出土遺物 5 点—*須恵器杯 1 点（「皇甫東朝」墨書）、籤 引き木簡 4 点
9 鈴鹿市考古博物館	企画展「鈴—鈴の音、鐘の音、 太古の響き」	H27.1.15～ H27.3.25	杵遺跡出土須恵器鈴付壺 1 点、菅原東遺跡埴輪窯跡群出土馬型埴輪 1 点、平城京 跡出土金銅鈴 6 点、大安寺西塔跡出土風鐸 3 点（大・小）・風招 1 点
10 生駒ふるさとミュージアム	冬季特別展「魅力発見！生駒 の神様・仏様」	H27.2.5～ H27.3.17	西大寺旧境内出土軒丸瓦・軒平瓦各 1 点、元興寺旧境内出土ごんばい 8 点、古市 城跡出土羽釜 2 点
11 奈良大学博物館	企画展「発掘された古代国家」	H27.2.16～ H27.6.5	平城京跡出土遺物 71 点—渤海産土器 1 点、奈良三彩 3 点（壺・蓋・火舎）、唐三彩 1 点（碗）、新羅土器 1 点（壺）、瓦類 8 点（軒丸・軒平・平・製斗）、須恵器 10 点（壺・ 壺蓋・蹄脚門面硯・鳥紐蓋）、土師器 10 点（甕・碗・皿・杯蓋）、製塩土器 18 点、墨 書土器 1 点（「政所」）、土馬 1 点、井戸杵 1 点、辛櫃 1 点、瓔珞 1 点、銭貨 3 点（和 銅開珎・万年通寶・神功開寶）、銅銚 11 点

表6 写真等の貸出・提供・掲載許可

申請日	申請者（機関）	使用目的	写真（使用・撮影）等	摘要
1 H26.4.10	(株) 淡交社	森郁夫著『一瓦一会』に掲載	平城京跡第 73 次調査出土三彩垂木先瓦写真	掲載許可
2 H26.5.20	奈良市史料保存館	スポット展示「名酒 奈良の酒「南 都諸白」の歴史」でパネル掲示	平城京跡・奈良町遺跡第 559 次調査出土あられ酒 関連遺物（集合）	掲載承諾
3 H26.6.2	(株) 戎光祥出版	中井均監修『近畿中世城郭事典』 に掲載	藤尾城跡航空写真	掲載許可
4 H26.6.20	(株) G・B・	(株) アルゴスティーニ・ジャパン 刊『週刊日本の神社』に掲載	杉山古墳出土土形埴輪写真	掲載許可
5 H26.7.14	葛城市博物館	特別展「葛城とヤマトタケル 白鳥伝説」の図録・広報資料掲載及び パネル掲示	貸出遺物の集合・個別写真	掲載・使用許可
6 H26.8.4	国立歴史民俗博物館	国際企画展示「文字がつなぐ」の 展示図録等に掲載及びパネル掲示	西大寺旧境内第 25 次調査出土須恵器杯（「皇甫東朝」 墨書）の写真、平城京跡出土新羅製石製容器の集合 写真	掲載・使用許可
7 H26.8.14	(株) 雄山閣	『季刊考古学』129 号に掲載	平城京跡第 40・608 次調査出土軒丸瓦写真	掲載許可
8 H26.8.21	(株) すいれん舎	上原真人著『古代寺院の資産と経 済—寺院資材帳の考古学』に掲載	史跡大安寺旧境内第 92 次調査出土塑像片写真	掲載許可
9 H26.8.27	(株) 第一学習社	高等学校用国語副教材『日本文学 史必携』に掲載	平城京跡出土須恵器（広口甕・長頸壺・注口土器） 集合写真	掲載許可
10 H26.9.1	生駒ふるさとミュージアム	秋季企画展「好きスキ須恵器」の 展示パンフレットに掲載	貸出遺物の集合写真撮影	撮影・掲載許可
11 H26.9.19	明石市立文化博物館	企画展「発掘された明石の歴史展」 の展示図録に掲載	平城京跡第 459-2 次調査他出土古大内式軒瓦写真	掲載許可
12 H26.9.23	(株) 悠工房	静岡県校長会監修『静岡県中学校 学力診断調査社会 2 年』に掲載	平城京跡第 28 次調査出土木簡写真 （※奈良文化財研究所所蔵）	掲載承諾

埋蔵文化財学習活用事業報告

	申請日	申請者（機関）	使用目的	写真（使用・撮影）等	摘要
13	H26.9.29	橿原考古学研究所	展示「科学で紐解く古代の織物」のパネル掲示及び解説リーフレットに掲載	西大寺旧境内第 25 次調査出土繊維製品写真（※橿原考古学研究所蔵）	掲載・使用承諾
14	H26.10.16	奈良市北人権センター	文化祭「14 北人権・文化フェスタ」の展示でパネル掲示	史跡東大寺旧境内第 14 次調査 写真・文書データ（センター速報展示資料No.49 に使用） 平城京跡第 672 次調査 写真・文書データ（橿原研「大和を掘る 32」図録に使用）	使用許可
15	H26.10.16	（公財）奈良市生涯学習財団 若草公民館	若草公民館文化祭の展示でパネル掲示	史跡東大寺旧境内第 14 次調査 写真・文書データ（センター速報展示資料No.49 に使用） 平城京跡第 672 次調査 写真・文書データ（橿原研「大和を掘る 32」図録に使用）	使用許可
16	H26.11.21	教育出版（株）	平成 27 年度版『小学社会 6 上』（デジタル・指導者用教材）に掲載	平城京跡第 1 次調査出土土器写真（集合）・硯写真、 東市推定地第 4 次調査出土銭貨写真（集合）	掲載許可
17	H26.12.5	（株）洋泉社	『歴史 REAL 敗者の日本史』に掲載	西大寺旧境内第 25 次調査出土木簡（石上宅嗣官職）写真	掲載許可
18	H26.12.24	（株）浜島書店	中学校副読本『静岡県 地域の歴史を調べよう』に掲載	平城京跡第 28 次調査出土木簡写真	掲載許可
19	H27.1.7	（株）G・B・	（株）アルゴスティーニ・ジャパン刊『週刊日本の神社』に掲載	佐紀古墳群（西群）航空写真	掲載許可
20	H27.1.15	生駒ふるさとミュージアム	冬季特別展「魅力発見！生駒の神様・仏様」の展示パンフレットに掲載	貸出遺物の集合写真撮影	撮影・掲載許可
21	H27.1.16	（公財）滋賀県文化振興事業団	季刊誌『湖国と文化』に掲載	平城京跡第 484 次調査出土ココヤシ容器写真	掲載許可
22	H27.1.21	奈良大学博物館	企画展「発掘された古代国家」の図録・広報に掲載及びパネル掲示	平城京左京五条四坊九・十・十五・十六坪の発掘調査の検出遺構・出土遺物写真	掲載・使用許可
23	H27.1.26	奈良市都市整備部	『奈良市歴史的風致維持向上計画書』に掲載	佐紀古墳群（東群・西群）航空写真	掲載承諾
24	H27.3.10	（株）TBS ビジョン	テレビ番組「ものづくり日本の奇跡」に使用	木製の日常食器写真、平城京跡発掘調査風景写真	使用許可

表 7 資料閲覧

	閲覧日	申請者	目的	閲覧資料
1	H26.6.6 H26.7.29～8.8	東北大学大学院教員	個人研究	平城京跡第 274 次・88 - 10 次調査出土瓦磚類
2	H26.7.22	名古屋大学大学院学生	個人研究	平城京跡第 532 次調査出土鉄製鋏先
3	H26.9.11	奈良文化財研究所職員	比較検討	平城京跡出土陶硯
4	H26.10.10	宮内庁職員	個人研究	ベンシヨ塚古墳出土砥石
5	H26.10.29～31	奈良大学学生	個人研究	多聞城跡出土軒丸瓦・丸瓦・平瓦
6	H26.11.6～7	奈良大学大学院学生	個人研究	平城京跡・奈良町遺跡第 482 次調査出土陶磁器（国産・輸入）
7	H26.11.13 H26.12.17～18	京都大学大学院学生	個人研究	ベンシヨ塚古墳出土馬具

印刷・製本仕様データ

表紙：アートポストカード220kg/m²・マットpp加工
見返し：白色上質紙110kg/m²
巻頭図版：特アート紙135kg/m²
本文：白色マットコート紙104.7kg/m²
本文フォント：ヒラギノ明朝体
製本：縦開き・糸かがり綴じ

©2017 by the Nara Municipal Board of Education

No part of this publication may be copied or reproduced in any form without written permission from the copyright owner. Printed in Japan.

奈良市埋蔵文化財調査年報

平成26(2014)年度

ISSN 1882-9775

印刷 平成 29 (2017)年 3月17日

発行 平成 29 (2017)年 3月27日

編集 奈良市埋蔵文化財調査センター
630-8135 奈良市大安寺西二丁目 281 番地
TEL 0742-33-1821
FAX 0742-33-1822
URL <http://www.city.nara.nara.jp/>
E-mail maizoubunka@city.nara.lg.jp

発行 奈良市教育委員会
630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1
TEL 0742-34-1111 (代)

印刷 株式会社 JITSUGYO
630-8144 奈良県奈良市東九条町6-6

**ANNUAL RESEARCH REPORT
OF
ARCHAEOLOGY IN NARA CITY AREA
2014**

CONTENTS

- I PRELIMINARY REPORTS OF ARCHAEOLOGICAL
EXCAVATIONS IN NARA CITY AREA IN 2014.**

- II REPORTS OF CONSERVATION AND MANAGEMENT
FOR ARCHAEOLOGICAL SITES AND MATERIALS
IN 2014**

**NARA MUNICIPAL BOARD OF EDUCATION
2017**

**ANNUAL RESEARCH REPORT
OF
ARCHAEOLOGY IN NARA CITY AREA
2014**

NARA MUNICIPAL BOARD OF EDUCATION , 2017